

# 大妻女子大学

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY

2026



## 履修ガイド

家政学部

文学部

社会情報学部

比較文化学部

データサイエンス学部

短期大学部

## 本学の教育目標

- ・総合的な人間教育により社会の構成員としての自覚と識見を有する自立した人材を育成する。
- ・男女共同参画社会において、グローバルな視野を持ち中核的な指導的役割を果たすことができる専門的職業人女性を育成する。
- ・女子高等教育において、教育分野及び研究分野の女性後継者を育成する。
- ・地域・社会との連携において、指導的役割を果たせる女性を育成する。

## 大妻女子大学

### 目的

本学は教育基本法に基づき、学校教育法の定めるところに従い、広く知識を授けると共に深く専門の学芸を教授研究して、応用的能力の展開と人格の完成に努め、高い知性と豊かな情操を有する女性の育成を目的とする。

### 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

大妻女子大学は、学び動き続ける自立自存の女性を育成することを使命としています。その実現に向け以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 社会の全体像を理解できる深く幅広い知識と教養を修得し、変化する 21 世紀の社会環境に対して、新たな課題を見だし主体性、創造性を持って問題を解決していく能力
2. 他者との支え合いの中で作られていく個々の自己決定力を身につけ、社会の構成員としての自覚を持って、修得した知識と技術を積極的に活用していく能力
3. グローバル化した社会において、コミュニケーション力を駆使し、自己の未来を切り開いていく能力
4. 講義、演習、卒業論文等の作成を通して学部、学科、専攻の専門的知識・技術を修得し、社会集団において中核的・指導的な役割を果たしていく能力

### 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

大妻女子大学は、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

1. 総合的な人間教育として、深く幅広い知識と教養を修得するために、全学共通科目を設置する
2. 専門職業人として社会で中核的役割を果たすに足る専門的な知識、技術を修得するために、専門教育科目を設置する
3. 主体的、創造的な問題解決能力の育成及び他者との支え合いの中で作られていく個々の自己決定力の確立促進のために、少人数及び個別で、双方向性の指導を行う
4. コミュニケーション力強化と国際感覚育成のために、多様な語学教育などを行う

## 大妻女子大学短期大学部

### 目的

本学は女子に対し広く一般教育を施すと共に専門的な学芸を教授し、高い教養と職業及び實際生活に必要な能力を有する人材を育成することを目的とする。

### 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

大妻女子大学短期大学部では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、短期大学士の学位を授与します。

1. 人間生活全般、食と栄養に関して幅広い高度な知識を身につけている。
2. 常に問題意識を持って自らテーマを見つけ、的確に判断し問題解決を図ることができる思考力を備えている。
3. 大妻で育まれた精神、すなわち周囲の人たちの意見に耳を傾けると同時に、自分の意見を意欲的に主張できる自己表現力を備えている。
4. 資格取得に必要なとされる学力、諸資格試験等においてすぐれた成績を修めうる技能を身につけている。

### 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

大妻女子大学短期大学部では、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

<教育内容>

1. 衣・食・住などの人間生活全般、食と栄養、ビジネススキルに関して教育を行う。

<教育方法>

1. 講義・演習を通して専門性を高め、また実験・実習ではアクティブ・ラーニングによって学修成果が定着するような教育を行う。

<学修成果の評価法>

1. 通常の評価方法(定期試験、レポート)に加え、資格取得、学外検定、GPAによってより包括的に成果を確認する。

## 1 学習について

### 大学で学ぶためには

授業科目について	8
単位制度と学修時間	10
卒業するために必要な要件	12
第3年次進級に必要な要件	14
卒業の認定	14
卒業延期と前期末卒業	15
早期卒業について（大学のみ）	15

### 履修登録・受講者調整

履修計画	16
履修登録	17
受講者調整	18
学生時間割表	19
修正履修登録	19
履修中止による履修取消制度	20
後期履修登録	20
大学院授業科目早期履修制度	20

### 授業について

授業時間	21
授業を受けるにあたっての注意事項	21
出席と欠席	22
休講・補講・教室変更・時間割変更	24

### 試験について

受験資格	25
定期試験	25
授業期間中の試験	27
レポートについて	28
成績公開	28
追試験	29
再試験	31
追・再試験結果公開	31

## 成績について

成績の評価基準	32
成績通知	33
成績評価確認制度について	34
GPA について	34

## 単位認定について

入学前に修得した単位の認定について	37
他の大学へ留学して修得した単位の認定について	37
他大学との単位互換制度により修得した単位の認定について	37
大学以外の教育施設等における学修に対する単位の認定について	37
社会体験実習の単位認定について	39
編入学者に対する単位の認定について	40

# 2 教育課程について

全学共通科目	45
家政学部	51
被服学科	57
食物学科	67
児童学科	85
ライフデザイン学科	97
文学部	103
日本文学科	111
英語英文学科	117
コミュニケーション文化学科	123
社会情報学部	129
社会情報学科 社会生活情報学専攻	135
社会情報学科 環境情報学専攻	141
社会情報学科 情報デザイン専攻	149
比較文化学部	155
データサイエンス学部	169
短期大学部	177
家政科 家政総合コース	181
家政科 食と栄養コース	189

## 3 諸課程について

教職課程	200
図書館学課程	231
博物館学芸員課程	235
レクリエーション・インストラクター資格	237

## 4 附録

教務関係諸規程	240
校舎配置図及び見取図	
千代田校舎	262
多摩校舎	288
連絡先一覧	292

## 学科・専攻略称について

学部	学科	専攻	略称	学科コード
家政学部	被服学科		大被	1110
	食物学科	食物学専攻	大食	1121
		管理栄養士専攻	大管	1122
	児童学科	児童学専攻	大児学	1131
		児童教育専攻	大児教	1132
	ライフデザイン学科		大ライ	1140
文学部	日本文学科		大日	1210
	英語英文学科		大英	1220
	コミュニケーション文化学科		大コミ	1230
社会情報学部	社会情報学科	社会生活情報学専攻	大社生	1311
		環境情報学専攻	大社環	1312
		情報デザイン専攻	大社情	1313
比較文化学部	比較文化学科		大比	1511
データサイエンス学部	データサイエンス学科		大DS	1610
短期大学部	家政科	家政総合コース	短家	2110
		食と栄養コース	短食栄	2121

※略称のあとの数字は学年、アルファベットはクラスを表しています。例えば、「大被1A」は、家政学部被服学科1年A組の学生を指します。  
 また、「大被1」は、クラスに関係なく家政学部被服学科1年生全員のことを指します。  
 ※以降、短期大学部は一部「短大」と表します。

## 学内システムについて

### 大妻女子大学ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT」(通称: UNIPA)

UNIPAでは、履修登録のほかに、大学からのお知らせ・休講・教室変更情報の確認や、出欠状況・成績照会、追・再試験エントリーなどを行うことができます。

詳しい操作方法については、UNIPA トップページでの学内リンク集に掲載している「UNIVERSAL PASSPORT 操作説明書」を参照してください。なお、UNIPAはパソコンでの閲覧・操作のほか、スマートフォンにも対応していますが、動作の保証ができないため、パソコンでの閲覧・操作を推奨します。なお、掲示や時間割表等はスマートフォンのアプリからも確認できます。

「UNIPA」URL: <https://unipa.otsuma.ac.jp>



### 授業支援システム「manaba」

manabaでは、インターネットを通じて、履修登録をしている授業ごとに、授業担当教員からの連絡受信、事前・事後のレジュメ確認、小テスト受験、レポート提出、グループワーク、ディスカッション等を簡単な操作で行うことができます。

利用については各授業担当教員の指示に従ってください。利用方法の詳細については、manaba ログイン後のトップページ下部「マニュアル」から各自マニュアルをダウンロードして確認してください。

「manaba」URL: <https://otsuma.manaba.jp/>



### レスポンス

responはスマートフォンのアプリを利用して、授業中にアンケートを行い、リアルタイムで集計・共有ができる機能です。利用については各授業担当教員の指示に従ってください。利用方法についてはアプリ内の「使い方」を確認してください。

「respon」URL: <https://respon.jp/#download>





## 1

## 学習について

<b>大学で学ぶためには</b>	
授業科目について	8
単位制度と学修時間	10
卒業するために必要な要件	12
第3年次進級に必要な要件	14
卒業の認定	14
卒業延期と前期末卒業	15
早期卒業について（大学のみ）	15
<b>履修登録・受講者調整</b>	
履修計画	16
履修登録	17
受講者調整	18
学生時間割表	19
修正履修登録	19
履修中止による履修取消制度	20
後期履修登録	20
大学院授業科目早期履修制度	20
<b>授業について</b>	
授業時間	21
授業を受けるにあたっての注意事項	21
出席と欠席	22
休講・補講・教室変更・時間割変更	24
<b>試験について</b>	
受験資格	25
定期試験	25
授業期間中の試験	27
レポートについて	28
成績公開	28
追試験	29
再試験	31
追・再試験結果公開	31
<b>成績について</b>	
成績の評価基準	32
成績通知	33
成績評価確認制度について	34
GPA について	34
<b>単位認定について</b>	
入学前に修得した単位の認定について	37
他の大学へ留学して修得した単位の認定について	37
他大学との単位互換制度により修得した単位の認定について	37
大学以外の教育施設等における学修に対する単位の認定について	37
社会体験実習の単位認定について	39
編入学者に対する単位の認定について	40

大学では、開講されている授業科目を一定のルールに従って履修し、単位を修得することで卒業が認められます。この項目では、各学部・学科で定められている履修のルールと、卒業に必要な要件を説明しています。履修登録の際には、卒業要件の再確認が必要となります。

# 1 学習について

## 大学で学ぶためには

### 1 授業科目について

本学では、それぞれの学部・学科の教育理念に基づいて、学生が専門分野の知識や幅広い教養を卒業するまでに効果的に身につけることができるように、さまざまな授業科目（教育課程＝カリキュラム）を開講しています。この教育課程については、「②教育課程について」を参照してください。

#### 科目区分について

本学の授業科目は、次の区分に分かれています。

##### （1）全学共通科目

全学共通科目は女子教育の伝統を基にした総合的な人間教育を主目的として全学的な共通理念のもとに設定され、基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の4つの科目系列からなっています。

社会環境の変化に対応するために必要なさまざまな分野の基礎教養を身につけ、総合的な判断力を養い、総合的な人間形成を図るために設けられた科目です。

- ①基礎科目：大学生として必要な基礎的な能力、素養の育成を図る科目系列です。
- ②教養科目：現代人として必要な総合的な知力を養う科目系列で全学共通科目の中核となっています。
- ③外国語科目：グローバル化する社会に必要なコミュニケーション能力を習得する科目系列です。
- ④地域文化・国際理解科目：学外及び海外において課外活動・語学研修など各自が自分にあったプログラムを受講・体験する科目系列です。

##### （2）専門教育科目

専門教育科目は、それぞれの学部・学科・専攻の教育理念を達成するために設けられた科目です。

##### （3）自由選択科目

自由選択科目は、全学共通科目及び専門教育科目の所定の単位数を超えて修得した科目です。

##### （4）諸課程科目

###### ①教職課程科目

教員免許状を取得するための科目で、「教科及び教科の指導法に関する科目」と「教育の基礎的理解に関する科目」等があります。

###### ②図書館学課程科目

図書館司書、学校図書館司書教諭の資格を取得するための科目です。

###### ③博物館学芸員課程科目

博物館学芸員の資格を取得するための科目です。

###### ④文学部日本語教員養成プログラム独自の科目として開講する科目

登録日本語教員の資格を取得するための科目です。

## 科目分類について

### (1) 必修科目

教育目的を達成するために必ず単位を修得しなければならない科目です。

### (2) 選択必修科目

指定された科目群の中から科目を選択し、決められた科目数及び単位数を修得しなければならない科目です。

### (3) 選択科目

自由に選択し単位を修得することができる科目です。

### (4) 自由科目

卒業必要単位に算入することができない科目です。

## 授業形態について

授業科目は5つの形態に分類されます。

講義	教員が学生に対して、学問研究の内容を説明することにより知識を授ける授業形態です。
演習	教員の講義と共に、学生も討議・研究発表等を行いつつ指導を受ける授業形態です。
実験	理論や推論が正しいか一定の条件で試してみる授業形態です。
実習	学んだ知識をもとに実際の場で学習する授業形態です。
実技	学んだ知識をもとに実地の技術や実技を行う授業形態です。

## オンライン授業（オンデマンド型）について

教育上、効果があると認められた一部の科目については、オンライン授業（オンデマンド型）を導入しています。オンライン授業（オンデマンド型）は定められた期間の中で各自がPC等で受講します。対象科目は時間割、シラバス等で確認できます。

※文部科学省の法令により、オンライン授業で修得した単位のうち卒業要件に算入できる単位数の上限が大学は60単位、短大は30単位までと定められています。履修科目選択の際は注意してください。

## 授業期間について

授業期間は15週にわたる期間を単位として行います。本学では前期・後期の区分がこれにあたります。

### (1) 半期科目

前期または後期の半期間（15週）を通して行う授業科目です。

※「②教育課程について」のカリキュラム表における【半期②】は2時限続き、【半期③】は3時限続きの授業科目であることを表します。

### (2) 通年科目

前期及び後期の1年間（30週）を通して行う授業科目です。

### (3) 集中科目

授業期間にかかわらずある一定の期間に集中して行う授業科目です。

## 授業内容について

この授業はどんなことをし、教科書はどんなものが必要なのか、成績評価はどのように行われるのかといった、授業内容に関する具体的情報については、「UNIPA」から、「シラバス（授業内容）」を確認してください。

## 2 単位制度と学修時間

### 単位とは

単位とは、科目を修得するために必要な学修量を示すものです。本学では、1単位の授業科目は45時間の学修を必要とすることを原則としています。学修時間には、授業時間だけでなく、予習・復習等教室外の自修学修も含まれます。

### 単位の計算方法

(1) おおむね15時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とします。

なお、15時間の授業の場合は30時間の自修学修、30時間の授業の場合15時間の自修学修が必要です。

(2) 卒業論文、卒業研究、卒業制作等については、学修の成果を評価するものとし、所定の単位を与えます。

※各科目で十分な学修成果をあげ、単位を修得するためには、単位数と学修時間の関係を理解することが大切です。授業を受けるということは、自主的な予習・復習が前提となっていることを覚えておいてください。

### 単位と学修時間

本学では、各時限90分の授業が行われますが、単位数を計算する上では、90分の授業時間を2時間相当の学修時間とみなします。これに基づき授業科目の単位数については、授業形態、授業の教育効果や授業時間外の予習・復習などの自修学修を考慮して、以下のように定めています。

(1) **講義及び演習科目**…15～30時間の授業をもって1単位とする。

(例1) 「〇〇学」という科目で半期開講2単位の場合(15時間の授業をもって1単位とする講義科目)

週1回の授業(2時間)が半期間(15週)続き、この授業のために毎週4時間の自修学修が必要になります。これらの授業、自修の時間を合計すると下表のとおりで90時間となります。45時間の学修時間をもって1単位とするため、90時間は2単位となります。

#### 時間数の計算方法

	学修時間	時間数合計
授 業	2 (時間) × 15 (週)	30
自 修	4 (時間) × 15 (週)	60
計		90

(例2) 「〇〇演習」という科目で半期開講1単位の場合(30時間の授業をもって1単位とする演習科目)

週1回の授業(2時間)が半期間(15週)続き、この授業のために毎週1時間の自修学修が必要になります。これらの授業、自修の時間を合計すると半期間で45時間となります。45時間の学修時間をもって1単位となります。

#### 時間数の計算方法

	学修時間	時間数合計
授 業	2 (時間) × 15 (週)	30
自 修	1 (時間) × 15 (週)	15
計		45

## (2) 実験・実習・実技科目…30～45時間の授業をもって1単位とする。

(例1) 「〇〇学実習」という科目で半期開講2単位の場合(30時間の授業をもって1単位とする実習科目)  
週1回の授業(4時間)が半期間(15週)続き、この授業のために毎週2時間の自修学修が必要になります。これらの授業、自修の時間を合計すると半期間で90時間となります。45時間の学修時間をもって1単位とするため、90時間は2単位となります。

## 時間数の計算方法

	学修時間	時間数合計
授 業	4 (時間) × 15 (週)	60
自 修	2 (時間) × 15 (週)	30
計		90

(例2) 「〇〇学実験」という科目で半期開講1単位の場合(45時間の授業をもって1単位とする実験科目)  
週1回の授業(4時間)が半期間(15週)続き、授業時間は60時間となりますが、この中には実験の準備や片付けの時間も含まれることから、実学修時間である45時間をもって1単位としています。

## 時間数の計算方法

	学修時間	時間数合計
授 業	4 (時間) × 15 (週)	60
計		60

(例3) 「〇〇実技」という科目で半期開講1単位の場合(30時間の授業をもって1単位とする実技科目)  
週1回の授業(2時間)が半期間(15週)続き、この授業のために毎週1時間の自修学修が必要となります。これらの授業、自修の時間を合計すると半期間で45時間となります。45時間の学修時間をもって1単位となります。

## 時間数の計算方法

	学修時間	時間数合計
授 業	2 (時間) × 15 (週)	30
自 修	1 (時間) × 15 (週)	15
計		45

## (3) 講義及び実験・実習科目…15時間の授業をもって1単位とする講義科目と45時間の授業をもって1単位とする実験・実習科目又は、15時間の授業をもって1単位とする演習科目との組合せ。

(例1) 「〇〇学及び実習」という科目で半期開講2単位の場合  
週1回の授業(4時間)が半期間(15週)続き、この科目は授業4時間のうち1時間が講義、3時間が実習ということになるため、毎週2時間の自修学修が必要となります。これらの授業、自修の時間を合計すると半期間で90時間となります。45時間の学修時間をもって1単位とするため、90時間は2単位となります。

## 時間数の計算方法

	学修時間	時間数合計
授 業	[1 (時間) + 3 (時間)] × 15 (週)	60
自 修	2 (時間) × 15 (週)	30
計		90

(例2) 「〇〇学及び演習」という科目で半期開講2単位の場合  
週1回の授業(2時間)が半期間(15週)続き、この科目は授業2時間のうち0.5時間が講義、1.5時間が演習ということになるため、毎週4時間の自修学修が必要となります。これらの授業、自修の時間を合計すると年間で90時間となります。45時間の学修時間をもって1単位とするため、90時間は2単位となります。

## 時間数の計算方法

	学修時間	時間数合計
授 業	[0.5 (時間) + 1.5 (時間)] × 15 (週)	30
自 修	4 (時間) × 15 (週)	60
計		90

### 3 卒業するために必要な要件

本学を卒業するためには、修業年限（大学は4年以上、短大は2年以上在学すること）を満たし、各学科で定められている授業科目及び卒業必要単位数を次のとおり修得しなければなりません。

#### 卒業必要単位数

##### 家政学部

区 分		被服学科	食物学科		児童学科		ライフデザイン 学科	
			食物学専攻	管理栄養士専攻	児童学専攻	児童教育専攻		
全学共通科目	基礎科目	I 女性とキャンパスライフ	3	3	3	3	3	
		II リテラシー	2	2	2	2	4	
		III キャリア	2	2	2	2	2	
	教養科目	I 人間と文化	10	9	9	9	2	8
		II 社会と生活						
		III 自然と科学						
		IV スポーツ						
	外国語	2	2	2	2	2	2	
	地域文化・国際理解							
	小 計		34	28	28	28	11	34
専門教育科目	家政学部共通	6	4	4	4	4	6	
	必修	24	62	84	100	98	36	
	選択必修	44	—	2または4	6	—	1	
	選択	16	30	16または18	4	27	47	
小 計		90	96	108	114	129	90	
自由選択科目		—	—	—	—	9	—	
合 計		124	124	136	142	149	124	

##### 文学部

区 分		日本文学科	英語英文学科	コミュニケー ション文化学科	
					全学共通科目
II リテラシー	2	2			
III キャリア	2	2			
教養科目	I 人間と文化	10	10	10	
	II 社会と生活				
	III 自然と科学				
	IV スポーツ				
外国語	2	12	12		
地域文化・国際理解					
小 計		37	33	37	
専門教育科目	必修	46	54	28	
	選択必修	22	0	32	
	選択	20	30	30	
	小 計	88	84	90	
自由選択科目		—	8	—	
合 計		125	125	127	

社会情報学部

区 分		社会情報学科			
		社会生活情報学専攻	環境情報学専攻	情報デザイン専攻	
全学共通科目	基礎科目	I 女性とキャンパスライフ II リテラシー III キャリア	1 } 4	1 } 4	1 } 4
	教養科目	I 人間と文化 II 社会と生活 III 自然と科学 IV スポーツ	8 } 9	8 } 3	8 } 9
	外国語		8	8	8
	地域文化・国際理解				
	小 計		30	24	30
	学部共通科目	必修	8	6	8
		選択	6	6	8
	小 計	14	12	16	
専門教育科目	必修	26	16	40	
	選択	—	6または2	—	
	選択	42	56または60	24	
	小 計	68	78	64	
自由選択科目		12	10	14	
合 計		124	124	124	

比較文化学部

区 分		比較文化学科	
全学共通科目	基礎科目	I 女性とキャンパスライフ II リテラシー III キャリア	3 } 4 } 2 }
	教養科目	I 人間と文化 II 社会と生活 III 自然と科学 IV スポーツ	6 } 9
	外国語		14
	地域文化・国際理解		
	小 計		38
	学部共通科目	必修	6
		選択	18
	必修	8	
	小 計	32	
専門教育科目	必修	26	
	選択	20	
	必修	10	
	小 計	56	
合 計		126	

データサイエンス学部

区 分		データサイエンス学科	
全学共通科目	基礎科目	I 女性とキャンパスライフ II リテラシー III キャリア	1 } 2 } 2 }
	教養科目	I 人間と文化 II 社会と生活 III 自然と科学 IV スポーツ	8 } 13
	外国語		4
	地域文化・国際理解		
	小 計		30
	専門教育科目	必修	40
		選択	10
	必修	44	
	小 計	94	
合 計		124	

短期大学部

区 分		家政科		
		家政総合コース	食と栄養コース	
全学共通科目	基礎科目	I 女性とキャンパスライフ II リテラシー III キャリア	2 } 2 } 2 }	
	教養科目	I 人間と文化 II 社会と生活 III 自然と科学 IV スポーツ	2 } 5 } 2 } 1 }	
	外国語		2 } 1 }	
	地域文化・国際理解			
	小 計		18 } 13 }	
	専門教育科目	必修	6	42
		選択	32	1
	必修	8	11	
	小 計	46	54	
合 計		64	67	

修業年限と在学年限

修業年限とは、教育課程を修了して卒業するために必要な年数で、休学期間を除いて大学は4年間、短大は2年間の在学年数が必要です。在学年限とは、本学に在学できる最長年数のことで、休学期間を除き、大学は8年、短大は4年が限度です。

## 4 第3年次進級に必要な要件

家政学部ライフデザイン学科は第2年次末までに、所定の単位数を下表のとおり履修しなければ、第3年次に進級することができません。

### 家政学部ライフデザイン学科

	全学共通科目	専門教育科目
最低必要単位数	48	

※諸課程科目の卒業要件振替分を含む。

こんなときは？

### Question & Answer

**Q1** 3年生に進級できるかは、いつ頃どうやってわかりますか？

**A1** 第3年次進級が認められなかった場合は、3月中旬頃保証人宛に、進級延期の通知をします。次年度の進路については、所定の期間内に手続きをしてください。

## 5 卒業の認定

卒業要件を満たした学生には、教授会における審議を経て、卒業を認定します。卒業の認定を受けた学生には、学士もしくは短期大学士の学位が授与されます。

こんなときは？

### Question & Answer

**Q1** 卒業できるかどうかは、いつ頃どうやってわかりますか？

**A1** 卒業は3月初旬の教授会における審議を経て、認定します。卒業が認定された学生は「卒業生氏名発表日」に大妻 Web メールにて発表します。

**Q2** 卒業証書授与日や卒業証書・学位記授与式に出席しなくてもいいですか？

**A2** 卒業証書授与日や卒業証書・学位記授与式は必ず出席してください。やむを得ず出席できない場合については、資格支援・学事グループの指示に従ってください。

## 6 卒業延期と前期末卒業

### 卒業延期

大学は4年次末、短大は2年次末までに卒業するために必要な単位数を満たしていない、もしくは、休学等によって在学年数が修業年限の4年（大学）もしくは2年（短大）を満たしていない場合、卒業が延期になります。

- 1 卒業延期となった学生には、3月中旬頃に保証人宛に通知します。
- 2 卒業延期の通知が届いたら、すみやかに今後の修学継続について保証人及びクラス指導主任と相談してください。
- 3 休学等を希望する場合は、すみやかに保証人及びクラス指導主任に相談し、学生支援グループに申し出てください。

### 前期末卒業

前年度卒業延期となり修学を継続した学生が、当年度の前期で卒業要件を満たした場合、9月14日付の卒業が認められます。

こんなときは？

## Question & Answer

**Q1** 卒業できなかったらどうなりますか？

**A1** 次年度にもう一度卒業学年の学科指定クラスに入ります。次年度前期で卒業要件を満たすことができれば、9月14日付の卒業が認められます。

## 7 早期卒業について（大学のみ）

本学に3年以上在学し、卒業に必要な単位を優秀な成績をもって修得したと認められる者については、早期に卒業を認めることがあります。

# 履修登録・受講者調整

## 1 履修計画

大学における学修の特徴は、多くの科目の中から各自が履修科目を選択できることです。履修登録の際は、「履修ガイド」や「シラバス」を熟読し、授業時間割表から履修計画をたてましょう。

### 履修とは

履修とは、大学を卒業するのに必要な単位を修得するために、定められた授業を受けて一定の成果を修めることをいいます。

### 授業時間割表について

学部・学科・専攻・学年ごとに時間割を作成しています。履修したい科目を選択するにあたっては、自分のクラスの時間割表に従ってください。授業時間割は3月下旬に「UNIPA」及びホームページで公開します。

### 「シラバス」の利用のしかた

シラバスには科目・担当教員ごとに「授業の概要、ねらい」・「到達目標」・「授業内容とスケジュール」・「授業時間外の学習（予習・復習等）」・「成績評価の方法及び基準」などいろいろな情報が掲載されています。特に「授業内容とスケジュール」をよく読んで、履修登録の参考にしましょう。

シラバスは、「UNIPA」で閲覧することができます。

### カリキュラム・ツリー

カリキュラム・ツリーは、各学科・専攻の教育課程をディプロマ・ポリシーとの対応関係に基づいて、順次性を体系的に示した図です。授業科目間の関係性や学修順序を把握することができます。各学科・専攻のカリキュラム・ツリーは大学ホームページで確認できます。

### カリキュラム・マップ

カリキュラム・マップは、各学科・専攻の専門教育科目とディプロマ・ポリシーの関係性を表す一覧表です。各授業の到達目標とディプロマ・ポリシーの関係性を◎（特に関係する）、○（関係する）で示しています。履修する授業の選択や実際に授業を受ける際の参考にしてください。各学科・専攻のカリキュラム・マップは大学ホームページで確認できます。

### 履修モデル

本学では、目標や学びたいことに合わせて科目選択をすることが可能です。

大学ホームページの各学部ページにおいて各学科・専攻で目的別に大学は4年間、短大は2年間の履修モデルを紹介しています。履修モデルを参考に自分の目的にあわせたオリジナルの履修計画をたててください。

※履修モデルの科目は一例です。卒業するためには、修業年限を満たし、各学科・専攻で定められた「卒業必要単位数」を修得しなければなりません。

### 科目ナンバリングについて

科目ナンバリングは、科目の水準や授業方法等を授業科目に番号を付して分類することで、教育課程の体系性を明らかにする仕組みです。科目ナンバリングの説明資料と各科目の科目ナンバリングは、シラバス上から確認できます。履修計画の参考にしてください。

## 2 履修登録

履修登録とは、年度始めに履修する授業科目を登録する重要な手続きです。

### 履修登録のしかた

基本的に履修登録は大妻女子大学ポータルサイト「UNIPA」で行います。登録方法の詳細は『履修登録の手引き』で確認してください。

### 指定クラス外履修登録について

原則として、クラス指定がある科目については自分の所属するクラスの科目しか履修することはできませんが、前年度において単位を修得できなかった卒業要件に関わる科目を、時間割の都合上、自分のクラスとは異なるクラスで履修をしなければならない場合などは、所属する学科・専攻が他のクラスでの履修を特別に認めることがあります。

指定クラス外履修登録については、所属する学科・専攻の指示に従ってください。

### 履修登録の際の注意事項

- (1) 履修登録は必ず本人が行ってください。所定の期日に履修登録を行わなかった場合は、その学年の履修を放棄したものとみなします。
- (2) 前期、通年及び後期開講科目すべてを年度始めに履修登録してください。
- (3) 履修登録した科目でなければ、単位を修得することはできません。
- (4) 同一学期・曜日・時限に2科目以上重複して履修登録することはできません。
- (5) 単位を既に修得した同一科目を再度履修することはできません。
- (6) 自分の学年よりも下級学年に配当されている授業科目は履修できますが、上級学年に配当されている授業科目は履修できません。

こんなときは？

## Question & Answer

**Q1** 他キャンパスの全学共通科目を履修することはできますか？

**A1** 指定された科目に限り、履修登録することができます。

**Q2** 履修できるはずの科目が自分の学年の時間割表に載っていないのですが、履修することはできませんか？

**A2** 各科目は配当学年の最も下級の学年の時間割表にのみ掲載されています。(例えば「2・3・4年次配当の科目」であれば2年次の時間割表にのみ掲載されています。) カリキュラム上履修できる科目であれば、UNIPAの履修登録画面にはその科目が表示されますので履修することができます。

**Q3** 時間割表の中に同じ科目がいくつもありますが、全て履修しなければならないのですか？

**A3** 時間割表の授業コード欄を見てください。同じ名前で同じ授業コードの科目であれば、それは1つの授業を複数の時限に分けて行っているのが全て履修しなければなりません、同じ名前の科目でも授業コードが違う場合は、いずれか1つだけを履修することになります。

**Q4** 1年生のときに単位を修得できなかった科目を再履修したいのですが、現在の1年生には、その科目が開かれていません。どうしたらよいでしょうか？

**A4** 大学は常にカリキュラムの見直しを行い、入学年度ごとにカリキュラムが異なることがあります。自分の履修すべき科目が学年進行の過程でなくなった場合は、特別に新しいカリキュラムを読み替えて履修できるように対応します。



## 4 学生時間割表

受講者調整が終了したあと、学生時間割表がUNIPAからダウンロードできるようになります。間違いなく履修登録できているか必ず確認してください。

## 5 修正履修登録

履修登録エラーの修正など、修正履修登録を行う必要がある場合は修正履修登録期間内に修正手続きを行ってください。

なお、期間外の受け付けは一切行いませんので、十分注意してください。

こんなときは？

### Question & Answer

**Q1** 科目の変更をしたいのですができますか？

**A1** 一度登録した科目の変更はできません。ただし、諸課程科目の履修を目的とした場合に限り変更を認めることがあります。変更が認められた場合は、修正履修登録期間内に手続きをしてください。  
期間外の受け付けは行いませんので、十分注意してください。

**Q2** 履修登録した覚えのない科目が、登録されていますがなぜですか？

**A2** 各学科等で受講者を決めている場合、あらかじめ登録されている科目もあります。それ以外は履修登録の際に他の科目と間違えて登録したと考えられます。学生時間割表でしっかりと確認してください。

**Q3** 必修科目を履修登録し忘れてしまいました。登録はできますか？

**A3** 修正履修登録期間内に必ず手続きをしてください。期間外の受け付けは行いませんので、十分注意してください。

## 6 履修中止による履修取消制度

この制度は、授業内容が学習したい内容と異なっていた場合や、授業についていけないだけの知識・学力が不足していたなど何らかの理由で履修を途中で止めてしまった科目、また、履修していてもそのままでは単位を修得することが難しく不合格となる科目があることでGPAが下がることを回避するための制度です。

履修登録の取り消しをする際は、以下の点に注意して手続きをしてください。

- ・卒業に必要な単位数が不足しないようにしてください。
- ・必修科目及び学外実習科目並びに集中授業科目の取り消しは原則として認められません。ただし、学部・学科・専攻が特別に認めた場合は取り消すことができます。
- ・諸課程科目等卒業に必要な単位として認められない科目は取り消しできません。
- ・手続き後の変更及び取り消しは、いかなる理由があっても認められません。
- ・手続き時期は、UNIPA学内リンク集から確認してください。
- ・取り消した科目はGPA算出の対象から除外されます。
- ・取消期間や注意事項については、UNIPA掲示等で連絡しますので確認してください。
- ・期間外の受け付けは行いませんので、十分注意してください。

## 7 後期履修登録

履修登録はすべて、年度の始めに1年間の計画をしっかりとてて行いますが、後期授業開始時点で履修登録単位数の上限まで達していない場合は、空いている曜日・時限に開講されている科目を後期履修登録することを認めています。

また、後期履修登録の前にも履修取消期間を設けています。後期履修登録は、取り消した単位数分も含め、上限単位数まで科目を追加することができます。後期履修登録を希望する場合は、以下の点に注意して手続きを行ってください。

- ・後期履修登録で追加できる科目は、定員に空きがある科目に限ります。
- ・後期履修登録で履修を希望した科目が受講者調整を行う場合、抽選に落ちたととしても、取り消した科目を元に戻すことはできません。
- ・前期に不合格となった科目も履修登録単位数に含まれます。不合格科目の単位数も含め、履修登録単位数の上限まで達していると、後期履修登録は認められません。
- ・手続きの日時や注意事項については、UNIPA掲示等で連絡しますので確認してください。
- ・期間外の受け付けは行いませんので、十分注意してください。

## 8 大学院授業科目早期履修制度

本学では、大妻女子大学大学院への進学を検討している学生を対象に「大学院授業科目早期履修制度」を設けています。

これは、本学学部生に大学院修士課程の授業科目を早期に履修する機会を提供することで、大学院進学後の学修について興味を深めてもらうことを目的としています。大学院入学前の時間を有効に使いたいと考えている方は、積極的にご活用ください。なお、本制度は、学部4年次生を対象としており、申請を希望する学生は、学部における自己の履修状況などを考慮のうえ、学部の卒業に影響を及ぼさない範囲での制度利用に留意してください。

その他、履修の要件等履修制度に関する詳細は、3年次の1月中旬にUNIPAで配信される募集要項で確認することができます。

# 授業について

## 1 授業時間

授業時間は次のとおりです。

時限	授 業 時 間
1 時 限	9 : 00 ~ 10 : 30
2 時 限	10 : 40 ~ 12 : 10
3 時 限	13 : 00 ~ 14 : 30
4 時 限	14 : 40 ~ 16 : 10
5 時 限	16 : 20 ~ 17 : 50
6 時 限	18 : 00 ~ 19 : 30

## 2 授業を受けるにあたっての注意事項

### 受講マナーについて

- (1) 授業中は私語を慎んでください。
- (2) 著しく受講態度が悪い学生は、受講が停止される場合があります。
- (3) 電車の遅延等で授業に遅刻した場合は、必ず授業担当教員にその旨を報告の上、着席してください。

### 授業中に大きな地震が発生したら

授業中に震度4以上の地震が発生した場合は、非常放送が入ります。あわてずに放送内容をよく聞いて指示に従ってください。

こんなときは？

## Question & Answer

### Q1 授業時間以外に先生に会いたいのですか？

**A1** 専任の先生の場合は、各学科の研究室を訪ねてください。非常勤の先生の場合は講師室（大学校舎A棟3階）を訪ねるか、シラバスで質問方法など確認してください。  
また、専任の先生は学生の皆さんの相談に応じるためのオフィスアワーを設けています。これは授業以外で教員と面談できる制度です。各先生のオフィスアワーの時間帯はホームページに掲載していますので確認してください。事前に予約を行うとスムーズに相談ができます。

### 3 出席と欠席

授業への出席が授業回数の3分の2に満たない場合、授業への出席回数不足で成績評価を受ける資格がないため試験を受けることができず、単位が修得できなくなります。出席もれのないように常に自分の各履修科目の出席状況の把握に努めてください。

なお、栄養士、管理栄養士及び保育士養成課程の指定科目は、出欠状況の把握、管理が義務づけられています。

#### 出席について

本学では、主にスマートフォンを用いて出席管理を行います。学内のコタカ Wi-Fi に接続をしたうえで、授業担当教員から指定される4桁の「認証コード」をスマートフォンから UNIPA に入力することで出席となります。スマートフォンで登録した出席情報は、UNIPA の「出欠状況照会画面」で確認することができます。また、スマートフォンを所持していない場合や忘れた場合は、授業担当教員に申し出てください。

スマートフォン以外の方法で出欠を管理している科目は、UNIPA の「出欠状況照会画面」で確認することができない場合がありますので、授業担当教員に確認してください。

#### 欠席について

授業に出席しなかった学生は、すべて欠席となりますが、学校保健安全法で定められた感染症により出席停止となった場合、裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のために裁判所へ出頭する場合、教育実習、校外実習、介護等体験、研修旅行及び忌引の場合に関する措置は次のとおりとします。

##### ①学校保健安全法で定められた感染症にかかった場合

学校保健安全法で定められた第一種、第二種、第三種の感染症にかかった場合は出席を停止します。

所定の手続きを行った場合は欠席扱いとはなりません。詳細は『学生生活の手引き』を確認してください。

##### 学校保健安全法で定められた感染症

※対象となる感染症は変更となる場合があります。最新の情報は本学ホームページでご確認ください。

第一種：エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARS）、中東呼吸器症候群（MERS）、特定鳥インフルエンザ

第二種：インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）、百日咳、麻疹（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風しん（三日ばしか）、水痘（水ぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

第三種：コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症（O157 など）、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎

その他の感染症（学内で大規模な流行が認められると学院が判断する場合のみ）

##### ②裁判員制度に伴う場合

裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のために裁判所へ出頭し授業を欠席した場合は所定の手続きを行うことにより欠席扱いとはなりません。詳細は『学生生活の手引き』を確認してください。

##### ③忌引の場合

忌引の場合は原則として死亡した日から忌引とし、欠席者の取り扱いは授業担当教員の判断にゆだねられます。忌引期間中の日曜日・祝祭日も忌引の中に含まれます。ただし、特別な理由がある場合は葬儀の日の前後に続けて取ることができます。詳細は『学生生活の手引き』を確認してください。

父母の場合 . . . . . 7日以内

祖父母の場合 . . . . . 3日以内

兄弟姉妹の場合 . . . . . 3日以内

曾祖父母の場合 . . . . . 2日以内

叔伯父母の場合 . . . . . 2日以内

## ④教育実習、校外実習、介護等体験、研修旅行の場合

教育実習、校外実習、介護等体験、研修旅行の場合、欠席者の取り扱いは授業担当教員の判断にゆだねられます。手続き等詳細は所属学科及び教育支援グループ、資格支援・学事グループで確認してください。

**長期にわたる欠席をする場合**

長期にわたる欠席をする場合は、事前にクラス指導主任及び授業担当教員と緊密な連絡をとり、その科目の履修と単位修得に関して遺漏のないようにしてください。

**授業への出席に関する不正行為について**

授業への出席に関する不正行為（他の学生に成り代わり授業に出席・代返する、または同行為を依頼する、授業中に許可無く退室する、認証コードを教室外から入力する、認証コードを教室外の学生に伝達する等。）を行った場合は、当該授業が欠席として扱われます。また、授業担当教員が特に悪質であると判断した場合、当該授業の受講の停止や懲戒処分の対象とされることがあります。

こんなときは？

**Question & Answer****Q1 授業を欠席してしまったのですが？**

**A1** 1週間以上の病欠の場合は、『学生生活の手引き』に記載されているとおり、手続きを行ってください。1週間未満の欠席の場合は、各自レポート用紙により（自由書式）欠席届を作成し、授業担当教員に提出してください。

**Q2 欠席届を提出すれば先生は考慮してくれますか？**

**A2** 授業に出席しなければすべて欠席です。ただし、学校保健安全法で定められた感染症により出席停止となった場合、裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のために裁判所に出頭する場合、教育実習・校外実習・介護等体験・研修旅行・忌引などのために欠席した場合の措置については「3 出席と欠席」を参照してください。

**Q3 電車が事故で止まってしまい、授業に間に合いません。どのような手続きをしたらいいですか？**

**A3** 鉄道会社が発行する遅延証明書を用意したうえで、各自欠席届を作成し、遅延証明書をつけて各授業担当教員に提出してください。また、遅刻の取扱いは授業担当教員の判断にゆだねられます。なお、交通機関のストライキの場合は「緊急事態発生時の授業及び試験等の取り扱いについて（覚書）」を参照してください。

**Q4 授業に遅れることを先生に連絡してもらえますか？**

**A4** 授業の遅刻や欠席について、電話での取り次ぎは行いません。Q1～Q3を参考に各自で授業担当教員に届け出てください。

**Q5 スマートフォンを忘れてしまいました。友達のスマートフォンから出席管理の認証コードを入力しても良いですか？**

**A5** スマートフォンを忘れたことで出席管理の認証コードを入力できない場合は、授業担当教員に忘れたことを伝えてください。友達のスマートフォンから入力した場合、不正行為と捉えられる可能性があります。

## 4 休講・補講・教室変更・時間割変更

### 休 講

学校行事または授業担当教員のやむを得ない事情により、授業を休講にすることがあります。その場合は、大妻Webメールによる休講メール配信及びUNIPA掲示によって通知します。

また、始業開始から30分以上経過しても授業が開始されない場合は、教育支援グループに連絡し、指示を受けてください。

### 補 講

補講とは、授業担当教員が予定していた授業計画が完了しない場合や授業回数の不足を補うために行われる授業のことです。休講があれば、補講をすることが原則となっています。

補講は、原則として補講・試験期間に実施されます。日程等は、UNIPA掲示によって通知します。

### 教室変更・時間割変更

その日時のみでの臨時変更と、その日以降から最終授業までの通期変更があります。変更内容は、UNIPA 掲示によって通知します。

休講・補講・教室変更・時間割変更等については、上記のとおり、UNIPA 掲示を通じてお知らせします。電話やメールではお答えできませんのでご注意ください。

こんな  
ときは？

## Question & Answer

**Q1** 先生がいつまでたっても教室に来られないのですが？

**A1** その授業が休講になっていないか、教室変更されていないか UNIPA 掲示にて確認してください。休講や教室変更の UNIPA 掲示が出ておらず、30 分以上経過しても先生が来られない場合は、教育支援グループに連絡し、指示を受けてください。

**Q2** 教室に行ったら誰もいなかったのですが？

**A2** 教室変更、時間割変更、休講等の連絡がないか UNIPA 掲示にて確認してください。連絡がない場合は、教育支援グループに確認してください。

**Q3** 天候が不安定ですが、授業は休講になりますか？

**A3** 気象警報が発令され、交通機関の運行ダイヤが大幅に混乱することが予想される場合は、休講になることがあります。詳細は「緊急事態発生時の授業及び試験等の取り扱いについて（覚書）」を参照してください。

# 試験について

試験は筆記試験、オンライン試験、論文・レポート・作品等の提出等により評価されます。

試験は大きく分けて、学期末の試験期間中に実施される「定期試験」と授業中に実施される「授業期間中の試験」に区分されます。

その他、補講や集中授業の中で行う試験等もありますので、授業担当教員の指示に従って、受験するようにしてください。

## 1 受験資格

定期試験を受験できるのは、履修登録をしていてその授業に出席していた学生に限ります。

授業への出席が授業回数の3分の2に満たない場合、授業への出席回数不足で成績評価を受ける資格がないため試験を受けることができません。また、学費未納の学生は、原則として受験資格がありません。

## 2 定期試験

定期試験とは、前期・後期それぞれの補講・試験期間中に実施する試験を指します。

### 定期試験時間割表

定期試験時間割は UNIPA 掲示にて発表します。

### 定期試験時間

本学の定期試験時間は、次のとおりです。各時限 60 分で実施し、授業時間とは異なりますので、十分注意してください。

時限	定期試験時間
1 時 限	9 : 00 ~ 10 : 00
2 時 限	10 : 40 ~ 11 : 40
3 時 限	13 : 00 ~ 14 : 00
4 時 限	14 : 40 ~ 15 : 40
5 時 限	16 : 20 ~ 17 : 20
6 時 限	18 : 00 ~ 19 : 00

### 定期試験受験の注意事項

#### 1 定期試験時間割の確認

- (1) 定期試験時間割で試験時間、試験場等を必ず確認してください。授業の曜日・時限と定期試験の曜日・時限は異なる場合があります。また、教室が変わる場合もありますので、見誤りで受験できなくなることをないように十分注意してください。
- (2) 定期試験時間割は、発表後に変更することがあるので、試験当日まで常に UNIPA 掲示に注意してください。
- (3) 定期試験時間割には授業科目ごとに対象クラスを記載していますが、自分のクラスが記載されていない場合は、速やかに教育支援グループまで申し出てください。（再履修者は特に注意してください。）  
また、授業科目によっては、複数の教室で試験を実施することがありますので、必ず指定された教室で受験してください。

## 2 試験の重複

試験時間が重なった場合は、所定の期間に申し出てください。詳細はUNIPA掲示にて確認してください。

## 3 学生証

受験する際は、必ず学生証を机上に提示してください。学生証がなければ受験することができません。学生証を忘れた場合は試験開始前にパピルスメイト（証明書自動発行機）で「仮学生証」の発行手続きをしてください。手続きにはパスワードと手数料が必要です。

## 4 持ち込み物

- (1) 受験の際、「持込可」とされている科目を除き、教科書、ノート、辞書などを、すべてバッグなどの中にしまい椅子の下に置いてください。
- (2) スマートフォン・携帯電話も電源を切りバッグなどの中にしまってください。
- (3) 時計の持ち込みは認めますが、スマートウォッチ等、時刻を表示する以外の機能や通信機能を有するものは持ち込めません。また、アラームも使用できません。
- (4) コピーしたノートを持ち込めるのは、「持込可」の科目の内、「ノート（コピー可）」の持ち込みを許可された場合だけです。
- (5) 試験場では、許可なく物品の貸し借りはできません。

## 5 遅刻

試験開始後30分以内の遅刻であれば、受験可能です。ただし終了時間の延長はありません。

## 6 途中退室

試験開始後、30分経過し解答が終わった者は、監督者の指示に従い退室することができます。

## 7 その他

試験開始10分前には試験監督から受験の際の注意事項などについて説明があります。試験開始時刻を確認して10分前には教室に行き、受験の準備を始めてください。

## 不正行為

不正行為を行った学生は、「試験における不正行為者の処罰に関する規程」に基づき、次のとおり処罰されます。

## 1 試験における不正行為とは、次の各号のいずれかに該当する行為をいう。

## ① 筆記試験

- (1) 他人に受験を代理させる行為、及び他人の受験を代理する行為
- (2) 他人の答案を見る行為、及び何らかの方法で他人の答案を知る行為
- (3) 他人に答案を見せる行為、及び何らかの方法で他人に答案を教示する行為
- (4) 他人と答案を交換する行為
- (5) 持ち込みが許可されていない資料及び電子機器類等を利用する行為
- (6) 持ち込みが許可された資料及び電子機器類等を貸借等する行為
- (7) 所持品、衣服、身体、机又は壁等へ書き込みをする行為、及びその書き込みを利用して答案を作成する行為
- (8) その他試験監督者の指示に従わない行為、及び公正な試験の実施を阻害すると認められた行為

## ② オンライン試験

- (1) 他人に受験を代理させる行為、及び他人の受験を代理する行為
- (2) 試験中に他人と会話や通信等をする行為
- (3) 許可されていない資料、電子機器類、及びアプリケーション等を利用する行為
- (4) その他授業担当者が不正だと判断した行為

## ③ 論文・レポート・作品等の提出（卒業論文・卒業研究、及びオンラインによる提出の場合を含む）

- (1) 他人に代筆等させた論文・レポート・作品等を提出する行為
  - (2) 他人の論文・レポート・作品等を代筆等する行為
  - (3) 実験や調査結果のデータを捏造又は改ざんする行為
  - (4) 他人の論文・レポート・作品等を盗用する行為
  - (5) その他授業担当者が不正だと判断した行為
- 2 試験のうち定期試験における不正行為については以下の処罰を行う。
    - ① 当該学期の定期試験の全試験科目を無効（E評価）とする。
    - ② 不正行為者に対しては、懲戒規程第7条に基づいて、自宅謹慎を命じ、懲戒規程第5条第1項第1号の訓告とする。
    - ③ 副学長（学生担当）が当該不正行為を特に悪質なものと判断した場合、懲戒規程第8条に基づく調査委員会による調査を行い、必要に応じて更に厳重な懲戒処分を実施する。
    - ④ 懲戒規程第10条第2項に基づいて、父母又は保証人に、不正行為及び懲戒処分の事実を通知するとともに、学内にその旨を公示する。
  - 3 定期試験以外の試験における不正行為については以下のとおりとする。
    - ① 授業担当教員が当該試験を定期試験に準ずると判断する場合は、当該科目を無効（E評価）とし、前項①～④を適用する。
    - ② 授業担当教員が当該試験を定期試験に準ずると判断しない、あるいは判断できない場合は、当該科目のみを無効（E評価）とし、懲戒の対象とはせず、懲戒規程第6条に基づいて厳重注意とする。
  - 4 細部については、内規で定める。
  - 5 この規程の改廃は、教務委員会の議を経て大妻女子大学運営会議において定める。

こんなときは？

## Question & Answer

**Q1** 定期試験の時間に遅刻しそうです。

**A1** 試験開始から30分以内であれば試験場に入室できます。ただし、試験時間の延長は行いません。30分以上の遅刻の場合は、いかなる理由でも受験はできませんので、追試験の手続きをしてください。

**Q2** 試験を受けるのですが、学生証を忘れてしまいました。

**A2** 学生証がなければ受験できませんので、パピルスメイト（証明書自動発行機）で仮学生証の発行手続きを行ってください。手続きの際は、パスワード及び発行手数料が必要です。なお、手続きに時間がかかり、試験開始後30分経過してしまった場合、受験することができなくなります。試験の日は余裕をもって行動しましょう。

### 3 授業期間中の試験

授業期間中の試験とは、授業中に実施される試験を指します。

授業期間中の試験についても、定期試験に準ずる場合は、定期試験受験の際の注意事項を準用し、不正行為については、「試験における不正行為者の処罰に関する規程」を適用します。

## 4 レポートについて

レポートは、平常授業の課題として課すもの、定期試験にかわるものに分けられます。レポートの取り扱いは次のとおりです。

### 授業担当教員に提出する場合

授業担当教員が提出方法・日時・提出場所を指示した場合は、その指示に従ってください。  
この場合、教育支援グループでは受理できません。

### 教育支援グループに提出する場合

教育支援グループに提出する場合は、課題・提出日時等をUNIPA掲示により発表します。  
提出は指定日一日限りとし、提出時間は原則【月曜～金曜】8:30～15:00、【土曜】8:30～11:00です。  
授業担当教員に直接提出または郵送した場合は無効とします。

### レポート提出の際の注意事項

- (1) 期限に遅れた場合は、受け付けません。提出日時は厳守してください。
- (2) レポートは必ず本人が提出してください。
- (3) レポート用紙、形式については、授業担当教員の指示に従ってください。
- (4) 各キャンパス所定の場所に置いてある大学指定の表紙をつけてください。
- (5) 表紙は必ず黒のペンまたはボールペンで記入してください。
- (6) レポートは必ずホチキスで留めてください。

## 5 成績公開

UNIPAでは成績照会画面から成績を確認することができます。履修結果公開日を迎えると、成績情報が更新され、新たに当該年度・学期の履修結果を確認することができます。追・再試験が実施される科目がある場合は、追・再試験エントリー画面にエントリー可能な科目が追・再試験情報とともに公開されますので、必要に応じて手続きを行ってください。

## 6 追試験

### 追試験とは

評価を受ける資格を有する学生が、病気その他やむを得ない理由で定期試験等を受験できなかった場合、所定の手続きを経て受験することができる試験です。

### 追試験願提出

以下の事由により試験を受けられなかった学生は、指定された期間に「追試験願」をUNIPAで申請し、診断書等の書類を別途教育支援グループに提出してください。なお、社会情勢の変化により、提出してもらう書類が変わる可能性があります。変更が生じた場合は、UNIPA掲示等でお知らせします。

- (1) 学校保健安全法で定められた感染症の罹患等  
[欠席届（傷病による）] で承認済の申請書

感染症	必要書類	欠席届の申請方法
インフルエンザ・ 新型コロナウイルス感染症	[欠席届（傷病による）] で承認済みの申請書 ※UNIPAから [欠席届（傷病による）] の申請を行い、健康センターおよびクラス指導主任の「承認済」となった申請書のPDFをダウンロードする。	UNIPAからWEB申請 [欠席届（傷病による）] （添付書類：インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症罹患報告書等）
その他の感染症		UNIPAからWEB申請 [欠席届（傷病による）] （添付書類：感染症登校許可証明書）

※各所定用紙は、WEB申請 [欠席届（傷病による）] フォーム内あるいは本学ホームページ「学生生活」→「支援体制（相談窓口）」→「健康・こころの相談」→「健康センターについて」のページからダウンロードできます。

- (2) (1) 以外の入院、病気または怪我  
医師の診断書（治療期間が明記されているなど試験を欠席した日の入院、病気、怪我を証明する内容であること）
- (3) 裁判員選任手続期日及び裁判員に選任された公判のための裁判所への出頭  
出頭した裁判所で出頭日の証明を受けた「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」
- (4) 忌引  
忌引届（学生支援グループ所定用紙）の写し及び会葬礼状等
- (5) 以下の資格取得にかかる実習  
学生本人の署名のある欠席理由書（教育実習、介護等体験、保育実習、校外実習、博物館実習、公認心理師、社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士、職場適応援助者（ジョブコーチ）、衣料管理実習）
- (6) 教員採用試験・公務員試験等  
実施要項・受験票の写し
- (7) 他大学大学院の入学試験及び他大学編入学試験  
受験票の写し
- (8) 単位互換協定に基づき履修している他大学等の授業科目の試験または授業  
他大学等で履修している授業科目の試験時間割表等、試験日時や授業実施が確認できるもの
- (9) 就職活動（説明会、筆記試験、面接、内定式等）  
欠席届（就職支援センター所定用紙）及び欠席届に記載の期日・活動内容について企業等から学生本人宛に送られてきたことが確認できる書面やメール等
- (10) 就職支援センターが取り扱うインターンシップ  
学生本人の署名のある欠席理由書
- (11) 国際センター（国際交流支援グループ）が取り扱う海外研修（紹介プログラムを含む）  
欠席届（国際センター所定用紙）
- (12) 交通機関の事故等  
事故証明書、遅延証明書
- (13) 重大な災害  
官公庁発行の被災証明書または罹災証明書の写し
- (14) その他やむを得ない理由  
学生本人の署名のある欠席理由書及びやむを得ないことを証明する書類等

## 追試験期間

---

追試験期間はUNIPAの学内リンク集に掲載している「教務関係予定表」で確認してください。

## 追試験受験可否発表及び追試験納金手続き

---

提出された追試験願をもとに追試験の受験を認めるか審査し、結果をUNIPAで公開します。

追試験受験可否発表後、追試験の受験を認められた科目については、指定された期間にUNIPAでエントリーしたうえで、パピルスメイト（証明書自動発行機）で受験料を納金してください。追試験の受験が認められた学生は、必ず本人が納金手続きを行わなければ受験できません。

なお、通年科目の前期試験欠席は、追試験の対象になりませんので、授業担当教員に相談してください。

## 追試験時間割発表

---

追試験時間割は、UNIPA掲示及び追・再試験エントリー画面にて発表します。

## その他

---

- (1) 追試験の成績評価方法は正規の試験に準じます。
- (2) 追試験は1回限りとし、追試験に対する追・再試験は行いません。

## 7 再試験

### 再試験とは

不合格の認定を受けた科目については再履修することとし、原則として再試験は行いません。ただし、卒業年次生に限り、前期3科目、後期3科目（社会生活情報学専攻の「卒業研究」は除く）まで、所定の手続きを経て、当該学期の指定された期間に再試験を受けることができます。

### 再試験期間

再試験期間は掲示及びUNIPAの学内リンク集に掲載している「教務関係予定表」で確認してください。

### 再試験納金手続き

再試験は必ず本人が受験手続きを行わなければ受験できません。

履修結果公開後、再試験の受験を認められた科目については、指定された期間にUNIPAでエントリーしたうえで、パピルスメイト（証明書自動発行機）で受験料を納金してください。

### 再試験時間割発表

再試験時間割は、UNIPA掲示及び追・再試験エントリー画面にて発表します。

### その他

- (1) 再試験の成績評価は、C、DまたはFです。
- (2) 再試験は1回限りとし、再試験に対する追・再試験は行いません。

こんなときは？

## Question & Answer

**Q1** 追試験と再試験の違いがわかりません。

**A1** 追試験とは、正当な理由で定期試験またはそれに準ずる試験（レポート提出等含む）を受験できなかった場合に、自ら願い出て手続きをして受験する試験です。  
再試験とは、卒業年次生に限り、試験の結果、不合格となった場合に、所定の手続きを経て受験する試験です。

**Q2** 受験料はいくらかかりますか？

**A2** 追試験は1科目につき1,000円、再試験は1科目につき2,000円の受験料がかかります。

**Q3** 追再試験受験票兼領収書を忘れてしまいました。

**A3** 追再試験受験票兼領収書がないと受験できません。教育支援グループで所定の手続きを行ってください。

## 8 追・再試験結果公開

UNIPAでは成績照会画面から成績を確認することができます。追・再試験結果公開日を迎えると、成績情報が更新され、新たに当該年度・学期の追・再試験結果が反映された成績を確認することができます。

# 成績について

## 1 成績の評価基準

本学における成績の評価基準は、次のとおりです。

判定	評点	評価	評価内容基準	成績照会画面の表示	学業成績証明書の表示
合格	100~90	S	基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている	S	S
	89~80	A	基本的な目標を十分に達成している	A	A
	79~70	B	基本的な目標を達成している	B	B
	69~60	C	基本的な目標を最低限度達成している	C	C
	単位認定	N	学修等について単位を修得したものと する	N	N
不合格	59点以下	D	基本的な目標を達成していない	D	表示なし
	出席不足等 (受験資格なし)	E	出席不足のため、受験資格なし	E	表示なし
	試験時欠席等	F	試験時欠席・レポート等未提出	F	表示なし

- (1) 学生が履修登録した科目について、学期末及び学年末に学修状況とその結果を考査した結果、合格した者に対して、授業担当教員がその科目の修了を認定し、所定の単位を与えます。
- (2) 評価は、平常の学修状況、試験、レポート等の結果によります。
- (3) 単位が認定された科目は、成績が不本意でも科目の評価を取り消したり、再度その科目を履修しなおすことは認められません。
- (4) 不合格・再履修・欠席であった必修科目は、必ず次の年度に再履修して単位を修得しなければなりません。また、選択科目は、他の選択科目を履修して、不足単位を補うことができます。
- (5) 「N」評価で表示されるのは、「大妻教養講座」、「大妻教養講座Ⅱ 卒業生から学ぶ」、入学前の既修得単位として単位認定された科目、編入学に対する単位認定、大学以外の教育施設等における学修に対する単位認定、長期留学及び短期海外研修を修了して単位認定された科目などです。

こんなときは？

### Question & Answer

**Q1** 不合格となった科目は必ずもう一度履修しなければならないのですか？

**A1** その科目が必修科目の場合は、再度履修する必要がありますが、その科目が選択科目の場合は、不足した単位数を他の科目で補うことができます。

**Q2** 既に単位を修得した科目の成績が思わしくなかったのので、もう一度同じ科目を履修し直したいのですが？

**A2** 一度単位を修得した科目を再度履修することはできません。

**Q3** GPA をあげるために、がんばって「S」をとりたいと思うので、評価はどうやって決まるのかわかりたいのですが？

**A3** 評価については、シラバスに「成績評価の方法及び基準」という項目を設け評価基準等を各授業担当教員が明記しています。評価はその基準に沿って判断されています。  
なお、成績評価に疑問がある学生は、所定の期間内に教育支援グループへ申し出てください。

## 2 成績通知

成績は、UNIPAの成績照会画面から確認することができます。成績照会画面には、学期のGPA、年度のGPAと通算のGPAが、進学や就職などで使用する学業成績証明書には通算のGPAが記載されます。

また、保証人も学生のみなさんと同様、UNIPAの成績照会画面から確認できます。

ただし、個人情報保護法により、成人に達した学生が保証人への開示を希望しない旨の申し出をした場合は、開示を取りやめることにしています。開示を希望しない学生は、教育支援グループに申し出てください。

なお、成績に関する問い合わせについて、学生個人情報の保護及び誤解を招く恐れがあるため、電話での問い合わせには応じていません。

こんな  
ときは?

### Question & Answer

**Q1** 自分の成績を知りたいのですが、どうしたらわかりますか？

**A1** 成績は、UNIPAの成績照会画面から確認してください。また、学業成績証明書をパピルスメイト(証明書自動発行機)で発行し、確認することができます。

**Q2** 成績照会画面に不合格科目を記載するのはなぜですか？

**A2** ①合格科目と同様に、不合格科目もGPA算出の対象となっていること、②学生の皆さんに、自分が登録した科目に履修の責任を持ってもらうこと、の2点の理由により成績照会画面にも不合格科目を記載します。したがって、不合格になってしまった科目は、成績照会画面に不合格科目として表示されてしまうだけでなく、GPAも下げてしまいますので、修得するつもりのない科目を安易に履修登録することのないように十分注意してください。

**Q3** 学業成績証明書に不合格科目は記載されますか？

**A3** 記載されません。

**Q4** 学業成績証明書とはどのようなものですか？

**A4** 学業成績証明書は、単位を修得できた科目の評価と通算のGPAが記載された証明書です。成績照会画面とは異なり、不合格や再履修となった科目は記載されません。就職で企業に提出する場合など、必要に応じて各自が申込み手続きをして発行されます。

### 3 成績評価確認制度について

成績評価の確認をしたい学生は、所定の期間内に、教育支援グループへ申し出てください。  
手続き方法や手続き期間については、UNIPA掲示で確認してください。

### 4 GPAについて

#### GPAについて

GPA (Grade Point Average) は、成績評価を数値に換算したGrade Pointの平均値であり、学業成績の状況を自分自身で的確に把握することができます。

GPAには学期GPA、年度GPA、通算GPAがあり、学期GPAは当該学期に評価された科目のGPA、年度GPAは当該年度に評価された科目のGPA、通算GPAは過去に評価された科目を含めそれまでに評価された科目のGPAです。なお、UNIPAの成績照会画面には、全てのGPAが、進学や就職などで使用する学業成績証明書には、通算GPAのみが記載されます。

#### GPAの算出方法について

(1) 各授業科目の成績評価に対して、次のとおりGrade Point を付けます。

判定	評点	成績評価	Grade Point
合格	100点～90点	S	4.0
	89点～80点	A	3.0
	79点～70点	B	2.0
	69点～60点	C	1.0
不合格	59点以下	D	0
出席不足等 (受験資格なし)		E	0
試験時欠席等		F	0

※認定科目 (N) 及び諸課程科目、履修取消科目は原則としてGPAの算出から除かれます。

(2) 履修した各授業科目の単位数にGrade Pointを乗じて、その合計を総履修登録単位数で除したものがGPAです。追・再試験を受験した科目は、追・再試験の成績評価に基づきGPAが算出されます。

#### 【計算式】

$$GPA = \frac{S\text{評価の合計単位数} \times 4.0 + A\text{評価の合計単位数} \times 3.0 + B\text{評価の合計単位数} \times 2.0 + C\text{評価の合計単位数} \times 1.0}{\text{総履修登録単位数 (不合格D、出席不足等E、試験時欠席等Fを含む)}}$$

※不合格科目 (D、E、F評価) を再履修した場合、最終評価のみ計算式に含む

※小数点以下第三位を切り捨て

## 【算出例】

授業科目名	単位数	成績評価	Grade Point	Grade Point×科目の単位数
大妻教養講座	1	N	対象外	—
情報基礎PC (情報活用・PC操作)	2	S	4.0	4.0×2=8.0
スポーツA	1	A	3.0	3.0×1=3.0
日本国憲法	2	A	3.0	3.0×2=6.0
韓国語 I	1	D	0	0×1=0
家族心理学	2	C	1.0	1.0×2=2.0
イギリス入門	2	A	3.0	3.0×2=6.0
流通論	2	B	2.0	2.0×2=4.0
日中関係論	2	B	2.0	2.0×2=4.0
国際理解(海外研修) I	2	N	対象外	—
合計	14 (大妻教養講座1単位及び国際理解 2 単位を除く)			33.0Point
GPA=2.35 (33.0÷14=2.357.. 小数点以下第三位を切り捨て)				

## GPAによる履修指導などについて

- (1) 一度に多くの科目を履修すると予習・復習の学習時間を確保することができず学習効果を妨げてしまいますので、1年間の履修登録単位数の上限を学部・学科・専攻ごとに定めていますが、学生個人の学習状況に応じて次のように履修単位数の上限が変動します。
  - ①前年度のGPAが、3.5以上の学生は、上限履修単位数に6単位を加え履修することができます。
  - ②前年度のGPAが、3.0以上の学生は、上限履修単位数に2単位を加え履修することができます。
  - ③前年度のGPAが、1.5未満の学生は、学習指導上、上限履修単位数を減じることがあります。
- (2) 前学期のGPAが、大学は1.5未満、短大は1.0未満となった学生に対しては、クラス指導主任が今後の学習に関する助言を行います。また、必要に応じて保証人（保護者）と面談をすることもあります。
- (3) 前学年のGPAが、0.75未満かつ前学年までの合計修得単位数が定められた標準履修単位数（前学年までの合計）の3分の1未満の学生に対しては、成績不振学生としてクラス指導主任またはゼミナール担当教員が面談し、指導を行います。また、本人並びに保証人に通知が送られます。
 

2年間連続して指導となった学生に対しては、学科長・専攻主任により面談が行われ、成業の見込みがないと判断された場合、学部長への報告、承認を経て、退学勧告が行われます。
- (4) GPAの成績が特に優秀な学生に対しては、早期卒業を認めることがあります。
 

なお、早期卒業を実施する学部・学科・専攻は別に定めます。
- (5) GPAは、履修・学習指導の他、留学や奨学金の選考、就職の際の学内選考及び各種表彰者選考などにおける参考資料として使われることがあります。
- (6) GPAが下がることを回避するため、履修取消制度があります。詳細は、該当ページを参照してください。

こんな  
ときは？

## Question &amp; Answer

**Q1** GPA が低いと卒業できないのでしょうか？

**A1** 卒業できないことはありませんが、前年度の GPA が、大学は 1.5 未満、短大は 1.0 未満の学生は学習指導上、履修登録できる単位数を減じることがあります。

また、前学期の GPA が、大学は 1.5 未満、短大は 1.0 未満となった学生に対しては、クラス指導主任による助言を行い、別途指導を行います。必要に応じて保証人（保護者）と面談をすることもあります。

**Q2** 標準的な GPA の値はどの位ですか？

**A2** 妥当と認められる成績（B）及び優れた成績（A）の成績評価を基準と考えた場合、GPA の値は 2.0～3.0 の範囲が標準的な値です。まず標準的な GPA 値をめざすことが必要となります。また、努力したことにより GPA が 3.0 以上となった学生は、次学年の履修単位数の上限に一定単位数を加算することができます。

**Q3** 自分の GPA を知りたいのですが、どうすればよいですか？

**A3** UNIPA の成績照会画面に、その時点での GPA が記載されています。各自確認し、今後の履修・学習計画に役立ててください。

また、学業成績証明書には通算 GPA が記載されます。

**Q4** 編入生なのですが、短期大学部時代の GPA は学部へ編入後も使われるのですか？

**A4** 使用されません。学部への編入後に履修登録した科目から学部の GPA 算出対象となります。

**Q5** GPA は就職活動や進学に影響しますか？

**A5** 多くの企業では、面接や筆記試験の結果を重視しているのが実情ですが、近年は学生の本分である学業への取組状況を評価対象にする企業も増えてきています。また、海外の大学等への進学、海外留学の際は、GPA が成績を見る指標として活用されている場合が多いのも事実です。

# 単位認定について

卒業のためには、本学所定の科目を受講することにより、必要単位を修得することが原則ですが、海外の大学へ留学するなど、本学以外でおこなった学修についても、本学で修得した単位として認定できる場合があります。認定できる単位には以下のようなものがありますが、編入学による場合を除き、合計で大学は60単位、短大は30単位を超えない範囲で行うものとします。

## 1 入学前に修得した単位の認定について

第1年次に入学した学生が、入学する前に他の大学または短期大学で修得した単位を、一定の基準に基づき本学で修得した単位として認定することができます。

### 申請手続き

単位の認定を希望する学生は、指定された期間に教育支援グループで申請手続きを行ってください。

申請期間： 配付された資料や掲示等で確認してください。

- 必要書類： (1) 単位認定願書  
(2) 既修得単位の成績証明書  
(3) 既修得単位科目のシラバス、講義要項等

## 2 他の大学へ留学して修得した単位の認定について

本学の規程に基づき、他の大学へ留学した学生が、留学先で修得した単位を、一定の基準により本学で修得した単位として認定することができます。

海外留学の詳細については、国際センターの留学制度などを参照してください。

## 3 他大学との単位互換制度により修得した単位の認定について

本学との単位互換協定に基づき、他大学の科目を受講許可された学生が、他大学で修得した単位を、一定の基準により本学で修得した単位として認定することができます。

単位互換の詳細については、UNIPA掲示等でお知らせします。

## 4 大学以外の教育施設等における学修に対する単位の認定について

### 〈家政学部・文学部〉

振り替え認定基準に定める検定または試験に合格した学生及び一定の成績を得た学生には、本人の申請により、申請科目の配当年次に限り、4月に単位の認定及び授業科目への振り替え認定を行うことができます。

### 申請手続き

単位の認定を希望する学生は、4月に教育支援グループで申請手続きを行ってください。

申請期間： 配付された資料やUNIPA掲示等で確認してください。

- 必要書類： (1) 大学以外の教育施設等における学修に対する単位認定申請書  
(2) 認定基準に定める検定の合格または試験の成績を証明する書類

## 認定できる科目

全学共通科目

〔家政学部〕

英語 I A・英語 I B(計2単位)

または 英語 I C・英語 I D(計2単位)

英語 II A・英語 II B(計2単位)

英語 II C・英語 II D(計2単位)

〔文学部〕

英語 I A・英語 I B(計2単位)

英語 I C・英語 I D(計2単位)

英語 II A・英語 II B(計2単位)

英語 II C・英語 II D(計2単位)

※□内の2科目を合わせて2単位を認定する。1単位のみで認定することはできない。

## 振り替え認定基準と認定単位

認定単位	実用英語技能検定	TOEIC® L & R (IPテストも含む)	TOEFL®
4	準1級	700点以上	iBT®68以上
6	1級	900点以上	iBT®92以上

## 認定に際しての注意事項

- (1) 認定単位は合計6単位を超えることはできません。
- (2) 同レベルの複数の技能検定や試験を併用することはできません。
- (3) 再履修科目を振り替え認定することはできません。
- (4) 対応科目を既に履修済みまたは履修登録中の場合は認定できません。
- (5) 履修登録時に、検定または試験の合格・成績取得を見込んで、必修科目の登録を見合わせることはできません。

### 〈社会情報学部〉

振り替え認定基準に定める試験に合格した学生には、本人の申請により、申請科目の配当年次または上級年次に限り、指定された期間に単位の認定及び授業科目の振り替え認定を行うことができます。

## 申請手続き

単位の認定を希望する学生は、指定された期間に教育支援グループで申請手続きを行ってください。

申請期間：掲示等で確認してください。

- 必要書類：(1) 大学以外の教育施設等における学修に対する単位認定申請書  
(2) 情報処理技術者試験合格証明書類

## 認定できる科目

社会生活情報学専攻、環境情報学専攻： 専門教育科目（他専攻選択）

情報デザイン専攻： 専門教育科目（選択）

認定対象科目	単位
情報処理機器概論	2単位
インタフェースデザイン論	2単位
統計処理及び演習	2単位
情報管理	2単位
アルゴリズム論及び演習 I	2単位
情報ネットワーク論及び実習 I	2単位
経営情報システム論	2単位

※詳細は掲示等で確認すること。

## 振り替え認定基準と認定単位

認定基準	認定単位
ITパスポート試験	2単位
基本情報技術者試験	6単位

### 認定に際しての注意事項

- (1) 認定単位は、合計6単位を超えることはできません。
- (2) 対象科目を既に履修済みまたは履修登録中の場合は認定できません。また、再履修科目を振り替え認定することはできません。
- (3) 社会生活情報学専攻、環境情報学専攻の申請者は、他専攻で履修した単位と合わせて10単位を超えることはできません。
- (4) 教職課程「情報」を履修している学生は申請できない科目があります。

## 5 社会体験実習の単位認定について

学外における国内での社会活動について、自由科目として単位認定を受けることができます。ただし卒業要件の単位には含まれません。

### 申請手続き

「企業等体験実習」の単位認定を希望する学生は、社会活動を行う前に就職支援センターに申し出てください。

「スクールインターン」、「ボランティア活動」の単位認定を希望する学生は、社会活動を行う前に教育支援グループに申し出てください。

### 認定できる科目

学部	自由科目
家政学部・文学部・短期大学部	企業等体験実習
社会情報学部・比較文化学部	企業等体験実習 スクールインターン ボランティア活動

※単位認定が受けられるのは、1科目につき1回だけです。

※資格証明書や免許証が発行されるものについては、単位認定を受けることはできません。

### 認定基準と認定単位

認定基準と認定単位
活動時間：45時間で1単位
認定単位上限：年間2単位
活動期間：正規の授業に支障がない期間
必要書類：実習資料、実習証明書、報告書等

### 認定に際しての注意事項

- (1) 1年間に認定できる単位は2単位までです。
- (2) 単位を認定するための要件を満たしていても活動内容によっては申請できない場合があります。単位の認定を希望する学生は、必ず事前に就職支援センターに相談してください。
- (3) 単位認定を受けられるボランティア活動への参加には、ボランティア保険への加入が必要です。国外ボランティア活動は保険の補償外になるため単位認定を受けることができません。

## 6 編入生に対する単位の認定について

○ 令和10年度3年次編入生は令和8年度1年次入学生適用のカリキュラムに基づき、以下のとおり認定します。

※ 大妻女子大学および大妻女子大学短期大学部以外からの編入生は、全学共通科目の必修に「大妻教養講座(1単位)」を含めません。

※ 個別認定のため、認定単位の合計が表記の単位数に満たないこともあります。

### 家政学部 被服学科

対象	区分	全学共通科目	専門教育科目				合計
			家政学部共通	必修	選択必修	選択	
全編入学者対象		34			*1 28	62	

\*1 家政学部共通および必修、選択科目を合わせて28単位を認定することを示す。

### 家政学部 食物学科 食物学専攻

対象	区分	全学共通科目	専門教育科目			合計
			家政学部共通	必修	選択	
全編入学者対象		24	4	*1 34	62	

\*1 必修および選択科目を合わせて34単位を認定することを示す。

### 家政学部 食物学科 管理栄養士専攻

対象	区分	全学共通科目	専門教育科目				合計
			家政学部共通	必修	選択必修	選択	
全編入学者対象		24	4	*1 34	62		

\*1 必修および選択必修、選択科目を合わせて34単位を認定することを示す。

### 家政学部 児童学科 児童学専攻

対象	区分	全学共通科目	専門教育科目				合計
			家政学部共通	必修	選択必修	選択	
全編入学者対象		28	4	*1 30	62		

\*1 必修および選択必修、選択科目を合わせて30単位を認定することを示す。

### 家政学部 児童学科 児童教育専攻

対象	区分	全学共通科目	専門教育科目			自由選択科目	合計
			家政学部共通	必修	選択		
全編入学者対象		20	4	38	0	62	

### 家政学部 ライフデザイン学科

対象	区分	全学共通科目	専門教育科目					合計
			家政学部共通	必修	選択必修	選択(基礎)	選択(応用)	
全編入学者対象		34	6	*1 14	1	7	0	62

\*1 3年次および4年次には、各配当年次の必修科目を必ず履修すること。

### 文学部 日本文学科

対象	区分	全学共通科目	専門教育科目				合計
			必修	選択必修	選択	文学部共通	
全編入学者対象		34	22	0	6	0	62

## 文学部 英語英文学科

対象	区分	全学共通科目	専門教育科目		自由選択科目	合計
			必修	選択		
全編入学者対象		33	*1 18	11	0	62

\*1 次の科目群から2つ以上選択し、合計8単位以上、3年次に履修すること。

- (i) 「英文学入門1」「英文学入門2」(合計4単位)
- (ii) 「米文学入門1」「米文学入門2」(合計4単位)
- (iii) 「英語学入門1」「英語学入門2」(合計4単位)

・上記の科目群は、自分が所属するゼミと関連するものから選択する。たとえば、英文学のゼミを選択した学生は、(i)を含める。英語教育学のゼミを選択した学生は、(iii)を含める。

## 文学部 コミュニケーション文化学科

対象	区分	全学共通科目	専門教育科目			合計
			必修	選択必修	選択	
全編入学者対象		36	*1 10	16	0	62

\*1 専門教育科目必修の認定単位に「エンパワメントゼミⅢ・Ⅳ」は含まれないため、3・4年次に履修すること。

## 社会情報学部 社会情報学科 社会生活情報学専攻

対象	区分	全学共通科目			学部共通科目		専門教育科目		自由選択科目	合計
		必修	選択必修	選択	必修	選択	必修	選択		
大妻(短大・学部)		9	12	9	*1 6	6	*2 4	12	4	62
大妻以外		8	12	9	*1 6	6	*2 4	12	4	61

\*1 学部共通科目の必修は、「コンピュータの基礎、情報処理実習A・B」とする。

\*2 専門教育科目の必修は「社会生活情報基礎演習Ⅰ・Ⅱ」とする。

## 社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻

対象	区分	全学共通科目			学部共通科目		専門教育科目			自由選択科目	合計
		必修	選択必修	選択	必修	選択	必修	選択必修	選択		
大妻(短大・学部)		9	12	3	*2 6	6	*3 2	0	14	10	62
他大(短大・学部)		8	12	3	*2 6	6	*3 2	0	14	10	61
高専・専門学校		*1 8(4)	12	3	*2 6	6	*3 2	0	14	10	57~61

\*1 英語の単位を修得していない者は、全学共通科目の必修単位は「英語ⅠA・B・C・D(4単位)」のみ認定する。

英語の単位を修得している者は、その単位数に応じて認定する。

\*2 学部共通科目の必修は、「コンピュータの基礎、情報処理実習A・B」とする。

\*3 専門教育科目の必修は「環境情報学基礎演習」とする。

## 社会情報学部 社会情報学科 情報デザイン専攻

対象	区分	全学共通科目			学部共通科目		専門教育科目		自由選択科目	合計
		必修	選択必修	選択	必修	選択	必修	選択		
大妻(短大・学部)		9	12	9	*1 6	8	*2 4	10	4	62
大妻以外		8	12	9	*1 6	8	*2 4	10	4	61

\*1 学部共通科目の必修は、「コンピュータの基礎、情報処理実習A・B」とする。

\*2 専門教育科目の必修は「プログラミング入門、情報デザイン基礎演習」とする。

## 人間共生学部 社会学科

対象	区分	全学共通科目			学部共通科目			専門教育科目			合計
		必修	選択必修	選択	必修	選択		必修	選択必修	選択	
						総論	概論				
大妻(短大・学部)		7	16	9	0	2	4	*1 0	0	24	62
大妻以外		6	16	9	0	2	4	*1 0	0	24	61

\*1 編入者には、「社会学セミナーⅠ・Ⅱ」への先修条件を外す。

## 人間共生学部 心理学科

対象	区分	全学共通科目			学部共通科目			専門教育科目		合計
		必修	選択必修	選択	必修	選択		必修	選択	
						総論	概論			
大妻(短大・学部)		7	14	13	*1 2	2	4	*2 4	16	62
大妻以外		6	14	13	*1 2	2	4	*2 4	16	61

\*1 学部共通の必修は、「人間共生総論Ⅱ」とする。

\*2 専門の必修は、「心理学基礎セミナー」「基礎統計学Ⅰ」とする。

\*3 公認心理師等の資格取得を希望する場合は、事前に相談すること。

## 人間共生学部 福祉学科

対象	区分	全学共通科目			学部共通科目			専門教育科目		合計
		必修	選択必修	選択	必修	選択		必修	選択	
						総論	概論			
大妻(短大・学部)		7	13	6	0	2	4	*1 4	*2 26	62
大妻以外		6	13	6	0	2	4	*1 4	*2 26	61

\*1 専門の必修は、「社会福祉学基礎セミナーⅠ・Ⅱ」とする。

\*2 日本ソーシャルワーク教育学校連盟または日本介護福祉士養成施設協会に加盟する四年制大学において指定科目の単位を修得した場合は、出身大学が発行する「単位修得証明書」の提出をもって、専門の選択単位として最大26単位まで個別単位認定する場合がある。但し、個別認定単位数が26単位以下の場合には、26単位から個別認定単位数を減じた単位数を、専門の選択単位として一括認定する。

\*3 社会福祉士および介護福祉士の資格取得を希望する場合は、事前に相談すること。

## 人間共生学部 共生デザイン学科

対象	区分	全学共通科目			学部共通科目			専門教育科目		合計
		必修	選択必修	選択	必修	選択		必修	選択	
						総論	概論			
大妻(短大・学部)		7	15	8	0	2	4	*1 4	*2 22	62
大妻以外		6	15	8	0	2	4	*1 4	*2 22	61

\*1 専門の必修は、「共生デザイン基礎セミナー」「SDGsセミナー」とする。

\*2 日本ソーシャルワーク教育学校連盟に加盟する四年制大学において指定科目の単位を修得した場合は、出身大学が発行する「単位修得証明書」の提出をもって、専門の選択単位として最大26単位まで個別単位認定する場合がある。但し、個別認定単位数が26単位以下の場合には、26単位から個別認定単位数を減じた単位数を、専門の選択単位として一括認定する。

\*3 精神保健福祉士および職場適応援助者(ジョブコーチ)の資格取得を希望する場合は、事前に相談すること。

※職場適応援助者(ジョブコーチ)…厚生労働指定研修「企業在籍型・訪問型職場適応援助者養成研修」修了認定。精神保健福祉士(受験資格)あるいは社会福祉士(受験資格)と同時履修が条件。取得まで3年必要。

## 比較文化学部 比較文化学科

対象	区分	全学共通科目				学部共通科目					専門教育科目		合計
		必修	基礎・教養 選択必修	外国語 選択必修	選択	日本	国際	比較	基礎	外国語	基礎・文化研究 ・言語・セミナー	関連	
大妻(短大・学部)		13	12	*1 (4)	9	4	4	0	*2 10	*1 (2)	0	*1.3 4~10	62
大妻以外		12	12	*1 (4)	9	4	4	0	*2 10	*1 (2)	0	*1.3 4~10	61

\*1 比較文化学部で設置している第二外国語の単位を修得している者は、その単位数に応じて全学共通科目の外国語必修および学部共通科目の外国語の単位を最大6単位まで認定する。その場合、専門教育科目の関連認定単位は、前記全学共通科目の外国語必修および学部共通科目の外国語で認定された単位を減ずる。

\*2 学部共通科目の基礎には必修の「比較文化入門(2単位)」は認定科目に含めるが「比較文化論(2単位)」は含めない。

\*3 専門教育科目の関連科目に設置されている必修の「比較文化演習Ⅰ・Ⅱ」は認定科目に含めない。

全学共通科目	45
家政学部	51
被服学科	57
食物学科	67
児童学科	85
ライフデザイン学科	97
文学部	103
日本文学科	111
英語英文学科	117
コミュニケーション文化学科	123
社会情報学部	129
社会情報学科 社会生活情報学専攻	135
社会情報学科 環境情報学専攻	141
社会情報学科 情報デザイン専攻	149
比較文化学部	155
データサイエンス学部	169
短期大学部	177
家政科 家政総合コース	181
家政科 食と栄養コース	189

この項目では、各学部・学科・専攻ごとに開設されている授業科目を、それぞれの分類に従って掲載しています。

授業科目に関する具体的内容を知るにはシラバスを参照してください。



# 全学共通科目

全学共通科目 カリキュラム・ポリシー .....	46
全学共通科目について .....	47
全学共通科目 カリキュラム表 .....	49

## 全学共通科目 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

本学の教養教育では、各学部においてそれぞれの専門の学びを深めることと効果的に接続連携しながら、本学の使命たる「学び働き続ける自立自存の女性」の育成をめざして、幅広い知識と教養の修得、そのための基礎学力の涵養と汎用的な能力、多様な視点の獲得を目標とする教育課程を編成します。

また、学部の相違によって教養教育に違いが生じることの無きよう、科目構成を全学共通カリキュラムとします。以下、全学共通科目のカリキュラム・ポリシーを掲げます。

1. 本学を創立した大妻コタカの学びへの願いを理解し、「学び働き続ける自立自存の女性」の具現を目指すために、基礎科目区分を設け、1年次必修科目の「大妻教養講座」ほか、「女性とキャンパスライフ」に関する科目を配置する。
2. 学びに必要な基礎力を身につけ、主体性、計画力、チームワークといった社会的及び職業的な自立の基盤となる基礎的・汎用的能力を広く養うために、基礎科目区分に「リテラシー」「キャリア」に関する科目を配置する。
3. 現代世界の動向ならびに自分そして他者のありようを多様な視点から見つめ、価値観、興味、立場の異なる様々な他者や複雑化し変化する社会との関係をどのように構築すべきであるかを考える力を養うために、教養科目区分を設け、「人間と文化」「社会と生活」「自然と科学」に関する科目を配置する。
4. 身体感覚及び情緒能力を養い、言語化されないコミュニケーションや物事の理解の仕方があることを知るとともに、他者と共に学ぶことによって自身や他者の情緒や価値観を理解する能力を身につけるために、教養科目区分に「スポーツ」に関する科目を配置する。
5. 国際化が進む現代社会に対応し得る英語力、コミュニケーション力及び思考のための言語運用能力の向上を図るために、外国語科目区分を設け、必修科目の英語科目及びその他の外国語科目を配置する。
6. 国内外への留学、また、国内外から本学へ迎え入れる他大学生や地域コミュニティとの交流を通じ、異文化や日本文化、地域文化への関心を高め、もって文化の多様性を理解するために、地域文化・国際理解科目区分を設け、必要な科目を配置する。

## 1 全学共通科目について

### 大妻教養講座について

1年次配当の「大妻教養講座」は本学の特色ある必修科目です。皆さんの母校となる本学がどのような建学の精神・伝統・特質を持っているかを学び、皆さんが誇りと自信をもって本学での学生生活を送ることができるように応援します。さらに入学された皆さんが、本学で何をどう学ぶかという入門講座の役割も果たします。また、大学で開講する「大妻教養講座Ⅱ 卒業生から学ぶ」は2年次配当の選択科目で、「大妻教養講座」での学びを踏まえ、卒業生による講演を中心とした授業により将来像のロールモデルを見つけ、大学学修における一助となることを目的としています。

### 大妻データサイエンス・AIプログラムについて

文理を問わず数理・データサイエンス・AIの基礎的な知識・技術について学び、データ分析において重要な概念を身につけ、身近な問題解決に活かすスキルを持つ人材を育成することを目的とした教育プログラムです。修得した単位は、卒業必要単位数に算入することができます。また、プログラム修了者には、修了証（オープンバッジ<sup>※</sup>）を発行します。

教育プログラムの指定科目（合計2科目4単位を修得）

家政学部・文学部・比較文化学部・短期大学部	「情報基礎DS（表計算活用・データリテラシー）」（2単位）と「データサイエンス・AI概論」（2単位）
社会情報学部	「情報処理実習A」（2単位）と「データサイエンス・AI概論」（2単位）
データサイエンス学部	「コンピュータの基礎」（2単位）と「データサイエンス・AI概論」（2単位）

※オープンバッジとは、世界共通の技術標準規格に沿って発行されるデジタル証明書です。修得した能力や知識を可視化・証明することで、学生自身による学習の振り返りやキャリア設計・選択に役立てることができます。またSNSやメール署名、デジタル履歴書などに貼り付けることができるため、就職活動などでアピールすることも可能です。

### 地域文化・国際理解科目について

「地域文化理解」・「国際理解（海外研修）」の単位を修得するには、本学が指定した地域連携プログラムや留学プログラムなどに参加し、一定以上の成績を修めなければなりません。

なお、履修登録の方法については、通常と異なりますので、UNIPA掲示等で確認してください。

### 他キャンパス履修

自分が所属するキャンパス以外（多摩キャンパス）で開講の全学共通科目を履修することができます。

### 他大学等との単位互換について

本学と単位互換協定を締結している大学等の科目を履修し修得した単位について、必要に応じて本学開設科目の「教養特殊講義」あるいは「外国語特殊演習」として、それぞれ教養科目区分、外国語科目区分の単位として認定します。

## 大妻女子大学と大妻女子大学短期大学部間での単位互換について

大妻女子大学と大妻女子大学短期大学部は同じ校舎内にありますが、法令上では別の大学として扱われ、全学共通科目も別々に開講しています。

しかし、大学と短期大学相互の協力交流を通じて教育課程の充実をはかり、学生の幅広い視野の育成と学習意欲の向上を目的とした協定を締結することで、一定の範囲内でお互いの全学共通科目を履修できることになっています。

履修できる科目や卒業に含まれる単位数には制限がありますので、詳しくはUNIPA掲示等でお知らせします。

## 諸課程履修者等に関わる単位の取扱いについて

該当学科・専攻の教職課程、図書館学課程（図書館司書課程、学校図書館司書教諭課程）、博物館学芸員課程、文学部日本語教員養成プログラムにおいて修得した単位を下表のとおり、全学共通科目の卒業要件の単位として認めます。

これにより、修得した単位は卒業に必要な全学共通科目の選択科目もしくは自由選択科目の単位に含めることができます。

ただし、2つ以上の課程を履修するものは8単位を上限とします。

学科・専攻	対象科目	卒業要件として認められる単位数	全学共通科目(選択)	自由選択科目
被服学科	教育の基礎的理解に関する科目等※	4単位	○	
	博物館学芸員課程科目(全学共通科目除く)	4単位		
食物学科食物学専攻	教育の基礎的理解に関する科目等※	4単位	○	
	図書館司書課程科目	4単位		
児童学科児童学専攻	博物館学芸員課程科目(全学共通科目除く)	4単位	○	
	図書館司書課程科目	4単位		
児童学科児童教育専攻	学校図書館司書教諭課程科目	4単位	○	○
	図書館司書課程科目	4単位		
ライフデザイン学科	博物館学芸員課程科目(全学共通科目除く)	4単位	○	
	図書館司書課程科目	4単位		
日本文学科 英語英文学科	教育の基礎的理解に関する科目等※	4単位	○ 日文	○ 英文
	学校図書館司書教諭課程科目	4単位		
	図書館司書課程科目	4単位		
	博物館学芸員課程科目(全学共通科目除く)	4単位		
コミュニケーション文化学科	文学部日本語教員養成プログラム(独自科目のみ)	4単位	○	
	図書館司書課程科目	4単位		
	博物館学芸員課程科目(全学共通科目除く)	4単位		
社会情報学科	博物館学芸員課程科目(全学共通科目除く)	4単位	○	○
	教育の基礎的理解に関する科目等※	4単位		
	学校図書館司書教諭課程科目	4単位		
	図書館司書課程科目	4単位		
比較文化学科	博物館学芸員課程科目(全学共通科目除く)	4単位	○	
	図書館司書課程科目	4単位		
家政科家政総合コース	博物館学芸員課程科目	4単位	○	

※教育の基礎的理解に関する科目等とは教職課程における「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」をいう。

## 2 全学共通科目カリキュラム表 (大学)

(2026年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	
基礎科目	Ⅰ女性とキャンパスライフ	大妻教養講座	1	半期	講義	1
		大妻教養講座Ⅱ 卒業生から学ぶ	1	半期	講義	2
		キャンパスライフとメンタルヘルス	2	半期	講義	1・2・3・4
		女性と健康	2	半期	講義	1・2・3・4
		ジェンダーと社会生活	2	半期	講義	1・2・3・4
		女性史	2	半期	講義	1・2・3・4
		リーダーシップ開発	2	半期	講義	2・3・4
	Ⅱリテラシー	日本語A(文章表現)	2	半期	講義	1
		日本語B(口頭表現)	2	半期	講義	1・2
		日本語C(読解)	2	半期	講義	1
		情報基礎PC(情報活用・PC操作)	2	半期	演習	1
		情報基礎DS(表計算活用・データリテラシー)	2	半期	演習	1
	Ⅲキャリア	データサイエンス・AI概論	2	半期	講義	1
		A I活用	2	半期	演習	2・3・4
		キャリアデザインⅠ	2	半期	講義	1・2
キャリアデザインⅡ		2	半期	講義	2・3	
キャリアデザインⅢ		2	半期	講義	3・4	
教養科目	Ⅰ人間と文化	キャリア・ディベロップメント・プログラムⅠ	2	半期	演習	1・2・3・4
		キャリア・ディベロップメント・プログラムⅡ	2	半期	演習	2・3・4
		文学の世界	2	半期	講義	1・2・3・4
		音楽の世界	2	半期	講義	1・2・3・4
		美術の世界	2	半期	講義	1・2・3・4
		映像・演劇の世界	2	半期	講義	1・2・3・4
		考古学の世界	2	半期	講義	1・2・3・4
		ポピュラー・カルチャーの世界	2	半期	講義	1・2・3・4
		地域と文化	2	半期	講義	1・2・3・4
		言語と文化	2	半期	講義	1・2・3・4
	Ⅱ社会と生活	日本の歴史と文化	2	半期	講義	1・2・3・4
		世界の歴史と文化	2	半期	講義	1・2・3・4
		哲学と思想	2	半期	講義	1・2・3・4
		日本文化・事情	2	半期	講義	1・2・3・4
		子どもの世界	2	半期	講義	1・2・3・4
		人間の成長と心理	2	半期	講義	1・2・3・4
		日本国憲法	2	半期	講義	1・2・3・4
		法律と現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4
		政治と現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4
		経済と現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4
Ⅲ自然と科学	メディアと現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4	
	家族と現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4	
	福祉と現代社会(ボランティアを含む)	2	半期	講義	1・2・3・4	
	SDGsと現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4	
	数学の世界	2	半期	講義	1・2・3・4	
	生活の物理	2	半期	講義	1・2・3・4	
	生活の化学	2	半期	講義	1・2・3・4	
	科学と環境	2	半期	講義	1・2・3・4	
	生命の科学	2	半期	講義	1・2・3・4	
	宇宙の科学	2	半期	講義	1・2・3・4	
Ⅳスポーツ	人類の進化	2	半期	講義	1・2・3・4	
	自然科学の歴史	2	半期	講義	1・2・3・4	
	スポーツA	1	半期	実技	1・2・3・4	
	スポーツB	1	半期	実技	1・2・3・4	
	スポーツC	1	半期	実技	1・2・3・4	
	スポーツD	1	半期	実技	1・2・3・4	
	シーズン・スポーツ	1	半期 (1学期末)	実技	1・2・3・4	
	スポーツと健康	2	半期	講義	1・2・3・4	
	レクリエーション論	2	半期	講義	1・2・3・4	
	レクリエーション実技	1	半期	実技	1・2・3・4	

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次
外国語科目	英語ⅠA	1	半期	演習	1
	英語ⅠB	1	半期	演習	1
	英語ⅠC	1	半期	演習	1
	英語ⅠD	1	半期	演習	1
	英語ⅡA	1	半期	演習	2
	英語ⅡB	1	半期	演習	2
	英語ⅡC	1	半期	演習	2
	英語ⅡD	1	半期	演習	2
	英語ⅢA	1	半期	演習	2
	英語ⅢB	1	半期	演習	2
	フランス語Ⅰ	1	半期	演習	1・2
	フランス語Ⅱ	1	半期	演習	1・2
	フランス語Ⅲ	1	半期	演習	2・3
	フランス語Ⅳ	1	半期	演習	2・3
	ドイツ語Ⅰ	1	半期	演習	1・2
	ドイツ語Ⅱ	1	半期	演習	1・2
	ドイツ語Ⅲ	1	半期	演習	2・3
	ドイツ語Ⅳ	1	半期	演習	2・3
	スペイン語Ⅰ	1	半期	演習	1・2
	スペイン語Ⅱ	1	半期	演習	1・2
	スペイン語Ⅲ	1	半期	演習	2・3
	スペイン語Ⅳ	1	半期	演習	2・3
	ロシア語Ⅰ	1	半期	演習	1・2
	ロシア語Ⅱ	1	半期	演習	1・2
	ロシア語Ⅲ	1	半期	演習	2・3
	ロシア語Ⅳ	1	半期	演習	2・3
	中国語Ⅰ	1	半期	演習	1・2
	中国語Ⅱ	1	半期	演習	1・2
	中国語Ⅲ	1	半期	演習	2・3
	中国語Ⅳ	1	半期	演習	2・3
韓国語Ⅰ	1	半期	演習	1・2	
韓国語Ⅱ	1	半期	演習	1・2	
韓国語Ⅲ	1	半期	演習	2・3	
韓国語Ⅳ	1	半期	演習	2・3	
日本語Ⅰ	1	半期	演習	1・2	
日本語Ⅱ	1	半期	演習	1・2	
日本語Ⅲ	1	半期	演習	2・3	
日本語Ⅳ	1	半期	演習	2・3	
国際理解科目 地域文化・	地域文化理解Ⅰ	2	集中	演習	1・2・3・4
	地域文化理解Ⅱ	2	集中	演習	1・2・3・4
	地域文化理解Ⅲ	2	集中	演習	1・2・3・4
	国際理解(海外研修)Ⅰ	2	集中	演習	1・2・3・4
	国際理解(海外研修)Ⅱ	2	集中	演習	1・2・3・4
	国際理解(海外研修)Ⅲ	2	集中	演習	1・2・3・4
	国際理解(海外研修)Ⅳ	1	集中	演習	1・2・3・4
国際理解(海外研修)Ⅴ	1	集中	演習	1・2・3・4	

## 2 全学共通科目カリキュラム表 (短大)

(2026年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次		
基礎科目	I 女性とキャンパスライフ	大妻教養講座	1	半期	講義	1	
		コタカ学	1	半期	講義	1	
		キャンパスライフとメンタルヘルス	2	半期	講義	1・2	
		女性と健康	2	半期	講義	1・2	
		ジェンダーと社会生活	2	半期	講義	1・2	
		女性史	2	半期	講義	1・2	
		リーダーシップ開発	2	半期	演習	2	
	II テラシー	日本語 A (文章表現)	2	半期	講義	1	
		日本語 B (口頭表現)	2	半期	講義	1・2	
		日本語 C (読解)	2	半期	講義	1	
		情報基礎 PC (情報活用・PC操作)	2	半期	演習	1	
		情報基礎 DS (表計算活用・データリテラシー)	2	半期	演習	1	
		データサイエンス・AI 概論	2	半期	講義	1	
		AI 活用	2	半期	演習	2	
	III キャリア	キャリアデザイン I	2	半期	講義	1	
		キャリアデザイン II	2	半期	講義	1・2	
	教養科目	I 人間と文化	文学の世界	2	半期	講義	1・2
			音楽の世界	2	半期	講義	1・2
			美術の世界	2	半期	講義	1・2
			地域と文化	2	半期	講義	1・2
言語と文化			2	半期	講義	1・2	
日本の歴史と文化			2	半期	講義	1・2	
世界の歴史と文化			2	半期	講義	1・2	
哲学と思想			2	半期	講義	1・2	
II 社会と生活		日本文化・事情	2	半期	講義	1・2	
		法律と現代社会	2	半期	講義	1・2	
		政治と現代社会	2	半期	講義	1・2	
		経済と現代社会	2	半期	講義	1・2	
		メディアと現代社会	2	半期	講義	1・2	
III 自然と科学		SDGsと現代社会	2	半期	講義	1・2	
		生活の化学	2	半期	講義	1・2	
		科学と環境	2	半期	講義	1・2	
		生命の科学	2	半期	講義	1・2	
IV スポーツ		自然科学の歴史	2	半期	講義	1・2	
		スポーツ A	1	半期	実技	1・2	
	スポーツ B	1	半期	実技	1・2		
	スポーツと健康	2	半期	講義	1・2		

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次
外国語科目	英語 I A	1	半期	演習	1
	英語 I B	1	半期	演習	1
	フランス語	1	半期	演習	1
	ドイツ語	1	半期	演習	1
	中国語	1	半期	演習	1
	韓国語	1	半期	演習	1
	日本語 I	1	半期	演習	1
	日本語 II	1	半期	演習	1
	国際理解科目 地域文化・	地域文化理解 I	2	集中	演習
地域文化理解 II		2	集中	演習	1・2
地域文化理解 III		2	集中	演習	1・2
国際理解 (海外研修) I		2	集中	演習	1・2
国際理解 (海外研修) II		2	集中	演習	1・2
国際理解 (海外研修) III		2	集中	演習	1・2
国際理解 (海外研修) IV		1	集中	演習	1・2
国際理解 (海外研修) V		1	集中	演習	1・2

# 家政学部

教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー ……	52
全学共通科目の履修について ……	53
全学共通科目の卒業要件 ……	54
被服学科 ……	57
食物学科 ……	67
児童学科 ……	85
ライフデザイン学科 ……	97

## 家政学部 教育研究上の目的

新しい時代に求められる学びをリードする「未来志向型サイエンス」を主軸に教育を行い、自立心あふれる職業人を育成する。

## 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

家政学部は、家庭という社会における最小単位から、科学的で豊かな生活を実践するために必要な問題意識を育み、社会の複雑な構造や問題を把握し、解決へと導くことのできる、真に自立した社会人を育成することを目指しています。

以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生には、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

### <知識および技能>

1. 各学科の専門領域（被服、食物、医療、児童、家庭生活等）に関する諸問題を理解し、幅広い知識を身につけている。
2. 各学科の専門領域（被服、食物、医療、児童、家庭生活等）で活躍できる専門的職業人としての技能を有し、教育分野及び研究分野の指導的役割を果たせる。

### <思考力・判断力・表現力等>

各学科の専門領域（被服、食物、医療、児童、家庭生活等）に関する諸問題について対処できる自覚と識見を有している。

### <主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

各学科の専門領域（被服、食物、医療、児童、家庭生活等）に関する諸問題についてグローバルな視野で常に関心を持ち、指導的役割を果たそうとする姿勢を有している。

## 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

家政学部では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

### <教育内容>

1. 全学共通の教養科目、家政学部共通科目、学科・専攻別専門教育科目で構成されています。
2. 各学科・専攻の専門領域に必須となる知識・技術を段階的に学修できる講義科目と、実験・実習科目、演習科目をカリキュラムマップに基づき効率的に配置しています。
3. 免許・資格を取得できる学科・専攻においては、必修科目と選択科目を編成しています。

### <教育方法>

1. 学生が主体的に学修に取り組むことができるように、シラバスに授業の進め方や授業回ごとの学修内容を記載するとともに、教員相互のチェック等によってその水準を担保します。
2. 教育方法の改善のために学生による授業ごとのFDアンケート、学生との意見交換等を活用します。
3. 学生が主体的・能動的に学修に取り組むことができるように、多くの授業でアクティブラーニングを実施します。

### <学修成果の評価法>

1. 所定の単位を修得したことをもって本学の教育目標を達成したと判断し、学位を授与するものとします。
2. 各科目の学修成果については大学共通の基準（S～D評価）で評価を行います。
3. 各科目の評価および総体としてのGPAをもとに各学科の担当教員の個別面接指導によって学修成果のアセスメントを行います。
4. 各科目が適切に編成されているかを検証し、改善していきます。

## 1 全学共通科目の履修について

### 家政学部 被服学科

次のように科目を履修し、合計 34 単位以上を修得してください。

- (1) 必修科目 (計 3 単位)
  - ① 基礎科目の「Ⅰ女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」(1 単位) を履修してください。
  - ② 外国語科目の「英語ⅠA・ⅠB」(計 2 単位) を履修してください。
- (2) 選択必修科目 (計 16 単位)
  - ① 基礎科目の「Ⅰ女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」「大妻教養講座Ⅱ 卒業生から学ぶ」以外の 2 単位、「Ⅱリテラシー」から 2 単位、「Ⅲキャリア」から 2 単位を履修してください。
  - ② 教養科目の「Ⅰ～Ⅳ」から 10 単位を履修してください。
- (3) 選択科目 (計 15 単位以上)
  - ① 基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の中から必修科目と選択必修科目で履修した科目以外で 15 単位以上を履修してください。

### 家政学部 食物学科

次のように科目を履修し、合計 28 単位以上を修得してください。

- (1) 必修科目 (計 3 単位)
  - ① 基礎科目の「Ⅰ女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」(1 単位) を履修してください。
  - ② 外国語科目の「英語ⅠA・ⅠB」(計 2 単位) を履修してください。
- (2) 選択必修科目 (計 16 単位)
  - ① 基礎科目の「Ⅰ女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」「大妻教養講座Ⅱ 卒業生から学ぶ」以外の 2 単位、「Ⅱリテラシー」から 2 単位、「Ⅲキャリア」から 2 単位を履修してください。
  - ② 教養科目の「Ⅲ自然と科学」から 6 単位履修し、さらにそれらの科目以外で「Ⅰ～Ⅳ」から 4 単位を履修してください。
- (3) 選択科目 (計 9 単位以上)
  - ① 基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の中から必修科目と選択必修科目で履修した科目以外で 9 単位以上を履修してください。

### 家政学部 児童学科

次のように科目を履修し、児童学専攻は合計 28 単位以上、児童教育専攻は 11 単位以上を修得してください。

- (1) 必修科目 (計 3 単位)
  - ① 基礎科目の「Ⅰ女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」(1 単位) を履修してください。
  - ② 外国語科目の「英語ⅠA・ⅠB」(計 2 単位) を履修してください。
- (2) 選択必修科目 (児童学専攻計 16 単位、児童教育専攻計 8 単位)
  - ① 基礎科目の「Ⅰ女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」「大妻教養講座Ⅱ 卒業生から学ぶ」以外の 2 単位、「Ⅱリテラシー」から 2 単位、「Ⅲキャリア」から 2 単位を履修してください。
  - ② 教養科目の「Ⅰ～Ⅳ」から児童学専攻は 10 単位、児童教育専攻は 2 単位を履修してください。
- (3) 選択科目 (児童学専攻 計 9 単位以上)
  - ① 基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の中から必修科目と選択必修科目で履修した科目以外で 9 単位以上を履修してください。

### 家政学部 ライフデザイン学科

次のように科目を履修し、合計 34 単位以上を修得してください。

- (1) 必修科目 (計 3 単位)
  - ① 基礎科目の「Ⅰ女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」(1 単位) を履修してください。
  - ② 外国語科目の「英語ⅠA・ⅠB」(計 2 単位) を履修してください。
- (2) 選択必修科目 (計 16 単位)
  - ① 基礎科目の「Ⅰ女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」「大妻教養講座Ⅱ 卒業生から学ぶ」以外の 2 単位、「Ⅱリテラシー」の「日本語A (文章表現)」「日本語B (口頭表現)」「日本語C (読解)」からいずれか 2 単位、「情報基礎 PC (情報活用・PC 操作)」「情報基礎 DS (表計算活用・データリテラシー)」「データサイエンス・AI 概論」「AI 活用」からいずれか 2 単位、「Ⅲキャリア」から 2 単位を履修してください。
  - ② 教養科目の「Ⅰ～Ⅳ」から 8 単位を履修してください。
- (3) 選択科目 (計 15 単位以上)
  - ① 基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の中から必修科目と選択必修科目で履修した科目以外で 15 単位以上を履修してください。







# 被服学科

教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー ……	58
1年間の履修登録単位数の上限 ……	59
標準履修単位数 ……	59
専門教育科目の履修について ……	59
専門教育科目の卒業要件 ……	60
1級衣料管理士資格 ……	64

## 被服学科 教育研究上の目的

---

衣を通して、イマジネーションにあふれる生活を創造し、新しい価値観と豊かな心を育み、夢のある社会の形成に参加できる人を育成する。

## 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

---

被服学科では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

### <知識および技能>

特に被服の専門領域に関する幅広い知識と技能を有している。

### <思考力・判断力・表現力等>

被服に関する課題を発見し、課題解決に向けて、科学的な視点から思考・判断・表現する力を有している。

### <主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

衣生活に深い関心を持ち、繊維・アパレル関連産業などにおいて、他者と協働し、主体的に行動できる力を有している。

## 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

---

被服学科では、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

### <知識および技能>

被服の専門的な知識・技能を基礎から応用まで、系統的に身に付けます。

### <思考力・判断力・表現力等>

修得した知識・技能を活用し、被服に関する課題解決力を養い、科学的な視点から思考・判断・表現することができる力を身に付けます。

### <主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

被服に関する専門的な学びを深め、他者と協働しながら社会人として必要なコミュニケーション能力と、主体的に行動しようとする態度を養います。

## 1 1年間の履修登録単位数の上限

一度に多くの科目を履修すると自宅での予習・復習の学習時間を確保することができず学習効果を妨げてしまいますので、1年間に履修できる単位数の上限を定めています。

(2022年度入学生から適用)

	履修登録単位数の上限			
	1学年	2学年	3学年	4学年
被服学科	50	45	40	40

※諸課程科目及び家政学部の学外実習科目は、この単位に含まれません。

## 2 標準履修単位数

本学では、各学年において履修すべき単位の標準（目安）を定めています。卒業年次生は、標準履修単位数が卒業要件となりますので、注意してください。

配当学年により授業時間割が変動するため、標準履修単位数を超える場合や達しない場合があります。

### 被服学科

(2026年度入学生から適用)

学年	全学共通科目			小計	家政学部 共通	専門必修	選択必修	専門選択	小計	合計
	必修	選択必修	選択							
1学年	3	16	5	24	2	18	4	0	24	48
2学年	3	16	15	34	6	20	24	6	56	90
3学年	3	16	15	34	6	22	38	14	80	114
4学年	3	16	15	34	6	24	44	16	90	124

## 3 専門教育科目の履修について

### (1) コースについて

- ①コースの決定は、第1学年の終了時までに行います。
- ②希望者が偏った場合には、調整することがあります。

### (2) 家政学部共通科目

- ①家政学部共通科目から6単位を履修し単位を修得してください。
- ②6単位を超えて修得した単位は、4単位を限度として卒業に必要な選択科目の単位に含めることができます。

### (3) 選択科目

- ①原則として各コースの推奨選択科目を中心として履修することが望ましいです。
- ②他学科の専門教育科目（選択科目）は、当該学科に履修を認められた8単位を限度として履修することができます。これにより修得した単位は卒業に必要な選択科目の単位に含めることができます。
- ③教職課程履修者は、「教科及び教科の指導法に関する科目」で修得した単位を選択科目として卒業に必要な単位に含めることができます（家庭科教育法を除く）。

### (4) その他

- ①「卒業研究」の履修は、3年次までに卒業に必要な単位を原則として100単位以上修得していることが望ましいです。
- ②教員免許状取得希望者は「③諸課程について 1 教職課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。
- ③博物館学芸員資格取得希望者は「③諸課程について 3 博物館学芸員課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。
- ④1級衣料管理士資格取得希望者は「5 1級衣料管理士資格」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。

## 4 専門教育科目の卒業要件

### 被服学科 被服学コース

(2026年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ( )内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目
家政学部共通科目	家庭経営学概論(含家庭経済学)	2	半期	講義	1	(6)
	家族関係論	2	半期	講義	2	
	食物学概論	2	半期	講義	2	
	児童学概論	2	半期	講義	2	
	住居学概論	2	半期	講義	1	
	環境科学概論	2	半期	講義	2	
	ライフデザイン学概論	2	半期	講義	1	
必修科目	アパレル概論	2	半期	講義	1	(24)
	色彩学	2	半期	講義	1	
	日本服飾文化史	2	半期	講義	1	
	西洋服飾文化史	2	半期	講義	1	
	衣生活と化学	2	半期	講義	1	
	被服材料学	2	半期	講義	1	
	和服製作Ⅰ	2	半期②	実習	1	
	アパレル製作Ⅰ	2	半期②	実習	1	
	被服体型学	2	半期	講義	1	
	被服管理学	2	半期	講義	2	
ゼミナールⅠ	2	通年	演習	3		
ゼミナールⅡ	2	通年	演習	4		
選択必修科目	衣環境学	2	半期	講義	1	◆
	服飾工芸	2	半期②	実習	1	◆
	ファッション統計学	2	半期	講義	1	◆
	ファッションビジネス	2	半期	講義	1	◆
	衣生活文化論	2	半期	講義	1	
	被服材料学実験	2	半期②	実験	2	
	界面科学	2	半期②	実験	2	
	繊維科学	2	半期	講義	2	
	染色加工学	2	半期	講義	2	◆
	機能性被服材料	2	半期	講義	2	◆
	パターン設計	2	半期②	演習	2	
	和服製作Ⅱ	2	半期②	実習	2	
	アパレル製作Ⅱ	2	半期②	実習	2	
	繊維製品消費科学	2	半期	講義	2	◆
	基礎デザイン	2	半期	講義	2	
	ファッションデザイン	2	半期②	演習	2	
	服飾美学	2	半期	講義	2	◆
	被服心理学	2	半期	講義	2	◆
	工芸染色	2	半期②	実習	3	
	インテリア材料学	2	半期	講義	3	◆
	繊維科学実験	2	半期②	実験	3	
	テキスタイル分析	2	半期②	実験	3	
	立体的裁断	2	半期②	実習	3	
	パターンとデザイン	2	半期②	実習	3	
	アパレル生産論	2	半期	講義	3	◆
	アパレルCAD	2	半期②	演習	3	
	デジタルファッション	2	半期	演習	3	
消費生活論	2	半期	講義	3	◆	
消費者調査法	2	半期	講義	3	◆	
品質管理	2	半期	講義	3	◆	
ケーススタディ	2	半期	講義	3		
テキスタイルアドバイザー実習	1	-	実習	3		
卒業研究	6	通年	-	4	(44)	

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ( )内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目	
選択科目	企画情報	ア パ レ ル 企 画 論	2	半期	講義	2	
		ファッションプランニング演習	2	半期②	演習	2	
	ビジネス	ファッションマーケティングⅠ	2	半期	講義	2	
		ファッション販売論	2	半期	講義	2	
		グローバルコミュニケーション	2	半期	講義	2	
		ファッション起業論	2	半期	講義	2	
		ファッションマーケティングⅡ	2	半期②	演習	3	
		ブランドマネジメント	2	半期	講義	3	◆
		流通マネジメント論	2	半期	講義	3	
		ファッションリテイリング	2	半期	講義	3	
		コンプライアンス論	2	半期	講義	3	
		ビジュアル・マーチャンダイジング	2	半期②	演習	3	
		グローバルマネジメント	2	半期	講義	3	
		E コ マ ー ス 論	2	半期	講義	3	◆
		マーケティングコミュニケーション	2	半期	講義	3	◆
		WEBマーケティング	2	半期	講義	3	
	インターンシップ実習	1	—	実習	3		
	デザイン	C G I	2	半期②	演習	2	
		C G II	2	半期②	演習	3	
		プロダクトデザイン	2	半期	演習	3	
		スペースデザイン	2	半期	講義	3	
	カルチャー	ポップカルチャーと衣服	2	半期	講義	2	◆
		ファッション社会論	2	半期	講義	2	◆
		ファッションメディア論	2	半期	講義	2	◆
		コーディネート論	2	半期	講義	3	
		世界のファッション	2	半期	講義	3	◆
		舞台衣装論	2	半期	講義	3	
伝統文化論		2	半期	講義	3	◆	
エンターテインメント論	2	半期	講義	3			

(16)

注 (1) この表は被服学科の専門教育科目に関する規程であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注 (2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

被服学科 ファッション環境マネジメントコース

(2026年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ( )内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目
家政学部共通科目	家庭経営学概論(含家庭経済学)	2	半期	講義	1	(6)
	家族関係論	2	半期	講義	2	
	食物学概論	2	半期	講義	2	
	児童学概論	2	半期	講義	2	
	住居学概論	2	半期	講義	1	
	環境科学概論	2	半期	講義	2	
必修科目	ライフデザイン学概論	2	半期	講義	1	(24)
	アパレル概論	2	半期	講義	1	
	色彩学	2	半期	講義	1	
	日本服飾文化史	2	半期	講義	1	
	西洋服飾文化史	2	半期	講義	1	
	衣生活と化学	2	半期	講義	1	
	被服材料学	2	半期	講義	1	
	和服製作Ⅰ	2	半期②	実習	1	
	アパレル製作Ⅰ	2	半期②	実習	1	
	被服体型学	2	半期	講義	1	
	ファッションマーケティングⅠ	2	半期	講義	2	
ゼミナールⅠ	2	通年	演習	3		
ゼミナールⅡ	2	通年	演習	4		
選択必修科目	ファッションビジネス	2	半期	講義	1	◆
	ファッション統計学	2	半期	講義	1	◆
	衣生活文化論	2	半期	講義	1	
	基礎デザイン	2	半期	講義	2	
	ファッションデザイン	2	半期②	演習	2	
	被服心理学	2	半期	講義	2	◆
	繊維科学	2	半期	講義	2	
	アパレル企画論	2	半期	講義	2	
	ファッションプランニング演習	2	半期②	演習	2	
	繊維製品消費科学	2	半期	講義	2	◆
	ファッション販売論	2	半期	講義	2	
	グローバルコミュニケーション	2	半期	講義	2	
	ファッション起業論	2	半期	講義	2	
	C G Ⅰ	2	半期②	演習	2	
	C G Ⅱ	2	半期②	演習	3	
	ファッション社会論	2	半期	講義	2	◆
	ポップカルチャーと衣服	2	半期	講義	2	◆
	ファッションマーケティングⅡ	2	半期②	演習	3	
	ブランドマネジメント	2	半期	講義	3	◆
	流通マネジメント論	2	半期	講義	3	
	ファッションリテイリング	2	半期	講義	3	
	コンプライアンス論	2	半期	講義	3	
	ビジュアル・マーチャンダイジング	2	半期②	演習	3	
	コーディネート論	2	半期	講義	3	
	エンターテインメント論	2	半期	講義	3	
	アパレル生産論	2	半期	講義	3	◆
	Eコマース論	2	半期	講義	3	◆
	品質管理	2	半期	講義	3	◆
ケーススタディ	2	半期	講義	3		
消費生活論	2	半期	講義	3	◆	
消費者調査法	2	半期	講義	3	◆	
インターンシップ実習	1	-	実習	3		
卒業研究	6	通年	-	4	(44)	

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ( )内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目		
選択科目	ビジネス	グローバルマネジメント	2	半期	講義	3	(16)	
		マーケティングコミュニケーション	2	半期	講義	3		
		WEBマーケティング	2	半期	講義	3		
	デザイン	プロダクトデザイン	2	半期	演習	3		◆
		スペースデザイン	2	半期	講義	3		
	カルチャー	服飾美学	2	半期	講義	2		◆
		ファッションメディア論	2	半期	講義	2		◆
		世界のファッション	2	半期	講義	3		◆
		舞台衣装論	2	半期	講義	3		
	素材・材料	伝統文化論	2	半期	講義	3		◆
		衣環境学	2	半期	講義	1		◆
		被服管理学	2	半期	講義	2		
		被服材料学実験	2	半期②	実験	2		
		界面科学	2	半期②	実験	2		
		染色加工学	2	半期	講義	2		◆
		機能性被服材料	2	半期	講義	2		◆
		工芸染色	2	半期②	実習	3		
		インテリア材料学	2	半期	講義	3		◆
		繊維科学実験	2	半期②	実験	3		
	服飾造形・生産	テキスタイル分析	2	半期②	実験	3		
		服飾工芸	2	半期②	実習	1		
		パターン設計	2	半期②	演習	2		
		和服製作Ⅱ	2	半期②	実習	2		
アパレル製作Ⅱ		2	半期②	実習	2			
立体裁断		2	半期②	実習	3			
パターンとデザイン		2	半期②	実習	3			
アパレルCAD		2	半期②	演習	3			
デジタルファッション	2	半期	演習	3				
備置	テキスタイルアドバイザー実習	1	-	実習	3			

注 (1) この表は被服学科の専門教育科目に関する規程であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注 (2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

## 5 1級衣料管理士資格

### 1級衣料管理士について

本学の家政学部被服学科は、カリキュラム編成、単位数、教員組織、施設設備など衣料管理士教育に必要な要件を満たし1級衣料管理士の教育を行う大学として、日本衣料管理協会の認定を受けており、所定の単位を修得し、卒業した者に対して、1級衣料管理士の資格認定証が交付されます。

最近の繊維製品は、多様化、特殊化、高級化の傾向にあり、輸出品も増えてきています。このため、繊維製品の苦情相談件数は、年々増加の傾向にあります。このような時代にあって、企業と消費者のパイプ役を果たすのが、衣料管理士（Textile Adviser）です。衣料管理士は、生産、流通、消費の接点に立って、お互いのコミュニケーションを図り、より良い衣生活を実現するため、社会的に大きな使命を担っています。衣料管理士は、繊維製品分野における HEIB（Home Economist in Business）と言えるかもしれません。衣料管理士の活動業務としては、商品の企画、販売、商品試験、調査、研究等をあげることができ、百貨店、量販店、素材メーカー、アパレルメーカー、消費者センター、各種試験機関などで活躍しています。

### 資格申込方法

#### (1) 申込者の募集

衣料管理士資格取得者の定員は、被服学科の学生約 30 名です。応募人員が定員を上回った場合は、選抜試験を実施します。

#### (2) 申込の手続き

申込の許可を得た者は、指定された日時に履修費を支払い手続きを完了してください。指定の日時に手続きを完了しない場合は申込の許可を取り消します。

また、いったん納入した履修費は、原則として返還しません。

#### (3) 資格取得に要する経費

- ① 履修費（予定）            3年次 12,000円    4年次 5,000円
- ② 認定証交付手数料等      4年次 17,500円

（注）履修費、認定証交付手数料等の金額は確定ではありません。一応の目安と考えてください。

# 1級衣料管理士資格取得に必要な科目、単位数

(2026年度入学生から適用)

区分	グループ	協会の指定科目・単位数		左記に対応する本学開設科目等			資格取得に必要な単位数
		科目名	単位数	科目名	講義・演習等の別	単位数	
A 必修	材料	被服繊維学	(講義)2	繊維科学	講義	[2]	24
		被服材料学	(講義)2	被服材料学	講義	②	
		繊維学実験Ⅰ	(実験)1	繊維科学実験	実験	[2]	
		材料学実験Ⅰ	(実験)1	被服材料学実験	実験	[2]	
	加工・整理	被服整理学	(講義)2	被服管理学	講義	②	
		染色加工学	(講義)2	染色加工学	講義	[2]	
		被服整理学実験	(実験)1	界面科学	実験	[2]	
	企画・設計・生産	アパレル企画論	(講義)2	アパレル企画論	講義	[2]	
		アパレル設計論	(講義)2	被服体型学	講義	②	
		アパレル設計実習	(実習)1	アパレル製作Ⅰ	実習	②	
		アパレル生産実習	(実習)1				
	流通・消費	アパレル生理衛生論	(講義)2	衣環境学	講義	[2]	
		消費科学	(講義)2	繊維製品消費科学	講義	[2]	
		消費生活論	(講義)2	消費生活論	講義	[2]	
テキスタイルアドバイザー実習		(実習)1	テキスタイルアドバイザー実習	実習	[1]		
Aの合計		24			27		
B 選択	その他	ファッションビジネス論	(講義)2	ファッションビジネス	講義	(2)	19
		マーケティング論	(講義)2	ファッションマーケティングⅠ	講義	(2)	
		機器測定法	(講義)2	テキスタイル分析	実験	(2)	
		機能材料学	(講義)2	機能性被服材料	講義	(2)	
		品質管理	(講義)2	品質管理	講義	(2)	
		インテリア繊維製品	(講義)2	インテリア材料学	講義	(2)	
		アパレル生産論	(講義)2	アパレル生産論	講義	(2)	
		アパレルデザイン論	(講義)2	ファッションデザイン	演習	(2)	
		色彩学	(講義)2	色彩学	講義	②	
		工芸染色実習	(実習)1	工芸染色	実習	(2)	
		衣生活文化論	(講義)2	衣生活文化論	講義	(2)	
		ファッションリテール実習	(実習)1	ファッションリテイリング	講義	(2)	
		被服心理学	(講義)2	被服心理学	講義	(2)	
		ケーススタディ	(実習)1	ケーススタディ	講義	(2)	
(規定外科目)	—	日本服飾文化史	講義	②			
Bの合計		25			30		
単位合計(A+B)		49			57	43	

注(1) 本学開設科目等欄の単位数の、○の数字は卒業必修単位であり、[ ]の数字は衣料管理士資格取得者必修単位である。

注(2) 「テキスタイルアドバイザー実習」は、3年次、4年次と2年間にわたって履修登録すること。成績は4年次に評価されます。



# 食物学科

教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー ……	68
1年間の履修登録単位数の上限 ……	70
標準履修単位数 ……	70
専門教育科目の履修について ……	71
専門教育科目の卒業要件 ……	72
栄養士及び管理栄養士課程（食物学専攻・管理栄養士専攻） ……	76
NR・サプリメントアドバイザー資格（食物学専攻・管理栄養士専攻） ……	80
フードスペシャリスト資格（食物学専攻） ……	81
食品衛生管理者及び食品衛生監視員（管理栄養士専攻） ……	83

## 食物学科 教育研究上の目的

「食」の専門家として高度な技術と知識を持ち、社会に貢献できる人材を育成する。

## 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

食物学科では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

### 【食物学専攻】

#### <知識および技能>

1. 専門的知識および技術を統合し、個人や集団の栄養・健康状態や特性を総合的に理解し、栄養・食事管理が実践できる。
2. 栄養学の研究成果を応用・活用するとともに、実践の場において栄養学の発展と実践の質の向上に寄与できる。

#### <思考力・判断力・表現力等>

1. 栄養学の専門的知識および技術を活用し、課題に対して必要な情報を収集・選択し、科学的視点を持って論理的に判断できる。
2. 栄養・食事管理を中心とした栄養の専門職としての使命感と責任感をもって、職務遂行できる。
3. 食に関する専門知識や技術を活かした、企画・開発するための創造的思考力を有する。

#### <主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

1. 栄養・食事管理を必要とする人々に関わる関係者の役割を理解し、協調性を持って連携・協働することができる。
2. 栄養・食事管理を中心とした栄養の専門職として、生涯を通して自律的に学び続けることができる。

### 【管理栄養士専攻】

#### <知識および技能>

1. 専門的知識および技術を統合し、個人や集団の栄養・健康状態や特性を総合的に理解し、栄養・食事管理が実践できる。
2. 健全な発育・発達、健康の維持・増進、疾病の発症予防・重症化予防、治療に携わり健康寿命の延伸に貢献できる。
3. 栄養学の研究成果を応用・活用するとともに、実践の場において栄養学の発展と実践の質の向上に寄与できる。

#### <思考力・判断力・表現力等>

1. 栄養学の専門的知識および技術を活用し、課題に対して必要な情報を収集・選択し、科学的視点を持って論理的に判断できる。
2. 人々の生活背景や価値観を尊重し、豊かな人間性を持って、適切な情報発信により、健康的な食生活の意思決定を支援できる。
3. 国内外の社会的ニーズに対応し、栄養の専門職として役割を果たし、社会や組織を変えることに貢献し、社会的認知を高めることができる。

#### <主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

1. 栄養・食事管理を必要とする人々に関わる関係者の役割を理解し、協調性を持って連携・協働することができる。
2. 社会経済状況や食環境の変化などを理解し、栄養・食に関する課題解決に向けた方策を考え、地域における人・組織のネットワークづくりを担うことができる。
3. 栄養・食事管理を中心とした栄養の専門職として、生涯を通して自律的に学び続けることができる。

## 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

食文学科では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

### 【食物学専攻】

#### <知識および技能>

食と健康に関する科学的な専門知識や技術を有するために、以下の各分野に関連する授業を履修します。

1. 社会と栄養
2. 食事の管理を中心とした栄養管理の実践のための基礎科学
3. 食べ物をベースとした食事の管理を中心とした栄養管理の実践
4. ライフステージと食事の管理を中心とした栄養管理の実践
5. 疾病と食事の管理を中心とした栄養管理の実践
6. 給食の運営に関する総合実習

#### <思考力・判断力・表現力等>

1. 栄養士として社会に貢献できる意欲・能力を有するために、栄養士概論、校外実習などを履修します。
2. 創造的思考力を養うために、食物学演習を履修します。
3. 家庭科教諭または栄養教諭免許状取得のための科目が選択できます。
4. インターンシップや資格取得のための科目が選択できます。

#### <主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

1. 幅広い分野、業種における栄養士の役割を学びます。
2. 適切な食事の管理を中心とした栄養管理のために、管理栄養士と協働することを学びます。
3. 連携・協働するために、他職種の役割と専門性を学びます。
4. 食物学演習、卒業論文のゼミを履修して高いコミュニケーション力を養います。

### 【管理栄養士専攻】

#### <知識および技能>

食と健康に関する科学的な専門知識や技術、ならびに疾病の発症メカニズムに関する知識を有するために、以下の各分野に関連する授業を履修します。

1. 社会と栄養
2. 栄養管理の実践のための基礎科学
3. 食べ物をベースとした栄養管理の実践
4. ライフステージと栄養管理の実践
5. 疾病と栄養管理の実践

#### <思考力・判断力・表現力等>

1. 人の命を預かる医療職として、管理栄養士の使命や責任感を有するために、管理栄養士概論および専門教育科目に関連する授業を履修します。
2. 健康状態を適切に評価でき、健康的な食生活を提案する能力・判断力を養うために、専門教育科目に関連する授業を履修します。
3. 栄養教諭免許状取得のための科目が選択できます。

#### <主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

1. 幅広い分野、業種における管理栄養士の役割を学びます。
2. 連携・協働するために、他職種の役割と専門性を学びます。
3. 連携・協働のためには協調性とリーダーシップの双方が必要であること学びます。
4. 栄養教育が実践できる能力を養い、課題の発見と解決のために、臨地実習に関連する授業を履修します。

## 1 1年間の履修登録単位数の上限

一度に多くの科目を履修すると自宅での予習・復習の学習時間を確保することができず学習効果を妨げてしまいますので、1年間に履修できる単位数の上限を定めています。

(2026年度入学生から適用)

	履修登録単位数の上限			
	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年
食物学科食物学専攻	54	45	45	45
管理栄養士専攻	58	45	45	45

※諸課程科目及び家政学部の学外実習科目は、この単位に含まれません。

## 2 標準履修単位数

本学では、各学年において履修すべき単位の標準（目安）を定めています。卒業年次生は、標準履修単位数が卒業要件となりますので、注意してください。

配当学年により授業時間割が変動するため、標準履修単位数を超える場合や達しない場合があります。

### 食物学科 食物学専攻

(2019年度入学生から適用)

区分 学年	全学共通科目			小計	家政学部 共通	専門必修	専門選択	小計	合計
	必修	選択必修	選択						
1 学年	3	16	3	22	2	22	4	28	50
2 学年	3	16	9	28	4	44	12	60	88
3 学年	3	16	9	28	4	58	22	84	112
4 学年	3	16	9	28	4	62	30	96	124

### 管理栄養士専攻

(2026年度入学生から適用)

区分 学年	全学共通科目			小計	家政学部 共通	専門必修	専門 選択必修	専門選択	小計	合計
	必修	選択必修	選択							
1 学年	3	16	3	22	2	25	0	8	35	57
2 学年	3	16	7	26	4	51	0	12	67	93
3 学年	3	16	9	28	4	84	4	14	106	134
4 学年	3	16	9	28	4	84	4	16	108	136

### 3 専門教育科目の履修について

#### (1) 家政学部共通科目

- ①家政学部共通科目から4単位を履修し単位を修得してください。
- ②4単位を超えて修得した単位は、2単位を限度として卒業に必要な選択科目の単位に含めることができます。
- ③教職課程履修者は、「教科及び教科の指導法に関する科目等」で修得した2単位を家政学部共通科目として卒業に必要な単位に含めることができます。

#### (2) 選択科目（食物学専攻）

- ①他学科の専門教育科目（選択科目）は、当該学科に履修を認められた8単位を限度として履修することができます。これにより修得した単位は卒業に必要な選択科目の単位に含めることができます。

#### (3) その他

- ①フードスペシャリスト資格取得希望者は「7 フードスペシャリスト資格」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。
- ②図書館司書資格取得希望者は「③諸課程について 2 図書館学課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。
- ③博物館学芸員資格取得希望者は「③諸課程について 3 博物館学芸員課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。

## 4 専門教育科目の卒業要件

### 食物学科 食物学専攻

(2025年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ( )内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目
家政学部共通科目	家庭経営学概論(含家庭経済学)	2	半期	講義	1	(4)
	家族関係論	2	半期	講義	2	
	被服学概論	2	半期	講義	2	
	児童学概論	2	半期	講義	2	
	住居学概論	2	半期	講義	1	
	環境科学概論	2	半期	講義	2	
	ライフデザイン学概論	2	半期	講義	1	
必修科目	公衆衛生学	2	半期	講義	1	★
	生理学	2	半期	講義	1	
	人体構造機能論	2	半期	講義	1	
	食品化学	2	半期	講義	1	
	食品学	2	半期	講義	1	
	基礎栄養学Ⅰ	2	半期	講義	1	
	基礎栄養学Ⅱ	2	半期	講義	1	
	食事設計論	2	半期	講義	1	
	栄養士概論	2	半期	講義	1	
	基礎調理学実習	1	半期②	実習	1	
	調理学実習	1	半期②	実習	1	
	生活環境学実験	1	半期②	実験	1	
	人体構造機能論実験	1	半期②	実験	1	
	疾病の成り立ちⅠ	2	半期	講義	2	
	食安全学Ⅰ	2	半期	講義	2	
	栄養化学Ⅰ	2	半期	講義	2	
	病態栄養学	2	半期	講義	2	
	応用栄養学	2	半期	講義	2	
	栄養教育論Ⅰ	2	半期	講義	2	
	給食管理論Ⅰ	2	半期	講義	2	
	調理科学Ⅰ	2	半期	講義	2	
	食事設計論実習	1	半期②	実習	2	
	栄養教育論実習Ⅰ	1	半期②	実習	2	
	食品化学実験	1	半期②	実験	2	
	食品学実験	1	半期②	実験	2	
	食安全学実験	1	半期②	実験	2	
	栄養化学実験	1	半期②	実験	2	
	社会福祉論	2	半期	講義	3	
	生化学	2	半期	講義	3	
	栄養教育論Ⅱ	2	半期	講義	3	
	公衆栄養学	2	半期	講義	3	
	給食管理論Ⅱ	2	半期	講義	3	
	食物学演習	2	半期	演習	3	
	応用栄養学実習	1	半期②	実習	3	
	給食管理実習Ⅰ	1	半期③	実習	3	
	卒業論文Ⅰ	2	半期	-	4	
卒業論文Ⅱ	2	半期	-	4		

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ( )内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目
選択科目	化学 I	2	半期	講義	1	★
	化学 II	2	半期	講義	1	
	食品開発論	2	半期	講義	1	
	基礎生物学	2	半期	講義	1	★
	食文化論	2	半期	講義	1	★◆
	分子栄養代謝学	2	半期	講義	2	
	食品品質学	2	半期	講義	2	
	調理科学 II	2	半期	講義	2	
	栄養・健康情報論	2	半期	講義	2	★◆
	食品微生物学	2	半期	講義	2	★
	スポーツ栄養論	2	半期	講義	2	★
	セルフメディケーション概論	2	半期	講義	2	★
	実践統計学	2	半期	演習	2	
	スポーツ栄養論実習	1	半期②	実習	2	★
	調理科学実験	1	半期②	実験	2	
	臨床栄養学	2	半期	講義	3	☆
	フードエンジニアリング	2	半期	講義	3	
	食品バイオテクノロジー	2	半期	講義	3	
	フードマーケティング論	2	半期	講義	3	
	学校栄養教諭論	2	半期	講義	3	
	スポーツ科学論	2	半期	講義	3	
	フードマーケティング演習	1	半期	演習	3	
	臨床栄養学実習	1	半期②	実習	3	☆
	栄養教育論実習 II	1	半期②	実習	3	☆
	給食管理実習 II	1	半期③	実習	3	☆
	世界の食文化と調理学実習	1	半期②	実習	3	
	インターンシップ	1	集中	実習	3	
	校外実習指導	1	—	演習	3・4	☆
校外実習	1	—	実習	3・4	☆	
食品感覚機能論	2	半期	講義	4		
食品とリスクコミュニケーション	2	半期	講義	4		
フードスペシャリスト論	2	半期	講義	4		
フードコーディネータ論	2	半期	講義	4		

(30)

注 (1) この表は食物学科食物学専攻の専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注 (2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注 (3) ☆印は、栄養士免許を取得する者は必修科目。

注 (4) ★印は、学科共通科目。

注 (5) 「学校栄養教諭論」は、栄養教諭2種免許状資格を取得する者以外の履修は認められません。

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ( )内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目
家政学部共通科目	家庭経営学概論(含家庭経済学)	2	半期	講義	1	(4)
	家族関係論	2	半期	講義	2	
	被服学概論	2	半期	講義	2	
	児童学概論	2	半期	講義	2	
	住居学概論	2	半期	講義	1	
	ライフデザイン学概論	2	半期	講義	1	
必修科目	公衆衛生学Ⅰ	2	半期	講義	1	★
	解剖生理学Ⅰ	2	半期	講義	1	
	解剖生理学Ⅱ	2	半期	講義	1	
	食品学	2	半期	講義	1	
	食品化学	2	半期	講義	1	
	基礎調理学実習Ⅰ	1	半期②	実習	1	
	基礎調理学実習Ⅱ	1	半期②	実習	1	
	生活環境学実験	1	半期②	実験	1	
	解剖生理学実験	1	半期②	実験	1	
	食品学実験	1	半期②	実験	1	
	食安全学	2	半期	講義	1	
	基礎栄養学	2	半期	講義	1	
	食事摂取基準論	2	半期	講義	1	
	カウンセリング論	2	半期	講義	1	
	化学	2	半期	講義	2	
	臨床医学Ⅰ	2	半期	講義	1	
	臨床医学Ⅱ	2	半期	講義	2	
	調理科学	2	半期	講義	2	
	応用栄養科学	2	半期	講義	2	
	栄養教育論Ⅰ	2	半期	講義	2	
	臨床栄養学Ⅰ	2	半期	講義	2	
	臨床栄養学Ⅱ	2	半期	講義	2	
	給食経営管理論Ⅰ	2	半期	講義	2	
	実践統計学実習	1	半期②	実習	2	
	食事設計論実習	1	半期②	実習	2	
	栄養教育論実習Ⅰ	1	半期②	実習	2	
	臨床栄養学実習Ⅰ	1	半期②	実習	2	
	生化学実験	1	半期②	実験	2	
	食品化学実験	1	半期②	実験	2	
	食安全学実験	1	半期②	実験	2	
	栄養学実験	1	半期②	実験	2	
	社会福祉論	2	半期	講義	2	
	公衆衛生学Ⅱ	2	半期	講義	3	
	実践臨床医学	2	半期	講義	3	
	栄養生化学	2	半期	講義	3	
	ライフステージ栄養学	2	半期	講義	3	
	栄養教育論Ⅱ	2	半期	講義	3	
	臨床栄養学Ⅲ	2	半期	講義	3	
	臨床栄養学Ⅳ	2	半期	講義	3	
	公衆栄養学Ⅰ	2	半期	講義	3	
	公衆栄養学Ⅱ	2	半期	講義	3	
	給食経営管理論Ⅱ	2	半期	講義	3	
食物学演習	2	半期	演習	3		
ライフステージ栄養学実習	1	半期②	実習	3		
栄養教育論実習Ⅱ	1	半期②	実習	3		
臨床栄養学実習Ⅱ	1	半期②	実習	3		
公衆栄養学実習	1	半期②	実習	3		
給食経営管理実習Ⅰ	1	半期③	実習	3		
総合演習	2	—	演習	3・4		
臨地実習Ⅰ	1	—	実習	3・4		
臨地実習Ⅱ	3	—	実習	3・4		

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ( )内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目
科目必修	卒業研究	2	—	—	3・4	(2)または(4)
	卒業論文	4	—	—	3・4	
選択科目	化学Ⅰ	2	半期	講義	1	★
	化学Ⅱ	2	半期	講義	1	
	基礎生物学	2	半期	講義	1	★
	食文化論	2	半期	講義	1	★◆
	栄養学概論	2	半期	講義	1	◇
	管理栄養士概論	2	半期	講義	1	◇
	機能性食品学	2	半期	講義	2	
	栄養・健康情報論	2	半期	講義	2	★◆
	食品微生物学	2	半期	講義	2	★
	スポーツ栄養論	2	半期	講義	2	★
	セルフメディケーション概論	2	半期	講義	2	★
	スポーツ栄養論実習	1	半期②	実習	2	★
	食品微生物学実験	1	半期②	実験	2	
	調理科学実験	1	半期②	実験	2	
	臨床心理学	2	半期	講義	2	
	学校栄養教諭論Ⅰ	2	半期	講義	3	
	学校栄養教諭論Ⅱ	2	半期	講義	3	
	給食経営管理実習Ⅱ	1	半期③	実習	3	
	スポーツ科学論	2	半期	講義	3	★
管理栄養士演習	2	集中	演習	4	◇	

注 (1) この表は食物学科管理栄養士専攻の専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注 (2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注 (3) ◇印は、管理栄養士国家試験受験資格を取得する者は必修科目。

注 (4) ★印は、学科共通科目。

注 (5) 「学校栄養教諭論Ⅰ」、「学校栄養教諭論Ⅱ」は、栄養教諭1種免許状資格を取得する者以外の履修は認められません。

## 5 栄養士及び管理栄養士課程（食科学専攻・管理栄養士専攻）

### 栄養士及び管理栄養士課程について

#### (1) 栄養士課程について

食科学専攻食科学専攻は、栄養士法に基づく栄養士養成施設の指定を受けた施設であり、所定の科目の単位を修得することにより卒業と同時に栄養士免許を取得することができます。栄養学・食品学・調理学の理論と技術を基礎として栄養教育論・臨床栄養学・公衆栄養学・食安全学・給食管理論などを修得した栄養士の育成をめざしています。この課程は、卒業後、栄養士実務経験をもって管理栄養士国家試験受験資格が得られます。

栄養士とは、都道府県知事の免許を受けて、栄養士の名称を用いて栄養の指導に従事することを業とする者をいいます（栄養士法第1条第1項）。

#### (2) 管理栄養士課程について

食科学専攻管理栄養士専攻は、栄養士法に基づく管理栄養士養成施設の指定を受けた施設であり、所定の科目の単位を修得することにより卒業と同時に栄養士免許を取得することができ、さらに所定の科目の単位を修得することで管理栄養士国家試験受験資格が得られる課程です。この課程は、基礎専門分野の社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康にかかわる科目の理論と技術を学び、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論など専門分野の科目を修得し、一次予防、二次予防、三次予防ができる食・健康づくりの専門家の育成をめざしています。

管理栄養士とは、厚生労働大臣の免許を受けて、管理栄養士の名称を用いて、

- ①傷病者に対する療養のため必要な栄養の指導
- ②個人の身体の状態、栄養状態に応じた高度の専門的知識及び技術を要する健康の保持増進のための栄養の指導
- ③特定多数人に対して継続的に食事を供給する施設における利用者の身体の状態、栄養状態、利用状況に応じた特別の配慮を必要とする給食管理及びこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導等を行うことを業とする者をいいます（栄養士法第1条第2項）。

### 校外実習・臨地実習

栄養士課程においては、給食業務を行うために必要な給食サービス提供に関し、栄養士として具備すべき知識及び技能を修得させることを目的に校外実習（物を対象とした業務）として「給食の運営」について1週間1単位以上を必須としています。実習施設は、小・中学校、会社・事業所、社会福祉施設、自衛隊給食等から選択し、実習時期は3年次後期から4年次とします。

管理栄養士課程においては、実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能を修得するため、臨地実習（人を対象とした実務）4単位以上（校外実習1単位以上を含む）を必須としています。実習施設は病院、保健所・保健センター、小・中学校、社会福祉施設、会社・事業所、自衛隊などで、実習時期は3年次後期から4年次となります。

ただし、校外実習・臨地実習の履修に際しては、次の授業科目を履修済みの者とします。

〔校外実習〕（食科学専攻）：食事設計論、食安全学Ⅰ、応用栄養学、栄養教育論Ⅰ、給食管理論Ⅰ、調理科学Ⅰ  
〔臨地実習Ⅰ〕（管理栄養士専攻）：食安全学、食事摂取基準論、応用栄養科学、栄養教育論Ⅰ、給食経営管理論Ⅰ、食事設計論実習

〔臨地実習Ⅱ〕（管理栄養士専攻）：食安全学、食事摂取基準論、応用栄養科学、栄養教育論Ⅰ、給食経営管理論Ⅰ、公衆衛生学Ⅰ、カウンセリング論、臨床医学Ⅰ、臨床医学Ⅱ、臨床栄養学Ⅰ、臨床栄養学Ⅱ

なお、具体的な実習日時・内容等は、実習施設と調整し決定します。

### 栄養士実力認定試験について

全国栄養士養成施設協会が、栄養士の資質向上等を図るため実施する栄養士実力認定試験に本学も参加し、学力の向上を図っています。

栄養士実力認定試験は、12月上旬に実施され、協会の認定基準に従い認定証が発行されます。

食物学専攻、管理栄養士専攻ともに3年次に受験します。

### 栄養士免許申請手数料について

栄養士免許は住民票のある都道府県に申請しますが、各都道府県で手数料は異なる場合があります。

(東京都の場合 5,600 円)

(注) 申請手数料の金額は確定ではありません。一応の目安と考えてください。

### 栄養士免許取得に必要な科目、単位数 (食物学専攻)

(2015 年度入学生から適用)

栄養士法施行規則に定める科目	単位数		本学授業開講科目			
	講義又は演習	実験又は実習	授 業 科 目 名	単 位		備考
				講義又は演習	実験又は実習	
社会生活と健康	4	4	公 衆 衛 生 学	2		
			社 会 福 祉 論	2		
			生 活 環 境 学 実 験		1	
人体の構造と機能	8		生 理 学	2		
			人 体 構 造 機 能 論 実 験		1	
			人 体 構 造 機 能 論	2		
			疾 病 の 成 り 立 ち I	2		
			生 化 学	2		
食品と衛生	6		食 品 化 学	2		
			食 品 化 学 実 験		1	
			食 品 学 実 験	2		1
			食 安 全 学 I	2		
		食 安 全 学 実 験		1		
栄養と健康	8	基 礎 栄 養 学 I	2			
		基 礎 栄 養 学 II	2			
		栄 養 化 学 I	2			
		栄 養 化 学 実 験		1		
		病 態 栄 養 学	2			
		臨 床 栄 養 学	2			
		臨 床 栄 養 学 実 習		1		
		応 用 栄 養 学	2			
栄養の指導	6	応 用 栄 養 学 実 習		1		
		食 事 設 計 論	2			
		食 事 設 計 論 実 習		1		
		栄 養 教 育 論 I	2			
		栄 養 教 育 論 II	2			
		栄 養 教 育 論 実 習 I		1		
		栄 養 教 育 論 実 習 II		1		
給食の運営	4	公 衆 栄 養 学	2			
		給 食 管 理 論 I	2			
		給 食 管 理 論 II	2			
		校 外 実 習 指 導	1			
		給 食 管 理 実 習 I		1		
		給 食 管 理 実 習 II		1		
		調 理 科 学 I	2			
		基 礎 調 理 学 実 習		1		
調 理 学 実 習		1				
校 外 実 習		1				

栄養士免許取得に必要な科目、単位数（管理栄養士専攻）

(2026年度入学生から適用)

栄養士法施行規則に定める科目	単位数		本学授業開講科目				
	講義又は演習	実験又は実習	授業科目名	単位		備考	
				講義又は演習	実験又は実習		
社会生活と健康	4	4	公衆衛生学 I	2			
			公衆衛生学 II	2			
			実践統計学実習			1	
			社会福祉論	2			
人体の構造と機能	8		生活環境学実験			1	
			解剖生理学 I	2			
			解剖生理学 II	2			
			解剖生理学実験			1	
			臨床医学 I	2			
			臨床医学 II	2			
			実践臨床医学	2			
			生化学	2			
			生化学実験			1	
			栄養生化学	2			
食品と衛生	6	食品学	2				
		食品学実験			1		
		食品化学	2				
		食品化学実験			1		
		食安全学	2				
		食安全学実験			1		
栄養と健康	8	基礎栄養学	2				
		栄養学実験			1		
		食事摂取基準論	2				
		ライフステージ栄養学	2				
		ライフステージ栄養学実習			1		
		応用栄養科学	2				
		臨床栄養学 I	2				
		臨床栄養学 II	2				
		臨床栄養学 III	2				
		臨床栄養学 IV	2				
栄養の指導	6	臨床栄養学実習 I			1		
		臨床栄養学実習 II			1		
		栄養教育論 I	2				
		栄養教育論 II	2				
		栄養教育論実習 I			1		
		栄養教育論実習 II			1		
		カウンセリング論	2				
		公衆栄養学 I	2				
給食の運営	4	公衆栄養学 II	2				
		公衆栄養学実習			1		
		調理科学	2				
		基礎調理学実習 I			1		
		基礎調理学実習 II			1		
		食事設計論実習			1		
		給食経営管理論 I	2				
		給食経営管理論 II	2				
		給食経営管理実習 I			1		
		総合実習 I*	2				
			1				

\* 給食の運営に係る校外実習を含む

管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目、単位数

(2026年度入学生から適用)

管理栄養士学校指定規則による規定		本学授業開講科目名				
教育内容	単位数	講義又は演習	実験又は実習	授業科目名	単位数	
					講義又は演習	実験又は実習
専門基礎分野	社会・環境と健康	10	6	公衆衛生学 I	2	
				公衆衛生学 II	2	
				実践統計学実習		1
	社会福祉論			2		
	生活環境学実験				1	
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち			解剖生理学 I	2	
				解剖生理学 II	2	
				解剖生理学実験		1
				臨床医学 I	2	
				臨床医学 II	2	
				生化学	2	
				実践臨床医学	2	
				生化学実験		1
	食べ物と健康			栄養生化学	2	
				食品科学	2	
				食品学実験		1
				食品化学	2	
				食品化学実験		1
				食安全学	2	
				食安全学実験		1
				調理科学	2	
基礎調理学実習 I			1			
基礎調理学実習 II			1			
食事設計論実習		1				
専門分野	基礎栄養学	8	4	栄養学概論	2	
				基礎栄養学	2	
	応用栄養学			栄養学実験		1
				食事摂取基準論	2	
				ライフステージ栄養学	2	
	栄養教育論			ライフステージ栄養学実習		1
				応用栄養科学	2	
				栄養教育論 I	2	
	臨床栄養学			栄養教育論 II	2	
				栄養教育論実習 I		1
				栄養教育論実習 II		1
				カウンセリング論	2	
				臨床栄養学 I	2	
				臨床栄養学 II	2	
				臨床栄養学 III	2	
				臨床栄養学 IV	2	
	臨床栄養学実習 I				1	
	公衆栄養学			臨床栄養学実習 II		1
				公衆栄養学 I	2	
				公衆栄養学 II	2	
	給食経営管理論			公衆栄養学実習		1
給食経営管理論 I		2				
給食経営管理論 II		2				
総合演習	給食経営管理実習 I		1			
	総合演習	2				
臨地実習	管理栄養士概論	2				
	管理栄養士演習	2				
	臨地実習 I <sup>*</sup>		1			
			臨地実習 II		3	

\* 給食の運営に係る校外実習を含む

## 6 NR・サプリメントアドバイザー資格（食物学専攻・管理栄養士専攻）

### NR・サプリメントアドバイザーについて

NR・サプリメントアドバイザーは、一般社団法人日本臨床栄養協会・日本サプリメントアドバイザー機構が認定する民間資格です。

健康に関連する食品として、特定保健用食品、栄養機能食品、サプリメントなど、さまざまな種類があります。したがって、消費者が適切かつ安全にこれら食品を利用するためには、正しい栄養学が消費者に理解されることが重要であり、NR・サプリメントアドバイザーは消費者に対して専門的観点から消費者個人々の栄養状態を評価し、適切にアドバイスできる知識を備えていることを証明する資格です。栄養士資格保有者が取得することで、活動の場を広げることができます。

本学は学校登録認定校として一般社団法人日本臨床栄養協会から登録されています。

### 資格取得できる学科

家政学部食物学科4年生（ただし、3年生までのGPAにより履修の可否を決定します）

### 資格取得方法

「NR・サプリメントアドバイザー講座」（インターネットによる受講）にて40単位を取得後、認定試験（年1回11月最終週の9日間CBT（テストセンター）方式で実施）に合格する必要があります。

### 申込手続

指定された日時に学生会員入会手続きをしてください。

### 資格取得に係る経費

学生会員年会費 4,000円

通信教育受講料 5,100円（テキスト代別）

認定試験受験料 15,300円

※金額が変更となる場合がありますので、一応の目安としてください。

※認定試験合格者には一般社団法人日本臨床栄養協会から認定証と認定カードが発行されます。

### その他

資格取得後も、5年ごとの更新が必要です。更新するためには、日本臨床栄養協会正会員の継続に必要な費用（年会費8,000円の5年分。ただし、在学中は4,000円）・研修単位（50単位）取得のための費用、更新申請料5,100円を支払う必要があります。

3年次1月中旬ごろにガイダンスを実施します。手続方法などをお知らせしますので、受験希望者は必ず出席してください。

## 7 フードスペシャリスト資格（食物学専攻）

### フードスペシャリスト

本学の家政学部食物学科食物学専攻は、カリキュラム編成、単位数、教員組織、施設設備などフードスペシャリスト教育に必要な要件を満たす大学として、フードスペシャリスト協会の認定を受けています。本学で定める単位を修得し、かつフードスペシャリスト協会が実施する「認定試験」に合格すると、フードスペシャリストの資格認定証が交付されます。

近年、消費者のニーズが多様化、高度化し、食品や食べ物に対する安全志向、健康志向が強まるなど、より豊かな食生活を求めるようになってきました。そのため、①流通の分野では食品の市場調査や科学的知識・技術により得た情報を提供し、流通の円滑をはかる。②販売の分野では販売員に対し食品の品質情報を知らせ、管理・陳列や科学的知識及びサービスを含め指導・助言する。また、③顧客に対しては食品の種類の選び方、その利用の方法などにわたり、食品の専門職の立場から指導・助言する。④ホテルやレストランなど、料理として提供する分野では調理者と喫食者の間に立ってメニュー、食味の調整や食堂の雰囲気を保ち、楽しく、快適な飲食ができるよう食空間をコーディネートする。さらに、⑤消費者センターではクレームに対して問題解決策を講じます。このように流通・消費分野の食品専門職が求められていますが、消費者サイドに立った流通・消費の分野における「食」の専門職がフードスペシャリストです。

フードスペシャリストが活動を期待されている職域は幅広く、流通、販売、ホテル・レストラン、消費者センターなどがあげられます。それぞれの分野での具体的な活動内容などは以下のようなものが想定されます。

#### a 流通

活動の場：卸売店、卸売市場など

活動内容：①食品管理や良否の判断 ②流通方法の開発  
③需給調整や情報収集

#### b 販売

活動の場：デパート、スーパー、コンビニエンスストアなど

活動内容：①消費者へのアドバイス ②売場コーディネート  
③食品管理や良否の判断 ④クレーム処理

#### c ホテル・レストラン

活動の場：ホテル、レストラン

活動内容：①食空間のコーディネート ②メニューのコーディネート  
③新調理システムの導入 ④従業員へのサービス指導

#### d 消費者センター

活動の場：消費者センター

活動内容：①消費者生活のアドバイス ②クレーム処理  
③メーカー等への問題提起 ④市販されている食品の調査

## 資格申込方法

### (ア) 申込方法

フードスペシャリスト資格取得者の定員は、食物学科食物学専攻の学生 50 名です。3 年生の後期に希望をとりますが、希望人数が定員を上回った場合は調整があります。資格取得のための受講を認められなかった学生が、フードスペシャリスト資格に係る科目を履修し単位を修得してもフードスペシャリストの資格を取得することはできません。

### (イ) 申込の手続き

資格取得のための受講許可を得た者は、指定された日時に履修費を支払い手続きを完了してください。指定の日時に手続きを完了しない者は、受講の許可を取り消します。また、いったん納入した履修費は、原則として返還しません。

### (ウ) 資格取得に要する経費

- ・履修費（予定） 4 年次 2,000 円
- ・受験料・認定証交付手数料 4 年次 11,000 円

(注) 履修費他の金額は確定ではありません。一応の目安と考えてください。

なお、購入希望者は認定試験に関する受験参考書(6冊分)約13,000円、過去問題集約1,200円を要します。

### (エ) 認定試験

フードスペシャリスト協会が実施する認定試験は毎年 12 月の日曜日に実施されますが、本学では 4 年次に受験します。

## フードスペシャリストの資格取得に必要な科目、単位数

(2024 年度入学生から適用)

協会の規定科目・単位数等		左記に相当する本学の開設科目		
	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数等
必修科目	フードスペシャリスト論	2	フードスペシャリスト論	[2]
	食品の官能評価・鑑別論(統計処理を含む)	2	食品感覚機能論	[2]
			食品学実験	①
	食物学(食品学、食品加工学、食品貯蔵・流通技術論、食品機能学等)に関する科目	5	食品学	②
			食品化学	②
			食品化学実験	①
	食品の安全性(食品衛生、食中毒、有害物質、食品添加物、水質等)に関する科目	2	食安全学 I	②
			食安全学実験	①
	調理学(調理科学を含む)に関する科目	4	調理科学 I	②
基礎調理学実習			①	
調理学実習			①	
栄養と健康に関する科目	2	基礎栄養学 I	②	
		応用栄養学実習	①	
食品流通・消費に関する科目(フードマーケティングを含む)	2	フードマーケティング論	[2]	
フードコーディネート論	2	フードコーディネート論	[2]	
小計				24
選択科目	フードスペシャリスト資格に相当とされる科目	自由設定科目	食品開発論	(2)
			フードエンジニアリング	(2)
小計				4
本学が定める資格取得に必要な修得単位数合計				24

注 本学開講科目の単位数欄の、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字はフードスペシャリスト資格取得者必修単位、( )は選択科目です。

## 8 食品衛生管理者及び食品衛生監視員（管理栄養士専攻）

食物学科管理栄養士専攻は、食品衛生法第48条第6項第3号に基づく食品衛生管理者の養成施設及び食品衛生法施行令第9条第1項第1号に基づく食品衛生監視員の養成施設として登録を受けた施設であり、所定の科目の単位を修得することにより卒業と同時に食品衛生管理者及び食品衛生監視員となる資格（任用資格）を得ることができます。

ただし、卒業要件を満たすために修得しなければならない科目と、食品衛生管理者及び食品衛生監視員となる資格を得るために修得しなければならない科目は異なります。

## 食品衛生管理者及び食品衛生監視員資格に必要な科目、単位数

(2026年度入学生から適用)

	食品衛生法施行規則に定める学科		左記に対応する本学開講科目			
	区 分	科 目	本学授業科目名	資格取得に必要な単位数		
				必 修	選 択	
A群	化 学	分析化学	生 活 環 境 学 実 験	1		
		有機化学	化 学 II	2		
		無機化学	化 学 I	2		
			小 計	5	0	
B群	生 物 化 学	生物化学	生 化 学	2		
			生 化 学 実 験	1		
		食品化学	食 品 化 学	2		
			食 品 化 学 実 験	1		
			小 計	6	0	
C群	微 生 物 学	食品微生物学	食 品 微 生 物 学	2		
			食 品 微 生 物 学 実 験	1		
		食品製造学	食 品 学	2		
			食 品 学 実 験	1		
			小 計	6	0	
D群	公 衆 衛 生 学	公衆衛生学	公 衆 衛 生 学 I	2		
			公 衆 衛 生 学 II	2		
		食品衛生学	食 安 全 学	2		
			食 安 全 学 実 験	1		
		環境衛生学	環 境 科 学 概 論		2	
			小 計	7	2	
A群からD群までそれぞれ1科目以上で合計22単位以上 合計 (A+B+C+D)				24	2	
E群	そ 他 関 連 科 目	病理学	臨 床 医 学 I	2		
			臨 床 医 学 II	2		
		解剖学	解 剖 生 理 学 I	2		
			解 剖 生 理 学 II	2		
		栄養学	栄養学概論	栄 養 学 概 論	2	
			基礎栄養学	基 礎 栄 養 学	2	
			栄養学実習	栄 養 学 実 験	1	
			臨床栄養学I	臨 床 栄 養 学 I	2	
			臨床栄養学II	臨 床 栄 養 学 II	2	
			臨床栄養学III	臨 床 栄 養 学 III	2	
			臨床栄養学IV	臨 床 栄 養 学 IV	2	
		栄養化学	栄 養 生 化 学	2		
		衛生管理学	給食経営管理論I	給 食 経 営 管 理 論 I	2	
給食経営管理論II	給 食 経 営 管 理 論 II		2			
給食経営管理実習I	給 食 経 営 管 理 実 習 I		1			
その他	実践臨床医学	実 践 臨 床 医 学	2			
	調理科学実習	調 理 科 学 実 験	2			
	卒業論文	卒 業 論 文		1		
			小 計	32	5	
A群からE群を含め40単位以上を履修 合計 (A+B+C+D+E)				56	7	

## ■食品衛生管理者

乳製品、食肉製品など、食品衛生法に定められた食品又は添加物の製造又は加工を行う営業者は、その製造又は加工を衛生的に管理させるため、その施設ごとに、専任の「食品衛生管理者」を置かなければならないことになっています。

## ■食品衛生監視員

都道府県知事等は、都道府県等食品衛生監視指導計画の定めるところにより監視指導を、また、厚生労働大臣は、輸入食品監視指導計画に定めるところにより食品、添加物、器具及び容器包装の輸入に係る監視指導を、それぞれ「食品衛生監視員」に行なわせることになっています。



# 児童学科

教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー ……	86
1年間の履修登録単位数の上限 ……	88
標準履修単位数 ……	88
専門教育科目の履修について ……	89
専門教育科目の卒業要件 ……	90
保育士課程（児童学専攻） ……	94

## 児童学科 教育研究上の目的

---

子どもの成長を総合的に支援していくために必要な専門性をもった人材を育成する。

## 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

---

児童学科では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

### 【児童学専攻】

#### <知識および技能>

専門的職業人（保育士並びに幼稚園教諭等）になるために求められる知識や技能を有している。

#### <思考力・判断力・表現力等>

保育に関わる専門的な知識や技能を活用して、論理的にものごとを考え、判断するとともに、他者を尊重し協働している。

#### <主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

変化する社会において、子どもに関わるグローバルな視野と多様な問題に積極的に対処していく意志と志向性を有している。

### 【児童教育専攻】

#### <知識および技能>

専門的職業人（小学校教諭並びに中学校教諭等）になるために求められる知識や技能を有している。

#### <思考力・判断力・表現力等>

義務教育段階期の教育に関わる専門的な知識や技能を活用して、論理的にものごとを考え、判断するとともに、他者を尊重し協働している。

#### <主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

変化する社会において、子どもに関わるグローバルな視野と多様な問題に積極的に対処していく意志と志向性を有している。

## 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

児童学科では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

### 【児童学専攻】

#### <知識および技能>

専門的職業人（保育士並びに幼稚園教諭等）になるために必要な専門的な知識や技能の修得を図ります。また、保育並びに子育て支援、子どもを取り巻く福祉問題などに関する幅広い視野を養います。

#### <思考力・判断力・表現力等>

実習や演習、ゼミナールを中心に、子どもの発達や生活を適切に捉え、豊かな子どもの育ちを提案できる論理的な思考力と判断力、表現力の育成を図ります。

#### <主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

専門家として、生涯にわたって子どもをめぐる環境や社会に目を向け、当事者としての関心を持ち続けようとする主体的態度の育成を図ります。

### 【児童教育専攻】

#### <知識および技能>

専門的職業人（小学校教諭並びに中学校教諭等）になるために必要な専門的な知識や技能の修得を図ります。また、義務教育段階の学校教育、思春期に至る心の問題に加え、学校外の教育文化活動や余暇活動などに関する幅広い視野を養います。

#### <思考力・判断力・表現力等>

実習や演習、ゼミナールを中心に、子どもの発達や生活を適切に捉え、豊かな子どもの育ちと学びを提案できる論理的な思考力と判断力、表現力の育成を図ります。

#### <主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

専門家として、生涯にわたって子どもをめぐる環境や社会に目を向け、当事者としての関心を持ち続けようとする主体的態度の育成を図ります。

## 1 1年間の履修登録単位数の上限

一度に多くの科目を履修すると自宅での予習・復習の学習時間を確保することができず学習効果を妨げてしまいますので、1年間に履修できる単位数の上限を定めています。

(2024年度入学生から適用)

	履修登録単位数の上限			
	1学年	2学年	3学年	4学年
児童学科児童学専攻	56	50	46	38
児童教育専攻	56	56	56	56

※図書館学課程、博物館課程及び家政学部の学外実習科目（教育実習及び実習指導、実習特講）は、この単位に含まれません。

## 2 標準履修単位数

本学では、各学年において履修すべき単位の標準（目安）を定めています。卒業年次生は、標準履修単位数が卒業要件となりますので、注意してください（児童教育専攻を除く）。

配当学年により授業時間割が変動するため、標準履修単位数を超える場合や達しない場合があります。

### 児童学科 児童学専攻

(2024年度入学生から適用)

学年	区分	全学共通科目			小計	家政学部 共通	専門必修	専門 選択必修	専門選択	小計	合計
		必修	選択必修	選択							
1学年		3	16	1	20	2	26	0	2	30	50
2学年		3	16	7	26	4	56	0	2	62	88
3学年		3	16	9	28	4	86	4	4	98	126
4学年		3	16	9	28	4	100	6	4	114	142

### 児童教育専攻

(2026年度入学生から適用)

学年	区分	全学共通科目			小計	家政学部 共通	専門必修	専門選択	小計	自由選択 科目	合計
		必修	選択必修	選択							
1学年		3	8	0	11	2	40	0	42	1	54
2学年		3	8	0	11	4	64	2	70	9	90
3学年		3	8	0	11	4	74	20	98	9	118
4学年		3	8	0	11	4	98	27	129	9	149

※自由選択科目9単位数は全学共通科目の選択もしくは専門選択より履修できる。

### 3 専門教育科目の履修について

#### (1) 家政学部共通科目

- ①家政学部共通科目から4単位を履修し単位を修得してください。
- ②4単位を超えて修得した単位は、4単位を限度として卒業に必要な選択科目の単位に含めることができます。

#### (2) 選択科目

- ①児童学専攻で開講される「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「保育実習指導ⅠA」「保育実習指導ⅠB」「保育実習指導Ⅱ」は、保育士資格を取得する者以外の履修は認められません。
- ②演習科目の中で履修希望者が多い場合、履修者の調整を行う場合があります。
- ③他学科の専門教育科目（選択科目）は、当該学科に履修を認められた8単位を限度として履修することができます。これにより修得した単位は、児童学専攻は卒業に必要な選択科目の単位に、児童教育専攻は卒業に必要な自由選択科目の単位に含めることができます。

#### (3) その他

- ①教員免許状取得希望者は「③諸課程について 1 教職課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。
- ②保育士資格取得希望者は「5 保育士課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。
- ③免許・資格に関する授業への取り組みが芳しくない場合は、実習に行けないこともあります。
- ④図書館司書資格取得希望者は「③諸課程について 2 図書館学課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。
- ⑤学校図書館司書教諭資格取得希望者は「③諸課程について 2 図書館学課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。
- ⑥博物館学芸員資格取得希望者は「③諸課程について 3 博物館学芸員課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。

## 4 専門教育科目の卒業要件

### 児童学科 児童学専攻

(2026 年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ( )内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目
家政学部 共通科目	家庭経営学概論 (含家庭経済学)	2	半期	講義	1	(4)
	家族関係論	2	半期	講義	2	
	被服学概論	2	半期	講義	2	
	食物学概論	2	半期	講義	2	
	住居学概論	2	半期	講義	1	
	環境科学概論	2	半期	講義	2	
	ライフデザイン学概論	2	半期	講義	1	
必修科目	児童学入門	2	半期	講義	1	(100)
	保育原理	2	半期	講義	1	
	子どもと遊び	2	半期	演習	1	
	子どもの権利論	2	半期	講義	1	
	領域人間関係	2	半期	講義	1	
	領域表現	2	半期	講義	1	
	教育原理 A	2	半期	講義	1	
	社会福祉学	2	半期	講義	1	
	子ども理解の基礎	2	半期	講義	1	
	保育内容人間関係の指導法	2	半期	演習	1	
	保育内容表現の指導法	2	半期	演習	1	
	保育内容の理解と方法 I	2	半期	演習	1	
	保育者養成基礎演習 I	2	半期	演習	1	
	児童学基礎演習	2	半期	講義	2	
	子どもとからだ	2	半期	演習	2	
	保育内容の理解と方法 II	2	半期	演習	2	
	保育者養成基礎演習 II	2	半期	演習	2	
	子ども家庭福祉論	2	半期	講義	2	
	保育者論	2	半期	講義	2	
	領域健康	2	半期	講義	2	
	領域ことば	2	半期	講義	2	
	保育カリキュラム論	2	半期	講義	2	
	乳児保育 I	2	半期	講義	2	
	社会的養護論	2	半期	講義	2	
	子ども家庭支援論	2	半期	講義	2	
	保育内容健康の指導法	2	半期	演習	2	
	保育内容ことばの指導法	2	半期	演習	2	
	子どもの理解と援助	2	半期	演習	2	
	障がい児保育	2	半期	演習	2	
	乳児保育 II	2	半期	演習	3	
	児童文化論	2	半期	講義	3	
	子育て支援	2	半期	演習	3	
	領域環境	2	半期	講義	3	
	社会的養護内容	2	半期	演習	3	
	子どもの保健	2	半期	講義	3	
	子どもの食と栄養	2	半期	演習	3	
教育経営論 A	2	半期	講義	3		
保育方法演習	2	半期	演習	3		
子ども家庭支援の心理学	2	半期	講義	3		
保育内容環境の指導法	2	半期	演習	3		
子どもの健康と安全	2	半期	演習	3		
児童学専門演習 I	2	半期	演習	3		
児童学専門演習 II	2	半期	演習	3		
児童学プロジェクト I	2	集中	演習	3		
児童学プロジェクト II	2	集中	演習	4		
児童学専門演習 III	2	半期	演習	4		
児童学専門演習 IV	2	半期	演習	4		
卒業研究	6	通年	-	4		

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ( )内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目
選 択 科 目	子どもと物語	2	半期	演習	1	4
	子どもと音楽Ⅰ	2	半期	演習	1	
	子どもと音楽Ⅱ	2	半期	演習	1	
	子どもと造形	2	半期	演習	1	
	児童学研究法A	2	半期	講義	3	
	児童学研究法B	2	半期	講義	3	
	児童学研究法C	2	半期	講義	3	
	学童保育	2	半期	演習	3	
	子どもNPO	2	半期	講義	3	
	保育カンファレンス演習	2	半期	演習	3	
	子どもと地域	2	半期	講義	3	◆
	子どもと貧困	2	半期	講義	4	
	子どもと科学する心	2	半期	演習	4	
	保育者とアート(造形)	2	半期	演習	4	
	保育者とアート(音楽)	2	半期	演習	4	
	保育者とアート(パフォーマンス)	2	半期	演習	4	
	保育者とかからだ	2	半期	演習	4	
	教育実習(幼稚園Ⅰ)	2	—	実習	2	
	教育実習(幼稚園Ⅱ)	2	—	実習	4	
	幼稚園実習特講	1	—	講義	2・3・4	
	保育実習Ⅰ	4	—	実習	2・3	2
	保育実習指導ⅠA	2	半期	演習	2	
	保育実習指導ⅠB	2	半期	演習	3	
	保育実習Ⅱ	2	—	実習	3	
	保育実習指導Ⅱ	2	半期	演習	3	
	保育内容総論	2	半期	演習	4	
	保育実習(アドバンス)	2	—	実習	4	
	保育実習(アドバンス演習)	2	半期	演習	4	
	保育・教職実践演習	2	半期	演習	4	
	国内・国外研修Ⅰ	2	—	—	1・2・3・4	
国内・国外研修Ⅱ	2	—	—	1・2・3・4		
国内・国外研修Ⅲ	1	—	—	1・2・3・4		

(10)

注(1) この表は児童学科児童学専攻の専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ( )内は、卒業に必要な単位数
家政学部共通科目	家庭経営学概論 (含家庭経済学)	2	半期	講義	1	(4)
	家族関係論	2	半期	講義	2	
	被服学概論	2	半期	講義	2	
	食物学概論	2	半期	講義	2	
	住居学概論	2	半期	講義	1	
	ライフデザイン学概論	2	半期	講義	1	
必修科目	教育心理学	2	半期	講義	1	(98)
	児童教育研究法Ⅰ	2	半期	講義	1	
	社会福祉学	2	半期	講義	1	
	児童学基礎体験演習Ⅰ	2	半期	演習	1	
	児童学基礎体験演習Ⅱ	2	半期	演習	1	
	子ども理解	2	半期	講義	1	
	教師論	2	半期	講義	1	
	生活科教育	2	半期	講義	1	
	音楽科教育	2	半期	講義	1	
	科学と遊び	2	半期	講義	1	
	子どもと実験	2	半期	講義	1	
	化学の基礎	2	半期	講義	1	
	物理の基礎	2	半期	講義	1	
	生物の基礎	2	半期	講義	1	
	地学の基礎	2	半期	講義	1	
	生物学基礎実験Ⅰ	2	半期②	実験	1	
	地学基礎実験Ⅰ	2	半期②	実験	1	
	物理学基礎実験Ⅰ	2	半期②	実験	1	
	化学基礎実験Ⅰ	2	半期②	実験	1	
	教育原理B	2	半期	講義	1	
	児童学基礎体験演習Ⅲ	2	集中	演習	2	
	科学と説明・論証	2	半期	講義	2	
	国語科教育	2	半期	講義	2	
	社会科教育	2	半期	講義	2	
	算数科教育	2	半期	講義	2	
	理科教育	2	半期	講義	2	
	家庭科教育	2	半期	講義	2	
	体育科教育	2	半期	演習	2	
	図工科教育	2	半期	講義	2	
	教育方法論	2	半期	演習	2	
	小学校外国語教育	2	半期	講義	2	
	道徳教育論	2	半期	講義	3	
	教育経営論B	2	半期	講義	3	
	教育課程論	2	半期	講義	3	
	教育相談	2	半期	講義	3	
	児童学専門演習Ⅰ	2	半期	演習	3	
	児童学専門演習Ⅱ	2	半期	演習	3	
	科学リテラシー	2	集中	講義	3	
	子どもと観察	2	半期	講義	4	
	子どもと科学する心	2	半期	演習	4	
生徒・進路指導の理論及び方法	2	半期	講義	4		
総合的な学習の時間の学びと指導法	2	半期	講義	4		
特別活動論	2	半期	講義	4		
特別支援教育	2	半期	講義	4		
児童学専門演習Ⅲ	2	半期	演習	4		
児童学専門演習Ⅳ	2	半期	演習	4		
卒業研究	6	通年	-	4		

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ( )内は、卒業に必要な単位数
選択科目	子どもと読書	2	半期	演習	1	
	生物学基礎実験Ⅱ	2	半期②	実験	2	△
	地学基礎実験Ⅱ	2	半期②	実験	2	△
	物理学基礎実験Ⅱ	2	半期②	実験	2	△
	化学基礎実験Ⅱ	2	半期②	実験	2	△
	理科教育法Ⅰ	2	半期	講義	2	◇
	理科教育法Ⅱ	2	半期	講義	2	◇
	子どもの学びとICT	2	半期	講義	2	☆◇
	児童教育研究法Ⅱ	2	半期	講義	2	
	子どもの学びと言語	2	半期	講義	2	
	リフレクション基礎論	2	半期	演習	2	
	生活と物理	2	半期	講義	2・3・4	▲
	生活と化学	2	半期	講義	2・3・4	▲
	生物と環境	2	半期	講義	2・3・4	▲
	地球と環境	2	半期	講義	2・3・4	▲
	小学校総合演習Ⅰ	2	半期	演習	3	
	小学校総合演習Ⅱ	2	半期	演習	3	
	国語科指導法	2	半期	演習	3	☆
	社会科指導法	2	半期	演習	3	☆
	算数科指導法	2	半期	演習	3	☆
	理科指導法	2	半期	演習	3	☆
	生活科指導法	2	半期	演習	3	☆
	音楽科指導法	2	半期	演習	3	☆
	図工科指導法	2	半期	演習	3	☆
	家庭科指導法	2	半期	演習	3	☆
	体育科指導法	2	半期	演習	3	☆
	理科教育法Ⅲ	2	半期	講義	3	◇
	理科教育法Ⅳ	2	半期	講義	3	◇
	特別活動要説	2	半期	講義	3	◇
	教育実習(中学校)	4	-	実習	3	◇
	中学校実習指導	1	-	講義	3	◇
	科学する心(第1分野:物理・化学)	2	集中	講義	3	
	科学する心(第2分野:生物・地学)	2	集中	講義	3	
	リフレクション実践演習	2	半期	演習	3	
	学童保育	2	半期	演習	3	
	小学校外国語指導法	2	半期	演習	4	☆
	教職実践演習(小・中)	2	半期	演習	4	☆◇
	教育実習(小学校)	4	-	実習	4	☆
	小学校実習特講	1	-	講義	4	☆
	子どもと貧困	2	半期	講義	4	
	学級経営と集団づくり	2	半期	講義	2・3・4	
サイエンス・エドゥケーター論	2	集中	講義	2・3・4	▼	
子どもの学びと自然	2	半期	講義	2・3・4	▼	
野外教育実践演習	2	集中	演習	2・3・4	▼	
学校文化のなかの児童	1	集中	講義	1・2・3・4		
地域文化のなかの児童	1	集中	講義	1・2・3・4		
異文化のなかの児童	2	集中	講義	1・2・3・4		
児童学ワークショップ	2	集中	講義	1・2・3・4		
国内・国外研修Ⅰ	2	-	-	1・2・3・4		
国内・国外研修Ⅱ	2	-	-	1・2・3・4		
国内・国外研修Ⅲ	1	-	-	1・2・3・4		

(27)

注(1) この表は児童学・児童教育専攻の専門教育科目に関する規程であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3) ☆印は、小学校の教員免許を取得する者は必修科目。

注(4) ◇印は、中学校(理科)の教員免許を取得する者は必修科目。

注(5) △印は、中学校(理科)の教員免許を取得する者は2科目以上を選択必修科目。

注(6) ▲印は、中学校(理科)の教員免許を取得する者は2科目以上を選択必修科目。

注(7) ▼印は、中学校(理科)の教員免許を取得する者は2科目以上を選択必修科目。

## 5 保育士課程（児童学専攻）

### 保育士課程について

本学において保育士資格を取得する者は、必ず保育士課程を履修しなければなりません。この課程は、保育所及びその他の児童福祉施設において、保育士として保育に従事する者を養成することを目的としています。

保育士とは、児童福祉法第18条第4項では、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者としています。保育士には、その対象とする児童の生活と発達を守り育てるための専門的な援助者としての役割があります。そのために、保育士養成校である本学においても、保育士資格を取得する者は基礎教養を身につけることはいうまでもなく、保育や児童養護（施設養護）に関する理論と実践の両面から高い見識を養えるように、教科内容を整えています。

本学の保育士課程は、四年制大学としての特色を生かせるように考慮されています。大学1・2年次の段階では、主として保育や児童養護をはじめ児童理解を深めるように、基礎教養の修得に見合う教科の学習を主としています。そして、2年次2月から3年次にかけて、保育所及びその他の児童福祉施設の現場における実習を行います。こうした実習体験をふまえ、児童学科本来の児童学演習や卒業研究その他の専門的教科目による全学習課程を経ることによって、質の高い保育者の養成にかなうことが期待されます。

### 保育士課程受講希望者に対する注意

履修した保育士課程の授業・ガイダンスには必ず出席すること。

### 履修に要する経費

履修費（予定） 1年次 9,000円 2年次 17,000円 3年次 20,000円 4年次 12,000円

（注）履修費の金額は確定ではありません。一応の目安と考えてください。

### 保育実習

保育実習は、その修得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを生かして総合的に実践する力量を養うことを目的とします。実習を通して、児童の生活と発達の現実にふれつつ、援助者としての保育士の役割についての理解を深めることが可能となります。

本学における保育実習は「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」と「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」があり、以下のように実施します。

- （1）「保育実習Ⅰ」（必修）では、保育所での実習（90時間以上）と保育所以外の児童福祉施設での実習（90時間以上）とを行う。

本学における児童福祉施設としては、乳児院、児童養護施設、医療型障害児入所施設、児童発達支援センター、母子生活支援施設などがある。

- （2）「保育実習Ⅱ」及び「保育実習Ⅲ」は、いずれか一方を選択する。（選択必修）
- （3）「保育実習Ⅱ」では、保育所での実習（90時間以上）を行う。

この場合、上記の（1）「保育実習Ⅰ」における保育所実習に引き続き、同一保育所で行うことを原則とする。

- （4）「保育実習Ⅲ」では、通所型児童福祉施設での実習（90時間以上）を行う。
- （5）「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」では、保育実習に当たり、実習に関する予備知識の習得や諸注意などを含めた事前指導と、実習反省会を主とした事後指導を行う。

### 本学における保育実習表

実習種別	実習施設と日数
保育実習Ⅰ（必修）	保育所 90時間以上（原則1日8時間以内、12日以上）
	児童福祉施設 90時間以上（原則1日8時間以内、12日以上）
保育実習Ⅱ（選択必修）	保育所 90時間以上（原則1日8時間以内、12日以上）
保育実習Ⅲ（選択必修）	通所型児童福祉施設 90時間以上（原則1日8時間以内、12日以上）

保育士資格取得に必要な科目及び単位数

児童福祉法施行規則に定める教科目				左記に対応する本学開設科目(単位)
系列	教科目	授業形態	単位数	
教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6以上	情報基礎 PC (情報活用・PC操作) [2] 情報基礎 DS (表計算活用・データリテラシー) [2] 日本国憲法 [2]
	外国語	演習	2以上	英語 I A① 英語 I B①
	体育	講義	1	スポーツと健康 [2]
		実技	1	スポーツA (1) スポーツB (1) スポーツC (1) スポーツD (1)
合計		10単位以上		
系列	教科目	授業形態	単位数	左記に対応する本学開設科目(単位)
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理②
	教育原理	講義	2	教育原理A②
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉論②
	社会福祉	講義	2	社会福祉学②
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論②
	社会的養護 I	講義	2	社会的養護論②
	保育者論	講義	2	保育者論②
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	子ども理解の基礎②
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学②
	子どもの理解と援助	演習	1	子どもの理解と援助②
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健②
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養②
方法に関する科目・保育の内容に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	保育カリキュラム論②
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論②
	保育内容演習	演習	5	保育内容健康の指導法② 保育内容人間関係の指導法② 保育内容環境の指導法② 保育内容ことばの指導法② 保育内容表現の指導法②
	保育内容の理解と方法	演習	4	保育内容の理解と方法 I ② 保育内容の理解と方法 II ②
	乳児保育 I	講義	2	乳児保育 I ②
	乳児保育 II	演習	1	乳児保育 II ②
	子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全②
	障害児保育	演習	2	障がい児保育②
	社会的養護 II	演習	1	社会的養護内容②
	子育て支援	演習	1	子育て支援②
	保育実習	保育実習 I	実習	4
保育実習指導 I		演習	2	保育実習指導 I A [2] 保育実習指導 I B [2] 保育者養成基礎演習 I ② 保育者養成基礎演習 II ②
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習 [2]
合計		51単位		

児童福祉法施行規則に定める教科目				左記に対応する本学開設科目(単位)
系列	教科目	授業形態	単位数	
保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定	講義	15以上	子どもの権利論② 子どもと貧困(2)
保育の対象の理解に関する科目		演習		保育カンファレンス演習(2)
保育の内容・方法に関する科目		講義・演習		子どもと遊び② 子どもとからだ② 子どもと物語(2) 保育方法演習② 学童保育(2) 子どもNPO(2) 保育者とアート(造形)(2) 保育者とアート(音楽)(2) 保育者とアート(パフォーマンス)(2) 保育者とからだ(2) 子どもと科学する心(2)
		講義		児童文化論②
	演習	子どもと音楽Ⅰ(2) 子どもと音楽Ⅱ(2) 子どもと造形(2)		
実習	保育実習Ⅱ	実習	2	保育実習Ⅱ[2]
	保育実習指導Ⅱ	演習	1	保育実習指導Ⅱ[2]
合計			18単位以上	

(注) 本学開設科目(単位)のうち○の数字は卒業必修単位であり、[ ]の数字は保育士課程履修者必修単位、( )は選択科目である。

(注) 「保育者とアート(造形)」「保育者とアート(音楽)」「保育者とアート(パフォーマンス)」「保育者とからだ」「子どもと科学する心」のうち、1科目2単位以上を履修すること。

# ライフデザイン学科

教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー ……	98
1年間の履修登録単位数の上限 ……	99
標準履修単位数 ……	99
第3年次進級に必要な要件 ……	99
専門教育科目の履修について ……	99
専門教育科目の卒業要件 ……	100

## ライフデザイン学科 教育研究上の目的

21世紀に求められる真に豊かな生活や自立した生き方をデザインし、提言できる人材を育成する。

### 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

ライフデザイン学科では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

#### <知識および技能>

1. 家庭生活を中心とする生活経営および生活文化に関する幅広い教養を身につけている。
2. 「家庭」「地域・社会」「自然環境」の相互のかかわりについて理解している。
3. 「真に豊かな生活」というにふさわしい新しいライフスタイルをデザインする力（構想・計画力）を身につけている。

#### <思考力・判断力・表現力等>

1. 豊かな感性を生活の中でかたちにするデザイン力（造形的表現力）を身につけている。
2. 他者の話を傾聴し、自らの考えを他者に的確に伝えるためにコミュニケーション力を備えている。
3. 生活の諸課題を解決するための論理的思考力・分析力・考察力を身につけている。

#### <主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

1. モノ・コト・自然に対する豊かな感性、人に対する共感的な態度を身につけている。
2. 自らの人生において「真に豊かな生活」を思い描くことができる。
3. 'LIFE'（生命・人生・生活）の「重み」を常に意識しながら、自らの職業・地域活動等の社会的役割を通じ、社会全体における、また将来にわたっての「真に豊かな生活」を実現するために努力することができる。

### 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

ライフデザイン学科では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

#### <知識および技能>

1. 家庭生活を中心とする生活経営および生活文化について体系的に学びます。
2. 「家庭」「地域・社会」「自然環境」という空間において展開される生活の営みを幅広く学ぶことによって、生活を捉える視野を拡大します。
3. 展開科目・ゼミナール・卒業研究を通じて、「真に豊かな生活」というにふさわしい新しいライフスタイルをデザインする力（構想・計画力）を育成します。

#### <思考力・判断力・表現力等>

1. 各種デザイン（意匠・造形）に関する科目、自然体験学習を通じて、「モノ」や「自然」に対する審美眼を培い、生活空間・生活環境を美しく、豊かにするデザイン力（造形的表現力）を養います。
2. ゼミナールなどのディスカッション多用型授業を通じて、他者の話を傾聴し、自らの考えを的確に伝えるためのコミュニケーション能力を養います。
3. 問題提起型の授業やゼミナールを通じて、生活の諸課題を解決するために必要となる論理的思考力・分析力・考察力を養います。

#### <主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

1. 感性教育や体験学習を通じて、「モノ」・「コト」・「自然」と主体的に関わるための豊かな感性を育むと共に、グループワーク、ディスカッション多用型授業を通じて、「人」と共感的に関わり合おうとする意欲を培います。
2. 生活の諸問題についての問題意識を喚起する授業を通じて、一人の生活者としての当事者意識を持ち、自らの人生において「真に豊かな生活」を実現することへの意欲を養います。
3. 「コア科目」の履修によってライフデザインの根本的な概念である'LIFE'（生命・人生・生活）の「重み」を再認識したうえで、生活の諸問題の社会的背景を理解するための授業を通じて、社会全体における、また将来にわたっての「真に豊かな生活」を実現することへの意欲を養います。

## 1 1年間の履修登録単位数の上限

一度に多くの科目を履修すると自宅での予習・復習の学習時間を確保することができず学習効果を妨げてしまいますので、1年間に履修できる単位数の上限を定めています。

(2023年度入学生から適用)

	履修登録単位数の上限			
	1学年	2学年	3学年	4学年
ライフデザイン学科	40	40	38	38

※諸課程科目及び家政学部の学外実習科目は、この単位に含まれません。

## 2 標準履修単位数

本学では、各学年において履修すべき単位の標準（目安）を定めています。卒業年次生は、標準履修単位数が卒業要件となりますので、注意してください。

配当学年により授業時間割が変動するため、標準履修単位数を超える場合や達しない場合があります。

### ライフデザイン学科

(2023年度入学生から適用)

区分 学年	全学共通科目			小計	家政学部 共通	専門必修	専門 選択必修	専門選択	小計	合計
	必修	選択必修	選択							
1学年	3	16	0	19	2	16	1	2	21	40
2学年	3	16	7	26	6	26	1	16	49	75
3学年	3	16	15	34	6	32	1	31	70	104
4学年	3	16	15	34	6	36	1	47	90	124

## 3 第3年次進級に必要な要件

第2年次末までに、所定の単位数を下表のとおり履修しなければ、第3年次に進級することができません。

### ライフデザイン学科

(2023年度入学生から適用)

	全学共通科目	専門教育科目
最低必要単位数	48	

※諸課程科目の卒業要件振替分を含む。

## 4 専門教育科目の履修について

### (1) 家政学部共通科目

- ①家政学部共通科目から6単位を履修し単位を修得してください。
- ②6単位を超えて修得した単位は、2単位を限度として卒業に必要な「専門基礎科目」または「専門応用科目」の単位に含めることができます。

### (2) 選択科目

- ①他学科の専門教育科目（選択科目）は、当該学科に履修を認められた8単位を限度として履修することができます。これにより修得した単位は卒業に必要な「専門基礎科目」または「専門応用科目」単位に含めることができます。
- ②「卒業研究」は、3年終了時点で通算 GPA が 1.5 未満の場合は、履修できませんので注意してください。

### (3) その他

- ①図書館司書資格取得希望者は「[3]諸課程について 2 図書館学課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。
- ②博物館学芸員資格取得希望者は「[3]諸課程について 3 博物館学芸員課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意してください。

## 5 専門教育科目の卒業要件

### ライフデザイン学科

(2023年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ( )内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目	
共通科目	家政学部 被服学概論	2	半期	講義	2	(6)	
	食物学概論	2	半期	講義	2		
	児童学概論	2	半期	講義	2		
	住居学概論	2	半期	講義	1		
必修科目	ライフデザイン学総論	2	半期	講義	1	(36)	
	生命論	2	半期	講義	1		
	生涯発達心理学	2	半期	講義	1		
	ライフデザイン基礎演習Ⅰ(思考・表現力)	2	半期	演習	1		
	ライフデザイン基礎演習Ⅱ(日本語力)	2	半期	演習	1		
	日常生活と環境	2	半期	講義	1		
	市民生活と法	2	半期	講義	1		
	生活情報論	2	半期	講義	1		
	生活と工芸	2	半期	講義	2		
	住文化論	2	半期	講義	2		
	生活とデザイン	2	半期	講義	2		
	比較地域文化論	2	半期	講義	2		
	家族社会学	2	半期	講義	2		
	展開科目	ライフデザイン演習Ⅰ(量的調査法)	2	半期	演習		3
		ライフデザイン演習Ⅱ(質的調査法)	2	半期	演習		3
		ライフデザイン演習Ⅲ(編集・プレゼンテーション)	2	半期	演習		4
ゼミナールⅠ-A		1	半期	演習	3		
ゼミナールⅠ-B		1	半期	演習	3		
ゼミナールⅡ-A		1	半期	演習	4		
ゼミナールⅡ-B	1	半期	演習	4			
選択必修科目	感性教育A(スピーチ)	1	半期②	実習	1	(1)	
	感性教育B(デザイン)	1	半期②	実習	1		
	感性教育C(アート)	1	半期②	実習	1		
選択科目	自然体験論Ⅰ	1	集中	講義	1	◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆	
	生活経営学	2	半期	講義	1・2		
	ヒトと生態系	2	半期	講義	1・2		
	消費生活論	2	半期	講義	1・2		
	ポピュラーカルチャーの国際比較	2	半期	講義	1・2		
	仕事の社会学	2	半期	講義	1・2		
	インテリアデザイン論	2	半期	講義	2		
	家族心理学	2	半期	講義	2		
	家族法	2	半期	講義	2		
	インテリア製図演習	2	半期②	演習	2		
	インテリア空間デザイン演習	2	半期②	演習	2		
	住空間デザイン演習	2	半期②	演習	2		
	エコロジカルライフ演習	2	半期②	演習	2		
	農業体験学習	2	半期	演習	2		
	グリーンツーリズム体験実習	1	集中	実習	2		
	生活環境と健康	2	半期	講義	2		
生活文化史	2	半期	講義	2・3			
地域社会と環境	2	半期	講義	2・3			
プロダクトデザイン演習	2	半期②	演習	2・3			
情報とコミュニケーション	2	半期	講義	2・3			
暮らしと社会保障	2	半期	講義	4			

◆(★を修得済みまたは履修中であること)

☆(★を修得済みまたは履修中であること)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考 ( )内は、卒業に必要な単位数 ◆印は、他学科履修可能科目
選択科目 専門応用科目	工芸デザイン演習	2	半期②	演習	3	
	インテリアデザイン応用演習	2	半期②	演習	3	★といずれかの☆を修得済みまたは履修中であること
	自然体験論Ⅱ	1	集中	講義	3	
	生物環境学演習	2	半期②	演習	3	
	消費者と法	2	半期	講義	3	◆
	青少年と法	2	半期	講義	3	◆
	都市と公園	2	半期	講義	3・4	
	グラフィックデザイン演習	2	半期②	演習	3・4	
	社会生活と心の健康	2	半期	講義	3・4	◆
	情報社会論	2	半期	講義	3・4	◆
	ヨーロッパ現代生活論	2	半期	講義	3・4	◆
	余暇生活論	2	半期	講義	3・4	◆
	ヨーロッパ現代社会論	2	半期	講義	3・4	◆
	暮らしとファイナンス	2	半期	講義	3・4	◆
	住空間デザイン論	2	半期	講義	3・4	◆
	NPO・市民参加論	2	半期	講義	3・4	◆
	生活と色彩	2	半期	講義	3・4	◆
	コミュニティと福祉	2	半期	講義	3・4	
	ライフデザインの思想と実践	2	半期	講義	4	◆
	環境教育・思想論	2	半期	講義	4	◆
家族と文化の心理学	2	半期	講義	4	◆	
エコロジカルライフ論	2	半期	講義	4	◆	
デザイン文化論	2	半期	講義	4	◆	
情報デザイン演習	2	半期	演習	4		
卒業研究	6	通年	—	4	(47)	

注 (1) この表はライフデザイン学科の専門教育科目に関する規程であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注 (2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。



# 文学部

教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー ……	104
全学共通科目の履修について ……	104
全学共通科目の卒業要件 ……	106
文学部日本語教員養成プログラム ……	108
日本文学科 ……	111
英語英文学科 ……	117
コミュニケーション文化学科 ……	123

## 文学部 教育研究上の目的

「ことば」による広い意味でのコミュニケーションを教育のテーマとし、実技と知識・感覚の錬磨を学修と教育の両輪とすることにより、時代の進展に柔軟に適応できる有為な人材を養成する。

## 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

文学部では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

### <知識および技能>

人間と言葉について広く深い知識を有し、積極的に意思伝達を行うことができる能力。

### <思考力・判断力・表現力等>

人間と言葉に関わる事象を、客観的に観察し、綿密に分析し、的確に表現することができる能力。

### <主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

人間と言葉についての課題を発掘し、主体的かつ包括的に解決しようとする意欲。

## 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

文学部のカリキュラムは、言語運用能力と人間性の錬磨を共通課題として編成されています。文学部を構成する3つの学科は、個々の学生の関心に対応するため、段階的かつ体系的なカリキュラムを設置しています。

それぞれの学科では、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するため、独自の方針(カリキュラム・ポリシー)を設定しています。

## 1 全学共通科目の履修について

### 文学部 日本文学科

次のように科目を履修し、合計 37 単位以上を修得してください。

#### (1) 必修科目(計 3 単位)

- ① 基礎科目の「I 女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」(1 単位)を履修してください。
- ② 外国語科目の「英語 I A・I B」(計 2 単位)を履修してください。

#### (2) 選択必修科目(計 16 単位)

- ① 基礎科目の「I 女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」「大妻教養講座Ⅱ 卒業生から学ぶ」以外の 2 単位、「II リテラシー」の「日本語 A (文章表現)」、「日本語 B (口頭表現)」、「日本語 C (読解)」からいずれか 2 単位、「Ⅲ キャリア」から 2 単位を履修してください。
- ② 教養科目の「I～Ⅳ」から 10 単位を履修してください。

#### (3) 選択科目(計 18 単位以上)

- ① 基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の中から必修科目と選択必修科目で履修した科目以外で 18 単位以上を履修してください。

### 文学部 英語英文学科

次のように科目を履修し、合計 33 単位以上を修得してください。

#### (1) 必修科目(計 11 単位)

- ① 基礎科目の「I 女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」(1 単位)と「II リテラシー」から「日本語 A (文章表現)」(2 単位)を履修してください。
- ② 外国語科目の「英語 I A・I B・I C・I D・II A・II B・II C・II D」(計 8 単位)を履修してください。

- (2) 選択必修科目(計 18 単位)
- ① 基礎科目の「I 女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」「大妻教養講座Ⅱ 卒業生から学ぶ」以外の 2 単位、「Ⅲキャリア」から 2 単位を履修してください。
  - ② 教養科目の「I～Ⅳ」から 10 単位を履修してください。
  - ③ 外国語科目の「フランス語 I・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(計 4 単位)、「ドイツ語 I・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(計 4 単位)、「スペイン語 I・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(計 4 単位)、「ロシア語 I・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(計 4 単位)、「中国語 I・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(計 4 単位)、「韓国語 I・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(計 4 単位)、「日本語 I・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(計 4 単位)から、いずれか 4 単位を履修してください。
- (3) 選択科目(計 4 単位以上)
- ① 基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の中から必修科目と選択必修科目で履修した科目以外で 4 単位以上を履修してください。

### 文学部 コミュニケーション文化学科

次のように科目を履修し、合計 37 単位以上を修得してください。

- (1) 必修科目(計 11 単位)
- ① 基礎科目の「I 女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」(1 単位)と「Ⅱリテラシー」から「日本語 A (文章表現)」(2 単位)を履修してください。
  - ② 外国語科目の「英語 I A・I B・I C・I D・ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD」(計 8 単位)を履修してください。
- (2) 選択必修科目(計 18 単位)
- ① 基礎科目の「I 女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」「大妻教養講座Ⅱ 卒業生から学ぶ」以外の 2 単位、「Ⅲキャリア」から 2 単位を履修してください。
  - ② 教養科目の「I～Ⅳ」から 10 単位を履修してください。
  - ③ 外国語科目の「フランス語 I・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(計 4 単位)、「ドイツ語 I・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(計 4 単位)、「スペイン語 I・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(計 4 単位)、「ロシア語 I・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(計 4 単位)、「中国語 I・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(計 4 単位)、「韓国語 I・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(計 4 単位)、「日本語 I・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(計 4 単位)から、いずれか 4 単位を履修してください。
- (3) 選択科目(計 8 単位以上)
- ① 基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の中から必修科目と選択必修科目で履修した科目以外で 8 単位以上を履修してください。

## 2 全学共通科目の卒業要件

### 文学部

(2026年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数									備考							
						日本文学科			英語英文学科			コミュニケーション文化学科										
						必修	選択	選択	必修	選択	選択	必修	選択	選択								
基礎科目	I 女性とキャンパスライフ	大妻教養講座	1	半期	講義	1	1															
		大妻教養講座Ⅱ 卒業生から学ぶ	1	半期	講義	2																
		キャンパスライフとメンタルヘルス	2	半期	講義	1・2・3・4																
		女性と健康	2	半期	講義	1・2・3・4																
		ジェンダーと社会生活	2	半期	講義	1・2・3・4		2			2			2								
		女性史	2	半期	講義	1・2・3・4																
		リーダーシップ開発	2	半期	演習	2・3・4																
	II リテラシー	日本語 A (文章表現)	2	半期	講義	1					2											
		日本語 B (口頭表現)	2	半期	講義	1・2																
		日本語 C (読解)	2	半期	講義	1																
		情報基礎PC(情報活用・PC操作)	2	半期	演習	1																
		情報基礎DS(表計算活用・データリテラシー)	2	半期	演習	1																
		データサイエンス・AI概論	2	半期	講義	1																
		A I 活用	2	半期	演習	2・3・4																
	III キャリア	キャリアデザインⅠ	2	半期	講義	1・2																
		キャリアデザインⅡ	2	半期	講義	2・3																
		キャリアデザインⅢ	2	半期	講義	3・4																
		キャリア・ディベロップメント・プログラムⅠ	2	半期	演習	1・2・3・4		2				2				2						
		キャリア・ディベロップメント・プログラムⅡ	2	半期	演習	2・3・4																※
	I 人間と文化	文学の世界	2	半期	講義	1・2・3・4																
音楽の世界		2	半期	講義	1・2・3・4																	
美術の世界		2	半期	講義	1・2・3・4																	
映像・演劇の世界		2	半期	講義	1・2・3・4																	
考古学の世界		2	半期	講義	1・2・3・4																	
ポピュラー・カルチャーの世界		2	半期	講義	1・2・3・4																	
地域と文化		2	半期	講義	1・2・3・4																	
言語と文化		2	半期	講義	1・2・3・4																	
日本の歴史と文化		2	半期	講義	1・2・3・4																	
世界の歴史と文化		2	半期	講義	1・2・3・4																	
哲学と思想		2	半期	講義	1・2・3・4																	
日本文化・事情		2	半期	講義	1・2・3・4																外国人留学生優先	
II 社会と生活		子どもの世界	2	半期	講義	1・2・3・4																
		人間の成長と心理	2	半期	講義	1・2・3・4																
		日本国憲法	2	半期	講義	1・2・3・4																
	法律と現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	政治と現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4				10	18		10	4		10	8						
	経済と現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	メディアと現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	家族と現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	福祉と現代社会 (ポランティアを含む)	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	SDGsと現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4																	
III 自然と科学	数学の世界	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	生活の物理	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	生活の化学	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	科学と環境	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	生命の科学	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	宇宙の科学	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	人類の進化	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	自然科学の歴史	2	半期	講義	1・2・3・4																	
IV スポーツ	スポーツ A	1	半期	実技	1・2・3・4																	
	スポーツ B	1	半期	実技	1・2・3・4																	
	スポーツ C	1	半期	実技	1・2・3・4																	
	スポーツ D	1	半期	実技	1・2・3・4																	
	シーズン・スポーツ	1	半期 (一学期中)	実技	1・2・3・4																	
	スポーツと健康	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	レクリエーション論	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	レクリエーション実技	1	半期	実技	1・2・3・4																	



### 3 文学部日本語教員養成プログラム

#### 文学部日本語教員養成プログラムとは

日本語教員とは、日本語を第一言語としない人を対象に日本語を教える教員のことです。日本語教員は、日本国内の教育機関に在籍する留学生（外国籍児童・生徒を含む）、日本国内外の日本語学校等の日本語教育機関在籍者、技術研修生を含む定住非日本語話者等、国内外のさまざまな日本語学習者に対する日本語教育に携わります。

文学部では、国際的視野に立って社会に貢献できる日本語教員を育成するために日本語教員養成プログラムを開設しました。そして、文学部日本語教員プログラムは、2025年5月30日付で文部科学大臣より認定を受けた「登録日本語教員養成機関（C0241314）・登録実践研修機関（B0241312）」として登録されました。本学文学部のプログラムを修了した学生は、本学日本語教員養成プログラム修了証明書の交付を受けることができます。また、この交付により、国家資格の「登録日本語教員」を取得するための日本語教員試験（基礎試験・応用試験）のうち、基礎試験が免除となります。

#### 履修方法

##### （1）履修希望者へのガイダンス

履修希望者は、1年次の1月に実施される文学部日本語教員養成プログラムガイダンスに出席してください。

※詳細日時は、ガイダンス開催日の1ヵ月前にお知らせします。

##### （2）受講に要する経費

履修費（予定） 2年次 4,500円 3年次 4,500円 4年次 5,000円

（注）受講に要する経費の詳細は、履修希望者対象のガイダンスで説明します。

履修費の金額は確定ではありません。一応の目安と考えてください。

##### （3）履修科目

次頁に定められた必修科目14単位、選択必修科目6単位、選択科目6単位を履修してください。

文学部 日本語教員養成プログラム

(2025年度入学生から適用)

分野	開講科目	該当学科			単位数	必要単位数			備考
		日本文学科	英語英文学科	コミュニケーション文化学科		必修	選択必修	選択	
語学 日本	日本語学要説 / 日本語学概説	●	●	●	2	●			(注)1
	日本語学講義	●			2				
日本語教育学	日本語教授法 I	●	●	●	2	●	2		(注)2 (注)2
	日本語教授法 II	●	●	●	2				
	日本語教材研究 I	●	●	●	2	●			
	日本語教材研究 II	●	●	●	2				
	日本語教育実習 I	●	●	●	1	●			
	日本語教育実習 II	●	●	●	1	●			
言語と社会・文化・地域	日本語教育学特殊講義(社会と言語)	●	●	●	2	●	2	6 (注)3	
	比較文学	●	●	●	2				
	伝承と文学	●	●	●	2				
	日本の思想 A	●	●	●	2				
	日本の思想 B	●	●	●	2				
	日本の美術	●	●	●	2				
	日本の芸能と文化	●	●	●	2				
	日本の映像メディア	●	●	●	2				
	日本の歴史と社会	●	●	●	2				
	日本の歴史と文化	●	●	●	2				
	日本語の歴史	●	●	●	2				
	江戸・東京の文化	●	●	●	2				
	日本文化とアジア	●	●	●	2				
	日本語と社会	●	●	●	2				
	社会言語学			●	2				
	比較国際教育論			●	2				
国際関係論	●	●	●	2					
欧米文化論	●	●	●	2					
東南アジア地域研究	●	●	●	2					
言語文化論	●	●	●	2					
言語と心理・コミュニケーション	日本語教育学特殊講義(心理と言語)	●	●	●	2	●	2		
	日本語教育学演習 I	●	●	●	2				
	日本語教育学演習 II	●	●	●	2				
	日本語学演習 I	●			2				
	言語・異文化コミュニケーションID			●	2				
	言語・異文化コミュニケーションIID			●	2				
	表象・メディアコミュニケーションIB			●	2				
表象・メディアコミュニケーションIIB			●	2					
言語学	一般言語学	●	●	●	2	●			
	英語と日本語	●	●	●	2				
	英語学(文法)	●	●	●	2				
小計						14	6	6	
合計							26		

(注)1 日本文学科の学生は「日本語学概説」または「日本語学要説」、英語英文学科・コミュニケーション文化学科の学生は「日本語学要説」がプログラムの必修科目となる。

(注)2 「日本語教育実習 I」「日本語教育実習 II」は、「一般言語学」を除く本プログラム必修科目をすべて修得していることを履修の条件とする。

(注)3 必修科目および選択必修科目として修得した科目を除き、全科目から3科目6単位を修得すること。

<日本語教員養成プログラム独自の科目として開講する科目>

(2025年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	配当年次	期間	講義・演習等の別
日本語教員養成プログラム	日本語学要説	2	2・3・4	半期	講義
	日本語教授法 I	2	2・3・4	半期	講義
	日本語教授法 II	2	2・3・4	半期	講義
	日本語教材研究 I	2	2・3・4	半期	講義
	日本語教材研究 II	2	2・3・4	半期	講義
	日本語教育学特殊講義(社会と言語)	2	2・3・4	半期	講義
	日本語教育学特殊講義(心理と言語)	2	2・3・4	半期	講義
	日本語教育学演習 I	2	2・3・4	半期	演習
	日本語教育学演習 II	2	2・3・4	半期	演習
	日本語教育実習 I	1	3・4	半期	実習
日本語教育実習 II	1	3・4	半期	実習	



# 日本文学科

教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー…… 112

1年間の履修登録単位数の上限…………… 113

標準履修単位数…………… 113

専門教育科目の卒業要件…………… 114

## 日本文学科 教育研究上の目的

日本語と日本文学を通して、人間理解を深め、豊かな教養と人間性を養う。

## 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

日本文学科では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

### <知識および技能>

1. 日本文学・日本語学・漢文学の専門的知識や研究手法、さらに日本の文化・芸術・芸能・歴史・思想などの幅広い知識を用いて、社会に貢献する能力。
2. 正確で柔軟な日本語運用能力、明確なプレゼンテーション能力。

### <思考力・判断力・表現力等>

日本社会の能動的な担い手として活動するために、様々な言説や事象を冷静に調査・分析・判断し、その結果を的確に他者に向かって表現できる能力。

### <主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

1. 文化的リテラシーと教養によって新たな課題を主体的に解決するとともに、日本文学・文化・芸術・芸能の伝統を発展的に継承することができる能力。
2. 日本の文化・社会の多様性はもとより、さらに広汎に、自分とは異なる立場、異なる意見を持った人々の考えを積極的に学び理解し、問題解決のために対話を重ねられる能力。

## 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

日本文学科では、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

### <教育内容>

1. 日本文学・日本語学・漢文学を三本の柱とし、さらに日本の文化・芸術・芸能・歴史・思想などの関連した学問領域を体系的に学びます。
2. 専門教育科目は、学年順に〈学問の基礎を学ぶ〉段階から徐々に〈深く・広く学問の知識を学び、主体的に考察・表現する〉段階まで、無理なく学修できるよう配当されています。

#### [1年次]

- 上代文学・中古文学・中世文学・近世文学・近現代文学・日本語学・漢文学のすべての分野について、概説的・基礎的知識を学修します。
- 少人数クラスで《変体仮名読解》《日本古典文学入門》《漢文学入門》を学修し、古典文学の資料を扱う基礎力を養います。

#### [1・2年次]

- 少人数クラスの《基礎ゼミ》に所属し、研究とは何か、調査・考察のありかた、資料の扱い方、論文・レポートの書き方、口頭発表のやりかたなど、大学の学びの基礎を身につけます。

#### [2年次]

- 日本文学・日本語学・漢文学の講読科目や《研究の方法》、《書誌・出版》の学修を通し、主体的・専門的に日本文学・日本語学・漢文学を研究する基礎力を養います。

#### [2・3年次]

- 少人数クラスの《演習》により、主体的に問題を設定し資料の分析・調査・考察を行います。その結果をふまえて発表し他者と意見交換する力を養います。

#### [2・3・4年次]

- 日本文学・日本語学・漢文学の他、日本の文化・芸術・芸能・歴史・思想などの講義科目により、幅広い知識を身につけ、視野を広げます。

#### [3・4年次]

- 自らの関心・興味に応じて専門的な《卒業論文ゼミ》に所属して、自ら定めた課題に対し、調査・考察・判断

を行い、卒業論文を作成する力を養います。

[4年次]

- 4年間の学びの集大成として、専門的知識や関連領域の知識を総合し、自らの課題に対し、調査・考察・判断を行い卒業論文の執筆をします。
- 3. 中学校・高等学校教諭一種免許状（国語）の資格を取得するための専門教育科目を設置します。

<教育方法>

1. 《基礎ゼミ》《卒業論文ゼミ》《変体仮名読解》《日本古典文学入門》《漢文学入門》及び演習科目は、受講生数の上限を設定した少人数クラスで、効果的に専門に関する知識を身につけさせるとともに、受講生同士のコミュニケーションを促し、日本語運用能力・プレゼンテーション能力の向上を図ります。また、それぞれの受講生の関心に応じたきめ細やかな指導を行い、個性を伸ばし、主体的・独創的な思考力を育てます。
2. 講読科目・講義科目では、深く多様な知識を授けるとともに、能動的・創造的な思考の場ともなるよう、アクティブ・ラーニングを含む双方向的な指導を行います。
3. 学びの集大成である卒業論文の作成は、《卒業論文ゼミ》の授業の他、個別の指導を行い、それぞれの受講生の関心や研究計画に即した指導を行います。

<学修成果の評価法>

1. 学びの段階に応じて、日本文学・日本語学・漢文学の研究方法を身につけ、様々な言説や事象を主体的に分析・調査・判断し、その結果を的確に他者に向かって発信できるようになったか、それによって、日本文学・日本語学・漢文学の理解が深まったかを中心に評価します。
2. 学びの目的・特性により、提出課題・テスト・レポート・口頭発表・授業への取り組み等、客観的指標により評価します。卒業論文は主査・副査が査読し、客観的指標により評価します。

## 1 1年間の履修登録単位数の上限

一度に多くの科目を履修すると自宅での予習・復習の学習時間を確保することができず学習効果を妨げてしまいますので、1年間に履修できる単位数の上限を定めています。

(2022年度入学生から適用)

	履修登録単位数の上限			
	1学年	2学年	3学年	4学年
日本文学科	39	40	42	45

※諸課程科目は、この単位に含まれません。

## 2 標準履修単位数

本学では、各学年において履修すべき単位の標準（目安）を定めています。卒業年次生は、標準履修単位数が卒業要件となりますので、注意してください。

配当学年により授業時間割が変動するため、標準履修単位数を超える場合や達しない場合があります。

日本文学科

(2019年度入学生から適用)

学年	区分	全学共通科目			小計	専門必修	専門 選択必修	専門選択	小計	合計
		必修	選択必修	選択						
1学年		3	12	0	15	24	0	0	24	39
2学年		3	16	10	29	32	10	0	42	71
3学年		3	16	18	37	36	22	10	68	105
4学年		3	16	18	37	46	22	20	88	125

### 3 専門教育科目の卒業要件

#### 日本文学科

(2026 年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			備考 ◆はオープン科目
						必修	選択必修	選択	
必修科目	基礎ゼミ I	2	半期	演習	1前	46			
	日本古典文学入門	2	半期	講義	1前				
	漢文学入門	2	半期	講義	1前				
	上代文学概説	2	半期	講義	1後				
	中古文学概説	2	半期	講義	1後				
	中世文学概説	2	半期	講義	1後				
	近世文学概説	2	半期	講義	1後				
	近代文学概説	2	半期	講義	1前				
	現代文学概説	2	半期	講義	1前				
	日本語学概説	2	半期	講義	1前				
	漢文学概説	2	半期	講義	1後				
	変体仮名読解	2	半期	演習	1後				
	基礎ゼミ II	2	半期	演習	2前				
	語学・文学講読 I	2	半期	講義	2前				
	語学・文学講読 II	2	半期	講義	2後				
	書誌・出版	2	半期	講義	2・3				
	卒業論文ゼミ I	2	半期	演習	3前				
卒業論文ゼミ II	2	半期	演習	3後					
卒業論文ゼミ III	2	半期	演習	3前*4前					
卒業論文ゼミ IV	2	半期	演習	3後*4後					
卒業論文	6	半期	—	3*/4					
選択科目	上代文学演習 I	2	半期	演習	2前/3前	12			同一科目名の I・II を組み合わせて通年で履修すること
	上代文学演習 II	2	半期	演習	2後/3後				
	中古文学演習 I	2	半期	演習	2前/3前				
	中古文学演習 II	2	半期	演習	2後/3後				
	中世文学演習 I	2	半期	演習	2前/3前				
	中世文学演習 II	2	半期	演習	2後/3後				
	近世文学演習 I	2	半期	演習	2前/3前				
	近世文学演習 II	2	半期	演習	2後/3後				
	近代文学演習 I	2	半期	演習	2前/3前				
	近代文学演習 II	2	半期	演習	2後/3後				
	現代文学演習 I	2	半期	演習	2前/3前				
	現代文学演習 II	2	半期	演習	2後/3後				
	日本語学演習 I	2	半期	演習	2前/3前				
	日本語学演習 II	2	半期	演習	2後/3後				
	漢文学演習 I	2	半期	演習	2前/3前				
	漢文学演習 II	2	半期	演習	2後/3後				
	メディア文化演習 I	2	半期	演習	2前/3前				
	メディア文化演習 II	2	半期	演習	2後/3後				
	研究の方法(古典・漢文)	2	半期	講義	2	10			
	研究の方法(近現代・メディア)	2	半期	講義	2				
	研究の方法(日本語)	2	半期	講義	2				
	上代文学講義	2	半期	講義	2・3・4				
	中古文学講義	2	半期	講義	2・3・4				
	中世文学講義	2	半期	講義	2・3・4				
	近世文学講義	2	半期	講義	2・3・4				
	近代文学講義	2	半期	講義	2・3・4				
	現代文学講義	2	半期	講義	2・3・4				
	日本語学講義	2	半期	講義	2・3・4				
	漢文学講義	2	半期	講義	2・3・4				
	メディア文化論	2	半期	講義	2・3・4				
	比較文学	2	半期	講義	2・3・4				
	ジェンダーと文学	2	半期	講義	2・3・4				
	伝承と文学	2	半期	講義	2・3・4				
語学・文学特別講義	2	集中	講義	2・3・4					
語学・文学特別演習	2	半期	演習	2・3・4					
創作研究	2	半期	講義	3・4					
日本の思想 A	2	半期	講義	3・4					
日本の思想 B	2	半期	講義	3・4					
日本の美術	2	半期	講義	3・4					
日本の芸能と文化	2	半期	講義	3・4					
日本の映像メディア	2	半期	講義	3・4					
日本の歴史と社会	2	半期	講義	3・4					
日本の歴史と文化	2	半期	講義	3・4					

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			備考 ◆はオープン科目
						必修	選択必修	選択	
文学部 共通科目	言語文化を知る	日本語の歴史	2	半期	講義	3・4	20	卒業要件としては 12単位を上限とする	
		日本語と社会	2	半期	講義	3・4			
		英語と日本語	2	半期	講義	3・4			
		一般言語学	2	半期	講義	3・4			
		文字文化論	2	半期	講義	3・4			
		ドイツ文化	2	半期	講義	3・4			
		フランス文化	2	半期	講義	3・4			
		中国文化	2	半期	講義	3・4			
		韓国文化	2	半期	講義	3・4			
	地域文化を知る	江戸・東京の文化	2	半期	講義	3・4			
		日本文化とアジア	2	半期	講義	3・4			
		東南アジア文化	2	半期	講義	3・4			
		イギリス的風景	2	半期	講義	3・4			
		イギリスの階級と伝統	2	半期	講義	3・4			
		アメリカの風土と歴史	2	半期	講義	3・4			
		アメリカの文化と思想	2	半期	講義	3・4			
	メディア文化を知る	イスラム文化	2	半期	講義	3・4			
		文学・文化の理論	2	半期	講義	3・4			
		世界文学	2	半期	講義	3・4			
		ジェンダー文化論	2	半期	講義	3・4			
		映像文化論	2	半期	講義	3・4			
世界を知る	出版文化論	2	半期	講義	3・4				
	広告論	2	半期	講義	3・4				
	国内・海外研修A	1	—	—	1・2・3・4				
	国内・海外研修B	2	—	—	1・2・3・4				
	国内・海外研修C	1	—	—	1・2・3・4				
	国内・海外研修D	2	—	—	1・2・3・4				
	国内・海外研修E	1	—	—	1・2・3・4				
国内・海外研修F	2	—	—	1・2・3・4					
国内・海外研修G	1	—	—	1・2・3・4					
最低履修単位						46	22	20	
						88			

注 (1) この表は日本文学科の専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注 (2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注 (3) 専門教育科目の選択科目の単位のうち、「文学部共通科目」から卒業に必要な単位に含めることができるのは、12単位を上限とする。

注 (4) 他学科が履修を可としたオープン科目は16単位を限度として卒業に必要な「専門教育科目」の選択科目の単位に含めることができる。

注 (5) 「語外国との国際交流A・B」の単位を修得しようとする者は、文学部長が認めた3週間以上の語学研修をし、一定以上の成績を修めること。

注 (6) 「国内・海外研修A～G」の単位を修得しようとする者は、文学部長が認めた語学研修、留学プログラムに参加し、一定以上の成績を修めること。

注 (7) 教職課程履修者については、「教職課程独自の科目として開講する科目」の「書法総合演習Ⅰ」「書法総合演習Ⅱ」の4単位を専門教育科目の選択科目として、卒業に必要な単位に含めることができる。



# 英語英文学科

教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー……	118
1年間の履修登録単位数の上限……	119
標準履修単位数……	119
専門教育科目の卒業要件……	120

## 英語英文学科 教育研究上の目的

英語とそれを中心とした文学や文化の学修を通して、人間理解を深め、国際性豊かな人材を育成する。

## 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

英語英文学科では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

### <知識および技能>

国際社会への理解。英語圏の文学・英語学・英語教育学・英米文化の各領域に関する専門的な知識。英語の4技能 (Speaking, Listening, Reading, Writing) を駆使する実践的コミュニケーション能力。

### <思考力・判断力・表現力等>

英語圏の文学・英語学・英語教育学・英米文化の各領域で扱われている主題を、客観的かつ相対的に思考できる力。現代社会の抱える問題に対する建設的な判断力。自身の思考や判断を適切に表現できる力。

### <主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

国際社会において多様な価値観を尊重する態度。培った英語力を駆使して、世界の人々と積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度。英語圏の文学・英語学・英語教育学・英米文化の各領域が扱うテーマを、主体的に研究する意欲。

## 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

英語英文学科では、卒業の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー) に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

### <教育内容>

1. 1、2年次を中心に32の英語科目を配置して、これをOEP (Otsuma English Program) と総称します。これらを通じて実践的な英語力を育成します。各科目は英語の4技能 (Speaking, Listening, Reading, Writing) の中のいずれか1つに焦点を当て、その向上をめざします。また、英語力向上のための奨励策によって、TOEICなどの資格試験で高い成績を収めるための努力の継続を支えます。
2. 1年次には初年度教育として「基礎セミナー」を設置して、少人数体制で英語の効果的な学習方法を学ぶとともに、PELLEC (Program for English Literature, Linguistics, Education and Culture) と総称する4つの専門分野、すなわち英語圏の文学・英語学・英語教育学・英米文化の各領域で扱うテーマを学び始めます。さらに大学での学びを深めるためのアクティブ・ラーニングの手法を身につけます。
3. PELLECの4つの専門領域、すなわち英語圏の文学・英語学・英語教育学・英米文化の各領域の学修は、4年間を通して段階的に深めていきます。
4. 3年次からは、セミナーの中から1つを選んで2年間通して受講します。セミナーは4つの専門分野、すなわち英語圏の文学・英語学・英語教育学・英米文化のいずれかに焦点を当てて学びます。そこでの研究は4年間の学修の集大成である卒業論文としてまとめられます。

### <教育方法>

1. 1、2年次のOEP科目の授業は、プレイスメント・テストの結果に基づいて編成される習熟度別クラスで行われ、英語力を効率よく伸ばします。
2. OEP科目の「ISEC」では、4日間の合宿を行い、英語のネイティブ・スピーカーの指導を通して特にSpeakingとListeningの力を強化します。
3. 長期・短期の英語圏への留学を勧め、参加する学生を支援します。留学先で取得した単位を卒業単位として認定するので、1年間の長期留学参加者も4年間で卒業することができます。また、英語英文学科が独自に実施する「ロンドン大学音声学セミナー」では、音声学の知識と実技を学びます。
4. eラーニング・システム manaba を活用して、予習と復習さらに課題への取り組みなど授業外の充実した学習を支援します。

### <評価方法>

1. OEP 科目の「英文法（基礎）」ではグラマー・コンテストを実施して文法力の強化を、また「英文講読（発展）」の授業ではボキャブラリー・コンテストを実施して語彙力の増強を、さらに「英語発音入門」と「英語音声学演習」の授業と関連させてレシテーション・コンテストを実施して英語発音能力の向上を図ります。これらのコンテストによって学生の英語力を評価するとともに、英語学習への意欲を高めます。
2. 3 年次からのセミナーは少人数で行われ、担当教師による行き届いた指導を受けながら自主的に研究を進めます。学修の集大成として卒業論文を作成します。

## 1 1年間の履修登録単位数の上限

一度に多くの科目を履修すると自宅での予習・復習の学習時間を確保することができず学習効果を妨げてしまいますので、1 年間に履修できる単位数の上限を定めています。

(2020 年度入学生から適用)

	履修登録単位数の上限			
	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年
英語英文学科	43	40	45	45

※諸課程科目は、この単位に含まれません。

## 2 標準履修単位数

本学では、各学年において履修すべき単位の標準（目安）を定めています。卒業年次生は、標準履修単位数が卒業要件となりますので、注意してください。

配当学年により授業時間割が変動するため、標準履修単位数を超える場合や達しない場合があります。

### 英語英文学科

(2026 年度入学生から適用)

学年	区分	全学共通科目			小計	専門必修	専門選択	小計	自由選択科目	合計
		必修	選択必修	選択						
1 学年		7	12	0	19	20	4	24	0	43
2 学年		11	18	4	33	40	6	46	4	83
3 学年		11	18	4	33	44	26	70	4	107
4 学年		11	18	4	33	54	30	84	8	125



区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数		備考 ◆はオープン科目
						必修	選択	
選択科目	Discussion on Social Issues	2	半期	演習	3・4			◆英語による授業 英語による授業 英語による授業
	Proactive English	2	半期	演習	3・4			
	Learning about Japan	2	半期	演習	3・4			
	Integrated English 1 A	2	半期	演習	1・2・3・4			ALEC 必修科目 (ALEC 履修者のみ履修可、 英語による授業)
	Integrated English 1 B	2	半期	演習	1・2・3・4			
	Integrated English 2 A	2	半期	演習	1・2・3・4			
	Integrated English 2 B	2	半期	演習	1・2・3・4			
	TOEIC Preparation	2	半期	演習	1・2・3・4			
	Global Issues and Communication	2	半期	演習	2・3・4			
	Strategies for Speaking	2	半期	演習	2・3・4			
	Research and Presentation	2	半期	演習	2・3・4			
日本語の歴史	2	半期	講義	3・4			卒業要件としては 12 単位を上限とする	
日本語と社会	2	半期	講義	3・4				
英語と日本語	2	半期	講義	3・4				
一般言語学	2	半期	講義	3・4				
文字文化論	2	半期	講義	3・4				
ドイツ文化	2	半期	講義	3・4				
フランス文化	2	半期	講義	3・4				
中国文化	2	半期	講義	3・4				
韓国文化	2	半期	講義	3・4				
言語文化を知る								
地域文化を知る								
メディア文化を知る								
世界を知る								
江戸・東京の文化	2	半期	講義	3・4				
日本文化とアジア	2	半期	講義	3・4				
東南アジア文化	2	半期	講義	3・4				
イギリス的風景	2	半期	講義	3・4				
イギリスの階級と伝統	2	半期	講義	3・4				
アメリカの風土と歴史	2	半期	講義	3・4				
アメリカの文化と思想	2	半期	講義	3・4				
イスラム文化	2	半期	講義	3・4				
文学・文化の理論	2	半期	講義	3・4				
世界文学	2	半期	講義	3・4				
ジェンダー文化論	2	半期	講義	3・4				
映像文化論	2	半期	講義	3・4				
出版文化論	2	半期	講義	3・4				
広告論	2	半期	講義	3・4				
国内・海外研修 A	1	—	—	1・2・3・4				
国内・海外研修 B	2	—	—	1・2・3・4				
国内・海外研修 C	1	—	—	1・2・3・4				
国内・海外研修 D	2	—	—	1・2・3・4				
国内・海外研修 E	1	—	—	1・2・3・4				
国内・海外研修 F	2	—	—	1・2・3・4				
国内・海外研修 G	1	—	—	1・2・3・4				
最低履修単位						54	30	
						84		

注 (1) この表は英語英文学科の専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注 (2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注 (3) 他学科が履修を可としたオープン科目は 8 単位を限度として卒業に必要な自由選択科目の単位に含めることができる。

注 (4) 「国内・海外研修 A～G」の単位を修得しようとする者は、文学部長が認めた語学研修、留学プログラムに参加し、一定以上の成績を修めること。

## ALEC (Advanced Learners' English Course) の履修について

### 1. 目的

英語英文学科では、英語圏の文学、英語学、英語教育学、英米の文化の4つを専門領域 (PELLEC) として設定しています。ALEC (Advanced Learners' English Course) はこれとは別に設置し、これを履修する学生に国際社会に通用する高度な英語運用能力を身につけさせ、英語を必要とする進路 (就職・進学) に送り出すことを目的とします。

### 2. 履修と修了証

ALEC の履修は、どの専門領域を学ぶか、どの領域のゼミに所属するかに関係なく、本人の希望と英語力に基づいて認められます。修了証授与要件を満たした受講生には、卒業を待たずにその時点で文学部英語英文学科が発行する修了証を授与します。

### 3. 修了証授与要件

修了証授与要件は以下の2点です。

#### 1) 履修科目

以下の8科目を必修科目とします。これらの授業は原則として英語で行われます。

Integrated English 1A, Integrated English 1B, Integrated English 2A, Integrated English 2 B, TOEIC Preparation, Global Issues and Communication, Strategies for Speaking, Research and Presentation

また、以下の1科目を推薦科目とします。(なお、これはALEC受講生以外の学生の履修も認められる科目です。)

「英語学 (特論)」

#### 2) 外部試験のスコア・級

TOEIC® L&R785点以上の取得、または英語検定準1級以上の合格。

### 4. 定員と履修資格

1学年の定員は15名。履修資格は、英検2級に合格、またはTOEIC® L&R520点以上を取得、もしくはTOEIC Bridge® L&Rの2級相当スコア(85点)を取得していることとします。履修登録は、原則として1年次の4月、または2年次の4月。履修希望者は、英語英文学科教務委員に申込用紙と履修資格を証明する書類(合格証書またはスコア・レポート)を提出してください。

# コミュニケーション文化学科

教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー……	124
1年間の履修登録単位数の上限……	125
標準履修単位数……	125
専門教育科目の卒業要件……	126

## コミュニケーション文化学科 教育研究上の目的

国際性、現代性、学際性をキーワードに、社会・文化をとらえ、国際的なコミュニケーションの場で自立できる女性を育成する。

## 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

コミュニケーション文化学科では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

### <知識および技能>

コミュニケーションと文化を切り口に学生主体で課題解決を考える本学科では、「国際性」「現代性」「学際性」をキーワードに、以下の能力を身につけます。

1. 国際性＝世界の異なる価値観を理解し、共生と協働ができる。
2. 現代性＝歴史を踏まえた現代の文化・社会を理解し、問題の発見と解決ができる。
3. 学際性＝人文科学・社会科学の基礎知識と手法を身につけたうえで、こうした従来の学問の枠組みにとられない自由な発想と分野が開拓できる。

### <思考力・判断力・表現力等>

1. コミュニケーション能力＝異文化および価値観の異なる他者とのコミュニケーションにおいて、他者を受け入れ、知識や情報を正しく読み解いた上で、自分の考えを構築し、口頭や文章などで的確に伝えられる。
2. 論理構成能力＝自ら設定あるいは与えられた課題について、筋道立てて考え、課題の問題点と論点を発見し、表現できる。

### <主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

1. 課題解決力＝主体的に考えた上で、課題解決のために自ら行動できる。
2. 社会貢献力＝大学での主体的な学びを社会で実践し、他者を尊重しつつ、その発展に貢献することができる。

## 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

コミュニケーション文化学科では、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

### <教育内容>

1. 深く幅広い知識と教養の修得を目的とする全学共通科目、「言語・異文化コミュニケーション」「表象・メディアコミュニケーション」「社会・政策コミュニケーション」を柱とする専門教育科目を体系的に編成した授業を開講します。
2. 「言語・異文化コミュニケーション」「表象・メディアコミュニケーション」「社会・政策コミュニケーション」は、カリキュラム編成の柱です。学生は、これらの柱で構成された科目群から自由に選択して履修することができます。
3. カリキュラムは、領域横断型に編成されており、1・2年次では、専門分野を決めず、専門分野が異なる基幹教員全員によるリレー講義などで広い視野を養い、基幹教員が担当する少人数ゼミでプレゼンテーション、ディスカッションなどを通して主体性を伸ばします。また、体験や実践ができる科目も多く開設されています。
4. 日本語・外国語は、全学共通科目で日本語・英語を必修とし、欧米・アジア諸言語科目の中から選択して履修します。さらに専門教育科目で、日本語口頭表現法を必修とし、欧米・アジア諸言語の口頭表現法を選択して履修することができます。
5. 専門教育科目では、2年次で、基幹教員全員がそれぞれの分野で担当する選択必修科目を履修し、自らの興味に基づいて卒業研究ゼミを選んで、専門分野を決定します。3・4年次では、「言語・異文化コミュニケーション」「表象・メディアコミュニケーション」「社会・政策コミュニケーション」の応用科目を履修しつつ、卒業研究ゼミで卒業論文に取り組みます。また、2・3年次には、基幹教員全員がそれぞれの分野で担当する演習科目を、3年次には、卒業研究ゼミ単位でゼミ合宿や集中授業を行う特殊研究を設けています。さらに、学科の枠を越えて開設されている文学部共通科目群により、文学部の本質探究に基づいた教養を身につけることができます。
6. 以上のように、1・2年次で広い視野を養い、2・3年次で自らの専門分野を考え、3・4年次で深く専門を

探究することにより、幅広さと専門性をもつバランスのとれたT字型の能力を育成するカリキュラムとなっています。

#### <教育方法>

1. 主体的な学びの力を高めるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施します。
2. 1・2年次に開設されている必修の基幹教員が担当する少人数ゼミでは、プレゼンテーション、ディスカッションを取り入れるなど、学生の主体性を育む手法を用い、その中で、課題の気づきを促し、調査・情報収集の方法も考えます。
3. 2・3年次に開設されている、基幹教員全員がそれぞれの分野で担当する演習科目では、学生が専門の学びを通して、自らの専門分野を考えます。
4. 3・4年次に開設されている卒業研究ゼミでは、担当の基幹教員が、学生の興味に基づいて、学生の個性を伸ばすきめ細かな指導を2年間にわたり行います。
5. 学生と教員でコミュニケーション文化学会を構成し、学生主体で企画運営します。

#### <評価方法>

1. GPAをチェックし、数値が高い学生には履修単位の上限を引き上げ、低い学生には別途指導を行います。
2. 4年間の学修成果として卒業研究を重視し、複数教員により総合的評価を行います。

## 1 1年間の履修登録単位数の上限

一度に多くの科目を履修すると自宅での予習・復習の学習時間を確保することができず学習効果を妨げてしまいますので、1年間に履修できる単位数の上限を定めています。

(2020年度入学生から適用)

	履修登録単位数の上限			
	1学年	2学年	3学年	4学年
コミュニケーション文化学科	40	40	40	40

※諸課程科目は、この単位に含まれません。

## 2 標準履修単位数

本学では、各学年において履修すべき単位の標準（目安）を定めています。卒業年次生は、標準履修単位数が卒業要件となりますので、注意してください。

配当学年により授業時間割が変動するため、標準履修単位数を超える場合や達しない場合があります。

### コミュニケーション文化学科

(2025年度入学生から適用)

学年	区分	全学共通			小計	専門必修	専門選択必修	専門選択	小計	合計
		必修	選択必修	選択						
1学年		7	14	6	27	10	0	0	10	37
2学年		11	18	8	37	14	20	6	40	77
3学年		11	18	8	37	18	32	28	78	115
4学年		11	18	8	37	28	32	30	90	127

### 3 専門教育科目の卒業要件

#### コミュニケーション文化学科

(2026年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			備考 ◆はオープン科目
						必修	選択必修	選択	
必修科目	コミュニケーション文化概論A	2	半期	講義	1	28			リレー リレー  ※3年次履修は早期卒業を認められた者に限る
	コミュニケーション文化概論B	2	半期	講義	1				
	日本語口頭表現法	2	半期	演習	1				
	エンパワメントゼミⅠ	2	半期	演習	1前				
	エンパワメントゼミⅡ	2	半期	演習	1後				
	エンパワメントゼミⅢ	2	半期	演習	2前				
	エンパワメントゼミⅣ	2	半期	演習	2後				
	卒業研究ゼミⅠ	2	半期	演習	3前				
	卒業研究ゼミⅡ	2	半期	演習	3後				
	卒業研究ゼミⅢ	2	半期	演習	3前*/4前				
卒業研究ゼミⅣ	2	半期	演習	3後*/4後					
卒業論文	6	半期	—	3*/4					
選択必修科目	言語・異文化コミュニケーションⅠA	2	半期	講義	2前	16			2年次に16単位を履修することが望ましい
	言語・異文化コミュニケーションⅠB	2	半期	講義	2前				
	言語・異文化コミュニケーションⅠC	2	半期	講義	2前				
	言語・異文化コミュニケーションⅠD	2	半期	講義	2前				
	言語・異文化コミュニケーションⅡA	2	半期	講義	2後				
	言語・異文化コミュニケーションⅡB	2	半期	講義	2後				
	言語・異文化コミュニケーションⅡC	2	半期	講義	2後				
	言語・異文化コミュニケーションⅡD	2	半期	講義	2後				
	表象・メディアコミュニケーションⅠA	2	半期	講義	2前				
	表象・メディアコミュニケーションⅠB	2	半期	講義	2前				
	表象・メディアコミュニケーションⅠC	2	半期	講義	2前				
	表象・メディアコミュニケーションⅠD	2	半期	講義	2前				
	表象・メディアコミュニケーションⅠE	2	半期	講義	2前				
	表象・メディアコミュニケーションⅡA	2	半期	講義	2後				
	表象・メディアコミュニケーションⅡB	2	半期	講義	2後				
	表象・メディアコミュニケーションⅡC	2	半期	講義	2後				
	表象・メディアコミュニケーションⅡD	2	半期	講義	2後				
	表象・メディアコミュニケーションⅡE	2	半期	講義	2後				
	社会・政策コミュニケーションⅠA	2	半期	講義	2前				
	社会・政策コミュニケーションⅠB	2	半期	講義	2前				
	社会・政策コミュニケーションⅠC	2	半期	講義	2前				
	社会・政策コミュニケーションⅠD	2	半期	講義	2前				
	社会・政策コミュニケーションⅡA	2	半期	講義	2後				
	社会・政策コミュニケーションⅡB	2	半期	講義	2後				
	社会・政策コミュニケーションⅡC	2	半期	講義	2後				
	社会・政策コミュニケーションⅡD	2	半期	講義	2後				
	言語・異文化コミュニケーション演習ⅠA	2	半期	演習	2・3				
	言語・異文化コミュニケーション演習ⅠB	2	半期	演習	2・3				
	言語・異文化コミュニケーション演習ⅠC	2	半期	演習	2・3				
	言語・異文化コミュニケーション演習ⅠD	2	半期	演習	2・3				
	言語・異文化コミュニケーション演習ⅡA	2	半期	演習	2・3				
	言語・異文化コミュニケーション演習ⅡB	2	半期	演習	2・3				
	言語・異文化コミュニケーション演習ⅡC	2	半期	演習	2・3				
	言語・異文化コミュニケーション演習ⅡD	2	半期	演習	2・3				
表象・メディアコミュニケーション演習ⅠA	2	半期	演習	2・3					
表象・メディアコミュニケーション演習ⅠB	2	半期	演習	2・3					
表象・メディアコミュニケーション演習ⅠC	2	半期	演習	2・3					
表象・メディアコミュニケーション演習ⅠD	2	半期	演習	2・3					
表象・メディアコミュニケーション演習ⅠE	2	半期	演習	2・3					
表象・メディアコミュニケーション演習ⅡA	2	半期	演習	2・3					
表象・メディアコミュニケーション演習ⅡB	2	半期	演習	2・3					
表象・メディアコミュニケーション演習ⅡC	2	半期	演習	2・3					
表象・メディアコミュニケーション演習ⅡD	2	半期	演習	2・3					
表象・メディアコミュニケーション演習ⅡE	2	半期	演習	2・3					
社会・政策コミュニケーション演習ⅠA	2	半期	演習	2・3					
社会・政策コミュニケーション演習ⅠB	2	半期	演習	2・3					
社会・政策コミュニケーション演習ⅠC	2	半期	演習	2・3					
社会・政策コミュニケーション演習ⅠD	2	半期	演習	2・3					
社会・政策コミュニケーション演習ⅡA	2	半期	演習	2・3					
社会・政策コミュニケーション演習ⅡB	2	半期	演習	2・3					
社会・政策コミュニケーション演習ⅡC	2	半期	演習	2・3					
社会・政策コミュニケーション演習ⅡD	2	半期	演習	2・3					

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			備考 ◆はオープン科目
						必修	選択必修	選択	
選択科目	英語口頭表現法	2	半期	演習	1・2	30			◆
	フランス語口頭表現法	2	半期	演習	1・2				
	中国語口頭表現法	2	半期	演習	1・2				
	韓国語口頭表現法	2	半期	演習	1・2				
	ベトナム語口頭表現法	2	半期	演習	1・2				
	社会調査演習	2	半期	演習	2・3				
	コンピュータ・リテラシー	2	半期	演習	2・3				
	テクニカル・ライティング	2	半期	演習	2・3				
	コミュニケーション文化特殊研究	2	集中	演習	3後				
	リサーチ&プレゼンテーション	2	半期	演習	2・3・4				
	映像制作	2	半期	演習	2・3・4				
	スクリーン・イングリッシュ	2	半期	演習	2・3・4				
	インターシップ・アレンジメント	2	半期	演習	2・3・4				
	フィールドワーク	2	半期	演習	2・3・4				
	社会言語学	2	半期	講義	3・4				
	語用論	2	半期	講義	3・4				
	国際関係論	2	半期	講義	3・4				
	比較国際教育論	2	半期	講義	3・4				
	東南アジア地域研究	2	半期	講義	3・4				
	言語文化論	2	半期	講義	3・4				
	グローバル・ヒストリー論	2	半期	講義	3・4				
	メディア社会学	2	半期	講義	3・4				
	メディア文化論	2	半期	講義	3・4				
	映像表現論	2	半期	講義	3・4				
	欧米文化論	2	半期	講義	3・4				
	現代ジェンダー論	2	半期	講義	3・4				
	社会心理学	2	半期	講義	3・4				
	アメリカ社会論	2	半期	講義	3・4				
	サーバントリーダーシップ論	2	半期	講義	3・4				
	公共政策論	2	半期	講義	3・4				
現代正義論	2	半期	講義	3・4					
多元的社会的サステナビリティ論	2	半期	講義	3・4					
文学部 共通科目	言語文化を知る	日本語の歴史	2	半期	講義	3・4	卒業単位としては 12単位を上限とする		
		日本語と社会	2	半期	講義	3・4			
		英語と日本語	2	半期	講義	3・4			
		一般言語学	2	半期	講義	3・4			
		文字文化論	2	半期	講義	3・4			
		ドイツ文化	2	半期	講義	3・4			
	地域文化を知る	フランス文化	2	半期	講義	3・4			
		中国文化	2	半期	講義	3・4			
		韓国文化	2	半期	講義	3・4			
		江戸・東京の文化	2	半期	講義	3・4			
		日本文化とアジア	2	半期	講義	3・4			
		東南アジア文化	2	半期	講義	3・4			
		イギリス的風景	2	半期	講義	3・4			
		イギリスの階級と伝統	2	半期	講義	3・4			
	メディア文化を知る	アメリカの風土と歴史	2	半期	講義	3・4			
		アメリカの文化と思想	2	半期	講義	3・4			
		イスラム文化	2	半期	講義	3・4			
		文学・文化の理論	2	半期	講義	3・4			
		世界文学	2	半期	講義	3・4			
		ジェンダー文化論	2	半期	講義	3・4			
世界を知る	映像文化論	2	半期	講義	3・4				
	出版文化論	2	半期	講義	3・4				
	広告論	2	半期	講義	3・4				
	国内・海外研修A	1	—	—	1・2・3・4				
	国内・海外研修B	2	—	—	1・2・3・4				
	国内・海外研修C	1	—	—	1・2・3・4				
	国内・海外研修D	2	—	—	1・2・3・4				
国内・海外研修E	1	—	—	1・2・3・4					
国内・海外研修F	2	—	—	1・2・3・4					
国内・海外研修G	1	—	—	1・2・3・4					
最低履修単位						28	32	30	
						90			

注 (1) この表はコミュニケーション文化学科の専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注 (2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注 (3) 他学科が履修を可としたオープン科目は16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目の単位に含めることができる。

注 (4) 専門教育科目の選択科目の単位のうち、「文学部共通科目」から卒業に必要な単位に含めることができるのは、12単位を上限とする。

注 (5) 「国内・海外研修A～G」の単位を修得しようとする者は、文学部長が認めた語学研修、留学プログラムに参加し、一定以上の成績を修めること。



# 社会情報学部

教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー……	130
全学共通科目の履修について……	131
全学共通科目の卒業要件……	132
社会情報学科 社会生活情報学専攻……	135
社会情報学科 環境情報学専攻……	141
社会情報学科 情報デザイン専攻……	149

## 社会情報学部 教育研究上の目的

---

現代社会が要求する情報リテラシーを修得し、高度に発達したIT社会で活躍することのできる人材を養成する。

## 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

---

社会情報学部では、情報化とグローバル化が進展した現代において、自己の未来を築き、社会に貢献できる、自立的な女性を育成することを使命とします。その実現に向け以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 21世紀の情報社会において、新たな課題を見出し、情報を整理・活用し、問題を解決する能力。
2. 情報社会における生活、環境、情報の諸課題に対し、的確な意思決定をする能力。
3. 情報教育及び語学教育などで培ったコミュニケーション力をもとに、多様な社会で協力・共存することのできる能力。
4. 講義や演習、卒業研究を通じて、学部、専攻の専門的知識・技術を修得し、社会集団において主導的役割を果たしていく能力。

## 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

---

社会情報学部では、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

1. 情報処理実習などの情報教育と、英語などの語学教育を3専攻共通の基礎的科目として位置づけます。
2. 1年次に開講される少人数教育である基礎演習を出発点として、専攻ごとに社会科学、人文科学から自然科学までの文理融合の専門教育科目を総合的に学びます。
3. 3年次から必修の少人数ゼミナールと卒業研究を通じて、問題設定能力、情報の整理・活用力および問題解決力を実践的に育成します。

## 1 全学共通科目の履修について

### 社会情報学部 社会情報学科

次のように科目を履修し、社会生活情報学専攻・情報デザイン専攻は合計 30 単位以上、環境情報学専攻は合計 24 単位以上を修得してください。

- (1) 必修科目 (計 9 単位)
  - ① 基礎科目の「I 女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」(1 単位)を履修してください。
  - ② 外国語科目の「英語 I A・I B・I C・I D・II A・II B・II C・II D」(計 8 単位)を履修してください。
- (2) 選択必修科目 (計 12 単位)
  - ① 基礎科目から、「大妻教養講座」「大妻教養講座Ⅱ 卒業生から学ぶ」以外の 4 単位を履修してください。  
ただし、社会生活情報学専攻は、「II リテラシー」から履修できるのは「データサイエンス・AI 概論」のみになります。
  - ② 教養科目の「I～Ⅳ」から、8 単位を履修してください。
- (3) 選択科目 (社会生活情報学専攻・情報デザイン専攻 計 9 単位以上、環境情報学専攻 計 3 単位以上)
  - ① 基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の中から必修科目と選択必修科目で履修した科目以外に専攻によって 9 単位以上もしくは 3 単位以上を履修してください。

### ※ 注意事項

社会情報学部では「情報基礎 PC (情報活用・PC 操作)」「情報基礎 DS (表計算活用・データリテラシー)」「AI 活用」は開講されません。

## 2 全学共通科目の卒業要件

### 社会情報学部

(2026年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数									備考							
						社会生活情報学専攻			環境情報学専攻			情報デザイン専攻										
						必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択								
基礎科目	I 女性とキャンパスライフ	大妻教養講座	1	半期	講義	1	1															
	大妻教養講座Ⅱ 卒業生から学ぶ	1	半期	講義	2																	
	キャンパスライフとメンタルヘルス	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	女性と健康	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	ジェンダーと社会生活	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	女性史	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	リーダーシップ開発	2	半期	演習	2・3・4																	
	II リテラシー	日本語 A (文章表現)	2	半期	講義	1																
		日本語 B (口頭表現)	2	半期	講義	1・2																
		日本語 C (読解)	2	半期	講義	1																
		情報基礎 PC (情報活用・PC操作)	2	半期	演習	1		4														
		情報基礎 DS (表計算活用・データリテラシー)	2	半期	演習	1																
		データサイエンス・AI概論	2	半期	講義	1																
		AI活用	2	半期	演習	2・3・4																
	III キャリア	キャリアデザイン I	2	半期	講義	1・2																
		キャリアデザイン II	2	半期	講義	2・3																
		キャリアデザイン III	2	半期	講義	3・4																
		キャリア・ディベロップメント・プログラム I	2	半期	演習	1・2・3・4																
		キャリア・ディベロップメント・プログラム II	2	半期	演習	2・3・4																
	I 人間と文化	文学の世界	2	半期	講義	1・2・3・4																
		音楽の世界	2	半期	講義	1・2・3・4																
美術の世界		2	半期	講義	1・2・3・4																	
映像・演劇の世界		2	半期	講義	1・2・3・4																	
考古学の世界		2	半期	講義	1・2・3・4																	
ポピュラー・カルチャーの世界		2	半期	講義	1・2・3・4																	
地域と文化		2	半期	講義	1・2・3・4																	
言語と文化		2	半期	講義	1・2・3・4																	
日本の歴史と文化		2	半期	講義	1・2・3・4																	
世界の歴史と文化		2	半期	講義	1・2・3・4																	
哲学と思想		2	半期	講義	1・2・3・4																	
日本文化・事情		2	半期	講義	1・2・3・4																	
II 社会と生活		子どもの世界	2	半期	講義	1・2・3・4																
		人間の成長と心理	2	半期	講義	1・2・3・4																
	日本国憲法	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	法律と現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	政治と現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4		8	9														
	経済と現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	メディアと現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	家族と現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	福祉と現代社会 (ボランティアを含む)	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	SDGsと現代社会	2	半期	講義	1・2・3・4																	
III 自然と科学	数学の世界	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	生活の物理	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	生活の化学	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	科学と環境	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	生命の科学	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	宇宙の科学	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	人類の進化	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	自然科学の歴史	2	半期	講義	1・2・3・4																	
IV スポーツ	スポーツ A	1	半期	実技	1・2・3・4																	
	スポーツ B	1	半期	実技	1・2・3・4																	
	スポーツ C	1	半期	実技	1・2・3・4																	
	スポーツ D	1	半期	実技	1・2・3・4																	
	シーズン・スポーツ	1	半期 (一部集中)	実技	1・2・3・4																	
	スポーツと健康	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	レクリエーション論	2	半期	講義	1・2・3・4																	
	レクリエーション実技	1	半期	実技	1・2・3・4																	

社会生活情報学専攻は選択必修単位数に含まれない

社会情報学部は開講せず

※

外国人留学生優先

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数									備考							
						社会生活情報学専攻			環境情報学専攻			情報デザイン専攻										
						必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択								
外国語科目	英語 I A	1	半期	演習	1	8			8			8										
	英語 I B	1	半期	演習	1																	
	英語 I C	1	半期	演習	1																	
	英語 I D	1	半期	演習	1																	
	英語 II A	1	半期	演習	2																	
	英語 II B	1	半期	演習	2																	
	英語 II C	1	半期	演習	2																	
	英語 II D	1	半期	演習	2																	
	英語 III A	1	半期	演習	2																	
	英語 III B	1	半期	演習	2																	
	フランス語 I	1	半期	演習	1・2																	
	フランス語 II	1	半期	演習	1・2																	
	フランス語 III	1	半期	演習	2・3																	
	フランス語 IV	1	半期	演習	2・3																	
	ドイツ語 I	1	半期	演習	1・2																	
	ドイツ語 II	1	半期	演習	1・2																	
	ドイツ語 III	1	半期	演習	2・3																	
	ドイツ語 IV	1	半期	演習	2・3																	
	スペイン語 I	1	半期	演習	1・2																	
	スペイン語 II	1	半期	演習	1・2																	
	スペイン語 III	1	半期	演習	2・3																	
	スペイン語 IV	1	半期	演習	2・3																	
	ロシア語 I	1	半期	演習	1・2																	
	ロシア語 II	1	半期	演習	1・2																	
	ロシア語 III	1	半期	演習	2・3																	
	ロシア語 IV	1	半期	演習	2・3																	
	中国語 I	1	半期	演習	1・2																	
	中国語 II	1	半期	演習	1・2																	
	中国語 III	1	半期	演習	2・3																	
	中国語 IV	1	半期	演習	2・3																	
	韓国語 I	1	半期	演習	1・2																	
	韓国語 II	1	半期	演習	1・2																	
韓国語 III	1	半期	演習	2・3																		
韓国語 IV	1	半期	演習	2・3																		
日本語 I	1	半期	演習	1・2																		
日本語 II	1	半期	演習	1・2																		
日本語 III	1	半期	演習	2・3																		
日本語 IV	1	半期	演習	2・3																		
地域文化理解 I	2	集中	演習	1・2・3・4																		
地域文化理解 II	2	集中	演習	1・2・3・4																		
地域文化理解 III	2	集中	演習	1・2・3・4																		
国際理解(海外研修) I	2	集中	演習	1・2・3・4																		
国際理解(海外研修) II	2	集中	演習	1・2・3・4																		
国際理解(海外研修) III	2	集中	演習	1・2・3・4																		
国際理解(海外研修) IV	1	集中	演習	1・2・3・4																		
国際理解(海外研修) V	1	集中	演習	1・2・3・4																		
最低履修単位数													9	12	9	9	12	3	9	12	9	
													30			24			30			

※キャリア・ディベロップメント・プログラムⅠを修得済みであること。

注(1) この表は、全学共通科目の卒業要件である。専門教育科目については、各学科の項を参照すること。

注(2) 上記の全学共通科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割で確認すること。



# 社会情報学科 社会生活情報学専攻

教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー……	136
1年間の履修登録単位数の上限……	136
標準履修単位数……	136
専門教育科目の履修について……	137
卒業研究について……	137
専門教育科目の卒業要件……	138

## 社会情報学科 社会生活情報学専攻 教育研究上の目的

社会生活情報学専攻では、意思決定と自己表現ができる、社会知識のある女性を育成する。

## 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

社会情報学科社会生活情報学専攻では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 経済学、経営学、社会学、メディア学を中心とした専門分野の横断的な学びによる学際的思考力。
2. 社会や情報に関する知識や技能を活用して問題を発見し、解決に導く課題解決力。
3. 複雑化した現代社会のなかで自己の見解を的確に表現できる情報発信力と、多様な価値観をもった人々と協力しあえるコミュニケーション力。

## 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

社会情報学科社会生活情報学専攻では、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

1. 1年次の入門的な科目として、情報に関連する科目と現代社会の理解に必要な人文・社会科学の科目を設けます。
2. 2年次以降、三つの主要分野となる「経済学・経営学」「社会学」「メディア学」を専門的かつ体系的に学ぶための科目を配します。
3. 少人数形式の演習と個別指導を伴う卒業研究を必修科目とし、演習を1年次および3・4年次、卒業研究を4年次に行います。

## 1 1年間の履修登録単位数の上限

一度に多くの科目を履修すると自宅での予習・復習の学習時間を確保することができず学習効果を妨げてしまいますので、1年間に履修できる単位数の上限を定めています。

(2020年度入学生から適用)

	履修登録単位数の上限			
	1学年	2学年	3学年	4学年
社会情報学科 社会生活情報学専攻	44	46	46	46

※諸課程科目は、この単位に含まれません。

## 2 標準履修単位数

本学では、各学年において履修すべき単位の標準(目安)を定めています。卒業年次生は、標準履修単位数が卒業要件となりますので、注意してください。

配当学年により授業時間割が変動するため、標準履修単位数を超える場合や達しない場合があります。

### 社会情報学科 社会生活情報学専攻

(2026年度入学生から適用)

学年	区分	全学共通			小計	学部共通		専門教育			小計	自由選択科目	合計
		必修	選択必修	選択		必修	選択	必修	選択必修	選択			
1学年		5	12	0	17	8	2	8	0	8	26	0	43
2学年		9	12	5	26	8	4	12	0	28	52	4	82
3学年		9	12	9	30	8	6	16	0	42	72	6	108
4学年		9	12	9	30	8	6	26	0	42	82	12	124

### 3 専門教育科目の履修について

#### (1) 履修について

- ①他専攻の専門教育科目（選択科目）は、2年次から履修することができる。
- ②自由選択科目について
  - ・全学共通科目、専門教育科目の他に、自由選択科目の卒業必要単位を満たす必要がある。自由選択科目の卒業必要単位は12単位である。
  - ・全学共通科目（選択科目）および専門教育科目（選択科目）の卒業必要単位を超えて修得した科目の単位を、自由選択科目の卒業必要単位に含めることができる。
  - ・他専攻の専門教育科目（選択科目）および専門特殊講義（他大学との単位互換制度により修得し認定された科目）を履修し、修得した単位は10単位を上限に、自由選択科目の卒業必要単位に含めることができる。
  - ・教職課程、図書館学課程（図書館司書課程、学校図書館司書教諭課程）、博物館学芸員課程において修得した単位を、自由選択科目の卒業必要単位に含めることができる。ただし、1つの課程を履修する者は4単位を上限、2つ以上の課程を履修する者は8単位を上限とする。詳しくは履修ガイド48ページを確認すること。

#### (2) 資格取得について

教員免許状取得希望者は「[3] 諸課程について 1 教職課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意すること。

#### (3) 留学認定科目について

「異文化理解Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得しようとする者は、大妻女子大学が行っている海外留学・研修プログラム等に参加し、一定以上の成績を修めること。

### 4 卒業研究について

- (1) 社会生活情報学専攻の学生が卒業するためには、「卒業研究」を提出しなければならない。
- (2) 「卒業研究」を履修するための条件は以下のとおりとする。
  - ①3年以上在学していること（編入学者は除く）。
  - ②「社会情報学ゼミナールⅢ・Ⅳ」（第4年次）を履修すること。
- (3) 「卒業研究」を履修登録する時期は以下のとおりとする。
  - ①「卒業研究」は所定の期間に履修登録するものとする。
- (4) 「卒業研究」の審査については以下のとおりとする。
  - ①「卒業研究」は、所定の提出期間内に所定の場所に提出し、審査を受けなければならない。（期間・提出先はその都度掲示する。）
  - ②卒業研究再履修者で前期履修登録期間に「卒業研究」を登録して履修した者は、指導教員の許可を得た上で、所定の提出期間内に「卒業研究」を提出し、審査を受けることができる。（期間は別途連絡する。）
  - ③「卒業研究」の審査は、原則として、2名以上の専任教員が行う。  
なお、「卒業研究」の詳細については別に指示する。

## 5 専門教育科目の卒業要件

社会情報学科 社会生活情報学専攻

(2026年度入学生から適用)

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位数		卒業に必要な単位数	
					必修	選択		
学部 共通科目	必修	コンピュータの基礎	1	半期	講義	2	(8)	
		情報処理実習A	1	半期	実習	2		
		情報処理実習B	1	半期	実習	2		
		基礎社会学	1	半期	講義	2		
	選択	基礎統計学	1	半期	講義・演習		2	(6)
		ソフトウェア概論	1	半期	講義		2	
		経営と社会	1	半期	講義		2	
		AI入門	1	半期	講義・実習		2	
		情報基礎数学	1・2	半期	講義		2	
		社会情報概論	2	半期	講義		2	
		情報社会学論	2	半期	講義		2	
		コミュニケーション論	2	半期	講義		2	
		情報倫理	2・3	半期	講義		2	
		情報セキュリティ論	2・3	半期	講義		2	
情報と職業	3・4	半期	講義		2			
情報と法律	2・3	半期	講義		2			
建築・不動産と社会	2	半期	講義		2			
専門 教育科目	必修	経営学入門	1	半期	講義	2	(26)	
		基礎経済学	1	半期	講義	2		
		社会生活情報基礎演習Ⅰ	1	半期	演習	2		
		社会生活情報基礎演習Ⅱ	1	半期	演習	2		
		プログラミングの基礎	2	半期	講義・演習	2		
		プログラミング基礎演習	2	半期	講義・演習	2		
		社会情報学ゼミナールⅠ	3	半期	演習	2		
		社会情報学ゼミナールⅡ	3	半期	演習	2		
		社会情報学ゼミナールⅢ	4	半期	演習	2		
	社会情報学ゼミナールⅣ	4	半期	演習	2			
	卒業研究	4	半期	-	6			
	選択	経済学系	経済政策論	1・2	半期	講義		2
			マクロ経済と金融	1・2	半期	講義		2
			教育の経済学	2・3	半期	講義・演習		2
グローバル経済			2・3	半期	講義		2	
社会保障の経済学			2・3	半期	講義		2	
企業の経済学			2・3	半期	講義		2	
行動経済学			2・3	半期	講義		2	
産業界論			2・3	半期	講義		2	
情報の経済学			2・3	半期	講義		2	
経営学系		日本経済論	2・3	半期	講義		2	
		経済史	2・3	半期	講義		2	
		女性労働論	2・3	半期	講義		2	
		労働経済学	2・3	半期	講義		2	
		国際金融論	3・4	半期	講義		2	
		ネットワーク経済論	3・4	半期	講義		2	
経営学系	数学の基礎	1	半期	講義		2		
	生活の数	1	半期	講義		2		
	会計学入門	1・2	半期	講義		2		
	マーケティング入門	1・2	半期	講義		2		
	ケーススタディ経営	2	半期	演習		2		
	経営戦略論	2・3	半期	講義		2		
経営学系	企業と社会	2・3	半期	講義		2		
	経営組織論	2・3	半期	講義		2		
	簿記	2・3	半期	講義		2		

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位数		卒業に必要な単位数	
					必修	選択		
専門教育科目	経営学系	財務会計	2・3	半期	講義		2	(42)
		管理会計	2・3	半期	講義		2	
		ファイナンス	2・3	半期	講義		2	
		マーケティング・サイエンス	2・3	半期	講義		2	
		流通論	2・3	半期	講義		2	
		ブランド論	2・3	半期	講義		2	
		消費者行動論	2・3	半期	講義		2	
		マーケティング調査演習	2	半期	演習		2	
		地域経営論	3・4	半期	講義		2	
		ビジネス統計入門	1	半期	講義		2	
		ビジネス統計演習	1	半期	演習		2	
		ビジネス英語	1	半期	講義		2	
	ビジネス英会話	1	半期	講義		2		
	社会学系	現代社会論	1・2	半期	講義		2	
		都市と文化	1・2	半期	講義		2	
		ジェンダーとコロニアリズム	2・3	半期	講義		2	
		グローバリゼーションの社会学	2・3	半期	講義		2	
		量的調査演習Ⅰ	2・3	半期	演習		2	
		量的調査演習Ⅱ	2・3	半期	演習		2	
		質的調査演習	2・3	半期	演習		2	
		社会調査法	1・2・3	半期	講義・演習		2	
		情報行動論	2・3	半期	講義		2	
		情報文化史	2・3	半期	講義		2	
		移動とエスニシティ	2・3	半期	講義		2	
		都市論	2・3	半期	講義		2	
	メディア学系	社会学の理論と方法	2・3	半期	講義		2	
		メディア学基礎	1・2	半期	講義		2	
		メディア史	2・3	半期	講義		2	
		マスメディア論	2	半期	講義		2	
		情報表現法	2	半期	演習		2	
		コンテンツ産業論	2・3	半期	講義		2	
		オルタナティブ・メディア論	2・3	半期	講義		2	
		ソーシャルメディア論	2・3	半期	講義		2	
		メディア運用演習	2・3	半期	演習		2	
		メディア社会論演習	1・2	半期	演習		2	
		広告論	3・4	半期	講義		2	
オンラインデータ分析		3・4	半期	演習		2		
情報科目	メディアと社会変容	2・3	半期	講義		2		
	多文化社会論	2・3	半期	講義		2		
	A I 社会論	2・3	半期	講義		2		
	情報分析演習	2	半期	演習		2		
	情報リテラシー演習	3	半期	演習		2		
	異文化理解Ⅰ	1・2・3・4	—	—		2		
	異文化理解Ⅱ	1・2・3・4	—	—		2		
	教職課程関連科目 (のみ履修可能)	アルゴリズム論及び演習Ⅰ	3	半期	講義・演習		2	
アルゴリズム論及び演習Ⅱ	3	半期	講義・演習		2			
情報システム論及び実習Ⅰ	3	半期	講義・実習		2			
情報システム論及び実習Ⅱ	3	半期	講義・実習		2			
情報ネットワーク論及び実習Ⅰ	2・3	半期	講義・実習		2			
情報ネットワーク論及び実習Ⅱ	2・3	半期	講義・実習		2			

注 (1) この表は社会情報学科社会生活情報学専攻の専門教育科目に関する規程であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注 (2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。



# 社会情報学科 環境情報学専攻

教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー……	142
1年間の履修登録単位数の上限……	142
標準履修単位数……	142
専門教育科目の履修について……	143
卒業研究について……	143
専門教育科目の卒業要件……	144
二級建築士国家試験の受験資格……	146
ビオトープ管理士資格……	147

## 社会情報学科 環境情報学専攻 教育研究上の目的

環境情報学専攻では、環境問題の発生から解決までを学び、総合的な視点を養うことのできる人材を育成する。

### 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

社会情報学科環境情報学専攻では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 環境創成学に関する知識と、それをもとに論理的に考え、的確な意思決定を行う能力。
2. 環境に関する課題に対し、総合的かつ確かな判断のできる問題解決力。
3. 持続可能な「環境づくり」へのとりくみを表現、発信するための情報技術及びコミュニケーション能力。

### 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

社会情報学科環境情報学専攻では、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

1. 基礎となる必修科目を中心にして、環境創成学に関する知識を習得します。
2. 持続可能な環境づくりや社会の実現にむけて、実習・演習・実験などを通して、実験的に学び、専門的な技術や文理融合の授業をもとに総合的な知識を身につけます。
3. 環境に関する課題に対し、基礎演習を出発点として3年次の少人数ゼミナールと卒業研究を通して、問題設定能力および情報の整理・活用を経て、問題解決力を養います。

## 1 1年間の履修登録単位数の上限

一度に多くの科目を履修すると自宅での予習・復習の学習時間を確保することができず学習効果を妨げてしまいますので、1年間に履修できる単位数の上限を定めています。

(2020年度入学生から適用)

	履修登録単位数の上限			
	1学年	2学年	3学年	4学年
社会情報学科 環境情報学専攻	42	46	46	46

※諸課程科目は、この単位に含まれません。

## 2 標準履修単位数

本学では、各学年において履修すべき単位の標準(目安)を定めています。卒業年次生は、標準履修単位数が卒業要件となりますので、注意してください。

配当学年により授業時間割が変動するため、標準履修単位数を超える場合や達しない場合があります。

### 社会情報学科 環境情報学専攻

(2026年度入学生から適用)

学年	全学共通			小計	学部共通		専門教育			小計	自由選択科目	合計
	必修	選択必修	選択		必修	選択	必修	選択必修	選択			
1学年	5	12	0	17	6	2	6	0	10	24	0	41
2学年	9	12	3	24	6	4	6	0	30	46	10	80
3学年	9	12	3	24	6	6	12	0	52	76	10	110
4学年	9	12	3	24	6	6	16	6 または 2	56 または 60	90	10	124

### 3 専門教育科目の履修について

#### (1) 履修について

- ①他専攻の専門教育科目（選択科目）は、2年次から履修することができる。
- ②自由選択科目について
  - ・全学共通科目、専門教育科目の他に、自由選択科目の卒業必要単位を満たす必要がある。自由選択科目の卒業必要単位は10単位である。
  - ・全学共通科目（選択科目）および専門教育科目（選択科目）の卒業必要単位を超えて修得した科目の単位を、自由選択科目の卒業必要単位に含めることができる。
  - ・他専攻の専門教育科目（選択科目）および専門特殊講義（他大学との単位互換制度により修得し認定された科目）を履修し、修得した単位は10単位を上限に、自由選択科目の卒業必要単位に含めることができる。
  - ・教職課程、図書館学課程（図書館司書課程、学校図書館司書教諭課程）、博物館学芸員課程において修得した単位を、自由選択科目の卒業必要単位に含めることができる。ただし、1つの課程を履修する者は4単位を上限、2つ以上の課程を履修する者は8単位を上限とする。詳しくは履修ガイド48ページを確認すること。
- ③「社会情報学ゼミナールⅠ・Ⅱ」については全学共通科目及び学部共通科目、専門教育科目で合計50単位以上修得していることを履修の条件とする。
- ④「社会情報学ゼミナールⅢ・Ⅳ」及び「卒業研究A・B」については全学共通科目及び学部共通科目、専門教育科目で合計96単位以上修得し、かつ、第2年次までの必修科目の単位をすべて修得していることを履修の条件とする（編入生は除く）。
- ⑤「卒業研究A・B」を履修するためには3年以上在学していることを条件とする（編入生は除く）。
- ⑥先修条件の欄に科目名が示されている科目は、先修条件の科目を修得済みでないと、履修することができない。ただし、「住居デザイン演習Ⅰ」（後期開講）は、「設計製図の基礎」（前期開講）と同時に履修登録することができる。その場合、前期に「設計製図の基礎」の単位が修得できなければ、後期の「住居デザイン演習Ⅰ」は、自動的に履修が削除される。
- ⑦「力とかたちⅡ」（後期開講）は「力とかたちⅠ」（前期開講）と同時に履修登録すること。「力とかたちⅠ」を履修した結果、単位を修得できなかった場合\*も、後期に「力とかたちⅡ」を履修できる。なお、「力とかたちⅠ」を履修し単位を修得できず、次年度以降に「力とかたちⅡ」を履修する場合は、教育支援グループに申し出ること。
  - \* E評価（出席不足）を除く。

#### (2) 資格取得について

- ①二級建築士・木造建築士資格の受験資格取得希望者は「6 二級建築士国家試験の受験資格」の項を熟読し、単位の習得に十分注意すること。
- ②ビオトープ管理士資格希望者は「7 ビオトープ管理士資格（受験科目一部免除）」の項を熟読し、単位の取得に十分注意すること。
- ③教員免許状取得希望者は「3 諸課程について 1 教職課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意すること。

#### (3) 留学認定科目について

- ①「異文化理解Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得しようとする者は、大妻女子大学が行っている海外留学・研修プログラム等に参加し、一定以上の成績を修めること。

### 4 卒業研究について

- (1) 卒業研究は、原則として「卒業研究A」を履修するものであるが、3年終了時点で通算GPAが1.5未満の場合は「卒業研究B」を履修する。
- (2) 審査については以下のとおりとする。
  - ①「卒業研究A」を履修したものは卒業研究論文及び卒業研究要旨を、「卒業研究B」を履修したものは卒業研究要旨を、それぞれ、所定の提出期間内に所定の場所に提出し、審査を受けなければならない。
  - ②審査は、原則として、2名以上の専任教員が行う。

## 5 専門教育科目の卒業要件

社会情報学科 環境情報学専攻

(2026年度入学生から適用)

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位数			先修条件	資格科目	卒業に必要な単位数
					必修	選択必修	選択			
学部 共通科目	必修	コンピュータの基礎	1	半期	講義	2				(6)
		情報処理実習 A	1	半期	実習	2				
		情報処理実習 B	1	半期	実習	2				
		基礎社会学	1	半期	講義			2		(6)
		基礎統計学	1	半期	講義・演習			2		
		ソフトウェア概論	1	半期	講義			2		
		経営と社会	1	半期	講義			2		
		A I 入門	1	半期	講義・実習			2		
		情報基礎数学	1・2	半期	講義			2		
		社会情報概論	2	半期	講義			2		
		情報社会論	2	半期	講義			2		
		コミュニケーション論	2	半期	講義			2		
		情報倫理	2・3	半期	講義			2		
		情報セキュリティ論	2・3	半期	講義			2		
	情報と職業	3・4	半期	講義			2			
	情報と法律	2・3	半期	講義			2			
	建築・不動産と社会	2	半期	講義			2			
必修	環境情報学基礎演習	1	半期	演習	2				(16)	
	環境学入門	1	半期	講義	2					
	エコライフ論	1	半期	講義	2					
	環境情報処理論及び実習	3	半期	講義・実習	2					
	社会情報学ゼミナールⅠ	3	半期	演習	2		注(4)			
	社会情報学ゼミナールⅡ	3	半期	演習	2		注(4)			
	社会情報学ゼミナールⅢ	4	半期	演習	2		注(4)			
社会情報学ゼミナールⅣ	4	半期	演習	2		注(4)				
選択必修	卒業研究 A	4	半期	—		6	注(4)	2	(2)	
	卒業研究 B	4	半期	—		2	注(4)			
専門 教育 科目	人間と環境	はじめての物理	1	半期	講義			2		☆
		化学の基礎	1	半期	講義			2		
		生命のしくみ	2	半期	講義			2		
		環境と生命化学	2	半期	講義			2		
		地球環境論	2	半期	講義			2		
		住居環境論	2	半期	講義			2		
		宇宙地球科学	2	半期	講義			2		
		物理の基礎(※1)	2	半期	講義			2		
		自然科学実験(物理)	2	半期②	実験			2		
		自然科学実験(化学)	2	半期②	実験			2		
		食と環境	3	半期	講義			2		
		健康と環境	3	半期	講義			2		
		環境生理学	3	半期	講義			2		
	健康と化学物質	3	半期	講義			2			
	環境科学	3	半期	講義			2			
	住居のデザイン	住居学	1	半期	講義			2		☆
		住環境のための数学	1	半期	講義			2		
		設計製図の基礎	2	半期②	演習			2	住居学	☆
		住居デザイン演習Ⅰ	2	半期②	演習			2	設計製図の基礎	☆
		住居デザイン	2	半期	講義			2	住居学	☆
		住環境とエコデザイン	2	半期	講義			2		☆
		キッチンデザイン演習	2	半期	講義・演習			2	注(5)	☆
		力とかたちⅠ	2	半期②	講義			2	住環境のための数学	☆
		力とかたちⅡ	2	半期	講義			2	注(5)	☆
		建築と都市の歴史	2	半期	講義			2		☆
		建築と社会	2	半期	講義			2		☆
建築インテリア材料		3	半期	講義			2		☆	
住居デザイン演習Ⅱ		3	半期②	演習			2	設計製図の基礎・住居デザイン演習Ⅰ	☆	
C A D 演習	3	半期	講義・演習			2		☆		
建築法規と都市デザイン	3	半期	講義			2	◆	☆		
住環境実験・演習	3	半期②	講義・演習			2		☆		
建築設備	3	半期	講義			2		☆		

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位数			先修条件	資格科目	卒業に必要な単位数
					必修	選択必修	選択			
専門 教育 科目	持続的なくらしと社会	サステナブル社会論	2	半期	講義			2		
		環境と経済Ⅰ	2・3	半期	講義			2		
		環境と法律Ⅰ	2・3	半期	講義			2	◆◇	
		環境と経営	2・3	半期	講義			2		
		環境とツーリズム	3	半期	講義			2		
		環境とまちづくり	3	半期	講義			2	◆☆	
		環境マネジメント論	3	半期	講義			2		
		気候変動と社会	3	半期	講義			2		
		地域環境論	3	半期	講義・演習			2		☆
		環境と経済Ⅱ	3・4	半期	講義			2		
		環境と法律Ⅱ	3・4	半期	講義			2	◆◇	
		環境とアグリビジネス	3・4	半期	講義			2		
		環境とマーケティング	3・4	半期	講義			2		
		エネルギーと環境	3・4	半期	講義			2		
		国際関係と環境法	3・4	半期	講義			2		
	環境との共生	環境デザイン論	1	半期	講義			2	◆◇☆	
		自然科学入門	1	半期	講義・演習			2		
		地学の基礎	1	半期	講義			2		
		海の環境学	2	半期	講義			2		
		環境保護論	2	半期	講義			2	◆◇	
		環境アセスメント論	2	半期	講義			2		☆
		エコロジー	2	半期	講義			2	◆◇	
		生物の基礎	2	半期	講義			2		
		環境生態デザイン	3	半期	講義			2	◇☆	
		フィールドワーク	3	半期②	実習			2	◆◇	
		ビオトープ論	3	半期	講義			2	◆◇☆	
		建築デザイン	3	半期	講義			2		☆
		環境教育	3	半期	講義			2		
		自然科学実験(生物)	3	半期②	実験			2		
		自然科学実験(地学)	3	半期②	実験			2		
処 理 報 告	プログラミングの基礎	2	半期	講義・演習			2			
	プログラミング基礎演習	2	半期	講義・演習			2			
科 認 留 目 定 学	異文化理解Ⅰ	1・2・3・4	—	—			2			
	異文化理解Ⅱ	1・2・3・4	—	—			2			

※1 隔年開講。

注(1) この表は社会情報学科環境情報学専攻の専門教育科目に関する規程であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3) ◆印はビオトープ計画管理士2級試験一部免除に必要な科目。◇印はビオトープ施工管理士2級試験一部免除に必要な科目。

☆印は二級建築士・木造建築士試験指定科目。

注(4) 「社会情報学ゼミナールⅠ/Ⅱ」は全学共通科目及び学部共通・専門教育科目・自由選択科目で合計50単位以上、「社会情報学ゼミナールⅢ/Ⅳ」及び「卒業研究A/B」は全学共通科目及び学部共通・専門教育科目・自由選択科目で合計96単位以上取得し、かつ、第2年次までの必修科目の単位をすべて取得(編入学生は除く)していることを履修の条件とする。

注(5) 「キッチンデザイン演習」は専門選択科目の「設計製図の基礎」を同時に履修登録すること。「力とかたちⅡ」は専門選択科目の「力とかたちⅠ」を同時に履修登録すること。

62

(56+6)  
または  
(60+2)

## 6 二級建築士国家試験の受験資格

### 受験資格取得方法について

本専攻では、以下の2条件を満たした場合、卒業後、国家試験の受験ができます（二級建築士受験資格が得られます）。

- ① 国土交通大臣による指定科目分類（表中 ABCDE）ごとに必要な単位数（必須単位数）を満たすこと
- ② 指定科目分類 A から F までの単位を合計で 20 単位以上取得すること

卒業時に要件を満たした場合は、受験資格を得たことを示す「指定科目修得単位証明書卒業証明書」が発行されます。

なお、建築士免許登録には、二級建築士試験（学科の試験、設計製図の試験）に合格した上で、実務経験が必要になります。建築士免許登録の際までに必要な実務経験年数は②の単位の取得状況に応じて変わります。40 単位で実務経験 0 年、30 単位以上 39 単位で実務経験 1 年、20 単位以上 29 単位で実務経験 2 年が必要となります。

### 二級建築士受験資格取得に必要な科目、単位数

(2026 年度入学生から適用)

国土交通大臣による指定科目の分類等		左記に対応する本学開設科目及び単位数	
分類毎の指定科目	最低修得単位数	本学開設科目	単位数
A 建築設計製図	3	設計製図の基礎	2
		住居デザイン演習Ⅰ	2
		住居デザイン演習Ⅱ	2
		キッチンデザイン演習	2
B 建築計画、建築環境工学又は建築設備	2	住居学	2
		住居デザイン	2
		建築デザイン	2
		住居環境論	2
C 構造力学、建築一般構造又は建築材料	3	力とかたちⅠ	2
		力とかたちⅡ	2
		建築インテリア材料	2
D 建築生産	1	建築と社会	2
E 建築法規	1	建築法規と都市デザイン	2
F その他		環境デザイン論	2
		環境アセスメント論	2
		建築と都市の歴史	2
		環境とまちづくり	2
		住環境実験・演習	2
		環境生態デザイン	2
		ビオトープ論	2
		C A D 演習	2
		地域環境論	2
住環境とエコデザイン	2		
A～Eの合計		10	28
A～Fの合計		20～40	48

### その他

先修条件などに注意して、履修計画を立ててください。

詳細は掲示や専攻で実施するガイダンスなどで必ず確認してください。特に履修に関しては変更になることがあるので、掲示など常に確認して下さい。

## 7 ビオトープ管理士資格（受験科目一部免除）

### ビオトープ管理士について

ビオトープ管理士は、地域の自然生態系を守り、取り戻す「ビオトープ事業」を効果的に推進するために必要な知識、技術、評価・応用能力を持つ者に与えられる、公益財団法人日本生態系協会が認定する資格です。

ビオトープ管理士には以下の2種類の資格があります。

- ①ビオトープ計画管理士 地域の自然生態系の保護・保全、復元、創出の理念や、野生生物などの調査技術を踏まえた、広域的な地域計画（都市計画、農村計画など）のプランナー
- ②ビオトープ施工管理士 地域の自然生態系の保護・保全、復元、創出の理念や、野生生物などの調査技術を踏まえた、設計・施工にあたる事業現場担当の技術者

### 受験科目の一部免除が適用される学科・専攻

社会情報学科 環境情報学専攻

### 資格取得方法について

年1回（秋頃）に実施される資格試験を受験し合格したのち、住民票による本人確認を経て、公益財団法人日本生態系協会により有資格者として認証され、資格を取得することができます。

社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻の在学学生、および卒業後5年未満の卒業生に対しては、「2級ビオトープ計画管理士資格試験」「2級ビオトープ施工管理士資格試験」を受験する際に、下表に該当する科目の単位を「修得済み」であるか、または受験する年度内に「修得見込み（履修中）」であることを受験申込時に申告する事で、各受験科目のうち「択一問題」の半分が免除されます。

### ビオトープ管理士試験 受験科目一部免除の適用に必要な科目

(2025年度入学生から適用)

本学開設科目	配当年次	単位数	2級ビオトープ 計画管理士	2級ビオトープ 施工管理士	試験科目における位置付け	
					共通科目	専門科目
環境デザイン論	1	2	◆	◇	ビオトープ論	計画部門、施工部門
環境保護論	2	2	◆	◇	ビオトープ論、環境関連法	計画部門、施工部門
エコロジー	2	2	◆	◇	生態学、ビオトープ論	計画部門、施工部門
環境と法律Ⅰ	2・3	2	◆	◇	環境関連法	計画部門、施工部門
環境と法律Ⅱ	3・4	2	◆	◇	環境関連法	計画部門、施工部門
フィールドワーク	3	1	◆	◇	生態学	計画部門、施行部門
ビオトープ論	3	2	◆	◇	ビオトープ論	計画部門、施工部門
環境とまちづくり	3	2	◆			計画部門
建築法規と都市デザイン	3	2	◆			計画部門
環境生態デザイン	3	2		◇		施工部門

### 注意、その他

- ・1回の受験機会に際し、「2級ビオトープ計画管理士資格試験」あるいは「2級ビオトープ施工管理士資格試験」のいずれか一方しか受験できません。
- ・単位修得見込み（履修中）として試験を受けたのち、その科目の単位が修得できなかった場合、各試験に合格しても合格は取り消しとなります。
- ・詳細は掲示や専攻で実施するガイダンスなどで必ず確認してください。特に履修に関することについては変更になることがあるので、掲示など常に確認してください。



# 社会情報学科 情報デザイン専攻

教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー……	150
1年間の履修登録単位数の上限……	150
標準履修単位数……	150
専門教育科目の履修について……	151
卒業研究について……	151
専門教育科目の卒業要件……	152

## 社会情報学科 情報デザイン専攻 教育研究上の目的

情報デザイン専攻では、高度な情報処理能力によって情報システムを具現化できる人材、及びヒューマンスキルに基づいて情報を的確に表現できる人材を育成する。

## 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

社会情報学科情報デザイン専攻では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 情報とシステム及び情報とデザインに関する知識や技能を理解・修得し、新たな課題を見出し、問題を解決する能力。
2. 実践的な情報処理能力、コミュニケーション力を用い、諸課題に対し、的確な意思決定をし、未来を築いていく能力。
3. 学修や研究を通して、修得した、情報とシステム及び情報とデザインに関する知識や技能を、社会の中で主体的に活用できる能力。

## 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

社会情報学科情報デザイン専攻では、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

1. 情報基礎科目により、基本的な情報処理能力の理論的、技術的知識を修得します。
2. システム系科目及びデザイン系科目により、情報とシステム及び情報とデザインに関する幅広い専門分野を総合的に学びます。
3. 自ら設定したテーマに沿って、計画を立て、調査、分析、考察、発表を行うことで実践的な力を育成します。

## 1 1年間の履修登録単位数の上限

一度に多くの科目を履修すると自宅での予習・復習の学習時間を確保することができず学習効果を妨げてしまいますので、1年間に履修できる単位数の上限を定めています。

(2020年度入学生から適用)

	履修登録単位数の上限			
	1学年	2学年	3学年	4学年
社会情報学科 情報デザイン専攻	44	48	52	46

※諸課程科目は、この単位に含まれません。

## 2 標準履修単位数

本学では、各学年において履修すべき単位の標準(目安)を定めています。卒業年次生は、標準履修単位数が卒業要件となりますので、注意してください。

配当学年により授業時間割が変動するため、標準履修単位数を超える場合や達しない場合があります。

### 社会情報学科 情報デザイン専攻

(2026年度入学生から適用)

学年	区分	全学共通			小計	学部共通		専門教育			小計	自由選択科目	合計
		必修	選択必修	選択		必修	選択	必修	選択必修	選択			
1学年		5	12	1	18	8	4	12	0	0	24	0	42
2学年		9	12	7	28	8	6	22	0	14	50	4	82
3学年		9	12	9	30	8	8	30	0	24	70	14	114
4学年		9	12	9	30	8	8	40	0	24	80	14	124

### 3 専門教育科目の履修について

#### (1) 履修について

- ①他専攻の専門教育科目（選択科目）は、2年次から履修することができる。
- ②自由選択科目について
  - ・全学共通科目、専門教育科目の他に、自由選択科目の卒業必要単位を満たす必要がある。自由選択科目の卒業必要単位は14単位である。
  - ・全学共通科目（選択科目）および専門教育科目（選択科目）の卒業必要単位を超えて修得した科目の単位を、自由選択科目の卒業必要単位に含めることができる。
  - ・社会情報学部その他専攻の専門教育科目（選択科目）および専門特殊講義（他大学との単位互換制度により修得し認定された科目）を履修し、修得した単位は10単位を上限に、自由選択科目の卒業必要単位に含めることができる。
  - ・教職課程、図書館学課程（図書館司書課程、学校図書館司書教諭課程）、博物館学芸員課程において修得した単位を、自由選択科目の卒業必要単位に含めることができる。ただし、1つの課程を履修する者は4単位を上限、2つ以上の課程を履修する者は8単位を上限とする。詳しくは履修ガイド48ページを確認すること。
- ③「社会情報学ゼミナールⅠ・Ⅱ」については全学共通科目及び学部共通科目、専門教育科目で合計50単位以上修得していることを履修の条件とする。

#### (2) 資格取得について

- ①教員免許状取得希望者は「[3] 諸課程について 1 教職課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意すること。

#### (3) 留学認定科目について

- ①「異文化理解Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得しようとする者は、大妻女子大学が行っている海外留学・研修プログラム等に参加し、一定以上の成績を修めること。

### 4 卒業研究について

- (1) 情報デザイン専攻の学生が卒業するためには、「卒業研究」を提出しなければならない。
- (2) 「卒業研究」を履修するための条件は以下のとおりとする。
  - ①3年以上在学していること（編入学者は除く）。
  - ②原則として、指導教員の担当する「社会情報学ゼミナールⅢ・Ⅳ」（第4年次）を履修すること。
- (3) 「卒業研究」を履修登録する時期は以下のとおりとする。
  - ①「卒業研究」は所定の期間に履修登録するものとする。
- (4) 「卒業研究」の審査については以下のとおりとする。
  - ①「卒業研究」は、所定の提出期間内に所定の場所に提出し、審査を受けなければならない。（期間・提出先はその都度掲示する。）
  - ②卒業研究再履修者で前期履修登録期間に「卒業研究」を登録して履修した者は、指導教員の許可を得た上で、所定の提出期間内に「卒業研究」を提出し、審査を受けることができる。（期間は別途連絡する。）
  - ③「卒業研究」の審査は、原則として、2名以上の専任教員が行う。  
なお、「卒業研究」の詳細については別に指示する。

## 5 専門教育科目の卒業要件

### 社会情報学科 情報デザイン専攻

(2026年度入学生から適用)

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位数		先修条件	卒業に必要な単位数	
					必修	選択			
学部 共通 科目	必修	コンピュータの基礎	1	半期	講義	2		(8)	
		情報処理実習A	1	半期	実習	2			
		情報処理実習B	1	半期	実習	2			
		情報基礎数学	1	半期	講義	2			
	選択	基礎社会学	1	半期	講義		2		(8)
		基礎統計学	1	半期	講義・演習		2		
		ソフトウェア概論	1	半期	講義		2		
		経営と社会	1	半期	講義		2		
		A I 入門	1	半期	講義・実習		2		
		社会情報概論	2	半期	講義		2		
		情報社会学	2	半期	講義		2		
		コミュニケーション論	2	半期	講義		2		
		情報倫理	2・3	半期	講義		2		
		情報セキュリティ論	2・3	半期	講義		2		
情報と職業	3・4	半期	講義		2				
情報と法律	2・3	半期	講義		2				
建築・不動産と社会	2	半期	講義		2				
専門 教育 科目	情報基礎	情報デザイン原論	1	半期	講義	2		(40)	
		情報数学A	1	半期	講義	2			
	システム	情報システム論及び実習Ⅰ	3	半期	講義・実習	2			
		情報システム論及び実習Ⅱ	3	半期	講義・実習	2			
		プログラミング入門	1	半期	講義・演習	2			
		プログラミングの基礎	2	半期	講義・演習	2			
		プログラミング基礎演習	2	半期	講義・演習	2			
		プログラミング論及び演習	2	半期②	講義・演習	4			
	デザイン	デザイン論及び演習Ⅰ	1	半期	講義・演習	2			
		デザイン論及び演習Ⅱ	1	半期	講義・演習	2			
	総合学習	情報デザイン基礎演習	1	半期	演習	2			
		クリエイティブ思考法Ⅰ	2	半期	講義・演習	2			
		社会情報学ゼミナールⅠ	3	半期	演習	2	注(3)		
		社会情報学ゼミナールⅡ	3	半期	演習	2	注(3)		
		社会情報学ゼミナールⅢ	4	半期	演習	2			
		社会情報学ゼミナールⅣ	4	半期	演習	2			
	卒業研究	4	半期	-	6				
	情報基礎	情報数学B	2	半期	講義		2		
		情報とモデル	2・3・4	半期	講義		2		
		統計処理及び演習	2・3	半期	講義・演習		2		
		AIデータ分析	3	半期	講義・演習		2		
		数値計算論	3	半期	講義		2		
		情報処理機器概論	1・2	半期	講義		2		
スマートデバイス論		2	半期	講義		2			
A I 社会論		2	半期	講義		2			
経営情報システム論		3・4	半期	講義		2			
選択		情報ネットワーク論及び実習Ⅰ	2・3	半期	講義・実習		2		
		情報ネットワーク論及び実習Ⅱ	2・3	半期	講義・実習		2	情報ネットワーク論及び実習Ⅰ	
		オフィスマネジメント論Ⅰ	2	半期	講義		2		
		オフィスマネジメント論Ⅱ	2	半期	講義		2		
		情報管理	2・3	半期	講義		2		
		システム	アルゴリズム論及び演習Ⅰ	3	半期	講義・演習		2	
	アルゴリズム論及び演習Ⅱ		3	半期	講義・演習		2		
	シミュレーション論		2・3・4	半期	講義		2		
	スマートデバイス応用Ⅰ		3	半期	講義・演習		2		
	スマートデバイス応用Ⅱ		3	半期	講義・演習		2		
	オブジェクト指向プログラミング論及び実習Ⅰ		3	半期	講義・演習		2		
	オブジェクト指向プログラミング論及び実習Ⅱ		3	半期	講義・演習		2	オブジェクト指向プログラミング論及び実習Ⅰ	
	Webプログラミング		3	半期	講義・演習		2		
AIプログラミング	3	半期	講義・演習		2				

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位数		先修条件	卒業に必要な単位数
					必修	選択		
専門教育科目 選択	サービスデザイン	2	半期	講義・演習		2		(24)
	認知科学	2	半期	講義		2		
	デジタルコンテンツ	2	半期	講義・演習		2		
	デジタルコンテンツ応用	2	半期	講義・演習		2		
	メディアアートⅠ	3	半期	講義・演習		2		
	メディアアートⅡ	3	半期	講義・演習		2		
	感性デザイン及び演習	3	半期	講義・演習		2		
	ウェブデザイン	3	半期	講義・演習		2		
	音声・音響デザイン	3・4	半期	講義・演習		2		
	インタフェースデザイン論	2	半期	講義・演習		2		
	グラフィックデザイン	2	半期	講義・実習		2		
	インタラクションデザイン	2	半期	講義・実習		2		
	コンピュータ・グラフィックスⅠ	2	半期	講義・演習		2		
	コンピュータ・グラフィックスⅡ	2	半期	講義・演習		2	コンピュータ・グラフィックスⅠ	
	画像情報処理論及び演習	3・4	半期	講義・演習		2		
総合 学習 科目 指定	クリエイティブ思考法Ⅱ	2	半期	講義・演習		2	クリエイティブ思考法Ⅰ	
	異文化理解Ⅰ	1・2・3・4	—	—		2		
	異文化理解Ⅱ	1・2・3・4	—	—		2		

注(1) この表は社会情報学科情報デザイン専攻の専門教育科目に関する規程であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3) 「社会情報学ゼミナールⅠ・Ⅱ」は全学共通科目及び学部共通・専門教育科目で合計50単位以上取得していることを履修の条件とする。



# 比較文化学部

教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー……	156
全学共通科目の履修について……	157
全学共通科目の卒業要件……	158
1年間の履修登録単位数の上限……	160
標準履修単位数……	160
コースについて……	160
卒業論文について……	160
専門教育科目の卒業要件……	161

## 比較文化学部 教育研究上の目的

---

[比較文化学科]

2カ国語を修得し、各地域毎の文学、美術、宗教、政治、歴史などを日本文化と比較研究することにより、急激に変化する国際社会にも柔軟に対応できる人材を育成する。

## 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

---

比較文化学部比較文化学科では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

<知識および技能>

比較文化学の学修で獲得した日本文化と異文化についての専門知識と外国語運用能力活用し、国際化が進む世界に貢献していく能力。

<思考力・判断力・表現力等>

演習での討論や卒業論文の執筆を通して養った思考力や表現力によって、多文化共生社会に求められる新たな文化を創造し、発信していく能力。

<主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

自他の文化比較によって深めた異文化理解や他者理解を基盤に、主体的に多様な人々と協働しながら問題解決をはかっていく能力。

## 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

---

比較文化学部比較文化学科では、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

<知識および技能>

1. 世界各地の多様な文化を理解するために、日本および外国の文学・芸術・宗教・歴史・政治・社会について講義や演習で専門的に学びます。
2. 国際化が進む世界で求められる語学力を養うために、英語に加え、フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国語のいずれかを学修します。

<思考力・判断力・表現力等>

多文化共生社会で求められる思考力・判断力・表現力を、演習での報告や討論と卒業論文の執筆によって養います。

<主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度>

自他の文化比較によって異文化理解や他者理解を深め、主体的に多様な人々と協働して問題解決をはかっていく能力を養います。

## 1 全学共通科目の履修について

### 比較文化学部 比較文化学科

次のように科目を履修し、合計 38 単位以上を修得してください。

#### (1) 必修科目 (計 13 単位)

- ① 基礎科目の「Ⅰ女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」(1 単位)を履修してください。
- ② 基礎科目の「Ⅱリテラシー」から「情報基礎 PC (情報活用・PC 操作)」(2 単位)を履修してください。
- ③ 外国語科目の「英語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD・ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD・ⅢA・ⅢB」(計 10 単位)を履修してください。

#### (2) 選択必修科目 (計 16 単位)

- ① 基礎科目の「Ⅰ女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」「大妻教養講座Ⅱ 卒業生から学ぶ」以外の 2 単位、「Ⅱリテラシー」の「日本語A～C」から 2 単位、「Ⅲキャリア」から 2 単位を履修してください。
- ② 教養科目の「Ⅰ～Ⅳ」から 6 単位を履修してください。
- ③ 外国語科目 (英語以外) から同一言語のⅠ～Ⅳ (計 4 単位) を履修してください。

#### (3) 選択科目 (計 9 単位以上)

- ① 基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の中から必修科目と選択必修科目で履修した科目以外に 9 単位以上を履修してください。

## 2 全学共通科目の卒業要件

### 比較文化学部

(2026年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			備考					
						比較文化学科								
						必修	選択必修	選択						
基礎科目	I 女性とキャンパスライフ	大妻教養講座	1	半期	講義	1	1	2						
		大妻教養講座Ⅱ 卒業生から学ぶ	1	半期	講義	2								
		キャンパスライフとメンタルヘルス	2	半期	講義	1・2・3・4								
		女性と健康	2	半期	講義	1・2・3・4								
		ジェンダーと社会生活	2	半期	講義	1・2・3・4								
		女性史	2	半期	講義	1・2・3・4								
		リーダーシップ開発	2	半期	演習	2・3・4								
	II リテラシー	日本語A(文章表現)	2	半期	講義	1	2							
		日本語B(口頭表現)	2	半期	講義	1・2								
		日本語C(読解)	2	半期	講義	1								
		情報基礎PC(情報活用・PC操作)	2	半期	演習	1								
		情報基礎DS(表計算活用・データリテラシー)	2	半期	演習	1								
		データサイエンス・AI概論	2	半期	講義	1								
		AI活用	2	半期	演習	2・3・4								
	III キャリア	キャリアデザインⅠ	2	半期	講義	1・2	2							
		キャリアデザインⅡ	2	半期	講義	2・3								
		キャリアデザインⅢ	2	半期	講義	3・4								
		キャリア・ディベロップメント・プログラムⅠ	2	半期	演習	1・2・3・4								
		キャリア・ディベロップメント・プログラムⅡ	2	半期	演習	2・3・4			キャリア・ディベロップメント・プログラムⅠを修得済みであること					
I 人間と文化	文学の世界	2	半期	講義	1・2・3・4									
	音楽の世界	2	半期	講義	1・2・3・4									
	美術の世界	2	半期	講義	1・2・3・4									
	映像・演劇の世界	2	半期	講義	1・2・3・4									
	考古学の世界	2	半期	講義	1・2・3・4									
	ポピュラー・カルチャーの世界	2	半期	講義	1・2・3・4									
	地域と文化	2	半期	講義	1・2・3・4									
	言語と文化	2	半期	講義	1・2・3・4									
	日本の歴史と文化	2	半期	講義	1・2・3・4									
	世界の歴史と文化	2	半期	講義	1・2・3・4									
	哲学と思想	2	半期	講義	1・2・3・4									
	日本文化・事情	2	半期	講義	1・2・3・4									
	II 社会と生活	子どもの世界	2	半期	講義					1・2・3・4				
		人間の成長と心理	2	半期	講義					1・2・3・4				
		日本国憲法	2	半期	講義					1・2・3・4				
法律と現代社会		2	半期	講義	1・2・3・4									
政治と現代社会		2	半期	講義	1・2・3・4									
経済と現代社会		2	半期	講義	1・2・3・4									
メディアと現代社会		2	半期	講義	1・2・3・4									
家族と現代社会		2	半期	講義	1・2・3・4									
福祉と現代社会(ボランティアを含む)		2	半期	講義	1・2・3・4									
SDGsと現代社会		2	半期	講義	1・2・3・4									
III 自然と科学	数学の世界	2	半期	講義	1・2・3・4									
	生活の物理	2	半期	講義	1・2・3・4									
	生活の化学	2	半期	講義	1・2・3・4									
	科学と環境	2	半期	講義	1・2・3・4									
	生命の科学	2	半期	講義	1・2・3・4									
	宇宙の科学	2	半期	講義	1・2・3・4									
	人類の進化	2	半期	講義	1・2・3・4									
自然科学の歴史	2	半期	講義	1・2・3・4										
IV スポーツ	スポーツA	1	半期	実技	1・2・3・4									
	スポーツB	1	半期	実技	1・2・3・4									
	スポーツC	1	半期	実技	1・2・3・4									
	スポーツD	1	半期	実技	1・2・3・4									
	シーズン・スポーツ	1	半期 (一学期中)	実技	1・2・3・4									
	スポーツと健康	2	半期	講義	1・2・3・4									
	レクリエーション論	2	半期	講義	1・2・3・4									
	レクリエーション実技	1	半期	実技	1・2・3・4									

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			備考
						比較文化学科			
						必修	選択必修	選択	
外国語科目	英語 I A	1	半期	演習	1	10			
	英語 I B	1	半期	演習	1				
	英語 I C	1	半期	演習	1				
	英語 I D	1	半期	演習	1				
	英語 II A	1	半期	演習	2				
	英語 II B	1	半期	演習	2				
	英語 II C	1	半期	演習	2				
	英語 II D	1	半期	演習	2				
	英語 III A	1	半期	演習	2				
	英語 III B	1	半期	演習	2				
	フランス語 I	1	半期	演習	1・2				
	フランス語 II	1	半期	演習	1・2				
	フランス語 III	1	半期	演習	2・3				
	フランス語 IV	1	半期	演習	2・3				
	ドイツ語 I	1	半期	演習	1・2				
	ドイツ語 II	1	半期	演習	1・2				
	ドイツ語 III	1	半期	演習	2・3				
	ドイツ語 IV	1	半期	演習	2・3				
	スペイン語 I	1	半期	演習	1・2				
	スペイン語 II	1	半期	演習	1・2				
	スペイン語 III	1	半期	演習	2・3				
	スペイン語 IV	1	半期	演習	2・3				
	ロシア語 I	1	半期	演習	1・2		4		
	ロシア語 II	1	半期	演習	1・2				
	ロシア語 III	1	半期	演習	2・3				
	ロシア語 IV	1	半期	演習	2・3				
	中国語 I	1	半期	演習	1・2				
	中国語 II	1	半期	演習	1・2				
	中国語 III	1	半期	演習	2・3				
	中国語 IV	1	半期	演習	2・3				
	韓国語 I	1	半期	演習	1・2				
	韓国語 II	1	半期	演習	1・2				
韓国語 III	1	半期	演習	2・3					
韓国語 IV	1	半期	演習	2・3					
日本語 I	1	半期	演習	1・2				外国人留学生対象	
日本語 II	1	半期	演習	1・2					
日本語 III	1	半期	演習	2・3					
日本語 IV	1	半期	演習	2・3					
国際理解科目・地域文化	地域文化理解 I	2	集中	演習	1・2・3・4				
	地域文化理解 II	2	集中	演習	1・2・3・4				
	地域文化理解 III	2	集中	演習	1・2・3・4				
	国際理解(海外研修) I	2	集中	演習	1・2・3・4				
	国際理解(海外研修) II	2	集中	演習	1・2・3・4				
	国際理解(海外研修) III	2	集中	演習	1・2・3・4				
	国際理解(海外研修) IV	1	集中	演習	1・2・3・4				
	国際理解(海外研修) V	1	集中	演習	1・2・3・4				
	最低履修単位数								

注 (1) この表は、全学共通科目の卒業要件である。専門教育科目については、各学科の項を参照すること。

注 (2) 上記の全学共通科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間制で確認すること。

### 3 1年間の履修登録単位数の上限

一度に多くの科目を履修すると自宅での予習・復習の学習時間を確保することができず学習効果を妨げてしまいますので、1年間に履修できる単位数の上限を定めています。

(2020年度入学生から適用)

	履修登録単位数の上限			
	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年
比較文化学科	45	48	46	46

※諸課程科目は、この単位に含まれません。

### 4 標準履修単位数

本学では、各学年において履修すべき単位の標準（目安）を定めています。卒業年次生は、標準履修単位数が卒業要件となりますので、注意してください。

配当学年により授業時間割が変動するため、標準履修単位数を超える場合や達しない場合があります。

#### 比較文化学科

(2026年度入学生から適用)

区分 学年	全学共通			小計	学部共通			専門教育					合計	
	必修	選択必修	選択		日本・国際	演習・実習	小計	基礎	文化研究	言語	関連	セミナー		小計
1 学年	7	16	7	30	8	4	12	0	0	0	0	0	0	42
2 学年	13	16	9	38	10	14	24	12	0	2	4	0	18	80
3 学年	13	16	9	38	12	20	32	12	8	6	12	0	38	108
4 学年	13	16	9	38	12	20	32	12	12	8	14	10	56	126

### 5 コースについて

- (1) コースの決定は、第1年次の終了時までに行います。
- (2) 希望者が偏った場合は、調整することがあります。

### 6 卒業論文について

#### (1) 卒業論文に関する規定

- ①比較文化学科の学生が卒業するためには、「卒業論文」を提出しなければなりません。卒業論文は専門教育科目の必修単位（6単位）です。
- ②卒業論文の審査は、原則として専任教員2名が行います。
- ③卒業論文の題目は、あらかじめ指導教員の承認を受けて提出してください。いったん届け出た題目の変更は、原則として認められません。
- ④卒業論文は、指定された期間内に、指定された方法で本人が提出して、審査を申請しなければなりません。

#### (2) 卒業論文作成要領

論文の執筆にあたっては、次の事項に注意してください。

- ①提出締切日の厳守。当該年度に配布される行事予定表に書いてある提出日の指定時間までに提出しなければなりません。
- ②論文は、日本語、外国語（英、独、仏、中国語のいずれか）のどちらで書いてもかまいません。日本語の論文の場合、長さは400字詰原稿用紙50枚前後とします。外国語の場合は、それに準ずる長さとしします。
- ③論文は、縦書き、横書き、いずれでもかまいません。ページ番号を振り、最終ページ下部に本文・注・参考文献表を合わせた総文字数を記入してください。要旨と目次は総文字数に含まれません。
- ④日本語、外国語のどちらで書く場合にも、論文の要旨を日本語あるいは外国語で書き、目次の前に付けてください。日本語の要旨は1,200字前後とします。外国語の場合は、それに準ずる長さとしします。
- ⑤目次と参考文献表を必ず付けてください。参考文献の提示方法と引用の仕方、注の付け方は、指導教員の指示に従ってください。

- ⑥保存用ファイルは学部指定のものを使って提出してください。  
 ⑦その他の事柄については、比較文化学部の指示に従ってください。

## 7 専門教育科目の卒業要件

### 比較文化学科

(2026年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位数	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			備考				
						必修	選択必修	選択					
学部 共通 科目	日本文化	日本の歴史と風土	2	半期	講義	1・2	6						
		日本の社会と民俗	2	半期	講義	1・2							
		日本の思想と宗教	2	半期	講義	1・2							
		日本の美術	2	半期	講義	1・2							
		日本の近代化と世界	2	半期	講義	1・2							
	国際関係・国際交流	文化交流論	2	半期	講義	1・2	6						
		国際関係論	2	半期	講義	1・2							
		国家と民族	2	半期	講義	3・4							
		多国籍企業論	2	半期	講義	3・4							
	比較文化	言語と比較文化	2	半期	講義	2・3	4	8					
		比較文学論(方法と実践)	2	半期	講義	2・3							
		比較文学論(テーマと考察)	2	半期	講義	2・3							
		比較演劇論(古典)	2	半期	講義	2・3							
		比較演劇論(近現代)	2	半期	講義	2・3							
		言語科学入門	2	半期	講義	2・3							
		国際政治経済論	2	半期	講義	2・3							
		基礎	比較文化入門	2	半期	演習				1	6	8	
			体験で学ぶ比較文化	2	半期	演習				1			
			比較文化論	2	半期	講義				2			
	比較社会論		2	半期	講義	2・3							
日本文学(古典)	2		半期	講義	1・2								
日本文学(近現代)	2		半期	講義	1・2								
外国語	外国語で学ぶ比較文化	2	半期	講義	3・4	2							
	ジェンダー論	2	半期	講義	2・3								
	表象文化論	2	半期	講義	2・3								
	フランス語Ⅴ	1	半期	演習	2								
	フランス語Ⅵ	1	半期	演習	2								
	ドイツ語Ⅴ	1	半期	演習	2								
	ドイツ語Ⅵ	1	半期	演習	2								
	スペイン語Ⅴ	1	半期	演習	2								
	スペイン語Ⅵ	1	半期	演習	2								
	ロシア語Ⅴ	1	半期	演習	2								
ロシア語Ⅵ	1	半期	演習	2									
中国語Ⅴ	1	半期	演習	2									
中国語Ⅵ	1	半期	演習	2									
韓国語Ⅴ	1	半期	演習	2									
韓国語Ⅵ	1	半期	演習	2									
最低履修単位数						6	18	8					
							32						

注 (1) この表は比較文化学科の専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注 (2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注 (3) 外国語科目のⅤ、Ⅵは全学共通科目で履修した外国語科目(英語以外)と同一科目を履修すること。

アジア文化コース

(2026年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			備考	
						必修	選択必修	選択		
専門教育科目化	基礎	アジア研究入門A I (文化と社会)	2	半期	講義	2	12			
		アジア研究入門A II (文化と社会)	2	半期	講義	2				
		アジア研究入門B I (思想と宗教)	2	半期	講義	2				
		アジア研究入門B II (思想と宗教)	2	半期	講義	2				
		アジア研究入門C I (文学と芸術)	2	半期	講義	2				
		アジア研究入門C II (文学と芸術)	2	半期	講義	2				
	文化研究	アジア文化研究A I	2	半期	講義	3・4	12 注(7)			
		アジア文化研究A II	2	半期	講義	3・4				
		アジア文化研究B I	2	半期	講義	3・4				
		アジア文化研究B II	2	半期	講義	3・4				
		アジア文化研究C I	2	半期	講義	3・4				
		アジア文化研究C II	2	半期	講義	3・4				
		アジア文化研究D I	2	半期	講義	3・4				
		アジア文化研究D II	2	半期	講義	3・4				
		アジア文化研究E I	2	半期	講義	3・4				
		アジア文化研究E II	2	半期	講義	3・4				
	言語	中国語	中国語セミナーA I (理解)	1	半期	演習	*2・3・4	8 注(5) 注(8)		
			中国語セミナーA II (理解)	1	半期	演習	*2・3・4			
			中国語セミナーB I (表現)	1	半期	演習	2・3・4			
			中国語セミナーB II (表現)	1	半期	演習	2・3・4			
			中国語セミナーC I (総合)	1	半期	演習	2・3・4			
			中国語セミナーC II (総合)	1	半期	演習	2・3・4			
		英語	英語セミナーD I (発展)	1	半期	演習	3・4			
			英語セミナーD II (発展)	1	半期	演習	3・4			
			英語セミナーA I (理解)	1	半期	演習	*2・3・4			
			英語セミナーA II (理解)	1	半期	演習	*2・3・4			
			英語セミナーB I (表現)	1	半期	演習	2・3・4			
			英語セミナーB II (表現)	1	半期	演習	2・3・4			
		フランス語	英語セミナーC I (総合)	1	半期	演習	*2・3・4			
			英語セミナーC II (総合)	1	半期	演習	*2・3・4			
英語セミナーD I (発展)			1	半期	演習	3・4				
英語セミナーD II (発展)			1	半期	演習	3・4				
フランス語セミナーA I (理解)			1	半期	演習	*2・3・4				
フランス語セミナーA II (理解)			1	半期	演習	*2・3・4				
フランス語セミナーB I (表現)			1	半期	演習	2・3・4				
フランス語セミナーB II (表現)			1	半期	演習	2・3・4				
フランス語セミナーC I (総合)			1	半期	演習	2・3・4				
フランス語セミナーC II (総合)			1	半期	演習	2・3・4				
フランス語セミナーD I (発展)			1	半期	演習	3・4				
フランス語セミナーD II (発展)			1	半期	演習	3・4				
ドイツ語	ドイツ語セミナーA I (理解)	1	半期	演習	*2・3・4					
	ドイツ語セミナーA II (理解)	1	半期	演習	*2・3・4					
	ドイツ語セミナーB I (表現)	1	半期	演習	2・3・4					
	ドイツ語セミナーB II (表現)	1	半期	演習	2・3・4					
	ドイツ語セミナーC I (総合)	1	半期	演習	2・3・4					
	ドイツ語セミナーC II (総合)	1	半期	演習	2・3・4					
ドイツ語セミナーD I (発展)	1	半期	演習	3・4						
ドイツ語セミナーD II (発展)	1	半期	演習	3・4						

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			備考		
						必修	選択必修	選択			
専 門 教 育 科 目	比較文化演習Ⅰ	2	半期	演習	3	4	10		注(9)		
	比較文化演習Ⅱ	2	半期	演習	3						
	比較文化演習(副ゼミ)Ⅰ	2	半期	演習	3						
	比較文化演習(副ゼミ)Ⅱ	2	半期	演習	3						
	都市文化論	2	半期	講義	2・3・4						
	日韓関係論	2	半期	講義	2・3・4						
	日中関係論	2	半期	講義	2・3・4						
	日米関係論	2	半期	講義	2・3・4						
	日欧関係論	2	半期	講義	2・3・4						
	イスラムの文化と社会	2	半期	講義	2・3・4						
	ロシア・東欧事情	2	半期	講義	2・3・4						
	口承文芸と民間信仰	2	半期	講義	2・3・4						
	多民族・多文化社会	2	半期	講義	2・3・4						
	アメリカ文化研究AⅠ	2	半期	講義	3・4						
	アメリカ文化研究AⅡ	2	半期	講義	3・4						
	アメリカ文化研究BⅠ	2	半期	講義	3・4						
	アメリカ文化研究BⅡ	2	半期	講義	3・4						
	アメリカ文化研究CⅠ	2	半期	講義	3・4						
	アメリカ文化研究CⅡ	2	半期	講義	3・4						
	アメリカ文化研究DⅠ	2	半期	講義	3・4						
	アメリカ文化研究DⅡ	2	半期	講義	3・4						
	アメリカ文化研究EⅠ	2	半期	講義	3・4						
	アメリカ文化研究EⅡ	2	半期	講義	3・4						
	ヨーロッパ文化研究AⅠ	2	半期	講義	3・4						注(3) 注(4)
	ヨーロッパ文化研究AⅡ	2	半期	講義	3・4						
	ヨーロッパ文化研究BⅠ	2	半期	講義	3・4						
	ヨーロッパ文化研究BⅡ	2	半期	講義	3・4						
	ヨーロッパ文化研究CⅠ	2	半期	講義	3・4						
	ヨーロッパ文化研究CⅡ	2	半期	講義	3・4						
	ヨーロッパ文化研究DⅠ	2	半期	講義	3・4						
	ヨーロッパ文化研究DⅡ	2	半期	講義	3・4						
	ヨーロッパ文化研究EⅠ	2	半期	講義	3・4						
ヨーロッパ文化研究EⅡ	2	半期	講義	3・4							
諸外国との国際交流Ⅰ	2	-	-	1・2・3・4				注(11)			
諸外国との国際交流Ⅱ	2	-	-	1・2・3・4							
諸外国との国際交流Ⅲ	2	-	-	1・2・3・4							
諸外国との国際交流Ⅳ	2	-	-	1・2・3・4							
セミナー	比較文化セミナーⅠ	2	半期	演習	4	10			注(12)		
	比較文化セミナーⅡ	2	半期	演習	4						
	卒業論文	6	半期	-	4						
最低履修単位数						26	20	10			
						56					

注(1) この表は比較文化学科アジア文化コースの専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3) 科目によっては先修条件がつく場合があるので、シラバスをよく読んで選択すること。

注(4) 関連科目として、他のコースの文化研究を含めることができる。

注(5) 専門言語の科目は、①中国語8単位、②中国語4単位・英語4単位、③英語8単位、④英語4単位・フランス語4単位、⑤英語4単位・ドイツ語4単位のいずれかを履修する。

専門言語履修にあたっては、比較文化学部の指示に従うこと。

注(6) 配当年次に\*印のある科目は2年次に履修することが望ましい。

注(7) 同一科目名のⅠ、Ⅱを併せて履修すること。

注(8) 同一科目名のセミナーⅠ、Ⅱを併せて履修すること(同一教員が担当するセミナーを履修することが望ましい)。

注(9) 同一教員が担当する演習Ⅰ、Ⅱを併せて履修すること。演習Ⅰを修得していない場合は、演習Ⅱを履修できない。

注(10) 事前に申告して認められた者のみ、ふたつめの比較文化演習を副ゼミとして履修することができる。

注(11) 「諸外国との国際交流Ⅰ～Ⅳ」の単位を修得しようとする者は、大妻女子大学が行っている海外語学研修プログラムに参加し、一定以上の成績を修めること。

注(12) 同一教員が担当するセミナーⅠ、Ⅱを併せて履修すること。

アメリカ文化コース

(2026年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			備考
						必修	選択必修	選択	
専 門 教 育 科 目	基礎	アメリカ研究入門AⅠ(文化と社会)	2	半期	講義	2	12		
		アメリカ研究入門AⅡ(文化と社会)	2	半期	講義	2			
		アメリカ研究入門BⅠ(思想と宗教)	2	半期	講義	2			
		アメリカ研究入門BⅡ(思想と宗教)	2	半期	講義	2			
		アメリカ研究入門CⅠ(文学と芸術)	2	半期	講義	2			
		アメリカ研究入門CⅡ(文学と芸術)	2	半期	講義	2			
	文化研究	アメリカ文化研究AⅠ	2	半期	講義	3・4	12 注(7)		
		アメリカ文化研究AⅡ	2	半期	講義	3・4			
		アメリカ文化研究BⅠ	2	半期	講義	3・4			
		アメリカ文化研究BⅡ	2	半期	講義	3・4			
		アメリカ文化研究CⅠ	2	半期	講義	3・4			
		アメリカ文化研究CⅡ	2	半期	講義	3・4			
		アメリカ文化研究DⅠ	2	半期	講義	3・4			
		アメリカ文化研究DⅡ	2	半期	講義	3・4			
		アメリカ文化研究EⅠ	2	半期	講義	3・4			
		アメリカ文化研究EⅡ	2	半期	講義	3・4			
	ア メ リ カ 文 化 語	英語セミナーAⅠ(理解)	1	半期	演習	*2・3・4	8 注(5) 注(8)		
		英語セミナーAⅡ(理解)	1	半期	演習	*2・3・4			
		英語セミナーBⅠ(表現)	1	半期	演習	2・3・4			
		英語セミナーBⅡ(表現)	1	半期	演習	2・3・4			
		英語セミナーCⅠ(総合)	1	半期	演習	*2・3・4			
		英語セミナーCⅡ(総合)	1	半期	演習	*2・3・4			
		英語セミナーDⅠ(発展)	1	半期	演習	3・4			
		英語セミナーDⅡ(発展)	1	半期	演習	3・4			
		中国語セミナーAⅠ(理解)	1	半期	演習	*2・3・4			
		中国語セミナーAⅡ(理解)	1	半期	演習	*2・3・4			
		中国語セミナーBⅠ(表現)	1	半期	演習	2・3・4			
		中国語セミナーBⅡ(表現)	1	半期	演習	2・3・4			
		中国語セミナーCⅠ(総合)	1	半期	演習	2・3・4			
		中国語セミナーCⅡ(総合)	1	半期	演習	2・3・4			
		中国語セミナーDⅠ(発展)	1	半期	演習	3・4			
		中国語セミナーDⅡ(発展)	1	半期	演習	3・4			
		フランス語セミナーAⅠ(理解)	1	半期	演習	*2・3・4			
フランス語セミナーAⅡ(理解)		1	半期	演習	*2・3・4				
フランス語セミナーBⅠ(表現)		1	半期	演習	2・3・4				
フランス語セミナーBⅡ(表現)		1	半期	演習	2・3・4				
フランス語セミナーCⅠ(総合)		1	半期	演習	2・3・4				
フランス語セミナーCⅡ(総合)		1	半期	演習	2・3・4				
フランス語セミナーDⅠ(発展)		1	半期	演習	3・4				
フランス語セミナーDⅡ(発展)		1	半期	演習	3・4				
ドイツ語セミナーAⅠ(理解)		1	半期	演習	*2・3・4				
ドイツ語セミナーAⅡ(理解)		1	半期	演習	*2・3・4				
ドイツ語セミナーBⅠ(表現)		1	半期	演習	2・3・4				
ドイツ語セミナーBⅡ(表現)		1	半期	演習	2・3・4				
ドイツ語セミナーCⅠ(総合)		1	半期	演習	2・3・4				
ドイツ語セミナーCⅡ(総合)		1	半期	演習	2・3・4				
ドイツ語セミナーDⅠ(発展)	1	半期	演習	3・4					
ドイツ語セミナーDⅡ(発展)	1	半期	演習	3・4					

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			備考		
						必修	選択必修	選択			
専 門 教 育 科 目	比較文化演習Ⅰ	2	半期	演習	3	4	10	10	注(9)		
	比較文化演習Ⅱ	2	半期	演習	3						
	比較文化演習(副ゼミ)Ⅰ	2	半期	演習	3						
	比較文化演習(副ゼミ)Ⅱ	2	半期	演習	3						
	都市文化論	2	半期	講義	2・3・4						
	日韓関係論	2	半期	講義	2・3・4						
	日中関係論	2	半期	講義	2・3・4						
	日米関係論	2	半期	講義	2・3・4						
	日欧関係論	2	半期	講義	2・3・4						
	イスラムの文化と社会	2	半期	講義	2・3・4						
	ロシア・東欧事情	2	半期	講義	2・3・4						
	口承文芸と民間信仰	2	半期	講義	2・3・4						
	多民族・多文化社会	2	半期	講義	2・3・4						
	アジア文化研究AⅠ	2	半期	講義	3・4						
	アジア文化研究AⅡ	2	半期	講義	3・4						
	アジア文化研究BⅠ	2	半期	講義	3・4						
	アジア文化研究BⅡ	2	半期	講義	3・4						
	アジア文化研究CⅠ	2	半期	講義	3・4						
	アジア文化研究CⅡ	2	半期	講義	3・4						
	アジア文化研究DⅠ	2	半期	講義	3・4						
	アジア文化研究DⅡ	2	半期	講義	3・4						
	アジア文化研究EⅠ	2	半期	講義	3・4						
	アジア文化研究EⅡ	2	半期	講義	3・4						
	ヨーロッパ文化研究AⅠ	2	半期	講義	3・4						注(3) 注(4)
	ヨーロッパ文化研究AⅡ	2	半期	講義	3・4						
	ヨーロッパ文化研究BⅠ	2	半期	講義	3・4						
	ヨーロッパ文化研究BⅡ	2	半期	講義	3・4						
	ヨーロッパ文化研究CⅠ	2	半期	講義	3・4						
	ヨーロッパ文化研究CⅡ	2	半期	講義	3・4						
	ヨーロッパ文化研究DⅠ	2	半期	講義	3・4						
	ヨーロッパ文化研究DⅡ	2	半期	講義	3・4						
	ヨーロッパ文化研究EⅠ	2	半期	講義	3・4						
ヨーロッパ文化研究EⅡ	2	半期	講義	3・4							
諸外国との国際交流Ⅰ	2	-	-	1・2・3・4							
諸外国との国際交流Ⅱ	2	-	-	1・2・3・4							
諸外国との国際交流Ⅲ	2	-	-	1・2・3・4							
諸外国との国際交流Ⅳ	2	-	-	1・2・3・4				注(11)			
セミナー	比較文化セミナーⅠ	2	半期	演習	4	10			注(12)		
	比較文化セミナーⅡ	2	半期	演習	4						
	卒業論文	6	半期	-	4						
最低履修単位数						26	20	10			
						56					

注(1) この表は比較文化学科アメリカ文化コースの専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3) 科目によっては先修条件がつく場合があるので、シラバスをよく読んで選択すること。

注(4) 関連科目として、他のコースの文化研究を含めることができる。

注(5) 専門言語の科目は、英語8単位または英語4単位・その他の1言語4単位を履修する。

専門言語履修にあたっては、比較文化学部の指示に従うこと。

注(6) 配当年次に\*印のある科目は2年次に履修することが望ましい。

注(7) 同一科目名のⅠ、Ⅱを併せて履修すること。

注(8) 同一科目名のセミナーⅠ、Ⅱを併せて履修すること(同一教員が担当するセミナーを履修することが望ましい)。

注(9) 同一教員が担当する演習Ⅰ、Ⅱを併せて履修すること。演習Ⅰを修得していない場合は、演習Ⅱを履修できない。

注(10) 事前に申告して認められた者のみ、ふたつめの比較文化演習を副ゼミとして履修することができる。

注(11) 「諸外国との国際交流Ⅰ～Ⅳ」の単位を修得しようとする者は、大妻女子大学が行っている海外語学研修プログラムに参加し、一定以上の成績を修めること。

注(12) 同一教員が担当するセミナーⅠ、Ⅱを併せて履修すること。

ヨーロッパ文化コース

(2026年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			備考
						必修	選択必修	選択	
専 門 教 育 科 目	基礎	ヨーロッパ研究入門A I (文化と社会)	2	半期	講義	2	12		
		ヨーロッパ研究入門A II (文化と社会)	2	半期	講義	2			
		ヨーロッパ研究入門B I (思想と宗教)	2	半期	講義	2			
		ヨーロッパ研究入門B II (思想と宗教)	2	半期	講義	2			
		ヨーロッパ研究入門C I (文学と芸術)	2	半期	講義	2			
		ヨーロッパ研究入門C II (文学と芸術)	2	半期	講義	2			
	文化研究	ヨーロッパ文化研究A I	2	半期	講義	3・4	12 注(7)		
		ヨーロッパ文化研究A II	2	半期	講義	3・4			
		ヨーロッパ文化研究B I	2	半期	講義	3・4			
		ヨーロッパ文化研究B II	2	半期	講義	3・4			
		ヨーロッパ文化研究C I	2	半期	講義	3・4			
		ヨーロッパ文化研究C II	2	半期	講義	3・4			
		ヨーロッパ文化研究D I	2	半期	講義	3・4			
		ヨーロッパ文化研究D II	2	半期	講義	3・4			
		ヨーロッパ文化研究E I	2	半期	講義	3・4			
		ヨーロッパ文化研究E II	2	半期	講義	3・4			
	ヨーロッパ文化 言語	フランス語セミナーA I (理解)	1	半期	演習	*2・3・4	8 注(5) 注(8)		
		フランス語セミナーA II (理解)	1	半期	演習	*2・3・4			
		フランス語セミナーB I (表現)	1	半期	演習	2・3・4			
		フランス語セミナーB II (表現)	1	半期	演習	2・3・4			
		フランス語セミナーC I (総合)	1	半期	演習	2・3・4			
		フランス語セミナーC II (総合)	1	半期	演習	2・3・4			
		フランス語セミナーD I (発展)	1	半期	演習	3・4			
		フランス語セミナーD II (発展)	1	半期	演習	3・4			
		ドイツ語セミナーA I (理解)	1	半期	演習	*2・3・4			
		ドイツ語セミナーA II (理解)	1	半期	演習	*2・3・4			
		ドイツ語セミナーB I (表現)	1	半期	演習	2・3・4			
		ドイツ語セミナーB II (表現)	1	半期	演習	2・3・4			
		ドイツ語セミナーC I (総合)	1	半期	演習	2・3・4			
		ドイツ語セミナーC II (総合)	1	半期	演習	2・3・4			
		ドイツ語セミナーD I (発展)	1	半期	演習	3・4			
		ドイツ語セミナーD II (発展)	1	半期	演習	3・4			
		英語セミナーA I (理解)	1	半期	演習	*2・3・4			
		英語セミナーA II (理解)	1	半期	演習	*2・3・4			
		英語セミナーB I (表現)	1	半期	演習	2・3・4			
		英語セミナーB II (表現)	1	半期	演習	2・3・4			
英語セミナーC I (総合)		1	半期	演習	*2・3・4				
英語セミナーC II (総合)		1	半期	演習	*2・3・4				
英語セミナーD I (発展)		1	半期	演習	3・4				
英語セミナーD II (発展)		1	半期	演習	3・4				
中国語セミナーA I (理解)		1	半期	演習	*2・3・4				
中国語セミナーA II (理解)		1	半期	演習	*2・3・4				
中国語セミナーB I (表現)		1	半期	演習	2・3・4				
中国語セミナーB II (表現)		1	半期	演習	2・3・4				
中国語セミナーC I (総合)		1	半期	演習	2・3・4				
中国語セミナーC II (総合)		1	半期	演習	2・3・4				
中国語セミナーD I (発展)	1	半期	演習	3・4					
中国語セミナーD II (発展)	1	半期	演習	3・4					

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			備考		
						必修	選択必修	選択			
専 門 教 育 科 目	比較文化演習Ⅰ	2	半期	演習	3	4		10	注(9)		
	比較文化演習Ⅱ	2	半期	演習	3						
	比較文化演習(副ゼミ)Ⅰ	2	半期	演習	3						
	比較文化演習(副ゼミ)Ⅱ	2	半期	演習	3						
	都市文化論	2	半期	講義	2・3・4						
	日韓関係論	2	半期	講義	2・3・4						
	日中関係論	2	半期	講義	2・3・4						
	日米関係論	2	半期	講義	2・3・4						
	日欧関係論	2	半期	講義	2・3・4						
	イスラムの文化と社会	2	半期	講義	2・3・4						
	ロシア・東欧事情	2	半期	講義	2・3・4						
	口承文芸と民間信仰	2	半期	講義	2・3・4						
	多民族・多文化社会	2	半期	講義	2・3・4						
	アジア文化研究AⅠ	2	半期	講義	3・4						
	アジア文化研究AⅡ	2	半期	講義	3・4						
	アジア文化研究BⅠ	2	半期	講義	3・4						
	アジア文化研究BⅡ	2	半期	講義	3・4						
	アジア文化研究CⅠ	2	半期	講義	3・4						
	アジア文化研究CⅡ	2	半期	講義	3・4						
	アジア文化研究DⅠ	2	半期	講義	3・4						
	アジア文化研究DⅡ	2	半期	講義	3・4						
	アジア文化研究EⅠ	2	半期	講義	3・4						
	アジア文化研究EⅡ	2	半期	講義	3・4						
	アメリカ文化研究AⅠ	2	半期	講義	3・4						注(3) 注(4)
	アメリカ文化研究AⅡ	2	半期	講義	3・4						
	アメリカ文化研究BⅠ	2	半期	講義	3・4						
	アメリカ文化研究BⅡ	2	半期	講義	3・4						
	アメリカ文化研究CⅠ	2	半期	講義	3・4						
	アメリカ文化研究CⅡ	2	半期	講義	3・4						
	アメリカ文化研究DⅠ	2	半期	講義	3・4						
	アメリカ文化研究DⅡ	2	半期	講義	3・4						
	アメリカ文化研究EⅠ	2	半期	講義	3・4						
アメリカ文化研究EⅡ	2	半期	講義	3・4							
諸外国との国際交流Ⅰ	2	-	-	1・2・3・4							
諸外国との国際交流Ⅱ	2	-	-	1・2・3・4							
諸外国との国際交流Ⅲ	2	-	-	1・2・3・4							
諸外国との国際交流Ⅳ	2	-	-	1・2・3・4				注(11)			
セ ミ ナ ー	比較文化セミナーⅠ	2	半期	演習	4	10			注(12)		
	比較文化セミナーⅡ	2	半期	演習	4						
	卒業論文	6	半期	-	4						
最低履修単位数						26	20	10			
						56					

注(1) この表は比較文化学科ヨーロッパ文化コースの専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3) 科目によっては先修条件がつく場合があるので、シラバスをよく読んで選択すること。

注(4) 関連科目として、他のコースの文化研究を含めることができる。

注(5) 専門言語の科目は、①フランス語8単位、②フランス語4単位・英語4単位、③ドイツ語8単位、④ドイツ語4単位・英語4単位、⑤英語8単位、⑥英語4単位・中国語4単位のいずれかを履修する。

専門言語履修にあたっては、比較文化学部の指示に従うこと。

注(6) 配当年次に\*印のある科目は2年次に履修することが望ましい。

注(7) 同一科目名のⅠ、Ⅱを併せて履修すること。

注(8) 同一科目名のセミナーⅠ、Ⅱを併せて履修すること(同一教員が担当するセミナーを履修することが望ましい)。

注(9) 同一教員が担当する演習Ⅰ、Ⅱを併せて履修すること。演習Ⅰを修得していない場合は、演習Ⅱを履修できない。

注(10) 事前に申告して認められた者のみ、ふたつめの比較文化演習を副ゼミとして履修することができる。

注(11) 「諸外国との国際交流Ⅰ～Ⅳ」の単位を修得しようとする者は、大妻女子大学が行っている海外語学研修プログラムに参加し、一定以上の成績を修めること。

注(12) 同一教員が担当するセミナーⅠ、Ⅱを併せて履修すること。



# データサイエンス学部

教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー……	170
全学共通科目の履修について……	171
1年間の履修登録単位数の上限……	171
標準履修単位数……	171
全学共通科目の卒業要件……	172
専門教育科目の卒業要件……	174

## データサイエンス学部 教育研究上の目的

[データサイエンス学科]

データサイエンスの知識やスキルを修得し、ビジネスや社会の課題の設定や解決ができる文理融合人材を育成する。

### 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

データサイエンス学部データサイエンス学科では、以下の要件や能力を身に付け、学則に定める所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与する。

1. 社会と人間に関する幅広い知識と教養を修得して、社会が抱える課題を見いだす能力を備えている。
2. 数学や統計・情報等のデータサイエンスに関する基礎的な知識や技能及びそれらの応用能力を備えている。
3. ビジネスに関する経済学・経営学の基礎的な専門知識を有し、データの収集・整理・分析・活用の技能と結び付けて修得している。
4. ビジネスの知識とデータサイエンスの基礎的応用力を結び付けて、データを収集・整理・分析・活用するプロジェクトに貢献できる能力を備えている。また、多様な人々と協働し、様々な場面でリーダーシップを発揮しながら、主体性と倫理観を持って課題を発見し解決していく能力を備えている。

### 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

データサイエンス学部データサイエンス学科では、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行う。

1. データサイエンスの知識を社会や人間と関連付けて理解するため、幅広い知識と教養を修得できる全学共通科目を設置する。また、汎用的なコミュニケーション・スキルを向上させるため、英語科目を設置する。1年次には、少人数クラスの「入門演習」により、調査・考察のあり方、資料の扱い方、論文・レポートの書き方、口頭発表の手法など、大学の学びの基礎を身に付ける。また、情報化が進む中で求められる倫理やデータリテラシーに関する理解を深める科目や、データを収集・整理し批判的かつ適切に読み取る力を養う科目を設置する。
2. データサイエンスを学ぶために必要とされる基礎的素養を身に付けるために、「数学」や「統計」・「情報」の入門・基礎科目を設置する。「数学」や「統計学」、「情報学」の入門科目、基礎科目や、高校までの学習に応じてリメディアル科目も用意し、データサイエンスに対する興味、関心を育んでいく。データサイエンスに関する基礎的な知識や技能及びそれらの応用能力を修得するため、プログラミングの基礎や、ビジネス分野での応用を念頭に置いた統計学の専門科目を設置する。
3. ビジネスに関する経済学・経営学の基礎的な専門知識を修得するためビジネス系科目群に入門・基礎科目を設置する。また、実データを理解し活用するための学びとしてデータ分析に関する科目も設置し実社会が抱える課題を発見・解決する力を養う。さらに、入門・基礎科目で培った知識や手法等を活用し、実社会においてデータを活用して課題の解決を図る能力を身に付ける学びとして、ビジネス系科目群に発展科目を設置する。
4. 主体性を持って新たな課題を見だし、データを収集・整理・分析・活用して問題を解決していく能力を育成するため、1年次から4年次まで切れ目なく少人数クラスでグループワーク形式により実践的に学ぶ演習科目を設置し、4年次には4年間の学びの集大成である「卒業研究」を必修科目として設置する。また、実務家を招くなどして現場においてデータサイエンスがどのように活用されているかを知る科目を設置する。
5. 学修成果は、各授業科目の到達目標の達成度について、成績評価の方法(筆記試験、レポート、小テスト等)を用いて評価する。さらに、GPAによる成績分析や授業改善のためのアンケート、学修成果に関するアンケート、各種入学者選抜の評価、卒業時アンケート、進路統計等の結果を用いて、学修成果や教育課程の評価を継続的に行う。

## 1 全学共通科目の履修について

### データサイエンス学部 データサイエンス学科

次のように科目を履修し、合計 30 単位以上を修得してください。

(1) 必修科目 (計 5 単位)

- ① 基礎科目の「I 女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」(1 単位) を履修してください。
- ② 外国語科目の「英語 I A・I B・I C・I D」(計 4 単位) を履修してください。

(2) 選択必修科目 (計 12 単位)

- ① 基礎科目の「I 女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」「大妻教養講座Ⅱ 卒業生から学ぶ」以外の 2 単位、「Ⅲ キャリア」から 2 単位を履修してください。
- ② 教養科目の「I～Ⅳ」から 8 単位を履修してください。

(3) 選択科目 (計 13 単位)

- ① 基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の中から必修科目と選択必修科目で履修した科目以外で 13 単位以上を履修してください。

#### ※注意事項

データサイエンス学部では「情報基礎 PC (情報活用・PC 操作)」「情報基礎 PC (表計算活用・データリテラシー)」「AI 活用」は開講されません。

## 2 1年間の履修登録単位数の上限

一度に多くの科目を履修すると自宅での予習・復習の学習時間を確保することができず学習効果を妨げてしまいますので、1 年間に履修できる単位数の上限を定めています。

	履修登録単位数の上限			
	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年
データサイエンス学科	44	48	48	46

## 3 標準履修単位数

本学では、各学年において履修すべき単位の標準 (目安) を定めています。卒業年次生は、標準履修単位数が卒業要件となりますので、注意してください。

配当学年により授業時間割が変動するため、標準履修単位数を超える場合や達しない場合があります。

区分 学年	全学共通科目			小計	専門必修	専門選択 必修	専門選択	小計	合計
	必修	選択必修	選択						
1 学年	5	2	4	11	22	2	2	26	37
2 学年	5	8	7	20	28	10	22	60	80
3 学年	5	12	9	26	32	10	42	84	110
4 学年	5	12	13	30	40	10	44	94	124

## 4 全学共通科目の卒業要件

### データサイエンス学部

(2026年度入学生から適用)

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位	卒業必要単位数			備考
						データサイエンス学科			
						必修	選択必修	選択	
基礎科目	I 女性とキャンパスライフ	大妻教養講座	1	半期	講義	1	1	2	データサイエンス学部は開講せず
		大妻教養講座Ⅱ 卒業生から学ぶ	2	半期	講義	1			
		キャンパスライフとメンタルヘルス	1・2・3・4	半期	講義	2			
		女性と健康	1・2・3・4	半期	講義	2			
		ジェンダーと社会生活	1・2・3・4	半期	講義	2			
		女性史	1・2・3・4	半期	講義	2			
		リーダーシップ開発	2・3・4	半期	演習	2			
	II リテラシー	日本語 A (文章表現)	1	半期	講義	2	2	2	
		日本語 B (口頭表現)	1・2	半期	講義	2			
		日本語 C (読解)	1	半期	講義	2			
		情報基礎 PC (情報活用・PC操作)	1	半期	演習	2			
		情報基礎 DS (表計算活用・データリテラシー)	1	半期	演習	2			
		データサイエンス・AI概論	1	半期	講義	2			
	III キャリア	A I 活用	2・3・4	半期	演習	2	2	2	
キャリアデザインⅠ		1・2	半期	講義	2				
キャリアデザインⅡ		2・3	半期	講義	2				
キャリアデザインⅢ		3・4	半期	講義	2				
I 人間と文化	キャリア・ディベロップメント・プログラムⅠ	1・2・3・4	半期	演習	2	2	2	外国人留学生優先	
	キャリア・ディベロップメント・プログラムⅡ	2・3・4	半期	演習	2				
	文学の世界	1・2・3・4	半期	講義	2	8	8		
	音楽の世界	1・2・3・4	半期	講義	2				
	美術の世界	1・2・3・4	半期	講義	2				
	映像・演劇の世界	1・2・3・4	半期	講義	2				
	考古学の世界	1・2・3・4	半期	講義	2				
	ポピュラー・カルチャーの世界	1・2・3・4	半期	講義	2				
	地域と文化	1・2・3・4	半期	講義	2				
	言語と文化	1・2・3・4	半期	講義	2				
	日本の歴史と文化	1・2・3・4	半期	講義	2				
	世界の歴史と文化	1・2・3・4	半期	講義	2				
	哲学と思想	1・2・3・4	半期	講義	2				
	日本文化・事情	1・2・3・4	半期	講義	2				
II 社会と生活	子どもの世界	1・2・3・4	半期	講義	2			8	8
	人間の成長と心理	1・2・3・4	半期	講義	2				
	日本国憲法	1・2・3・4	半期	講義	2				
	法律と現代社会	1・2・3・4	半期	講義	2				
	政治と現代社会	1・2・3・4	半期	講義	2				
	経済と現代社会	1・2・3・4	半期	講義	2				
	メディアと現代社会	1・2・3・4	半期	講義	2				
	家族と現代社会	1・2・3・4	半期	講義	2				
	福祉と現代社会(ボランティアを含む)	1・2・3・4	半期	講義	2				
	SDGsと現代社会	1・2・3・4	半期	講義	2				
III 自然と科学	数学の世界	1・2・3・4	半期	講義	2	8	8		
	生活の物理	1・2・3・4	半期	講義	2				
	生活の化学	1・2・3・4	半期	講義	2				
	科学と環境	1・2・3・4	半期	講義	2				
	生命の科学	1・2・3・4	半期	講義	2				
	宇宙の科学	1・2・3・4	半期	講義	2				
	人類の進化	1・2・3・4	半期	講義	2				
自然科学の歴史	1・2・3・4	半期	講義	2					
IV スポーツ	スポーツ A	1・2・3・4	半期	実技	1	13	13		
	スポーツ B	1・2・3・4	半期	実技	1				
	スポーツ C	1・2・3・4	半期	実技	1				
	スポーツ D	1・2・3・4	半期	実技	1				
	シーズン・スポーツ	1・2・3・4	半期 (一学期中)	実技	1				
	スポーツと健康	1・2・3・4	半期	講義	2				
	レクリエーション論	1・2・3・4	半期	講義	2				
	レクリエーション実技	1・2・3・4	半期	実技	1				

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位	卒業必要単位数			備考
						データサイエンス学科			
						必修	選択必修	選択	
外国語科目	英語 I A	1	半期	演習	1	4			
	英語 I B	1	半期	演習	1				
	英語 I C	1	半期	演習	1				
	英語 I D	1	半期	演習	1				
	英語 II A	2	半期	演習	1				
	英語 II B	2	半期	演習	1				
	英語 II C	2	半期	演習	1				
	英語 II D	2	半期	演習	1				
	英語 III A	2	半期	演習	1				
	英語 III B	2	半期	演習	1				
	フランス語 I	1・2	半期	演習	1				
	フランス語 II	1・2	半期	演習	1				
	フランス語 III	2・3	半期	演習	1				
	フランス語 IV	2・3	半期	演習	1				
	ドイツ語 I	1・2	半期	演習	1				
	ドイツ語 II	1・2	半期	演習	1				
	ドイツ語 III	2・3	半期	演習	1				
	ドイツ語 IV	2・3	半期	演習	1				
	スペイン語 I	1・2	半期	演習	1				
	スペイン語 II	1・2	半期	演習	1				
	スペイン語 III	2・3	半期	演習	1				
	スペイン語 IV	2・3	半期	演習	1				
	ロシア語 I	1・2	半期	演習	1				
	ロシア語 II	1・2	半期	演習	1				
	ロシア語 III	2・3	半期	演習	1				
	ロシア語 IV	2・3	半期	演習	1				
	中国語 I	1・2	半期	演習	1				
	中国語 II	1・2	半期	演習	1				
	中国語 III	2・3	半期	演習	1				
	中国語 IV	2・3	半期	演習	1				
	韓国語 I	1・2	半期	演習	1				
	韓国語 II	1・2	半期	演習	1				
韓国語 III	2・3	半期	演習	1					
韓国語 IV	2・3	半期	演習	1					
日本語 I	1・2	半期	演習	1					
日本語 II	1・2	半期	演習	1					
日本語 III	2・3	半期	演習	1				外国人留学生対象	
日本語 IV	2・3	半期	演習	1					
国際理解科目・地域文化	地域文化理解 I	1・2・3・4	集中	演習	2				
	地域文化理解 II	1・2・3・4	集中	演習	2				
	地域文化理解 III	1・2・3・4	集中	演習	2				
	国際理解（海外研修） I	1・2・3・4	集中	演習	2				
	国際理解（海外研修） II	1・2・3・4	集中	演習	2				
	国際理解（海外研修） III	1・2・3・4	集中	演習	2				
	国際理解（海外研修） IV	1・2・3・4	集中	演習	1				
	国際理解（海外研修） V	1・2・3・4	集中	演習	1				
	最低履修単位数								
						30			

注 (1) この表は、全学共通科目の卒業要件である。専門教育科目については、各学科の項を参照すること。

注 (2) 上記の全学共通科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間制で確認すること。

## 5 専門教育科目の卒業要件

### データサイエンス学科

(2025年度入学生から適用)

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位			先修条件	卒業に必要な単位数
					必修	選択必修	選択		
必 修	統計・情報系科目群 分野科目 数学・統計	線形代数学 I	1	半期	講義・演習	2			(6)
		微積分学 I	1	半期	講義・演習	2			
		統計学入門	1	半期	講義	2			
	情報分野科目	情報処理入門	1	半期	講義・演習	2			(6)
		コンピュータの基礎	1	半期	演習	2			
		プログラミング I	1	半期	講義・演習	2			
	ビジネス系科目群 科目 経済分野 科目 経営分野	経済学入門	1	半期	講義	2			(4)
		経営学入門	1	半期	講義	2			
	データサイエンス	データサイエンス入門	1	半期	講義	2			(4)
		データサイエンス倫理	2	半期	講義・演習	2			
	演習科目	入門演習 I	1	半期	演習	2			(20)
		入門演習 II	1	半期	演習	2			
		基礎演習 I	2	半期	演習	2			
		基礎演習 II	2	半期	演習	2			
専門演習 I		3	半期	演習	2		注(1)		
専門演習 II		3	半期	演習	2		注(1)		
専門演習 III		4	半期	演習	2				
専門演習 IV		4	半期	演習	2				
卒業研究	4	半期	-	4					
専 門 教 育 科 目	統計・情報系科目群 分野科目 数学・統計 科目 情報分野 科目	数理統計学	2・3	半期	講義		2	2	
		回帰分析	2・3	半期	講義・演習		2		
		プログラミング II	2・3	半期	講義・演習		2	2	
		ネットワークとセキュリティ A	2・3	半期	講義		2		
	ビジネス系科目群 科目 経済分野 科目 経営分野	ビジネス・エコノミクス	2・3	半期	講義		2	4	
		政策評価	2・3	半期	講義		2		
		経営戦略	2・3	半期	講義		2		
		マーケティング	2・3	半期	講義		2		
	データサイエンス	実務から学ぶデータサイエンス	1・2	半期	講義		2	2	
		協働連携プロジェクトA	3・4	半期	演習		2		
		協働連携プロジェクトB	3・4	半期	演習		2		
	選 択	数理・統計分野科目	線形代数学 II	1・2	半期	講義・演習		2	(10)
			微積分学 II	1・2	半期	講義・演習		2	
			多変量データ解析	2・3	半期	演習		2	
確率論			2・3	半期	講義・演習		2		
因果推論			3・4	半期	講義		2		
ベイズ統計学			3・4	半期	講義		2		
時系列分析			3・4	半期	講義・演習		2		
数理モデリング			3・4	半期	講義・演習		2		
統計・情報系科目群 情報分野科目		コンピュータシステム	1	半期	講義		2		
		AI・機械学習	2・3	半期	講義・演習		2		
		Webプログラミング	3・4	半期	講義・演習		2		
		深層学習	3・4	半期	講義・演習		2		
		システムソフトウェア	3・4	半期	講義		2		
		ヒューマンコンピュータインタラクション	3・4	半期	講義・演習		2		
信号処理	3・4	半期	講義・演習		2				
並列分散システム	3・4	半期	講義		2				
IoT	3・4	半期	講義・演習		2				
ゲーミフィケーション	3・4	半期	演習		2				

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位			先修条件	卒業に必要な単位数		
					必修	選択必修	選択				
専 門 教 育 科 目	経済分野科目	企業経済データ分析	3・4	半期	講義・演習			2			
		労働経済データ分析	3・4	半期	講義・演習			2			
		地域経済データ分析	3・4	半期	講義・演習			2			
		国際経済データ分析	3・4	半期	講義・演習			2			
		マクロ経済と経済政策	2・3・4	半期	講義			2			
		企業競争と産業政策	3・4	半期	講義			2			
		女性労働	2・3・4	半期	講義			2			
		社会保障	2・3・4	半期	講義			2			
		金融システム	2・3・4	半期	講義			2			
		ビジネス系科目群	経営分野科目	戦略データ分析	2・3	半期	講義・演習			2	
				マーケティングデータ分析	2・3	半期	講義・演習			2	
				人材データ分析	3・4	半期	講義・演習			2	
				財務データ分析	3・4	半期	講義・演習			2	
				イノベーションマネジメント	3・4	半期	講義			2	
	デジタル経営			3・4	半期	講義			2		
	起業論			3・4	半期	講義			2		
	消費者行動			3・4	半期	講義			2		
	マーケティング・コミュニケーション			3・4	半期	講義			2		
	デジタルマーケティング			3・4	半期	講義			2		
	キャリア開発			2・3	半期	講義			2		
	ダイバーシティ経営			3・4	半期	講義			2		
	会計学			2・3	半期	講義			2		
	ビジネス英語	2・3・4	半期	演習			2				
	サイエンス	データサイエンスと心理	2・3	半期	講義			2			
		デザイン思考	2・3	半期	講義・演習			2			
		データ可視化	2・3	半期	講義・演習			2			
		データハンドリング	2・3	半期	講義・演習			2			
調査法		2・3	半期	講義			2				
チームマネジメント		2・3	半期	講義			2				
専門特殊講義	専門特殊講義	3・4	半期	講義			2	(44)			

注 (1) 「専門演習Ⅰ・Ⅱ」は全学共通科目及び専門教育科目で合計 50 単位以上修得し、かつ、第 1 年次までの専門教育科目の必修単位をすべて修得していることを履修の条件とする。



# 短期大学部

全学共通科目の卒業要件	178
全学共通科目の履修について	180
家政科 家政総合コース	181
家政科 食と栄養コース	189

# 1 全学共通科目の卒業要件

短期大学部 家政科

(2026年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数						備考	
						家政総合コース			食と栄養コース				
						必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択		
基礎科目	Ⅰ女性とキャンパスライフ	大妻教養講座	1	半期	講義	1	2			2			
		コタカ学	1	半期	講義	1							
		キャンパスライフとメンタルヘルス	2	半期	講義	1・2							
		女性と健康	2	半期	講義	1・2							
		ジェンダーと社会生活	2	半期	講義	1・2							
		女性史	2	半期	講義	1・2							
		リーダーシップ開発	2	半期	演習	2							
	Ⅱリテラシー	日本語A(文章表現)	2	半期	講義	1							
		日本語B(口頭表現)	2	半期	講義	1・2							
		日本語C(読解)	2	半期	講義	1							
		情報基礎PC(情報活用・PC操作)	2	半期	演習	1		2					
		情報基礎DS(表計算活用・データリテラシー)	2	半期	演習	1				2			
		データサイエンス・AI概論	2	半期	講義	1							
		AI活用	2	半期	演習	2							
Ⅲキャリア	キャリアデザインⅠ	2	半期	講義	1								
	キャリアデザインⅡ	2	半期	講義	1・2								
教養科目	Ⅰ人間と文化	文学の世界	2	半期	講義	1・2							
		音楽の世界	2	半期	講義	1・2							
		美術の世界	2	半期	講義	1・2							
		地域と文化	2	半期	講義	1・2							
		言語と文化	2	半期	講義	1・2		2					
		日本の歴史と文化	2	半期	講義	1・2							
		世界の歴史と文化	2	半期	講義	1・2							
		哲学と思想	2	半期	講義	1・2							
		日本文化・事情	2	半期	講義	1・2							外国人留学生優先
	Ⅱ社会と生活	法律と現代社会	2	半期	講義	1・2							
		政治と現代社会	2	半期	講義	1・2							
		経済と現代社会	2	半期	講義	1・2		2			6		
		メディアと現代社会	2	半期	講義	1・2			5				
		SDGsと現代社会	2	半期	講義	1・2							
	Ⅲ自然と科学	生活の化学	2	半期	講義	1・2							
		科学と環境	2	半期	講義	1・2							
		生命の科学	2	半期	講義	1・2		2			2		
		自然科学の歴史	2	半期	講義	1・2							
	Ⅳスポーツ	スポーツA	1	半期	実技	1・2							
スポーツB		1	半期	実技	1・2		1						
スポーツと健康		2	半期	講義	1・2								

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数						備考
						家政総合コース			食と栄養コース			
						必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
外国語科目	英語 I A	1	半期	演習	1	1			1			外国人留学生対象
	英語 I B	1	半期	演習	1							
	フランス語	1	半期	演習	1							
	ドイツ語	1	半期	演習	1							
	中国語	1	半期	演習	1							
	韓国語	1	半期	演習	1							
	日本語 I	1	半期	演習	1							
日本語 II	1	半期	演習	1								
地域文化・国際理解科目	地域文化理解 I	2	集中	演習	1・2							
	地域文化理解 II	2	集中	演習	1・2							
	地域文化理解 III	2	集中	演習	1・2							
	国際理解(海外研修) I	2	集中	演習	1・2							
	国際理解(海外研修) II	2	集中	演習	1・2							
	国際理解(海外研修) III	2	集中	演習	1・2							
	国際理解(海外研修) IV	1	集中	演習	1・2							
国際理解(海外研修) V	1	集中	演習	1・2								
最低履修単位数						3	10	5	3	4	6	
						18			13			

注(1) この表は、全学共通科目の卒業要件である。専門教育科目については、各学科の項を参照すること。

注(2) 上記の全学共通科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割で確認すること。

## 2 全学共通科目の履修について

### 家政科 家政総合コース

次のように科目を履修し、合計18単位以上を修得してください。

(1) 必修科目 (計3単位)

- ① 基礎科目の「Ⅰ女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」(1単位)と「コタカ学」(1単位)、を履修してください。
- ② 外国語科目の「英語ⅠA」(1単位)を履修してください。

(2) 選択必修科目 (計10単位)

- ① 基礎科目の「Ⅱリテラシー」から2単位を履修してください。
- ② 教養科目の「Ⅰ人間と文化」から2単位、「Ⅱ社会と生活」から2単位、「Ⅲ自然と科学」から2単位、「Ⅳスポーツ」から1単位を履修してください。
- ③ 外国語科目(英語ⅠAを除く)から1単位を履修してください。

(3) 選択科目 (計5単位以上)

- ① 基礎科目、教養科目、外国語科目、地域文化・国際理解科目の合計が、必修科目と選択必修科目で履修した科目を含めて18単位以上となるように履修してください。

### 家政科 食と栄養コース

次のように科目を履修し、合計13単位以上を修得してください。

(1) 必修科目 (計3単位)

- ① 基礎科目の「Ⅰ女性とキャンパスライフ」から「大妻教養講座」(1単位)と「コタカ学」(1単位)を履修してください。
- ② 外国語科目の「英語ⅠA」(1単位)を履修してください。

(2) 選択必修科目 (計4単位)

- ① 基礎科目の「Ⅱリテラシー」または「Ⅲキャリア」から2単位を履修してください。
- ② 教養科目の「Ⅲ自然と科学」から2単位を履修してください。  
なお、教養科目の「Ⅲ自然と科学」の「生活の化学」は履修することが望ましいです。

(3) 選択科目 (計6単位以上)

- ① 基礎科目、教養科目、外国語科目の合計が、必修科目と選択必修科目で履修した科目を含めて13単位以上となるように履修してください。

# 家政科 家政総合コース

教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー……	182
1年間の履修登録単位数の上限……	183
標準履修単位数……	183
専門教育科目の卒業要件……	184
専門教育科目の履修について……	185
フードスペシャリスト資格……	186
秘書士資格……	188

## 家政科 教育研究上の目的

家政科は、衣・食・健康・住生活など人間生活全般にかかわる実践的知識と技術を身につけ、高い教養と職業及び實際生活に必要な能力を有する人材を育成することを目的とする。

## 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

家政科では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、短期大学士の学位を授与します。

### 【家政総合コース】

1. 幅広い知識・教養および専門的知識・技術力を身につけ、社会人・家庭人としての確に判断し積極的に行動できる能力を備えている。
2. 専門的知識と技術力を身につけ、社会に貢献できる能力および生涯学び続ける意欲と習慣を身につけている。
3. 大妻で育んだ豊かな教養と知性に基づいた生活マナーを身につけ、他者との良好な関係のもとに自立できる能力を備えている。
4. 資格取得に向けて必要とされる学力を身につけている。

## 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

家政科では、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

### 【家政総合コース】

#### <教育内容>

生活の基盤である衣・食・住生活などの人間生活全般について教育する。

#### <教育方法>

1. 現代社会に即応できる幅広い知識や専門的・実践的知識および技術や応用力を、講義、実験、実習、演習などにより、身につけさせる。
2. 教養を高めるとともに、生活マナーの実践を通して、知性豊かな大妻の気質を育むことができる人材を育てる。
3. 資格取得に向けて必要とされる学力を、身につけさせる。

#### <学修成果の評価法>

1. 定期試験、レポート、作品提出、課題発表、実技試験等で、学修成果の評価を行う。
2. 自分が希望した、資格取得による評価を行う。

## 1 1年間の履修登録単位数の上限

一度に多くの科目を履修すると自宅での予習・復習の学習時間を確保することができず学習効果を妨げてしまいますので、1年間に履修できる単位数の上限を定めています。

(2020年度入学生から適用)

	履修登録単位数の上限	
	1学年	2学年
家政科 家政総合コース	42	42

※諸課程科目は、この単位に含まれません。

## 2 標準履修単位数

本学では、各学年において履修すべき単位の標準（目安）を定めています。卒業年次生は、標準履修単位数が卒業要件となりますので、注意してください。

配当学年により授業時間割が変動するため、標準履修単位数を超える場合や達しない場合があります。

### 家政科 家政総合コース

(2026年度入学生から適用)

学年	区分	全学共通科目			小計	専門必修	専門 選択必修	専門選択	小計	合計
		必修	選択必修	選択						
1学年		3	10	2	15	6	16	0	22	37
2学年		3	10	5	18	6	32	8	46	64

### 3 専門教育科目の卒業要件

#### 家政科 家政総合コース

(2026年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数		
						必修	選択必修	選択
I 家政基礎 科目	衣生活論	2	半期	講義	1	●		
	食生活論	2	半期	講義	1	●		
	住生活論	2	半期	講義	1	●		
II 応用科目	基礎調理及び実習	2	半期②	講義・実習	1		10	
	食物学及び基礎実験	2	半期②	講義・実験	1			
	応用調理及び実習	2	半期②	講義・実習	2			
	食物総合演習Ⅰ	2	半期②	演習	1・2			
	食物総合演習Ⅱ	2	半期②	演習	1・2			
	食品の官能評価・鑑別論演習	2	半期	演習	2			
	和服製作実習	2	半期②	講義・実習	2			
	アパレル設計・生産及び実習	2	半期②	講義・実習	2			
	アパレル企画論演習	2	半期	演習	1			
	手工芸論及び実習	2	半期②	講義・実習	1・2			
	被服総合演習	2	半期	演習	1・2			
	インテリアコーディネート演習	2	半期②	講義・演習	1・2			
	暮らしと住空間演習	2	半期②	講義・演習	1・2			
	子どもの生活と造形演習	2	半期	演習	1・2			
	住居総合演習	2	半期	演習	1・2			
秘書実務	2	半期	演習	1・2				
生活のマナー	2	半期	演習	1・2				
生活環境論演習	2	半期	演習	1・2				
III 応用科目	食品流通生活論	2	半期	講義	1		8	
	食品学	2	半期	講義	1			
	食品加工学	2	半期	講義	2			
	栄養学	2	半期	講義	1			
	調理学	2	半期	講義	1			
	食品衛生学	2	半期	講義	2			
	フードスペシャリスト論	2	半期	講義	2			
	フードコーディネート論	2	半期	講義	2			
	食文化論	2	半期	講義	2			
	生活商品販売論	2	半期	講義	1・2			
	服飾文化論	2	半期	講義	1・2			
	ファッションコーディネート論	2	半期	講義	1・2			
	アパレル商品論	2	半期	講義	1・2			
	アパレル科学論	2	半期	講義	1・2			
	ブライダルプロデュース論	2	半期	講義	1・2			
	セルモニーと文化	2	半期	講義	1・2			
	カラーコーディネート論	2	半期	講義	1・2			
	住空間デザイン論	2	半期	講義	1・2			
	住まいの計画としくみ	2	半期	講義	1・2			
	住文化論	2	半期	講義	1・2			
	住空間の心理	2	半期	講義	1・2			
	インテリアコーディネート論	2	集中	講義	1・2			
	消費生活アドバイザー論	2	半期	講義	1・2			
	秘書学概論	2	半期	講義	1・2			
	生活環境論	2	半期	講義	1・2			
	ファイナンシャルプランニング入門	2	半期	講義	1・2			
	ファイナンシャルプランニング演習	2	半期	演習	1・2			
IT活用演習Ⅰ	2	半期	演習	1・2				
IT活用演習Ⅱ	2	半期	演習	1・2				
Webデザイン入門	2	半期	講義・演習	1・2				
Webデザイン演習	2	半期	演習	1・2				
ビジネスコミュニケーションⅠ	2	半期	講義・演習	1・2				
ビジネスコミュニケーションⅡ	2	半期	講義・演習	1・2				
最低履修単位						6	32	8
							46	

注(1) この表は、家政科家政総合コースの専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については、全学共通科目の項による。

注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

## 4 専門教育科目の履修について

### 履修方法

- (1) 配当された年次で科目を履修すること。  
科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

### 注意事項

- (1) 選択必修科目は、「Ⅱ応用科目」から10単位、「Ⅲ応用科目」では22単位を履修すること。
- (2) 選択科目は、「Ⅱ応用科目」「Ⅲ応用科目」の中から選択必修科目で履修した科目以外で8単位以上を履修すること。
- (3) フードスペシャリスト資格は、家政科で資格取得を認められ、登録料を納入した学生だけが、所定の科目を修得することにより取得できます。なおフードスペシャリスト資格については「認定試験」があります。資格取得のための受講を認められなかった学生が所定の科目を修得しても資格を取得することはできません。
- (4) 「③諸課程について 2 図書館学課程」、「5 フードスペシャリスト資格」、「6 秘書士資格」については、該当ページを熟読すること。

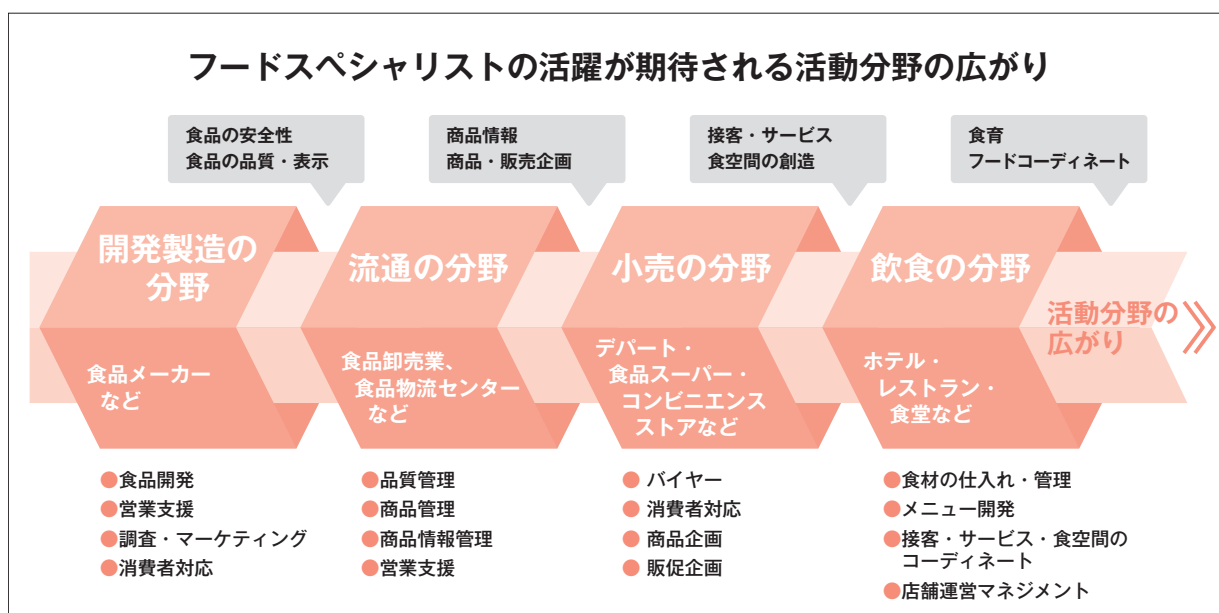
## 5 フードスペシャリスト資格（家政総合コース）

### フードスペシャリスト

本学の家政科家政総合コースは、カリキュラム編成、単位数、教員組織、施設設備などフードスペシャリスト教育に必要な要件を満たす短期大学として、フードスペシャリスト協会の認定を受けています。本学で定める単位を修得し、かつフードスペシャリスト協会が実施する「認定試験」に合格すると、フードスペシャリストの資格認定証が交付されます。

近年、消費者のニーズが多様化、高度化し、食品や食べ物に対する安全志向、健康志向が強まるなど、より豊かな食生活を求めるようになってきました。そのため、①流通の分野では食品の市場調査や科学的知識・技術により得た情報を提供し、流通の円滑をはかる。②販売の分野では販売員に対し食品の品質情報を知らせ、管理・陳列や科学的知識及びサービスを含め指導・助言する。また、③顧客に対しては食品の種類を選び方、その利用の方法などにわたり、食品の専門職の立場から指導・助言する。④ホテルやレストランなど、料理として提供する分野では調理者と喫食者の間に立ってメニュー、食味の調整や食堂の雰囲気を保ち、楽しく、快適な飲食ができるよう食空間をコーディネートする。さらに、⑤消費者センターではクレームに対して問題解決策を講じます。このように流通・消費分野の食品専門職が求められていますが、消費者サイドに立った流通・消費の分野における「食」の専門職がフードスペシャリストです。

フードスペシャリストの活躍が期待される職域はおもに食品産業があります。これには食品メーカー、食品流通業、食品小売業、レストランなどの飲食業（外食産業）が含まれます。



## 資格申込方法

### (ア) 申込方法

フードスペシャリスト資格取得者の定員は、家政科家政総合コースの学生 20 名です。1 年生の 4 月はじめの学科ガイダンスで希望をとりますが、希望人数が定員を上回った場合は調整があります。資格取得のための受講を認められなかった学生が、フードスペシャリスト資格に係る科目を履修し単位を修得してもフードスペシャリストの資格を取得することはできません。

### (イ) 申込の手続き

資格取得のための受講許可を得た者は、指定された日時に履修費を支払い手続きを完了してください。指定の日時に手続きを完了しない者は、受講の許可を取り消します。また、いったん納入した履修費は、原則として返還しません。

### (ウ) 資格取得に要する経費

- ・履修費（予定） 1 年次 1,000 円 2 年次 1,000 円
- ・受験料・認定証交付手数料 2 年次 11,000 円

（注）履修費他の金額は確定ではありません。一応の目安と考えてください。

### (エ) 認定試験

フードスペシャリスト協会が実施する認定試験は 2 年次（12 月の日曜日）に実施されます。

## フードスペシャリストの資格取得に必要な科目、単位数（家政総合コース）

（2024 年度入学生から適用）

協会の規定科目・単位数等		左記に対応する本学開講科目等		
	授 業 科 目 名	単位数	授 業 科 目 名	単位数等
必修科目	フードスペシャリスト論	2	フードスペシャリスト論	[2]
	食品の官能評価・鑑別論(統計処理を含む)	2	食品の官能評価・鑑別論演習	[2]
	食品学(食品学、食品加工学、食品貯蔵・流通技術論、食品機能学等)に関する科目	5	食物学及び基礎実験	[2]
			食品学	[2]
			食品加工学	[2]
	食品の安全性(食品衛生、食中毒、有害物質、食品添加物、水質等)に関する科目	2	食品衛生学	[2]
	調理学(調理科学を含む)に関する科目	4	調理学	[2]
			基礎調理及び実習	[2]
			応用調理及び実習	[2]
栄養と健康に関する科目	2	栄養学	[2]	
食品流通・消費に関する科目(フードマーケティングを含む)	2	食品流通生活論	[2]	
フードコーディネート論	2	フードコーディネート論	[2]	
小 計				24
選択科目	フードスペシャリスト資格に相当とされる科目	自由設定単位	食文化論	(2)
			食生活論	②
小 計				4
本学が定める資格取得に必要な修得単位数合計				26

注 本学開講科目の単位数欄の、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字はフードスペシャリスト資格取得者必修単位、( )の数字は選択科目です。

## 6 秘書士資格

### 秘書士

家政科家政総合コースは、カリキュラム、単位数、教員組織、設備など秘書教育に必要な要件を満たし、一般財団法人全国大学実務教育協会から秘書士を教育する養成短期大学として認定を受けています。本学で定める単位を修得すると秘書士資格認定証が交付されます。秘書とはどのような業務なのかを理解するとともに、スケジュールリングや接遇のしかた、言葉づかいや慶弔・贈答のマナー、企業経営・事業活動のしくみに関する知識などを修得し、経営者や管理者を効果的にサポートし、さらにはコーディネイト役のできる人材を育成します。

### 資格申込方法

(ア) 申込方法

資格取得に必要な科目の履修登録を行う。

(イ) 資格取得に要する経費

認定証交付申請手数料等 5,500円(税込)

(注) 申請手数料等の金額は確定ではありません。一応の目安と考えてください。

### 秘書士資格に必要な科目、単位数

所定単位を修得することで、卒業と同時に取得できます。

(2026年度入学生から適用)

協会が指定する領域・資格到達目標の区分		左記に対応する本学開講科目等			
		授業科目名	単位数	必修	選択
領域1	秘書実務全体に必要な対人業務・情報業務・一般常識などに関する知識・スキル・態度、それを活用する実務実践力の基本とその学修力を身につけている。	秘書学概論	2	●	必修7単位を除き 10単位以上修得  (各領域をバランスよく履修することが望ましい)
		消費生活アドバイザー論	2		
		住文化論	2		
		地域と文化	2		
		経済と現代社会	2		
領域2	幅広い秘書実務に対応できる学びの基礎能力や社会と自分を知る力を備えている。	秘書実務	2	●	
		日本語A(文章表現)	2		
		情報基礎PC(情報活用・PC操作)	2		
		情報基礎DS(表計算活用・データリテラシー)	2		
		食文化論	2		
領域3	学びの基礎能力や秘書実務力などを活かして取り組む課題実践学修を通して、多様な職業能力の基礎となる総合的実務実践力(課題発見・解決力)と学びの継続力の重要性を理解している。	セレモニーと文化	2		
		キャリアデザインI	2	●	
		コタカ学	①	●	

注 単位数欄のうち、○の数字は卒業必修単位です。

# 家政科 食と栄養コース

教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー……	190
1年間の履修登録単位数の上限……	191
標準履修単位数……	191
専門教育科目の卒業要件……	192
専門教育科目の履修について……	193
栄養士課程……	194
NR・サプリメントアドバイザー資格……	196
フードスペシャリスト資格……	197

## 家政科 教育研究上の目的

家政科は、衣・食・健康・住生活など人間生活全般にかかわる実践的知識と技術を身につけ、高い教養と職業及び実生活に必要な能力を有する人材を育成することを目的とする。

## 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

家政科では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、短期大学士の学位を授与します。

### 【食と栄養コース】

1. 栄養士として必要な専門知識や技術力を身につけている。
2. 「食」や「健康」に関する様々な情報を取捨選択し、「食」の専門家として思考する力を有している。
3. 「食」の専門家として健康づくりに関心を持ち、社会に貢献する意欲を有している。
4. 他者との良好なコミュニケーションにより、「食」を通じた人々の健康づくりをサポートする実践力を有している。

## 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

家政科では、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

### 【食と栄養コース】

#### <教育内容>

1. 厚生労働省令で定める栄養士に必要な6つの分野(社会生活と健康、人体の構造と機能、食品と衛生、栄養と健康、栄養の指導、給食の運営)に関する科目を履修する。
2. 「食」の専門家として思考する力を養うため、知識や理論をもとにした実験・実習など実践的な科目を履修する。
3. 実験・実習および校外実習等でコミュニケーション能力を養い、健康づくりに貢献できる意欲と実践力を身につける。

#### <教育方法>

1. 講義では、栄養士課程の基礎科目から応用科目までを正しく理解するために、單元ごとに理解度を確認しながら授業を進める。
2. 実験・実習では、各分野で修得した知識や理論をもとに問題点を探り、コミュニケーションを取りながら栄養士として適切な思考力と判断力を身につける。
3. 校外実習では他者との協力のもとに作業を行い、現場の指導者から助言を受けながら人々の健康に貢献できる実践力を身につける。

#### <学修成果の評価法>

1. 定期試験、小テスト、レポート、課題による提出物、課題発表、実技試験等による評価。
2. 校外実習および栄養士実力認定試験(全国栄養士養成施設協会主催)の結果等による包括的な評価。

## 1 1年間の履修登録単位数の上限

一度に多くの科目を履修すると自宅での予習・復習の学習時間を確保することができず学習効果を妨げてしまいますので、1年間に履修できる単位数の上限を定めています。

(2026年度入学生から適用)

	履修登録単位数の上限	
	1学年	2学年
家政科 食と栄養コース	54	50

## 2 標準履修単位数

本学では、各学年において履修すべき単位の標準（目安）を定めています。卒業年次生は、標準履修単位数が卒業要件となりますので、注意してください。

配当学年により授業時間割が変動するため、標準履修単位数を超える場合や達しない場合があります。

### 家政科 食と栄養コース

(2026年度入学生から適用)

学年	区分	全学共通科目			小計	専門必修	専門 選択必修	専門選択	小計	合計
		必修	選択必修	選択						
1学年		3	4	4	11	24	1	5(10)	30(35)	41(46)
2学年		3	4	6	13	42	1	11(17)	54(60)	67(73)

※（ ）内は栄養士免許取得のために必要な単位数

### 3 専門教育科目の卒業要件

#### 家政科 食と栄養コース

(2025年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数			
						必修	選択必修	選択	備考
必修科目	公衆衛生学	2	半期	講義	1	42			
	生活環境学実験	1	半期②	実験	1				
	社会福祉論	2	半期	講義	2				
	栄養生理学(含運動生理学)	2	半期	講義	2				
	人体構造機能論	2	半期	講義	1				
	生化学	2	半期	講義	2				
	食品化学(含食品機能)	2	半期	講義	1				
	食品化学(含食品機能)実験	1	半期②	実験	2				
	食品学	2	半期	講義	2				
	食品学実習	1	半期②	実習	2				
	食品衛生学	2	半期	講義	1				
	食品衛生学実験	1	半期②	実験	2				
	基礎栄養学	2	半期	講義	1				
	栄養化学	2	半期	講義	1				
	栄養化学実験	1	半期②	実験	2				
	ライフステージ栄養学	2	半期	講義	1				
	ライフステージ栄養学実習	1	半期②	実習	1・2				
	子どもの食生活と栄養実習	1	半期②	実習	2				
	栄養指導論	2	半期	講義	1				
	食教育演習	1	半期	演習	2				
	栄養指導論実習	1	半期②	実習	2				
	公衆栄養学	2	半期	講義	2				
	給食管理論Ⅰ	2	半期	講義	1				
食生活プランニング	1	半期	演習	1					
調理学	2	半期	講義	1					
調理学実習Ⅰ	1	半期②	実習	1					
調理学実習Ⅱ	1	半期②	実習	2					
選択必修科目	ゼミナール A	1	半期	演習	1	1			
	ゼミナール B	1	半期	演習	1				
	ゼミナール C	1	半期	演習	1				
	ゼミナール D	1	半期	演習	1				
	食育演習Ⅰ	1	半期	演習	1・2				
	食育演習Ⅱ	1	半期	演習	1・2				
	高齢者の生活と栄養	1	半期	演習	2				
選択科目	病理学	2	半期	講義	1	11		☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆	
	臨床栄養学	2	半期	講義	1				
	臨床栄養学実習	1	半期②	実習	1・2				
	栄養士実務演習	1	半期	演習	1				
	給食管理論Ⅱ	2	半期	講義	1				
	給食管理実習Ⅰ	1	半期②	実習	1				
	給食管理実習Ⅱ	1	半期②	実習	2				
	給食管理演習Ⅰ	1	半期	演習	1				
	給食管理演習Ⅱ	1	半期	演習	2				
	校外実習指導	1	半期	演習	2				
	校外実習	1	-	実習	2				
	食物栄養特論	2	半期	講義	2				
	食物栄養基礎演習	1	半期	演習	1				
	スポーツ栄養論	2	半期	講義	2				
	食品の官能評価・鑑別論	2	半期	講義	2				
	フードスペシャリスト論	2	半期	講義	2				
	食品流通生活論	2	半期	講義	2				
フードコーディネータ論	2	半期	講義	2					
IT活用演習Ⅰ	2	半期	演習	1・2					
IT活用演習Ⅱ	2	半期	演習	1・2					
最低履修単位数						42	1	11	
						54			

注(1) この表は、家政科食と栄養コースの専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については、全学共通科目の項による。  
 注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。  
 注(3) ☆印は、栄養士免許を取得する者は必修科目。

## 4 専門教育科目の履修について

### 履修方法

- (1) 配当された年次で科目を履修すること。

### 注意事項

- (1) 栄養士免許を取得する場合は、選択科目の「病理学」「臨床栄養学」「臨床栄養学実習」「栄養士実務演習」「給食管理論Ⅱ」「給食管理実習Ⅰ」「給食管理演習Ⅰ」「給食管理実習Ⅱ」「給食管理演習Ⅱ」「校外実習指導」「校外実習」「食物栄養特論」「食物栄養基礎演習」を必ず修得すること。
- (2) 「臨床栄養学実習」は、「臨床栄養学」を履修した者が履修すること。
- (3) 「給食管理実習Ⅱ」は、「給食管理実習Ⅰ」を履修した者が履修すること。
- (4) 「給食管理実習Ⅰ」を履修する者は、「給食管理演習Ⅰ」を履修しなければならない。
- (5) 「給食管理実習Ⅱ」を履修する者は、「給食管理演習Ⅱ」を履修しなければならない。
- (6) 「校外実習」は、「栄養士実務演習」「給食管理論Ⅱ」「給食管理実習Ⅰ」「給食管理演習Ⅰ」「給食管理実習Ⅱ」「給食管理演習Ⅱ」「校外実習指導」を履修した者が履修すること。
- (7) フードスペシャリスト資格は、家政科で資格取得を認められ、登録料を納入した学生だけが、所定の科目を修得することにより取得できます。なおフードスペシャリスト資格については「認定試験」がありません。資格取得のための受講を認められなかった学生が所定の科目を修得しても資格を取得することはできません。
- (8) フードスペシャリスト資格については、該当ページを熟読すること。

## 5 栄養士課程（食と栄養コース）

### 栄養士課程について

家政科食と栄養コースでは、所定の科目の単位を修得することにより、卒業を要件として栄養士免許を取得することができます。栄養学・食品学・調理学などの理論と技術を基礎として、栄養指導論・ライフステージ栄養学・臨床栄養学・公衆栄養学・食品衛生学・給食管理論などを修得し、実習や実験を通して栄養士としての実践力を養います。対象者に寄り添い、食を通じて人々の健康づくりに貢献できる栄養士の育成を目指しています。

栄養士とは、都道府県知事の免許を受けて、栄養士の名称を用いて栄養の指導に従事することを業とする者をいいます（栄養士法第1条第1項）。

### 校外実習について

栄養士免許取得にあたっては、学外での「校外実習」を実施することになっています（必修）。校外実習の目的は、栄養教育及び給食管理の実際を厚生労働省の認めた施設において実習し、栄養士として備えるべき知識と技術の全般を体得することです。

- ① 実習施設には、会社・事業所、保育所、病院、老人福祉施設などがあります。
- ② 単位は45時間（1週間）で1単位とし、履修は1単位以上とします。
- ③ 実習は2年次に行うものとし、個人または少数グループに分かれて実施します。
- ④ 実習にあたっては、「給食の運営」に関する所定の科目の履修が要件となります。

実習施設	期間	単位	実習方法
病院	1週間	1単位	4施設のうち、1ヶ所を選択
保育所	1週間	1単位	
老人福祉施設	1週間	1単位	
会社・事業所	1週間	1単位	

### 栄養士実力認定試験について

全国栄養士養成施設協会が栄養士の資質向上等を図るために実施する栄養士実力認定試験に参加し、学力の向上を図っています。栄養士実力認定試験は、卒業年次（2年次）の12月上旬に実施され、協会の認定基準に従い認定証が発行されます。

### 栄養士免許申請手数料について

栄養士免許は住民票のある都道府県に申請しますが、各都道府県で手数料は異なる場合があります。

（東京都の場合 5,600円）

（注）申請手数料の金額は確定ではありません。一応の目安と考えてください。

栄養士免許取得に必要な科目、単位数（食と栄養コース）

(2025年度入学生から適用)

栄養士法施行規則に定める科目	単位数		本学授業開講科目名等			
	講義又は演習	実験又は実習	授業科目名	単位数		備考
				講義又は演習	実験又は実習	
社会生活と健康	4	4	公衆衛生学	2		
			生活環境学実験		1	
			社会福祉論	2		
人体の構造と機能	8		栄養生理学(含運動生理学)	2		
			人体構造機能論	2		
			病理学	2		
食品と衛生	6		生化学	2		
			食品化学(含食品機能)	2		
			食品化学(含食品機能)実験		1	
			食品学	2		
		食品学実習		1		
栄養と健康	8	食品衛生学	2			
		食品衛生学実験		1		
		基礎栄養学	2			
		栄養化学	2			
		栄養化学実験		1		
		臨床栄養学	2			
		臨床栄養学実習		1		
		ライフステージ栄養学	2			
ライフステージ栄養学実習		1				
栄養の指導	6	子どもの食生活と栄養実習		1		
		栄養指導論	2			
		食教育演習	1			
		栄養指導論実習		1		
給食の運営	4	栄養士実務演習	1			
		公衆栄養学	2			
		給食管理論Ⅰ	2			
		給食管理論Ⅱ	2			
		給食管理実習Ⅰ		1		
		給食管理実習Ⅱ		1		
		給食管理演習Ⅰ	1			
		給食管理演習Ⅱ	1			
		調理学	2			
		調理学実習Ⅰ		1		
		調理学実習Ⅱ		1		
		食生活プランニング	1			
校外実習指導	1					
校外実習		1				

## 6 NR・サプリメントアドバイザー資格（食と栄養コース）

### NR・サプリメントアドバイザーについて

NR・サプリメントアドバイザーは、一般社団法人日本臨床栄養協会・日本サプリメントアドバイザー機構が認定する民間資格です。

健康に関連する食品として、特定保健用食品、栄養機能食品、サプリメントなど、さまざまな種類があります。したがって、消費者が適切かつ安全にこれら食品を利用するためには、正しい栄養学が消費者に理解されることが重要であり、NR・サプリメントアドバイザーは消費者に対して専門的観点から消費者個々人の栄養状態を評価し、適切にアドバイスできる知識を備えていることを証明する資格です。栄養士資格保有者が取得することで、活動の場を広げることができます。

本学は学校登録認定校として一般社団法人日本臨床栄養協会から登録されています。

### 資格取得できる学科・専攻

家政科食と栄養コース

### 資格取得方法

「NR・サプリメントアドバイザー講座」（インターネットによる受講）にて40単位を取得後、認定試験（年1回11月最終週の9日間CBT（テストセンター）方式で実施）に合格する必要があります。

### 申込手続

指定された日時に学生会員入会手続きをしてください。

### 資格取得に係る経費

学生会員年会費 4,000円

通信教育受講料 5,100円（テキスト代別）

認定試験受験料 15,300円

※金額が変更となる場合がありますので、一応の目安としてください。

※認定試験合格者には一般社団法人日本臨床栄養協会から認定証と認定カードが発行されます。

### その他

資格取得後も、5年ごとの更新が必要です。更新するためには、日本臨床栄養協会正会員の継続に必要な費用（年会費8,000円の5年分。ただし、在学中は4,000円）・研修単位（50単位）取得のための費用、更新申請料5,100円を支払う必要があります。

1年次1月中旬ごろにガイダンスを実施します。手続方法などをお知らせしますので、受験希望者は必ず出席してください。

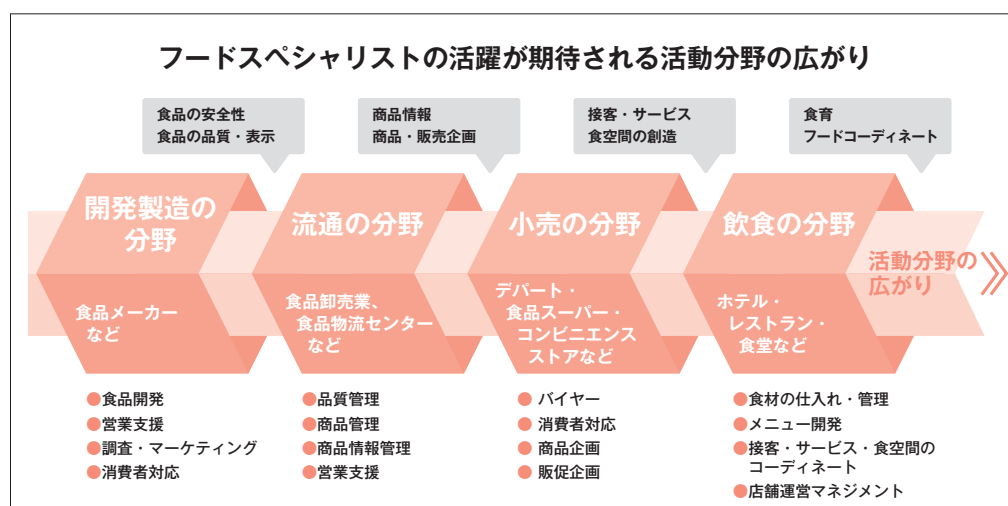
## 7 フードスペシャリスト資格（食と栄養コース）

### フードスペシャリスト

本学の家政科食と栄養コースは、カリキュラム編成、単位数、教員組織、施設設備などフードスペシャリスト教育に必要な要件を満たす短期大学として、フードスペシャリスト協会の認定を受けています。本学で定める単位を修得し、かつフードスペシャリスト協会が実施する「認定試験」に合格すると、フードスペシャリストの資格認定証が交付されます。

近年、消費者のニーズが多様化、高度化し、食品や食べ物に対する安全志向、健康志向が強まるなど、より豊かな食生活を求めるようになってきました。そのため、①流通の分野では食品の市場調査や科学的知識・技術により得た情報を提供し、流通の円滑をはかる。②販売の分野では販売員に対し食品の品質情報を知らせ、管理・陳列や科学的知識及びサービスを含め指導・助言する。また、③顧客に対しては食品の種類の選び方、その利用の方法などにわたり、食品の専門職の立場から指導・助言する。④ホテルやレストランなど、料理として提供する分野では調理者と喫食者の間に立ってメニュー、食味の調整や食堂の雰囲気を保ち、楽しく、快適な飲食ができるよう食空間をコーディネートする。さらに、⑤消費者センターではクレームに対して問題解決策を講じます。このように流通・消費分野の食品専門職が求められていますが、消費者サイドに立った流通・消費の分野における「食」の専門職がフードスペシャリストです。

フードスペシャリストの活躍が期待される職域はおもに食品産業があります。これには食品メーカー、食品流通業、食品小売業、レストランなどの飲食業（外食産業）が含まれます。



### 資格申込方法

#### (ア) 申込方法

フードスペシャリスト資格取得者の定員は、家政科食と栄養コースの学生 55 名です。1 年生の後期に希望をとりませんが、希望人数が定員を上回った場合は調整があります。資格取得のための受講を認められなかった学生が、フードスペシャリスト資格に係る科目を履修し単位を修得してもフードスペシャリストの資格を取得することはできません。

#### (イ) 申込の手続き

資格取得のための受講許可を得たものは、指定された日時に履修費を支払い手続きを完了してください。指定の日時に手続きを完了していない者は、受講の許可を取り消します。また、いったん納入した履修費は、原則として返還しません。

#### (ウ) 資格取得に要する経費

- ・履修費（予定） 2 年次 2,000 円
- ・受験料・認定証交付手数料 11,000 円

（注）履修費他の金額は確定ではありません。一応の目安と考えてください。

#### (エ) 認定試験

フードスペシャリスト協会が実施する認定試験は 2 年次（12 月の日曜日）に実施されます。

## フードスペシャリストの資格取得に必要な科目、単位数

(2025年度入学生から適用)

協会の規程科目・単位数等		左記に対応する本学開講科目等	
授業科目名	単位数	授業科目名	単位数等
必修科目	フードスペシャリスト論	2	フードスペシャリスト論 [2]
	食品の官能評価・鑑別論(統計処理を含む)	2	食品学実習 ①
	食品学(食品学、食品加工学、食品貯蔵・流通技術論、食品機能学等)に関する科目	5	食品の官能評価・鑑別論 [2]
			食品化学(含食品機能) ②
			食品化学(含食品機能)実験 ①
	食品の安全性(食品衛生、食中毒、有害物質、食品添加物、水質等)に関する科目	2	食品学 ②
			食品衛生学 ②
	調理学(調理科学を含む)に関する科目	4	調理学 ②
			調理学実習Ⅰ ①
			調理学実習Ⅱ ①
栄養と健康に関する科目	2	基礎栄養学 ②	
食品流通・消費に関する科目(フードマーケティングを含む)	2	食品流通生活論 [2]	
フードコーディネータ論	2	フードコーディネータ論 [2]	
小計			22
選択科目	フードスペシャリスト資格に相当とされる科目	自由設定単位	ライフステージ栄養学 ②
			食生活プランニング ①
小計			3
本学が定める資格取得に必要な修得単位数合計			25

注 本学開講科目の単位数欄の、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字はフードスペシャリスト資格取得者必修単位です。

教職課程	200
図書館学課程	231
博物館学芸員課程	235
レクリエーション・インストラクター資格	237

本学では、正規課程の授業科目以外にも、「[2]教育課程について」に掲載しているものを含め、資格取得を目的とした課程を設置しています。所定の科目をルールに従って学び終えることで卒業と同時に資格を得ることができるもの、受験資格が得られるもの、一部受験科目が免除となるなどさまざまです。なお、学部・学科によって、選択できる課程が異なるので、諸課程の履修を希望する学生は履修条件、資格取得の方法などをしっかり理解したうえで必要な手続きを行ってください。

# 3

# 諸課程について

## 1 教職課程

### 教職課程について

教育職員免許状（以下「教員免許状」と記載）を取得しようとする者のために、本学で履修するそれぞれの専門知識の上に立って、教職課程が開設されています。教育職員免許法（以下「免許法」と記載）によって授与される教員免許状を取得する者は、深い専門についての学識と幅の広い教養を修め、そのうえに教育に対する重責と誇りと教員志望の強い意志を持っていなければなりません。したがって、単に教員免許状を持っていれば、将来何かの役に立つであろうというような安易な考えで履修するのは好ましくありません。

履修にあたっては、将来教壇に立つ意欲を継続し、強い決意を持って、周到的な計画をたてることが是非とも必要です。

### 本学で取得できる教員免許状の種類

#### 家政学部で取得できる教員免許状

学科・専攻	教員免許状の種類	教科
被服学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	家庭
食物学専攻	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状 栄養教諭2種免許状	家庭
食物学専攻 栄養士専攻	栄養教諭1種免許状	
児童学専攻	幼稚園教諭1種免許状	
児童学専攻 児童教育専攻	中学校教諭1種免許状 小学校教諭1種免許状	理科

※栄養教諭2種免許状のみの取得は認められません。中学校・高等学校教諭1種免許状の取得を条件とします。

#### 文学部で取得できる教員免許状

学科・専攻	教員免許状の種類	教科
日本文学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	国語
英語英文学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	英語

#### 社会情報学部で取得できる教員免許状

学科・専攻	教員免許状の種類	教科
社会情報学科 社会生活情報学専攻	高等学校教諭1種免許状	情報
社会情報学科 環境情報学専攻	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	理科
社会情報学科 情報デザイン専攻	高等学校教諭1種免許状	情報

## 教員免許状・免許教科の種類と必要な資格及び修得単位数

### 教員免許状を取得するための基礎資格

教員免許状の種類	免許教科	基礎資格	免許法に定める最低修得単位数
			教科及び教職に関する科目
中学校教諭 1種免許状	家庭 国語 英語 理科	学士の学位を有すること	59
高等学校教諭 1種免許状	家庭 国語 英語 理科 情報	学士の学位を有すること	59
幼稚園教諭 1種免許状		学士の学位を有すること	51
小学校教諭 1種免許状		学士の学位を有すること	59

教員免許状の種類	免許教科	基礎資格	免許法に定める最低修得単位数
			栄養に係る教育及び教職に関する科目
栄養教諭 1種免許状		学士の学位を有すること、かつ、栄養士法第2条第3項の規定により管理栄養士の免許を受けていること又は同法第5条の3第4号の規定により指定された管理栄養士養成施設の課程を修了していること（家政学部食物学科管理栄養士専攻の場合、学士の学位を有し、かつ管理栄養士専攻を修了していること）	22
栄養教諭 2種免許状		短期大学士の学位を有すること及び栄養士法第2条第1項の規定により栄養士の免許を受けていること（家政学部食物学科食物学専攻の場合、学士の学位を有し、かつ栄養士の免許を受けていること）	14

注 教員免許状の授与を受けようとする者は、上記のほかに、日本国憲法・体育・外国語コミュニケーション・数理・データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作についての科目各2単位を修得する必要があります。

#### a 基礎資格

本学において、基礎資格を満たすためには、「①学習について」「③卒業するために必要な要件」に掲げる卒業必要単位を修得し、卒業しなければなりません。

また、次の全学共通科目又は学部共通科目を必ず履修し、単位を修得しなければなりません。

#### 家政学部・文学部

- ① 「日本国憲法」
- ② 「スポーツA」、「スポーツB」、「スポーツC」、「スポーツD」、「シーズン・スポーツ」のうちからいずれか2科目
- ③ 「英語I A」及び「英語I B」
- ④ 「情報基礎PC（情報活用・PC操作）」、「情報基礎DS（表計算活用・データリテラシー）」のうちからいずれか1科目

## 社会情報学部

- ① 「日本国憲法」
- ② 「スポーツ A」、「スポーツ B」、「スポーツ C」、「スポーツ D」、「シーズン・スポーツ」のうちからいずれか2科目
- ③ 「英語 I A」及び「英語 I B」
- ④ 「情報処理実習 A」及び「情報処理実習 B」（学部共通科目）

### b 教科及び教職に関する科目

「教科及び教職に関する科目」は、教職課程履修者独自に開設する科目（幼、小を除く）と、各学科（専攻）の専門科目に分かれます。免許法に定める科目区分ごとに必要な単位を修得しますが、本学では法令に定める単位数以上を修得することになります。詳細は各学科の免許種別ごとの開設科目及び最低修得単位数欄を参照してください。

### c 卒業要件との関係

卒業要件を満たすために修得しなければならない科目と、教員免許状の授与を受けるために修得しなければならない科目は異なります。

ただし、以下の科目については、それぞれに掲げる単位を上限として卒業に必要な単位に含めることができます。

#### ①教科及び教科の指導法に関する科目

##### ・被服学科

「教職課程独自の科目」として開講する科目については、「専門教育科目」の選択科目として、4単位を卒業に必要な単位に含めることができます（家庭科教育法を除く）。詳細は、P205を確認してください。

##### ・食物学科

「教職課程独自の科目」として開講する科目については、「専門教育科目」の家政学部共通科目として、2単位を卒業に必要な単位に含めることができます（家庭科教育法を除く）。詳細は、P209を確認してください。

##### ・日本文学科

「教職課程独自の科目」として開講する科目については、「専門教育科目」の選択科目として、卒業に必要な単位に含めることができます（国語科教育法を除く）。詳細は、P217を確認してください。

#### ②教育の基礎的理解に関する科目等

「教育の基礎的理解に関する科目」

「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」

「教育実践に関する科目」

上記の科目区分からあわせて4単位を上限として卒業に必要な全学共通科目の選択科目の単位に含めることができます。

### d 介護等体験

小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者は、障害者、高齢者等に対する介護、介助等の体験を7日間行わなければなりません。

体験の期間等は次のとおりです。

特別支援学校	2日間
社会福祉施設	5日間

教科及び教職に関する科目

被服学科

a 高等学校教諭1種免許状「家庭」

(2024年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	1	家庭経営学概論(含家庭経済学)[2] 家族関係論[2]	4
		被服学(被服実習を含む。)	1	被服材料学② 被服材料学実験[2] 繊維科学[2] 繊維科学実験(2) 被服管理学[2] 界面科学(2) アパレル概論② アパレル製作I② 和服製作I② 立体裁断(2) 機能性被服材料(2) 染色加工学(2) 色彩学② 日本服飾文化史② 西洋服飾文化史② 服飾工芸(2)	20
		食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	1	栄養学概論[2] 食品学概論[2] 調理学実習[2] 食物学概論(2)	6
		住居学	1	住居学概論[2] 製図及び家庭工作学[2]	4
		保育学	1	保育学(含実習及び家庭看護)[2]	2
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目			-
		各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	4	家庭科教育法I[2] 家庭科教育法II[2] 家庭科教育法III[2] 家庭科教育法IV[2]	8
計		23		44	
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]	2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)	2
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説[1]	1
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論[2]	2
教育相談等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、	総合的な学習の時間の指導法	8	総合的な学習の時間要説[1]	1
		特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2
		教育の方法及び技術		教育の方法と技術[2]	2
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT活用の理論と実践[1]	1
		生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論[2]	2
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談[2]	2
教育実践に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、	教育実習	3	教育実習I[2] 教育実習II(2) 教育実習指導I[2] 教育実習指導II[2]	6
		学校体験活動		-	
		教職実践演習		2	教職実践演習(中・高)[2]
大学が独自に設定する科目		12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上を修得	-	
合計		58		73	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位、( )の数字は選択科目です。

b 中学校教諭1種免許状「家庭」

(2024年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	1	家庭経営学概論(含家庭経済学)[2] 家族関係論[2]	4
		被服学(被服実習を含む。)	1	被服材料学② 被服材料学実験[2] 繊維科学[2] 繊維科学実験(2) 被服管理学[2] 界面科学(2) アパレル概論② アパレル製作I② 和服製作I② 立体裁断(2) 機能性被服材料(2) 染色加工学(2) 色彩学② 日本服飾文化史② 西洋服飾文化史② 服飾工芸(2)	20
		食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	1	栄養学概論[2] 食品学概論[2] 調理学実習[2]	6
		住居学	1	住居学概論[2]	2
		保育学	1	保育学(含実習及び家庭看護)[2]	2
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				-
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		8	家庭科教育法I[2] 家庭科教育法II[2] 家庭科教育法III[2] 家庭科教育法IV[2]	8
	計		28		42
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]	2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)	2
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説[1]	1
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論[2]	2
教科及び教職に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳教育要説[2]	2
		総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間要説[1]	1
		特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2
		教育の方法及び技術		教育の方法と技術[2]	2
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT活用の理論と実践[1]	1
		生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論[2]	2
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		教育相談[2]	2
教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習I[2] 教育実習II[2] 教育実習指導I[2] 教育実習指導II[2]	8
		学校体験活動		-	
		教職実践演習		2	教職実践演習(中・高)[2]
大学が独自に設定する科目		4	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて4単位以上を修得	-	
合計		59		75	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位、( )の数字は選択科目です。

## c 教科及び教科の指導法に関する科目「家庭」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2024年度入学生から適用)

授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備考
食品学概論	2	半期	講義	2	2	
栄養学概論	2	半期	講義	2または3	2	
保育学(含実習及び家庭看護)	2	半期	講義	3	2	
調理学実習	2	通年	講義・実習	3	4	
製図及び家庭工作学	2	半期	講義	3	2	
家庭科教育法Ⅰ	2	半期	講義	2	2	
家庭科教育法Ⅱ	2	半期	講義	2	2	
家庭科教育法Ⅲ	2	半期	講義	3	2	
家庭科教育法Ⅳ	2	半期	講義	3	2	

注(1) 時間数は1週間の授業時間数です。

注(2) 各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3) 被服学科の「専門教育科目」の選択科目として4単位を卒業に必要な単位に含めることができます。(家庭科教育法を除く)

## d 教育の基礎的理解に関する科目等「家庭」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2024年度入学生から適用)

授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備考
教育原理	2	半期	講義	2	2	
教職入門	2	半期	講義	1	2	
教育制度要説(含学校経営)	2	半期	講義	2	2	
教育心理学	2	半期	講義	2	2	
青年心理学	2	半期	講義	2	2	選択
特別支援教育要説	1	集中	講義	2	1	
教育課程論	2	半期	講義	2	2	
道徳教育要説	2	半期	講義	3	2	
総合的な学習の時間要説	1	集中	講義	3	1	
特別活動要説	2	半期	講義	3	2	
教育の方法と技術	2	半期	講義	3	2	
ICT活用の理論と実践	1	集中	講義	3	1	
生徒・進路指導論	2	半期	講義	3	2	
教育相談	2	半期	講義	2	2	
教育実習Ⅰ	2	2週間	実習	4	○	
教育実習Ⅱ	2	2週間	実習	4	○	
教育実習指導Ⅰ	2	半期	講義	3	2	
教育実習指導Ⅱ	2	半期	講義	4	2	
教職実践演習(中・高)	2	半期	演習	4	2	

注(1) 時間数は1週間の授業時間数です。

注(2) 各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3) 「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」は教育実習に係る事前及び事後の指導を含み、それぞれ3年後期、4年後期に開講されます。

注(4) 「教職実践演習(中・高)」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

食物学科 食物学専攻

a 高等学校教諭1種免許状「家庭」

(2024年度入学生から適用)

全課程		免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
		科目	単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	1	家庭経営学概論(含家庭経済学)[2] 家族関係論[2]	4	
		被服学(被服実習を含む。)	1	衣生活概論[2] 被服材料学(2) 被服工作(和)(洋)[2]	4	
		食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	1	生化学② 栄養化学Ⅰ② 食品化学② 食品化学実験① 食品学② 食品学実験① 食安全学Ⅰ② 食安全学実験① 栄養教育論Ⅰ② 栄養教育論Ⅱ② 基礎調理学実習① 調理科学Ⅰ② 調理科学Ⅱ(2) 調理科学実験[1] 食事設計論② 食文化論(2) 食品品質学(2)	23	
		住居学	1	住居学概論[2] 製図及び家庭工作学[2]	4	
		保育学	1	保育学(含実習及び家庭看護)[2]	2	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					—
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		4	家庭科教育法Ⅰ[2] 家庭科教育法Ⅱ[2] 家庭科教育法Ⅲ[2] 家庭科教育法Ⅳ[2]	8	
	計		23		45	
	教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
			教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]	2
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)			教育制度要説(含学校経営)[2]		2	
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			教育心理学[2] 青年心理学(2)		2	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育要説[1]		1	
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)			教育課程論[2]		2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導、法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		総合的な学習の時間の指導法	8	総合的な学習の時間要説[1]	1	
		特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2	
		教育の方法及び技術		教育の方法と技術[2]	2	
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT活用の理論と実践[1]	1	
生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論[2]	2				
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談[2]	2				
教育実践に関する科目	教育実習	3	教育実習Ⅰ[2] 教育実習Ⅱ(2) 教育実習指導Ⅰ[2] 教育実習指導Ⅱ[2]	6		
	学校体験活動			—		
	教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)[2]	2		
大学が独自に設定する科目		12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上を修得	—		
合計		58		74		

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位、( )の数字は選択科目です。

b 中学校教諭1種免許状「家庭」

(2024年度入学生から適用)

全課程	免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
	科目	単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	1	家庭経営学概論(含家庭経済学)[2] 家族関係論[2]	4
		被服学(被服実習を含む。)	1	衣生活概論[2] 被服材料学(2) 被服工作(和)(洋)[2]	4
		食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	1	生化学② 栄養化学Ⅰ② 食品化学② 食品化学実験① 食品学② 食品学実験① 食安全学Ⅰ② 食安全学実験① 栄養教育論Ⅰ② 栄養教育論Ⅱ② 基礎調理学実習① 調理科学Ⅰ② 調理科学Ⅱ(2) 調理科学実験[1] 食事設計論② 食文化論(2) 食品品質学(2)	23
		住居学	1	住居学概論[2]	2
		保育学	1	保育学(含実習及び家庭看護)[2]	2
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目			
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	8	家庭科教育法Ⅰ[2] 家庭科教育法Ⅱ[2] 家庭科教育法Ⅲ[2] 家庭科教育法Ⅳ[2]	8	
	<b>計</b>	<b>28</b>		<b>43</b>	
	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]	2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)	2
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説[1]	1
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論[2]	2
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳教育要説[2]	2
		総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間要説[1]	1
		特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2
教育の方法及び技術		教育の方法と技術[2]		2	
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT活用の理論と実践[1]		1	
生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論[2]		2	
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談[2]	2			
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習Ⅰ[2] 教育実習Ⅱ[2] 教育実習指導Ⅰ[2] 教育実習指導Ⅱ[2]	8	
	学校体験活動			—	
	教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)[2]	2	
大学が独自に設定する科目		4	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて4単位以上を修得	—	
<b>合計</b>		<b>59</b>		<b>76</b>	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位、( )の数字は選択科目です。

c 栄養教諭 2 種免許状

(2019 年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目 (単位)	最低修得単位数	
栄養に係る教育及び教職に関する科目	栄養に係る教育に関する科目	栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	学校栄養教諭論 [2]	2	
		幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項			
		食生活に関する歴史的及び文化的事項			
		食に関する指導の方法に関する事項			
	計		2		2
	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	5	教育原理 [2]	2
		教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門 [2]	2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説 (含学校経営) [2]	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 [2] 青年心理学 (2)	2
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説 [1]	1
		教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論 [2]	2
	道徳、総合的な学習の時間及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	3	道徳教育要説 [2] 総合的な学習の時間要説 [1] 特別活動要説 [2]	5
		教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。)		教育の方法及び技術 [2]	2
		生徒指導の理論及び方法		生徒指導論 [2]	2
教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		教育相談 [2]		2	
教育実践に関する科目	栄養教育実習	2	栄養教育実習 (含事前事後指導) [2]	2	
	教職実践演習	2	教職実践演習 (栄養教諭) [2]	2	
大学が独自に設定する科目				-	
合 計		14		28	

注 本学開設科目 (単位) 欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ] の数字は教職課程履修者必修単位、( ) の数字は選択科目です。

## d 教科及び教科の指導法に関する科目「家庭」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2024年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
保育学（含実習及び家庭看護）	2	半 期	講義	2	2	
衣 生 活 概 論	2	半 期	講義	2	2	
被 服 材 料 学	2	半 期	講義	2 または 3	2	選択
被 服 工 作（和）（洋）	2	通 年	実習	2	4	
製 図 及 び 家 庭 工 作 学	2	半 期	講義	3	2	
家 庭 科 教 育 法 I	2	半 期	講義	2	2	
家 庭 科 教 育 法 II	2	半 期	講義	2	2	
家 庭 科 教 育 法 III	2	半 期	講義	3	2	
家 庭 科 教 育 法 IV	2	半 期	講義	3	2	

注（1）時間数は1週間の授業時間数です。

注（2）各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注（3）食物学科の「専門教育科目」の家政学部共通科目として2単位を卒業に必要な単位に含めることができます。（家庭科教育法を除く）

## e 教育の基礎的理解に関する科目等「家庭」「栄養教諭」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2022年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
教 育 原 理	2	半 期	講義	2	2	
教 職 入 門	2	半 期	講義	1	2	
教育制度要説（含学校経営）	2	半 期	講義	2	2	
教 育 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	
青 年 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	選択
特 別 支 援 教 育 要 説	1	集 中	講義	2	1	
教 育 課 程 論	2	半 期	講義	2	2	
道 徳 教 育 要 説	2	半 期	講義	3	2	
総合的な学習の時間要説	1	集 中	講義	3	1	
特 別 活 動 要 説	2	半 期	講義	3	2	
教 育 の 方 法 と 技 術	2	半 期	講義	3	2	
ICT活用の理論と実践	1	集 中	講義	3	1	「家庭」のみ
生 徒 ・ 進 路 指 導 論	2	半 期	講義	3	2	「家庭」のみ
生 徒 指 導 論	2	半 期	講義	3 または 4	2	「栄養教諭」のみ
教 育 相 談	2	半 期	講義	2	2	
教 育 実 習 I	2	2週間	実習	4	○	「家庭」のみ
教 育 実 習 II	2	2週間	実習	4	○	「家庭」のみ
教 育 実 習 指 導 I	2	半 期	講義	3	2	「家庭」のみ
教 育 実 習 指 導 II	2	半 期	講義	4	2	「家庭」のみ
栄養教育実習（含事前事後指導）	2	1週間	実習	4	○	「栄養教諭」のみ
教 職 実 践 演 習（中・高）	2	半 期	演習	4	2	「家庭」のみ
教 職 実 践 演 習（栄養教諭）	2	半 期	演習	4	2	「栄養教諭」のみ

注（1）時間数は1週間の授業時間数です。

注（2）各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注（3）「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」は、教育実習に係る事前及び事後の指導を含み、それぞれ3年後期、4年後期に開講されます。

注（4）「教職実践演習（中・高）」、「教職実践演習（栄養教諭）」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

食物学科 管理栄養士専攻

a 栄養教諭1種免許状

(2019年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数
栄養に係る教育に関する科目	栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	4	学校栄養教諭論Ⅰ [2] 学校栄養教諭論Ⅱ [2]	4
	幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項			
	食生活に関する歴史的及び文化的事項			
	食に関する指導の方法に関する事項			
計		4		4
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育原理 [2]	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門 [2]	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営) [2]	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 [2] 青年心理学 (2)	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説 [1]	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論 [2]	2
道徳、総合的な学習の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	6	道徳教育要説 [2] 特別活動要説 [2] 総合的な学習の時間要説 [1]	5
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育の方法と技術 [2]	2
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導論 [2]	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		教育相談 [2]	2
教育実践に関する科目	栄養教育実習	2	栄養教育実習(含事前事後指導) [2]	2
	教職実践演習	2	教職実践演習(栄養教諭) [2]	2
大学が独自に設定する科目				-
合計		22		30

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位、( )の数字は選択科目です。

b 教育の基礎的理解に関する科目等「栄養教諭」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
教 育 原 理	2	半期	講義	2	2	
教 職 入 門	2	半期	講義	1	2	
教育制度要説（含学校経営）	2	半期	講義	2	2	
教 育 心 理 学	2	半期	講義	2	2	
青 年 心 理 学	2	半期	講義	2	2	選択
特 別 支 援 教 育 要 説	1	集中	講義	2	1	
教 育 課 程 論	2	半期	講義	2	2	
道 徳 教 育 要 説	2	半期	講義	3	2	
特 別 活 動 要 説	2	半期	講義	3	2	
総合的な学習の時間要説	1	集中	講義	3	1	
教 育 の 方 法 と 技 術	2	半期	講義	3	2	
生 徒 指 導 論	2	半期	講義	3	2	
教 育 相 談	2	半期	講義	2	2	
栄養教育実習（含事前事後指導）	2	1週間	実習	4	○	
教職実践演習（栄養教諭）	2	半期	演習	4	2	

注（1）時間数は1週間の授業時間数です。

注（2）各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注（3）「教職実践演習（栄養教諭）」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

児童学科 児童学専攻

a 幼稚園教諭1種免許状

(2024年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健康	領域健康②	2	
		人間関係	領域人間関係②	2	
		環境	領域環境②	2	
		言葉	領域ことば②	2	
		表現	領域表現②	2	
	領域及び保育内容の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				-
	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)			保育内容健康の指導法② 保育内容人間関係の指導法② 保育内容環境の指導法② 保育内容ことばの指導法② 保育内容表現の指導法② 保育内容総論[2] 子どもと遊び② 子どもとからだ②	16
計		16		26	
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理A②	2	
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	保育者論②	2	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育経営論A②	2	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	子ども理解の基礎②	2	
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	障がい児保育②	2	
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	保育カリキュラム論②	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	保育方法演習②	2	
		幼児理解の理論及び方法	子どもの理解と援助②	2	
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	保育カンファレンス演習[2]	2	
大学が独自に設定する科目	教育実習	5	教育実習(幼稚園Ⅰ)[2] 教育実習(幼稚園Ⅱ)[2] 幼稚園実習特講[1]	5	
	学校体験活動			-	
	教職実践演習	2	保育・教職実践演習[2]	2	
大学が独自に設定する科目		14	最低修得単位を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて14単位以上を修得	-	
合計		51		51	

注(1) 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位です。  
 注(2) 「幼稚園実習特講」は、教育実習に係る事前及び事後の指導とし、2年次、4年次それぞれの実習の前後に行います。  
 注(3) 「保育・教職実践演習」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で4年後期に開講されます。

児童学科 児童教育専攻  
a 小学校教諭1種免許状

(2024年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語(書写を含む。)	国語科教育②	2	
		社会	社会科教育②	2	
		算数	算数科教育②	2	
		理科	理科教育②	2	
		生活	生活科教育②	2	
		音楽	音楽科教育②	2	
		図画工作	図工科教育②	2	
		家庭	家庭科教育②	2	
		体育	体育科教育②	2	
		外国語	小学校外国語教育②	2	
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目			
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)			国語科指導法[2] 社会科指導法[2] 算数科指導法[2] 理科指導法[2] 生活科指導法[2] 音楽科指導法[2] 図工科指導法[2] 家庭科指導法[2] 体育科指導法[2] 小学校外国語指導法[2]	20
計		30		40	
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理B②	2	
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教師論②	2	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育経営論B②	2	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学②	2	
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育②	2	
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論②	2	
目及び生徒指導、総合的な学習の時間等の指導法に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法	道徳の理論及び指導法	道徳教育論②	2	
		総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の学びと指導法②	2	
		特別活動の指導法	特別活動論②	2	
		教育の方法及び技術	教育方法論②	2	
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	子どもの学びとICT[2]	2	
		生徒指導の理論及び方法	学級経営と集団づくり(2) 生徒・進路指導の理論及び方法②	2	
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談②	2	
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習(小学校)[4] 小学校実習特講[1]	5	
	学校体験活動			—	
	教職実践演習	2	教職実践演習(小・中)[2]	2	
大学が独自に設定する科目		2	「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて2単位以上を修得 小学校総合演習Ⅰ(2) 小学校総合演習Ⅱ(2)	—	
合計		59		73	

注(1) 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位、( )の数字は選択科目です。  
注(2) 「小学校実習特講」は、教育実習に係る事前及び事後の指導とし、4年次の実習の前後に行います。  
注(3) 「教職実践演習(小学校)」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

b 中学校教諭1種免許状「理科」

(2026年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	物理学	1	物理の基礎② 生活と物理【2】	2
		化学	1	化学の基礎② 生活と化学【2】	2
		生物学	1	生物の基礎② 生物と環境【2】	2
		地学	1	地学の基礎② 地球と環境【2】	2
		物理学実験・化学実験 ・生物学実験・地学実験	4	物理学基礎実験I② 物理学基礎実験II② 化学基礎実験I② 化学基礎実験II② 生物学基礎実験I② 生物学基礎実験II② 地学基礎実験I② 地学基礎実験II②	12
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目			科学する心(第1分野:物理・化学)(2) 科学する心(第2分野:生物・地学)(2)	-
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		8	理科教育法Ⅰ【2】 理科教育法Ⅱ【2】 理科教育法Ⅲ【2】 理科教育法Ⅳ【2】	8
				※4単位は、教科に関する専門的事項の 選択必修科目(実験科目は除く)8単位から選択	4
計		28		32	
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理B②	2
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教師論②	2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育経営論B②	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学②	2
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育②	2
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論②	2
	道徳、総合的な学習の時間等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳教育論②	2
		総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の学びと指導法②	2
		特別活動の指導法		特別活動要説【2】	2
		教育の方法及び技術		教育方法論②	2
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		子どもの学びとICT【2】	2
		生徒指導の理論及び方法		学級経営と集団づくり(2) 生徒・進路指導の理論及び方法②	2
教育実践に関する科目	教育実習	5	中学校実習指導【1】 教育実習(中学校)【4】	5	
	学校体験活動				
	教職実践演習		2	教職実践演習(小・中)【2】	2
大学が独自に設定する科目		4	子どもの学びと自然② 野外教育実践演習② サイエンス・エドゥケーター論② 子どもと科学する心② 児童学基礎体験演習Ⅰ② 児童学基礎体験演習Ⅱ②	10	
合計		59		75	

注(1) 本学開講科目(単位)のうち、○の数字は卒業必修単位、【】の数字は教職課程必修者の単位、( )の数字は選択科目です。

注(2) 本学開講科目(単位)のうち、<>・【】・{}の数字は、括弧種ごとに2科目以上修得すべき選択必修科目です。

注(3) 「教職実践演習(小・中)」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

日本文学科

a 高等学校教諭1種免許状「国語」

(2022年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数	
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	1	日本語学概説② 日本語学講義 [2]	4
	国文学(国文学史を含む。)	1	日本古典文学入門② 上代文学概説② 中古文学概説② 中世文学概説② 近世文学概説② 近代文学概説② 現代文学概説② 変体仮名読解② 上代文学講義 [2] 中古文学講義 [2] 中世文学講義 [2] 近世文学講義 [2] 近代文学講義 [2] 現代文学講義 [2]	28
	漢文学	1	漢文学入門② 漢文学概説② 漢文学講義 [2]	6
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目			-
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	4	国語科教育法Ⅰ [2] 国語科教育法Ⅱ [2] 国語科教育法Ⅲ [2] 国語科教育法Ⅳ [2]	8
	計	24		46
教科及び教職に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理 [2]	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門 [2]	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営) [2]	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 [2] 青年心理学 (2)	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説 [1]	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論 [2]	2
法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	8	総合的な学習の時間要説 [1]	1
	特別活動の指導法		特別活動要説 [2]	2
	教育の方法及び技術		教育の方法と技術 [2]	2
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT 活用の理論と実践 [1]	1
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論 [2]	2
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		教育相談 [2]	2
教育実践に関する科目	教育実習	3	教育実習Ⅰ [2] 教育実習Ⅱ (2) 教育実習指導Ⅰ [2] 教育実習指導Ⅱ [2]	6
	学校体験活動			-
	教職実践演習	2	教職実践演習(中・高) [2]	2
大学が独自に設定する科目		12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上を修得	-
合計		59		75

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位、( )の数字は選択科目です。

b 中学校教諭1種免許状「国語」

(2022年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目			単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	1	日本語学概説② 日本語学講義[2]	4
		国文学(国文学史を含む。)	1	日本古典文学入門② 上代文学概説② 中古文学概説② 中世文学概説② 近世文学概説② 近代文学概説② 現代文学概説② 変体仮名読解② 上代文学講義[2] 中古文学講義[2] 中世文学講義[2] 近世文学講義[2] 近代文学講義[2] 現代文学講義[2]	28
		漢文学	1	漢文学入門② 漢文学概説② 漢文学講義[2]	6
		書道(書写を中心とする。)	1	書法総合演習Ⅰ[2] 書法総合演習Ⅱ[2]	4
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				—
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		8	国語科教育法Ⅰ[2] 国語科教育法Ⅱ[2] 国語科教育法Ⅲ[2] 国語科教育法Ⅳ[2]	8
	計		28		50
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]	2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)	2
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説[1]	1
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論[2]	2
目及び生徒指導、総合的な学習の時間等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳教育要説[2]	2
		総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間要説[1]	1
		特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2
		教育の方法及び技術		教育の方法と技術[2]	2
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT活用の理論と実践[1]	1
		生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論[2]	2
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談[2]	2
教育実践に関する科目	教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習Ⅰ[2] 教育実習Ⅱ[2] 教育実習指導Ⅰ[2] 教育実習指導Ⅱ[2]	8
		学校体験活動		—	
		教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)[2]	2
大学が独自に設定する科目		4	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて4単位以上を修得	—	
合計			59		83

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位、( )の数字は選択科目です。

## c 教科及び教科の指導法に関する科目「国語」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備考
書 法 総 合 演 習 I	2	半 期	演習	2	2	
書 法 総 合 演 習 II	2	半 期	演習	2	2	
国 語 科 教 育 法 I	2	半 期	講義	2	2	
国 語 科 教 育 法 II	2	半 期	講義	3	2	
国 語 科 教 育 法 III	2	半 期	講義	3	2	
国 語 科 教 育 法 IV	2	半 期	講義	3	2	

注 (1) 時間数は1週間の授業時間数です。

注 (2) 各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注 (3) 「書法総合演習Ⅰ」、「書法総合演習Ⅱ」は、日本文学科の「専門教育科目」の選択科目として、卒業に必要な単位に含めることができます。

## d 教育の基礎的理解に関する科目等「国語」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2022年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備考
教 育 原 理	2	半 期	講義	2	2	
教 職 入 門	2	半 期	講義	1	2	
教育制度要説(含学校経営)	2	半 期	講義	2	2	
教 育 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	
青 年 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	選択
特 別 支 援 教 育 要 説	1	集 中	講義	2	1	
教 育 課 程 論	2	半 期	講義	2	2	
道 徳 教 育 要 説	2	半 期	講義	3	2	
総合的な学習の時間要説	1	集 中	講義	3	1	
特 別 活 動 要 説	2	半 期	講義	3	2	
教育の方法と技術	2	半 期	講義	3	2	
ICT活用の理論と実践	1	集 中	講義	3	1	
生徒・進路指導論	2	半 期	講義	3	2	
教 育 相 談	2	半 期	講義	2	2	
教 育 実 習 I	2	2週間	実習	4	○	
教 育 実 習 II	2	2週間	実習	4	○	
教育実習指導Ⅰ	2	半 期	講義	3	2	
教育実習指導Ⅱ	2	半 期	講義	4	2	
教職実践演習(中・高)	2	半 期	演習	4	2	

注 (1) 時間数は1週間の授業時間数です。

注 (2) 各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注 (3) 「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」は教育実習に係る事前及び事後の指導を含み、それぞれ3年後期、4年後期に開講されます。

注 (4) 「教職実践演習(中・高)」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

英語英文学科

a 高等学校教諭1種免許状「英語」

(2025年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数			
科目			単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	1	英語発音入門② 英文法(基礎)1② 英文法(基礎)2② 英文法(発展)1② 英文法(発展)2② 英語学入門1② 英語学入門2② 英語音声学演習(2) 英語学(音声)(2) 英語学(文法)(2) 英語学(意味)(2) 英語学(特論)(2)	14	
		英語文学	1	英文学入門1② 英文学入門2② 米文学入門1② 米文学入門2② 英語文学A(2) 英語文学B(2) 英語文学C(2) 英語文学D(2) 英語文学(特論)A(2) 英語文学(特論)B(2)	8	
		英語コミュニケーション	1	英文講読(基礎)1② 英文講読(基礎)2② 英文講読(発展)1② 英文講読(発展)2② Academic English A(2) Academic English B(2) Speaking(Basic)A(2) Speaking(Basic)B(2) Extensive Reading(Basic)② ISEC(2) Project-Based English A(2) Project-Based English B(2) Speaking(Intermediate)A(2) Speaking(Intermediate)B(2) Special Topics through English(2) Speaking(Advanced)(2) 通訳演習(2) 観光英語(2)	10	
		異文化理解	1	イギリス入門② アメリカ入門② 異文化コミュニケーション1[2] 異文化コミュニケーション2[2] 英語圏文化(言語)(2) 英語圏文化(社会)(2) 英語圏文化(特論)(2)	8	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					-
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)			4	英語科教育法Ⅰ[2] 英語科教育法Ⅱ[2] 英語科教育法Ⅲ[2] 英語科教育法Ⅳ[2]	8
	計			24		48
	教科及び教職に関する項目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
			教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]	2
			教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]	2
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			教育心理学[2] 青年心理学(2)		2	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育要説[1]		1	
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)			教育課程論[2]		2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		総合的な学習の時間の指導法	8	総合的な学習の時間要説[1]	1	
		特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2	
		教育の方法及び技術		教育の方法と技術[2]	2	
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT活用の理論と実践[1]	1	
	生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論[2]		2		
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	教育相談[2]		2		
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法					
教育実践に関する科目	教育実習	3	教育実習Ⅰ[2] 教育実習Ⅱ(2) 教育実習指導Ⅰ[2] 教育実習指導Ⅱ[2]	6		
	学校体験活動		-			
	教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)[2]	2		
大学が独自に設定する科目			12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上を修得	-	
合計			59		77	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位、( )の数字は選択科目です。

b 中学校教諭1種免許状「英語」

(2025年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	英語発音入門② 英文法(基礎)1② 英文法(基礎)2② 英文法(発展)1② 英文法(発展)2② 英語学入門1② 英語学入門2② 英語音声学演習(2) 英語学(音声)(2) 英語学(文法)(2) 英語学(意味)(2) 英語学(特論)(2)	14	
		英語文学	英文学入門1② 英文学入門2② 米文学入門1② 米文学入門2② 英語文学A(2) 英語文学B(2) 英語文学C(2) 英語文学D(2) 英語文学(特論)A(2) 英語文学(特論)B(2)	8	
		英語コミュニケーション	英文講読(基礎)1② 英文講読(基礎)2② 英文講読(発展)1② 英文講読(発展)2② Academic English A(2) Academic English B(2) Speaking(Basic)A(2) Speaking(Basic)B(2) Extensive Reading(Basic)② ISEC(2) Project-Based English A(2) Project-Based English B(2) Speaking(Intermediate)A(2) Speaking(Intermediate)B(2) Special Topics through English(2) Speaking(Advanced)(2) 通訳演習(2) 観光英語(2)	10	
		異文化理解	イギリス入門② アメリカ入門② 異文化コミュニケーション1[2] 異文化コミュニケーション2[2] 英語圏文化(言語)(2) 英語圏文化(社会)(2) 英語圏文化(特論)(2)	8	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				-
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		8	英語科教育法Ⅰ[2] 英語科教育法Ⅱ[2] 英語科教育法Ⅲ[2] 英語科教育法Ⅳ[2]	8
	計		28		48
	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]	2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]	2
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)		2	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説[1]		1	
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論[2]		2	
道徳、総合的な学習の時間等に関する科目		道徳の理論及び指導法		10	道徳教育要説[2]
総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間要説[1]	1			
特別活動の指導法	特別活動要説[2]	2			
教育の方法及び技術	教育の方法と技術[2]	2			
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	ICT活用の理論と実践[1]	1			
生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論[2]	2			
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		2			
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談[2]	2			
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習Ⅰ[2] 教育実習Ⅱ[2] 教育実習指導Ⅰ[2] 教育実習指導Ⅱ[2]	8	
	学校体験活動			-	
	教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)[2]	2	
大学が独自に設定する科目		4	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて4単位以上を修得	-	
合計		59		81	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位、( )の数字は選択科目です。

## c 教科及び教科の指導法に関する科目「英語」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備考
英 語 科 教 育 法 I	2	半期	講義	2	2	
英 語 科 教 育 法 II	2	半期	講義	3	2	
英 語 科 教 育 法 III	2	半期	講義	3	2	
英 語 科 教 育 法 IV	2	半期	講義	3	2	

注 (1) 時間数は1週間の授業時間数です。

注 (2) 各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

## d 教育の基礎的理解に関する科目等「英語」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2022年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備考
教 育 原 理	2	半期	講義	2	2	
教 職 入 門	2	半期	講義	1	2	
教育制度要説(含学校経営)	2	半期	講義	2	2	
教 育 心 理 学	2	半期	講義	2	2	
青 年 心 理 学	2	半期	講義	2	2	選択
特 別 支 援 教 育 要 説	1	集中	講義	2	1	
教 育 課 程 論	2	半期	講義	2	2	
道 徳 教 育 要 説	2	半期	講義	3	2	
総合的な学習の時間要説	1	集中	講義	3	1	
特 別 活 動 要 説	2	半期	講義	3	2	
教 育 の 方 法 と 技 術	2	半期	講義	3	2	
ICT 活 用 の 理 論 と 実 践	1	集中	講義	3	1	
生 徒 ・ 進 路 指 導 論	2	半期	講義	3	2	
教 育 相 談	2	半期	講義	2	2	
教 育 実 習 I	2	2週間	実習	4	○	
教 育 実 習 II	2	2週間	実習	4	○	
教 育 実 習 指 導 I	2	半期	講義	3	2	
教 育 実 習 指 導 II	2	半期	講義	4	2	
教 職 実 践 演 習 (中・高)	2	半期	演習	4	2	

注 (1) 時間数は1週間の授業時間数です。

注 (2) 各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注 (3) 「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」は教育実習に係る事前及び事後の指導を含み、それぞれ3年後期、4年後期に開講されます。

注 (4) 「教職実践演習(中・高)」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

社会情報学科社会生活情報学専攻

a 高等学校教諭1種免許状「情報」

(2024年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報社会(職業に関する内容を含む)・情報倫理	2	社会情報概論[2] 情報社会論(2) 情報倫理(2) 情報と職業[2] 情報と法律(2) AI入門(2)	4
		コンピュータ・情報処理	1	情報処理実習A② 情報処理実習B② コンピュータの基礎② プログラミングの基礎② プログラミング基礎演習② ソフトウェア概論(2) アルゴリズム論及び演習I(2) アルゴリズム論及び演習II(2)	10
		情報システム	1	情報システム論及び実習I[2] 情報システム論及び実習II[2] 情報リテラシー演習(2)	4
		情報通信ネットワーク	1	情報ネットワーク論及び実習I[2] 情報ネットワーク論及び実習II[2] メディア史(2)	4
		マルチメディア表現・マルチメディア技術	1	オンラインデータ分析[2] メディア運用演習[2] 情報分析演習(2) メディア学基礎(2) 情報表現法(2)	4
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				—
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む)		4	情報科教育法I[2] 情報科教育法II[2]	4
				※12単位は教科に関する専門的事項の選択科目24単位から選択	12
	計		24		42
	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む)		教職入門[2]		2	
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む)		教育制度要説(含学校経営)[2]		2	
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)		2	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説[1]		1	
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む)		教育課程論[2]		2	
法及び生徒指導、総合的な学習の時間等の指導に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	8	総合的な学習の時間要説[1]	1	
	特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2	
	教育の方法及び技術		教育の方法と技術[2]	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT活用の理論と実践[1]	1	
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論[2]	2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法				
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法		教育相談[2]	2	
教育実践に関する科目	教育実習	3	教育実習I[2] 教育実習II(2) 教育実習指導I[2] 教育実習指導II[2]	6	
	学校体験活動			—	
	教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)[2]	2	
大学が独自に設定する科目		12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上を修得	—	
合計		59		71	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位、( )の数字は選択科目です。

## b 教科及び教科の指導法に関する科目「情報」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
情報科教育法Ⅰ	2	半期	講義	3	2	
情報科教育法Ⅱ	2	半期	講義	3	2	

注（1）時間数は1週間の授業時間数です。

注（2）各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

## c 教育の基礎的理解に関する科目等「情報」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2022年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
教育原理	2	半期	講義	2	2	
教職入門	2	半期	講義	1	2	
教育制度要説（含学校経営）	2	半期	講義	2	2	
教育心理学	2	半期	講義	2	2	
青年心理学	2	半期	講義	2	2	選択
特別支援教育要説	1	集中	講義	2	1	
教育課程論	2	半期	講義	2	2	
総合的な学習の時間要説	1	集中	講義	3	1	
特別活動要説	2	半期	講義	3	2	
教育の方法と技術	2	半期	講義	3	2	
ICT活用の理論と実践	1	集中	講義	3	1	
生徒・進路指導論	2	半期	講義	3	2	
教育相談	2	半期	講義	2	2	
教育実習Ⅰ	2	2週間	実習	4	○	
教育実習Ⅱ	2	2週間	実習	4	○	選択
教育実習指導Ⅰ	2	半期	講義	3	2	
教育実習指導Ⅱ	2	半期	講義	4	2	
教職実践演習（中・高）	2	半期	演習	4	2	

注（1）時間数は1週間の授業時間数です。

注（2）各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注（3）「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」は教育実習に係る事前及び事後の指導を含み、それぞれ3年後期、4年後期に開講されます。

注（4）「教職実践演習（中・高）」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

社会情報学科環境情報学専攻

a 高等学校教諭1種免許状「理科」

(2025年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	物理学	1	はじめての物理[2] 物理の基礎[2] 力とかたち I (2)	4
		化学	1	化学の基礎[2] 環境と生命化学[2] 環境科学[2] エネルギーと環境(2) 自然科学入門(2)	6
		生物学	1	生物の基礎[2] 環境生理学[2] エコロジー[2] 生命のしくみ(2) 海の世界学(2)	6
		地学	1	地学の基礎[2] 宇宙地球科学[2] 地球環境論(2)	4
		物理学実験、化学実験、生物学実験、 地学実験	1	自然科学実験(物理)(2) 自然科学実験(化学)(2) 自然科学実験(生物)(2) 自然科学実験(地学)(2)	2
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				-
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		4	理科教育法 I [2] 理科教育法 II [2] 理科教育法 III [2] 理科教育法 IV [2]	8
				※9単位は、教科に関する専門的事項の選択科目20単位から選択	9
	計		24		39
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]	2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)	2
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説[1]	1
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論[2]	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	8	総合的な学習の時間要説[1]	1	
	特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2	
	教育の方法及び技術		教育の方法と技術[2]	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT活用の理論と実践[1]	1	
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論[2]	2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法				
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談[2]	2	
教育実践に関する科目	教育実習	3	教育実習 I [2] 教育実習 II (2) 教育実習指導 I [2] 教育実習指導 II [2]	6	
	学校体験活動		-		
	教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)[2]	2	
大学が独自に設定する科目		12	最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上を修得	-	
合計		59		68	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位、( )の数字は選択科目です。

b 中学校教諭1種免許状「理科」

(2025年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	物理学	1	はじめての物理[2] 物理の基礎[2] 力とかたちI(2)	4
		化学	1	化学の基礎[2] 環境と生命化学[2] 環境科学[2] エネルギーと環境(2) 自然科学入門(2)	6
		生物学	1	生物の基礎[2] 環境生理学[2] エコロジー[2] 生命のしくみ(2) 海の世界(2)	6
		地学	1	地学の基礎[2] 宇宙地球科学[2] 地球環境論(2)	4
		物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	4	自然科学実験(物理)[2] 自然科学実験(化学)[2] 自然科学実験(生物)[2] 自然科学実験(地学)[2]	8
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				—
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		8	理科教育法I[2] 理科教育法II[2] 理科教育法III[2] 理科教育法IV[2]	8
				※6単位は、教科に関する専門的事項の選択科目12単位から選択	6
計		28		42	
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]	2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)	2
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説[1]	1
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論[2]	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳教育要説[2]	2	
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間要説[1]	1	
	特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2	
	教育の方法及び技術		教育の方法と技術[2]	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT活用の理論と実践[1]	1	
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論[2]	2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			2	
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談[2]	2			
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習I[2] 教育実習II[2] 教育実習指導I[2] 教育実習指導II[2]	8	
	学校体験活動		—		
	教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)[2]	2	
大学が独自に設定する科目		4	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて4単位以上を修得	—	
合計		59		75	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位、( )の数字は選択科目です。

## c 教科及び教科の指導法に関する科目「理科」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
理 科 教 育 法 I	2	半期	講義	2・3	2	隔年開講
理 科 教 育 法 II	2	半期	講義	2・3	2	隔年開講
理 科 教 育 法 III	2	半期	講義	2・3	2	隔年開講
理 科 教 育 法 IV	2	半期	講義	2・3	2	隔年開講

注 (1) 時間数は1週間の授業時間数です。

注 (2) 各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

## d 教育の基礎的理解に関する科目等「理科」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2022年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
教 育 原 理	2	半期	講義	2	2	
教 職 入 門	2	半期	講義	1	2	
教育制度要説(含学校経営)	2	半期	講義	2	2	
教 育 心 理 学	2	半期	講義	2	2	
青 年 心 理 学	2	半期	講義	2	2	選択
特別支援教育要説	1	集中	講義	2	1	
教 育 課 程 論	2	半期	講義	2	2	
道 徳 教 育 要 説	2	半期	講義	3	2	
総合的な学習の時間要説	1	集中	講義	3	1	
特 別 活 動 要 説	2	半期	講義	3	2	
教 育 の 方 法 と 技 術	2	半期	講義	3	2	
ICT活用の理論と実践	1	集中	講義	3	1	
生 徒 ・ 進 路 指 導 論	2	半期	講義	3	2	
教 育 相 談	2	半期	講義	2	2	
教 育 実 習 I	2	2週間	実習	4	○	
教 育 実 習 II	2	2週間	実習	4	○	
教 育 実 習 指 導 I	2	半期	講義	3	2	
教 育 実 習 指 導 II	2	半期	講義	4	2	
教職実践演習(中・高)	2	半期	演習	4	2	

注 (1) 時間数は1週間の授業時間数です。

注 (2) 各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注 (3) 「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」は教育実習に係る事前及び事後の指導を含み、それぞれ3年後期、4年後期に開講されます。

注 (4) 「教職実践演習(中・高)」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

社会情報学部社会情報学科情報デザイン専攻

a 高等学校教諭1種免許状「情報」

(2026年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数			
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報社会(職業に関する内容を含む。)・情報倫理	2	社会情報概論[2] 情報社会論(2) 情報と職業[2] AI入門(2)	4
		コンピュータ・情報処理	1	情報処理実習A② 情報処理実習B② コンピュータの基礎② プログラミングの基礎② プログラミング基礎演習② 情報デザイン原論② ソフトウェア概論(2) アルゴリズム論及び演習I(2) アルゴリズム論及び演習II(2) オブジェクト指向プログラミング論及び演習I(2) オブジェクト指向プログラミング論及び演習II(2)	12
		情報システム	1	情報システム論及び実習I② 情報システム論及び実習II② 経営情報システム論(2) シミュレーション論(2)	4
		情報通信ネットワーク	1	情報ネットワーク論及び実習I[2] 情報ネットワーク論及び実習II[2] Webプログラミング(2) 統計処理及び演習(2) スマートデバイス応用I(2) スマートデバイス応用II(2)	4
		マルチメディア表現・マルチメディア技術	1	グラフィックデザイン[2] インタラクションデザイン[2] メディアアートI(2) メディアアートII(2) コンピュータ・グラフィックスI(2) コンピュータ・グラフィックスII(2) 画像情報処理論及び演習(2) ウェブデザイン(2)	4
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				—
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		4	情報科教育法I[2] 情報科教育法II[2]	4
				※10単位は、教科に関する専門的事項の選択科目 38単位から選択	10
	計		24		42
	教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]
教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)			教職入門[2]		2
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)			教育制度要説(含学校経営)[2]		2
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			教育心理学[2] 青年心理学(2)		2
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育要説[1]		1
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)			教育課程論[2]		2
教育相談等に関する科目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導	8	総合的な学習の時間要説[1]	1
		特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2
		教育の方法及び技術		教育の方法と技術[2]	2
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT活用の理論と実践[1]	1
教育実践に関する科目	生徒指導の理論及び方法	2	生徒・進路指導論[2]	2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		教育相談[2]	2	
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法			2	
教育実習	3	教育実習I[2] 教育実習II(2) 教育実習指導I[2] 教育実習指導II[2]	6		
学校体験活動			—		
教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)[2]	2		
大学が独自に設定する科目		12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上を修得	—	
合計		59		71	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位、( )の数字は選択科目です。

## b 教科及び教科の指導法に関する科目「情報」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
情報科教育法Ⅰ	2	半期	講義	3	2	
情報科教育法Ⅱ	2	半期	講義	3	2	

注 (1) 時間数は1週間の授業時間数です。

注 (2) 各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

## c 教育の基礎的理解に関する科目等「情報」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2022年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
教育原理	2	半期	講義	2	2	
教職入門	2	半期	講義	1	2	
教育制度要説(含学校経営)	2	半期	講義	2	2	
教育心理学	2	半期	講義	2	2	
青年心理学	2	半期	講義	2	2	選択
特別支援教育要説	1	集中	講義	2	1	
教育課程論	2	半期	講義	2	2	
総合的な学習の時間要説	1	集中	講義	3	1	
特別活動要説	2	半期	講義	3	2	
教育の方法と技術	2	半期	講義	3	2	
ICT活用の理論と実践	1	集中	講義	3	1	
生徒・進路指導論	2	半期	講義	3	2	
教育相談	2	半期	講義	2	2	
教育実習Ⅰ	2	2週間	実習	4	○	
教育実習Ⅱ	2	2週間	実習	4	○	選択
教育実習指導Ⅰ	2	半期	講義	3	2	
教育実習指導Ⅱ	2	半期	講義	4	2	
教職実践演習(中・高)	2	半期	演習	4	2	

注 (1) 時間数は1週間の授業時間数です。

注 (2) 各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注 (3) 「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」は教育実習に係る事前及び事後の指導を含み、それぞれ3年後期、4年後期に開講されます。

注 (4) 「教職実践演習(中・高)」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

## 教職課程受講希望者に対する注意

教育実習（栄養教育実習を含む）を履修するためには、次の条件が必要となりますので十分注意してください。

### 全学科共通

教職課程履修ガイダンスや教育実習手続き説明会等の全てのガイダンス・説明会に出席し、所定の手続きをしていること。

### 被服学科

#### (1) 中学校・高等学校教諭 1 種免許状

3 年次終了時まで、次の科目の単位を修得していること。

教職入門、教育原理、教育心理学、道徳教育要説、特別活動要説、教育相談、生徒・進路指導論、教育実習指導Ⅰ、特別支援教育要説、総合的な学習の時間要説、栄養学概論、食品学概論、調理学実習、保育学（含実習及び家庭看護）、家庭科教育法Ⅰ、家庭科教育法Ⅱ、家庭科教育法Ⅲ、家庭科教育法Ⅳ

### 食物学科

#### (1) 中学校・高等学校教諭 1 種免許状

3 年次終了時まで、次の科目の単位を修得していること。

教職入門、教育原理、教育心理学、道徳教育要説、特別活動要説、教育相談、生徒・進路指導論、教育実習指導Ⅰ、特別支援教育要説、総合的な学習の時間要説、衣生活概論、被服工作（和）（洋）、保育学（含実習及び家庭看護）、家庭科教育法Ⅰ、家庭科教育法Ⅱ、家庭科教育法Ⅲ、家庭科教育法Ⅳ

#### (2) 栄養教諭 1 種免許状

3 年次終了時まで、次の科目の単位を修得していること。

教職入門、教育原理、教育心理学、道徳教育要説、特別活動要説、教育相談、生徒指導論、特別支援教育要説、総合的な学習の時間要説、学校栄養教諭Ⅰ、学校栄養教諭Ⅱ

#### (3) 栄養教諭 2 種免許状

3 年次終了時まで、次の科目の単位を修得していること。

教職入門、教育原理、教育心理学、道徳教育要説、特別活動要説、教育相談、生徒指導論、特別支援教育要説、総合的な学習の時間要説、学校栄養教諭

### 児童学科

#### (1) 幼稚園教諭 1 種免許状

「教育実習（幼稚園Ⅰ）」を履修するにあたっては、次の単位を修得していること。

保育者養成基礎演習Ⅰ

「教育実習（幼稚園Ⅱ）」を履修するにあたっては、次の単位を修得していること。

保育者論、教育原理A、子ども理解の基礎、子どもの理解と援助、保育内容の指導法

ただし、「保育内容の指導法」については、次の5科目のうち、3科目以上の単位を修得していること。

保育内容健康の指導法、保育内容人間関係の指導法、保育内容環境の指導法、保育内容ことばの指導法、保育内容表現の指導法

#### (2) 小学校教諭 1 種免許状

3 年次終了時まで、次の単位を修得していること。

教師論、教育原理B、教育心理学、児童学基礎体験演習Ⅰ、児童学基礎体験演習Ⅱ、児童学基礎体験演習Ⅲ、各教科の指導法

ただし、「各教科の指導法」は次の9科目のうち、3分の2以上を修得していること。

国語科指導法、算数科指導法、理科指導法、社会科指導法、生活科指導法、音楽科指導法、図工科指導法、家庭科指導法、体育科指導法

#### (3) 中学校教諭 1 種免許状 [理科]

2 年次終了時まで、次の科目の単位を修得していること。

教師論、教育原理B、教育心理学、児童学基礎体験演習Ⅰ、児童学基礎体験演習Ⅱ、児童学基礎体験演習Ⅲ、理科教育法Ⅰ、理科教育法Ⅱ、物理の基礎、化学の基礎、生物の基礎、地学の基礎、物理学基礎実験Ⅰ、化学基礎実験Ⅰ、生物学基礎実験Ⅰ、地学基礎実験Ⅰ、各分野の基礎実験Ⅱ

ただし、「各分野の基礎実験Ⅱ」については、次の4科目のうち2科目以上を修得していること。

物理学基礎実験Ⅱ、化学基礎実験Ⅱ、生物学基礎実験Ⅱ、地学基礎実験Ⅱ

## 日本文学科

### (1) 中学校・高等学校教諭 1 種免許状

3 年次終了時まで、次の科目の単位を修得していること。

教職入門、教育原理、教育心理学、道徳教育要説、特別活動要説、教育相談、生徒・進路指導論、教育実習指導Ⅰ、特別支援教育要説、総合的な学習の時間要説、国語科教育法Ⅰ、国語科教育法Ⅱ、国語科教育法Ⅲ

ただし、「国語科教育法」の履修は、日本文学科の主要科目成績等を考慮した選考試験に合格した者に限る。

## 英語英文学科

### (1) 中学校・高等学校教諭 1 種免許状

① 3 年次終了時まで、次の科目の単位を修得していること。

教職入門、教育原理、教育心理学、道徳教育要説、特別活動要説、教育相談、生徒・進路指導論、教育実習指導Ⅰ、英語科教育法Ⅰ、英語科教育法Ⅱ、英語科教育法Ⅲ、英語科教育法Ⅳ。ただし、「英語科教育法」の履修は、2 年次前期終了時まで英語検定 2 級に合格した者（または TOEIC®520 点以上、TOEFL ITP®480 点以上、TOEFL iBT®57 点以上を取得した者）に限る。

② 3 年次以降の教職課程履修は、2 年次終了時まで履修した全科目の GPA が 1.5 以上であること。

## 社会情報学科

### (1) 高等学校教諭 1 種免許状「情報」

#### 社会生活情報学専攻

① 3 年次終了時まで次の科目の単位を修得していること。

[全学共通科目] 卒業に必要な単位数（基礎資格科目含む）

[専門科目] 1 年次から 3 年次の必修科目

[教育の基礎的理解に関する科目等]

教職入門、教育原理、教育心理学、教育課程論、生徒・進路指導論、教育実習指導Ⅰ、教育の方法と技術、特別支援教育要説、総合的な学習の時間要説

[教科及び教科の指導法に関する科目]

社会情報概論、情報システム論及び実習Ⅰ、情報システム論及び実習Ⅱ、情報ネットワーク論及び実習Ⅰ、情報ネットワーク論及び実習Ⅱ、オンラインデータ分析、メディア運用演習、情報と職業、情報科教育法Ⅰ、情報科教育法Ⅱ

② 原則として「教科及び教科の指導法に関する科目」および「教育の基礎的理解に関する科目等」の 3 年次終了時の GPA が 2.6 以上であること。

#### 情報デザイン専攻

① 3 年次終了時まで次の科目の単位を修得していること。

[全学共通科目] 卒業に必要な単位数（基礎資格科目含む）

[専門科目] 1 年次から 3 年次の必修科目

[教育の基礎的理解に関する科目等]

教職入門、教育原理、教育心理学、教育課程論、生徒・進路指導論、教育実習指導Ⅰ、教育の方法と技術、ICT 活用の理論と実践、総合的な学習の時間要説

[教科及び教科の指導法に関する科目]

社会情報概論、情報ネットワーク論及び実習Ⅰ、情報ネットワーク論及び実習Ⅱ、グラフィックデザイン、インタラクションデザイン、アルゴリズム論及び演習Ⅰ、アルゴリズム論及び演習Ⅱ、情報と職業、情報科教育法Ⅰ、情報科教育法Ⅱ

### (2) 中学校・高等学校教諭 1 種免許状「理科」

① 3 年次終了時まで次の科目の単位を修得していること。

[全学共通科目] 卒業に必要な単位数（基礎資格科目含む）

[専門科目] 1 年次から 3 年次の必修科目

[教育の基礎的理解に関する科目等]

教職入門、教育原理、教育心理学、教育課程論、特別活動要説、教育相談、生徒・進路指導論、道徳教育要説、教育の方法と技術、ICT 活用の理論と実践、総合的な学習の時間要説、特別支援教育要説、教育実習指導Ⅰ

[教科及び教科の指導法に関する科目]

はじめての物理、物理の基礎、化学の基礎、環境と生命化学、生物の基礎、環境生理学、地学の基礎、宇宙地球科学、自然科学実験（物理）、自然科学実験（化学）、自然科学実験（生物）、自然科学実験（地学）、理科教育法Ⅰ、理科教育法Ⅱ、理科教育法Ⅲ、理科教育法Ⅳ

② 原則として「教科及び教科の指導法に関する科目」および「教育の基礎的理解に関する科目等」の 3 年次終了時の GPA が 2.6 以上であること。

## 教育実習

教育実習は、教員免許状を取得するために必ず行わなければなりません。その概要は次のとおりです。

### (1) 教育実習校の種別及び実習期間

教員免許状の種類	実習校の種別	実習期間	修得単位数
幼稚園教諭免許状	幼稚園	4週間	4単位
小学校教諭免許状	小学校	4週間	4単位
中学校教諭免許状	中学校	3～4週間	4単位
高等学校教諭免許状	高等学校	2週間	2単位
栄養教諭免許状	小学校または中学校	1週間	2単位

中学校及び高等学校教諭の2種類の免許状を取得しようとする場合は、中学校または高等学校で3～4週間教育実習をおこないます。

### (2) 教育実習の実施時期

教育実習の実施は4年次の前期を原則としますが、実習校の都合により他の時期に実施することもあります。

### (3) 教育実習校の経費

教育実習校に対する教育実習費は、教職課程履修者が別途納める履修費から大学が支払います。

## 教職課程を履修するために必要な指導事項とその日程

(1) 教職課程に関して、随時ガイダンスを行います（掲示、UNIPA等により日時を通知する）ので、必ず出席してください。理由なくガイダンスおよび必修の講座を遅刻・欠席、または所定の期間内に書類等を提出しない場合は、教職課程の履修を放棄したものとみなします。

(2) 教育実習実施の詳細な方法は、実習実施の直前に説明を行います。

(3) 教職課程を履修するために必要な指導事項とその日程は下表のとおりです。ただし、教員採用試験特別講座は3年次選考の場合、この限りではありません。

学年	指導内容・事項	実施時期・期間
1年次	第1回教職課程履修ガイダンス 第2回教職課程履修ガイダンス 教職課程履修費納入 教職課程履修費納入(2年次分) 教育実習手続きガイダンス(児童学科中学校理科)	4月上旬 6月下旬～7月上旬 9月中旬 1月中旬 3月
2年次	介護等体験(社会福祉施設)届提出 幼稚園教育実習(観察・参加実習)<児学2年> 介護等体験ガイダンス(社会福祉施設) 介護等体験(社会福祉施設) 教員採用試験第1次特別講座[オリエンテーション](児童学科除く) 教職課程履修費納入(3年次分) 教育実習手続きガイダンス 教育実習確認訪問ガイダンス(児童学科中学校理科)	4月上旬 5月 6月下旬 5日間 10月中旬 1月中旬 1月下旬～2月 2月
3年次	介護等体験(特別支援学校)届提出 介護等体験ガイダンス(特別支援学校) 介護等体験(特別支援学校) 教育実習調査票および内諾書提出 教員採用試験第2次特別講座[基礎講座] ●★ 教員採用試験第3次特別講座[教員採用試験の傾向と対策] ●★ 教員採用試験第4次特別講座[教員採用試験の具体的対策] ●★ 教員採用試験第5次特別講座[論文講座] ★ 教職課程履修費納入(4年次分) 教育実習確認訪問ガイダンス 教育実習(中学校)<児学3年> 教員採用試験第6次特別講座[応用講座] ●★ 教育実習校確認訪問	4月上旬 4月下旬 2日間 6月上旬 7月下旬～8月上旬 10月下旬～11月上旬 11月下旬 12月～4年次の8月下旬 1月中旬 1月下旬～2月 1月下旬～2月 2月初旬 3月下旬～4年次の4月上旬
4年次	教育実習関係書類提出 幼稚園教育実習(本実習)<児学4年> 教育実習(小学校) 教育実習(栄養教諭) 教育実習(中学・高等学校) 教員採用試験第7次特別講座[面接対策講座] ★ 経過報告書提出 教育実習録提出 教員採用試験一次試験結果報告書提出 教員免許状授与願申請申込書提出 教員免許状授与願記載事項確認、署名捺印、申請手数料納入 教員免許状授与	4月上旬 6月(原則) 5月～6月(原則) 5月～6月(原則) 5月下旬～6月下旬(原則) 7月下旬・8月中旬 実習終了後2週間以内 実習終了後1ヶ月以内 7月上旬～10月上旬 7月中旬 11月下旬～12月上旬 3月20日

注 この日程は一応の目安であり、詳細についてはおおよそ1ヶ月前にその都度掲示、UNIPA等により通知します。

●は教員採用試験を3年次選考で検討している2年生も対象。

★は希望者のみ対象。★以外のガイダンス・講座は必修。

## 履修方法

### (1) 教職課程履修希望者へのガイダンス

履修希望者は、1年次に実施される教職課程履修ガイダンスに必ず出席してください。このガイダンスに遅刻または欠席した者は、課程の履修はできません。

### (2) 教職課程履修の手続き

履修の許可を得た者は、指定された日時に履修費を支払い手続きを完了してください。指定の日時に手続きを完了しない場合は履修の許可を取り消します。また、いったん納入した履修費は、原則として返還しません。

### (3) 教職課程の履修に関する経費

#### a 履修費

○被服学科、食物学科食物学専攻、日本文学科、英語英文学科、社会情報学科環境情報学専攻

中学校・高等学校 1種 1年次 7,000円 2年次 16,000円 3年次 7,000円 4年次 23,000円

○児童学科児童学専攻

幼稚園 1種 1年次 4,000円 2年次 7,000円 3年次 18,000円 4年次 19,000円

○児童学科児童教育専攻

小学校 1種 1年次 12,000円 2年次 16,000円 3年次 12,000円 4年次 23,000円

小学校 1種・中学校 1種 1年次 12,000円 2年次 20,000円 3年次 20,000円 4年次 35,000円

○社会情報学科社会生活情報学専攻、情報デザイン専攻

高等学校 1種 1年次 7,000円 2年次 6,000円 3年次 7,000円 4年次 16,000円

○食物学科管理栄養士専攻

栄養教諭 1種 1年次 7,000円 2年次 4,000円 3年次 7,000円 4年次 6,000円

○食物学科食物学専攻 (3年次から履修開始)

栄養教諭 2種 3年次 5,000円 4年次 5,000円

b 教材、その他 若干

(注) 履修費の金額は確定ではありません。一応の目安と考えてください。

## 2 図書館学課程

### 図書館学課程について

図書館学課程には、図書館司書課程と学校図書館司書教諭課程の2つの課程があります。それぞれ所定の単位を修得することにより、司書または司書教諭のいずれかの資格を取得することができます。

#### (1) 図書館司書課程

司書とは、図書館法第4条により、図書館において専門的職務に従事する職員をいう。受講学生は卒業に必要な単位のほかに、別に掲げる図書館司書課程科目として開講している所定の授業科目を履修し、修得しなければなりません。

#### (2) 学校図書館司書教諭課程

司書教諭とは、学校図書館法第5条により、小学校・中学校・高等学校の各図書館において、その専門的職務を担当する教員をいう。受講学生は、教育職員免許状の取得を前提とし、学校図書館司書教諭課程科目として開講されているすべての授業科目を履修し、修得しなければなりません。

### 図書館司書課程を履修できる学部・学科

- ・家政学部食物学科食物学専攻 (教職課程または博物館学芸員課程を履修する学生は履修できません。)
- ・家政学部児童学科 (小学校、中学校の教職課程を履修する学生は履修できません。)
- ・家政学部ライフデザイン学科
- ・文学部日本文学科 (教職課程または博物館学芸員課程を履修する学生は履修できません。)
- ・文学部英語英文学科 (教職課程または博物館学芸員課程を履修する学生は履修できません。)
- ・文学部コミュニケーション文化学科
- ・社会情報学部社会情報学科 (教職課程を履修する学生は履修できません。)
- ・比較文化学部比較文化学科
- ・データサイエンス学部データサイエンス学科
- ・短期大学部家政科家政総合コース

## 学校図書館司書教諭課程を履修できる学部・学科

- ・家政学部児童学科（小学校の教職課程を履修する学生のみ履修できます。）
- ・文学部日本文学科（博物館学芸員課程を履修する学生は履修できません。）
- ・文学部英語英文学科（博物館学芸員課程を履修する学生は履修できません。）
- ・社会情報学部社会情報学科（博物館学芸員課程を履修する学生は履修できません。）

## 図書館学課程授業科目一覧

### (1) 図書館司書課程科目（大学）

(2012年度入学生から適用)

区分	科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考	
必修	基礎科目	生涯学習概論	2	半期	講義	2	博物館学芸員課程と同時開講
		図書館概論	2	半期	講義	2	
		図書館制度・経営論	2	半期	講義	2	
		図書館情報技術論	2	半期	講義・演習	3	
	図書館サービスに関する科目	図書館サービス概論	2	半期	講義	2	
		情報サービス論	2	半期	講義	3	
		児童サービス論	2	半期	講義・演習	3	
		情報サービス演習(1)	1	半期	演習	3	
	図書館情報資源に関する科目	情報サービス演習(2)	1	半期	演習	4	
		図書館情報資源概論	2	半期	講義	2	学校図書館司書教諭課程と同時開講
		情報資源組織論	2	半期	講義	3	学校図書館司書教諭課程と同時開講
		情報資源組織演習	2	通年	演習	4	
選択必修	図書館サービス特論(1) 図書・図書館史	2	半期	講義	3・4		
	図書館サービス特論(2) 図書・図書館史	2	半期	講義	3・4		
	図書館情報資源特論(1) 図書館施設論	2	半期	講義	3・4		
	図書館情報資源特論(2) 図書館基礎特論	2	半期	講義	3・4		
	図書館総合演習	1	半期	演習	3・4		

注 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

### (2) 図書館司書課程科目（短大）

(2020年度入学生から適用)

区分	科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考	
必修	基礎科目	生涯学習概論	2	半期	講義	1	
		図書館概論	2	半期	講義	1	
		図書館制度・経営論	2	半期	講義	1	
		図書館情報技術論	2	半期	講義・演習	1	
	図書館サービスに関する科目	図書館サービス概論	2	半期	講義	1	
		情報サービス論	2	半期	講義	1	
		児童サービス論	2	半期	講義・演習	2	
		情報サービス演習(1)	1	半期	演習	2	
	図書館情報資源に関する科目	情報サービス演習(2)	1	半期	演習	2	
		図書館情報資源概論	2	半期	講義	1	
		情報資源組織論	2	半期	講義	1	
		情報資源組織演習	2	通年	演習	2	
選択必修	図書館サービス特論(1) 図書・図書館史	2	半期	講義	2		
	図書館サービス特論(2) 図書・図書館史	2	半期	講義	2		
	図書館情報資源特論(1) 図書館施設論	2	半期	講義	2		
	図書館情報資源特論(2) 図書館基礎特論	2	半期	講義	2		
	図書館総合演習	1	半期	演習	2		

注 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

### (3) 学校図書館司書教諭課程科目

(2014年度入学生から適用)

区分	科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	備考
必	学校経営と学校図書館	2	半期	講義	3	
	図書館情報資源概論	2	半期	講義	3	司書課程と同時開講
	情報資源組織論	2	半期	講義	3	司書課程と同時開講
修	学習指導と学校図書館	2	半期	講義	3	
	読書と豊かな人間性	2	半期	講義	3	
	情報メディアの活用	2	半期	講義	4	

注 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

## 履修方法

### (1) 履修希望者へのガイダンス

#### a 図書館司書課程

履修希望者は、大学1年次の11月頃もしくは短大1年次の4月はじめに実施される図書館司書課程ガイダンスに必ず出席してください。このガイダンスに遅刻または欠席した者は、課程の履修はできません。

なお、図書館司書課程の定員は、家政学部・文学部の学生を合わせて100名、社会情報学部・比較文化学部・データサイエンス学部の学生を合わせて60名、短期大学部10名です。

#### b 学校図書館司書教諭課程

履修希望者は、大学2年次の11月頃に実施される学校図書館司書教諭課程ガイダンスに必ず出席してください。このガイダンスに遅刻または欠席した者は、課程の履修はできません。

なお、学校図書館司書教諭課程については特に定員を設けていませんが、P232の「学校図書館司書教諭課程を履修できる学部・学科」に記載されている条件を満たす学生のみ履修することができます。

### (2) 履修の手続き

履修の許可を得た者は、指定された日時に履修費を支払い手続きを完了してください。指定の日時に手続きを完了しない場合は履修の許可を取り消します。また、いったん納入した履修費は、原則として返還しません。

### (3) 履修に要する経費

- a 履修費（予定）
- |             |         |         |     |         |     |        |
|-------------|---------|---------|-----|---------|-----|--------|
| 図書館司書課程     | 〈大学〉2年次 | 8,000円  | 3年次 | 8,000円  | 4年次 | 8,000円 |
|             | 〈短大〉1年次 | 12,000円 | 2年次 | 12,000円 |     |        |
| 学校図書館司書教諭課程 | 3年次     | 12,000円 | 4年次 | 12,000円 |     |        |

#### b 教材、その他 若干

（注）履修費の金額は確定ではありません。一応の目安と考えてください。

## 卒業要件との関係

図書館学課程において修得した単位は、4単位を上限として卒業に必要な全学共通科目の選択科目の単位に含めることができます。

## 履修に関する注意

## (1) 図書館司書課程

- ① 図書館司書課程科目として開講している科目のうち、必修科目はすべて履修し、修得してください。
- ② 図書館司書課程科目として開講している科目のうち、選択必修科目は2単位以上を履修し、修得してください。
- ③ 課程を放棄する場合は、事前に資格支援・学事グループに申し出たうえで、所定の手続きをおこなってください。

## (2) 学校図書館司書教諭課程

- ① 教員免許状の取得を前提とし、学校図書館司書教諭課程科目として開講されている全ての授業科目を履修し、修得してください。
- ② 課程を放棄する場合は、事前に資格支援・学事グループに申し出たうえで、所定の手続きをおこなってください。

## 資格取得に必要な科目及び単位数

## (1) 司書（大学・短大共通）

大学（2012年度入学生から適用）  
短大（2020年度入学生から適用）

	図書館法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目		
	区分	科目名	単位	科目名	単位	
甲群	基礎科目	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	
		図書館概論	2	図書館概論	2	
		図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2	
		図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2	
	図書館サービスに関する科目	図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2	
		情報サービス論	2	情報サービス論	2	
		児童サービス論	2	児童サービス論	2	
		情報サービス演習	2	情報サービス演習(1)	1	
	図書館情報資源に関する科目	情報サービス演習	2	情報サービス演習(2)	1	
		図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2	
情報資源組織論		2	情報資源組織論	2		
情報資源組織演習		2	情報資源組織演習	2		
乙群	(2科目選択)	図書館基礎特論	1	図書館基礎特論	1	
		図書館サービス特論	1	図書館サービス特論(1)	1	
				図書館サービス特論(2)	1	
		図書館情報資源特論	1	図書館情報資源特論(1)	1	
				図書館情報資源特論(2)	1	
		図書・図書館史	1	図書・図書館史	1	
		図書館施設論	1	図書館施設論	1	
図書館総合演習	1	図書館総合演習	1			
		図書館実習	1	-	-	

## (2) 司書教諭

(2014年度入学生から適用)

	学校図書館司書教諭講習規程に定める科目区分等		左記に対応する本学開設科目	
	科目名	単位	科目名	単位
必修	学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2
	学校図書館メディアの構成	2	図書館情報資源概論	2
			情報資源組織論	2
	学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2
	読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2	

### 3 博物館学芸員課程

#### 博物館学芸員課程について

博物館（美術館・資料館・天文台・動物園・水族館・植物園などを含む）は、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行う社会教育施設です。この目的を達成するため、館の業務（資料の収集・保管・研究・展示・教育）をつかさどる者を「学芸員」といい、これを養成するために、本学に博物館学芸員課程が設けられています。

学芸員の資格は、学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令（博物館法施行規則）で定める博物館に関する所定の科目の単位を修得する必要があります。

#### 博物館学芸員課程を履修できる学科・専攻

- ・家政学部被服学科
- ・家政学部食物学科食物学専攻（教職課程または図書館学課程を履修する学生は履修できません。）
- ・家政学部児童学科
- ・家政学部ライフデザイン学科
- ・文学部日本文学科（図書館学課程を履修する学生は履修できません。）
- ・文学部英語英文学科（図書館学課程を履修する学生は履修できません。）
- ・文学部コミュニケーション文化学科
- ・社会情報学部社会情報学科（教職課程を履修する学生は履修できません。）
- ・比較文化学部比較文化学科
- ・データサイエンス学部データサイエンス学科

#### 博物館学芸員課程授業科目一覧

(2012年度入学生から適用)

区分	科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	備考
必修	生涯学習概論	2	半期	講義	2	図書館学課程と同時開講
	博物館概論	2	半期	講義	2	
	博物館経営論	2	半期	講義	2・3・4	
	博物館資料論	2	半期	講義	2・3・4	
	博物館資料保存論	2	半期	講義	2・3・4	
	博物館展示論	2	半期	講義	2・3・4	
	博物館教育論	2	半期	講義	2	
	博物館情報・メディア論	2	半期	講義	2・3・4	
	博物館実習	3	通年	実習	3・4	
選択	文化史 A	2	半期	講義	2・3・4	
	文化史 B	2	半期	講義	2・3・4	
	美術史 A	2	半期	講義	2・3・4	
	美術史 B	2	半期	講義	2・3・4	
	美術の世界	2	半期	講義	1・2・3・4	全学共通科目
	考古学の世界	2	半期	講義	1・2・3・4	全学共通科目
	民俗学 A	2	半期	講義	2・3・4	
	民俗学 B	2	半期	講義	2・3・4	
	生活の物理	2	半期	講義	1・2・3・4	全学共通科目
	生活の化学	2	半期	講義	1・2・3・4	全学共通科目
人類の進化	2	半期	講義	1・2・3・4	全学共通科目	

注 (1) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注 (2) 選択科目は8単位以上修得すること。

#### 履修方法

##### (1) 履修希望者へのガイダンス

履修希望者は、1年次の11月頃に実施される博物館学芸員課程ガイダンスに必ず出席してください。このガイダンスに遅刻または欠席した者は、課程の履修はできません。

なお、博物館学芸員課程の定員は、家政学部・文学部の学生を合わせて60名、社会情報学部・比較文化学部・データサイエンス学部の学生を合わせて40名です。

## (2) 履修の手続き

履修の許可を得た者は、所定の日時に履修費の支払い手続きをしてください。指定の日時に手続きを完了しない場合は、履修の許可を取り消します。

また、いったん納入した履修費は、原則として返還しません。

## (3) 受講に要する経費

① 履修費（予定） 2年次 5,000円 3年次 15,000円 4年次 15,000円

② 教材、その他 若干

（注）履修費の金額は確定ではありません。一応の目安と考えてください。

## 卒業要件との関係

博物館学芸員課程において修得した単位（全学共通科目に係る単位を除く。）は、4単位を上限として卒業に必要な全学共通科目の選択科目の単位に含めることができます。

## 履修に関する注意

- (1) 必修科目は、すべて修得してください。
- (2) 選択科目は、8単位以上を修得してください。

## 資格取得に必要な科目、単位数

（2012年度入学生から適用）

	博物館法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学開設科目	
	科目名	単位	科目名	単位
必修	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2
	博物館概論	2	博物館概論	2
	博物館経営論	2	博物館経営論	2
	博物館資料論	2	博物館資料論	2
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2
	博物館展示論	2	博物館展示論	2
	博物館教育論	2	博物館教育論	2
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2
	博物館実習	3	博物館実習	3
選択	文化史	—	文化史 A	2
			文化史 B	2
	美術史	—	美術史 A	2
			美術史 B	2
			美術の世界	2
	考古学	—	考古学の世界	2
	民俗学	—	民俗学 A	2
			民俗学 B	2
	自然科学史	—	—	—
	物理	—	生活の物理	2
化学	—	生活の化学	2	
生物	—	人類の進化	2	
地学	—	—	—	

注 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

## 博物館実習

「博物館実習」は、学芸員資格を取得するために行う必修科目であり、この授業の中で以下の実習を行います。

項目	内容	場所
授業内講義	資格取得手続き・博物館関連法規 資料分類・展示構成 各種資料の取扱 他各種資料の取扱・調書作成など 博物館見学(学外の博物館を見学する) 資料取扱・展示解説・保管管理 資料撮影・展示準備作業など	学内
授業内実習		
授業内見学		
館園実習(学外実習)		

## 4 レクリエーション・インストラクター資格

### レクリエーション・インストラクターについて

レクリエーション・インストラクターは、公益財団法人日本レクリエーション協会が認定している資格です。本学はレクリエーション・インストラクター養成校として認定され、在学中に資格取得が可能です。

レクリエーション・インストラクターとは、様々な地域において、多様なレクリエーション活動を日常的に楽しめる機会や環境を提供する指導者のことです。

活動内容としては、都道府県や市町村のレクリエーション協会などと力を合わせて、地域の人々が気持ちよく生活できるように、スポーツやカルチャー、福祉分野や野外活動、芸術・文化・学習活動などを通じて、地域を活性化したり、健やかに暮らせるように心とからだをリフレッシュしたり、楽しみながら自然と共生する生き方を提案するなど、様々な人々のレクリエーション活動を支援・指導することになります。

### 資格取得できる学部

家政学部、文学部、社会情報学部、比較文化学部の各学生。

### 資格取得に必要な科目

レクリエーション論（2単位）  
 レクリエーション実技（1単位）  
 スポーツA～D（1単位）  
 シーズン・スポーツ（1単位） } の内、いずれか1単位  
 現場実習（学外実習1単位または事業参加1単位）

### 履修方法

レクリエーション論とレクリエーション実技、スポーツA～D、シーズン・スポーツは、全学共通科目に開講されていますので、各自履修してください。

現場実習は、本学では開講されていませんが、教職課程を履修する場合は、教育実習等が現場実習の学外実習単位として認められます。事業参加の単位については、東京都または居住地のレクリエーション協会が主催する事業に各自で参加することによって取得することができます。

なお、教職課程を履修しない場合は、現場実習ができる場所・施設等（日本レクリエーション協会が認定している実習先）で単位を修得することもできます。

実習先については、東京都レクリエーション協会のホームページにて確認してください。

### 資格取得に係る経費

資格取得に係る経費については、次の通りとなります。

登録料（2年ごとの更新） 16,000円（税別）

※金額は変更となる場合がありますので、一応の目安としてください。

### その他

レクリエーション・インストラクター資格取得に関しては、スポーツ教育研究室が担当していますので、詳細についてはスポーツ教育研究室にお問い合わせください。なお、スポーツ教育研究室は千代田キャンパス大学校舎D棟5階にあります。



**教務関係諸規程** ※最新の内容はホームページで確認してください。

大妻女子大学入学者の既修得単位の取り扱いに関する細則……………	240
大妻女子大学短期大学部入学者の既修得単位の取り扱いに関する細則 ……	241
大学以外の教育施設等における学修に対する単位認定に関する細則……………	242
試験に関する内規……………	244
試験における不正行為者の処罰に関する規程 ……	245
大妻女子大学学生の留学に関する内規 ……	247
大妻女子大学短期大学部学生の留学に関する内規……………	249
大妻女子大学再入学に関する細則……………	251
大妻女子大学短期大学部再入学に関する細則 ……	252
大妻女子大学早期卒業に関する規程……………	253
大妻女子大学における転部・転科・転専攻の取扱いに関する規程……………	254
大妻女子大学短期大学部におけるコース変更の取扱いに関する規程……………	255
大妻女子大学科目等履修生規程……………	256
大妻女子大学短期大学部科目等履修生規程……………	257
大妻女子大学委託生規程……………	258
大妻女子大学短期大学部委託生規程……………	259
緊急事態発生時の授業及び試験等の取り扱いについて（覚書）……………	260
<b>校舎配置図及び見取図</b>	
千代田校舎……………	262
多摩校舎……………	288
<b>連絡先一覧</b> ……………	292

# 教務関係諸規程

## 大妻女子大学入学者の既修得単位の取り扱いに関する細則

(昭和58年4月1日制定 最終改定令和7年11月28日)

### (総 則)

第1条 この細則は、大妻女子大学学則（昭和48年4月1日制定）第7条の4に規定する既修得単位の認定について定めるものとする。

### (出願資格)

第2条 既修得単位の認定を願い出ることのできる者は、大学又は短期大学を卒業又は中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者とする。

2 高大連携等により高等学校等在学時に修得した単位についても準用する。

### (出願の時期)

第3条 出願の時期は第1年次の初めとする。

### (出願手続)

第4条 既修得単位の認定を願い出る者は、次の書類を所定の期日までに教育支援センター教育支援グループ(多摩校に係わる学生については多摩事務部教育支援・学事グループ)へ提出するものとする。

- (1) 単位認定願書
- (2) 既修得単位の成績証明書

### (単位の認定)

第5条 単位の認定は、教務委員会において審議し、教育上有益と認められた場合は、教授会の議を経て行うものとする。

### (認定単位数)

第6条 単位の認定は、60単位を超えない範囲で行うものとする。

### (認定単位の評価)

第7条 認定した単位の評価は、すべて「N（認定）」として処理するものとする。

第8条 この細則の改廃は教務委員会で行う。

### 附 則

この細則は、昭和58年度第1年次入学生から適用する。

### 附 則

(略)

### 附 則

この細則は、令和7年11月28日から施行する。

## 大妻女子大学短期大学部入学者の既修得単位の取り扱いに関する細則

(昭和 58 年 4 月 1 日制定 最終改定令和 7 年 10 月 28 日)

### (総 則)

第 1 条 この細則は、大妻女子大学短期大学部学則（昭和49年 4 月 1 日制定）第 7 条の 4 に規定する既修得単位の認定について定めるものとする。

### (出願資格)

第 2 条 既修得単位の認定を願い出ることのできる者は、大学又は短期大学を卒業又は中途退学し、新たに本学の第 1 年次に入学した者とする。

2 高大連携等により高等学校等在学時に修得した単位についても準用する。

### (出願の時期)

第 3 条 出願の時期は第 1 年次の初めとする。

### (出願手続)

第 4 条 既修得単位の認定を願い出る者は、次の書類を所定の期日までに教育支援グループへ提出するものとする。

- (1) 単位認定願書
- (2) 既修得単位の成績証明書

### (単位の認定)

第 5 条 単位の認定は、教務委員会において審議し、教育上有益と認められた場合は、教授会の議を経て行うものとする。

### (認定単位数)

第 6 条 単位の認定は、30 単位を超えない範囲で行うものとする。

### (認定単位の評価)

第 7 条 認定した単位の評価は、すべて「N（認定）」として処理するものとする。

第 8 条 この細則の改廃は教務委員会で行う。

### 附 則

(略)

### 附 則

この細則は、令和 7 年 10 月 28 日から施行する。

## 大学以外の教育施設等における学修に対する単位認定に関する細則（家政学部・文学部）

（平成14年3月14日制定 最終改正令和5年4月1日）

この細則は、大妻女子大学学則（昭和48年4月1日制定）第7条の3第3項に規定する単位認定に関する事項について定めるものとする。

### 家政学部・文学部

振り替え認定基準に定める検定または試験に合格した者、及び一定の成績を得た者には、本人の申請により、申請科目の配当年次に限り、4月の履修登録前に単位の認定及び授業科目への振り替え認定を行う。

1. 認定単位は合計6単位を越えることはできない。
2. 同レベルの複数の技能検定や試験を併用することはできない。
3. 再履修科目を振り替え認定することはできない。
4. 対象科目は以下のとおりとする。

全学共通科目

〔家政学部〕

英語 I A・英語 I B(計2単位)

英語 II A・英語 II B(計2単位)

英語 II C・英語 II D(計2単位)

または 英語 I C・英語 I D(計2単位)

〔文学部〕

英語 I A・英語 I B(計2単位)

英語 I C・英語 I D(計2単位)

英語 II A・英語 II B(計2単位)

英語 II C・英語 II D(計2単位)

\* □内の2科目を合わせて2単位を認定する。1単位のみで認定することはできない。

### 5. 振り替え認定基準と認定単位

認定単位	実用英語技能検定	TOEIC® L&R (IPテストも含む)	TOEFL®
4	準1級	700点以上	iBT® 68以上
6	1級	900点以上	iBT® 92以上

6. 対応科目を既に履修済みまたは履修登録中の場合は認定できない。
7. 認定申請の際、認定基準に定める検定の合格または試験の成績を証明する書類を提出しなければならない。
8. 履修登録時に、検定または試験の合格・成績取得を見込んで、必修科目の登録を見合わせることはできない。
9. 認定した単位の評価は「N」として処理するものとする。
10. この細則の改廃は、教務委員会の議を経て、各学部教授会において行う。

### 附 則

(略)

### 附 則 (令和4年12月8日 文学部教授会、令和4年12月15日 家政学部教授会)

この改正後の細則は、令和5年4月1日から施行する。

## 大学以外の教育施設等における学修に対する単位認定に関する細則（社会情報学部）

（平成21年11月11日制定 最終改正平成31年1月16日）

この細則は大妻女子大学学則（昭和48年4月1日制定）第7条の3第3項に規定する単位認定に関する事項について定めるものとする。

### 社会情報学部

振り替え認定基準に定める試験に合格した者には、本人の申請により、申請科目の配当年次または上級年次に限り、指定された期間に単位の認定及び授業科目の振り替え認定を行う。

#### 1. 対象科目は以下のとおりとする。

社会生活情報学専攻、環境情報学専攻： 専門教育科目（他専攻選択）  
情報デザイン専攻： 専門教育科目（選択）

認定対象科目	単 位
情報処理機器概論	2 単位
インタフェースデザイン論	2 単位
統計処理及び演習	2 単位
情報管理	2 単位
アルゴリズム論及び演習 I	2 単位
情報ネットワーク論及び実習 I	2 単位
経営情報システム論	2 単位

#### 2. 振り替え認定基準と認定単位

認定基準	認定単位
IT パスポート試験	2 単位
基本情報技術者試験	6 単位

#### 3. 認定単位は、合計6単位を超えることはできない。

4. 対象科目を既に履修済みまたは履修登録中の場合は認定できない。また、再履修科目の振り替え認定は認めない。

5. 社会生活情報学専攻、環境情報学専攻の申請者は、他専攻で履修した単位と合わせて10単位を超えることはできない。

6. 認定申請の際、認定基準に定める試験の合格を証明する書類を提出しなければならない。

7. 単位の評価は認定として処理するものとし、評価は「N」とする。

8. この細則の改廃は、社会情報学部教務委員会の議を経て、社会情報学部教授会において行う。

### 附 則

（略）

### 附 則

この細則は平成31年4月1日から施行する。

## 試験に関する内規（昭和49年4月1日制定 最終改正令和4年12月6日）

### （試験）

- 1 試験を区分して、「定期試験」と「随時行う試験」とする。
- 2 定期試験は、学期末・学年末に実施する。定期試験の実施科目は、1週間前までに発表する。
- 3 履修登録をし、授業に出席した者でなければ受験資格を与えない。
- 4 問題用紙による試験のほか、オンライン上で実施する遠隔試験、論文、または、レポート提出をもって試験に代えることがある。なお、科目によっては平常の学業成績をもって代えることがある。
- 5 各授業科目について、出席がその授業時数の2/3に達しない者、及び授業料未納の者には原則として受験資格を与えない。

### （成績）

- 6 成績は、試験の結果と平常の学修状態を総合して決定する。
- 7 成績の評価基準は次のとおりである。

S…100点～90点

A…89点～80点

B…79点～70点

C…69点～60点

N…単位認定

D…59点以下（不合格）

E…出席不足のため受験資格なし

F…試験時欠席・レポート等未提出

- 8 成績評価に関するガイドラインについては別に定める。

### （追試験・再試験）

- 9 教育実習・校外実習・病気・忌引・交通機関の事故・裁判員選任に伴う事項等やむを得ない理由により定期試験等を受験できなかった者は、所定の期間内に速やかに「追試験願」及び同理由について証明する書類を教育支援グループに提出しなければならない。その理由が妥当と認められ且つ「F（試験時欠席等）」の成績評価が付与された場合のみ、後日行われる1回限りの追試験を受けることができる。
- 10 追試験の成績評価方法は正規の試験に準ずる。
- 11 追試験の不合格者に対する再試験は行わない。
- 12 定期試験等を受験し「D（不合格）」の成績評価が付与された卒業年次生が各学期3科目を上限として、所定の手続を経て後日行われる1回限りの再試験を受けることができる。
- 13 再試験の成績評価は「C」、「D」または「F」となる
- 14 再試験の欠席者に対する追試験は行わない。
- 15 追試験・再試験を受験する者は、所定の受験料を納めて手続をしなければならない。

### （試験の受験）

- 16 試験の受験に際しては、次の事項を厳守すること。
  - （1）受験の際は、必ず学生証を机の上に掲示しておくこと。学生証がなければ受験することができない。
  - （2）受験の際は、机の中には何も入れてはならない。
  - （3）許可のあった場合を除き、教科書・ノート・辞書などを試験場に持ち込んだ場合は、これを一括して椅子の下に置くこと。
  - （4）試験開始後、30分以内の遅刻者には、受験を許可する。ただし、終了時間は、延長しない。
  - （5）試験場で許可なく物品の貸借をしてはならない。
  - （6）試験開始後30分を経過しない場合は、退場することを許さない。
  - （7）30分経過後、答案を書き終わった者は、許可を得て退場することができる。なお、退場の際は、監督者の指示に従うこと。
  - （8）公正な態度で受験し、いささかでも他から疑問を持たれるような行為のないようにすること。
- 17 受験時、不正行為を行った者は「試験における不正行為者の処罰に関する規程（平成27年12月17日制定）」に基づいて処置される。

### （成績評価確認制度）

- 18 成績評価の確認を希望する者は、所定の期間内に「成績評価確認申請書」を教育支援グループに提出することで、授業担当者に成績評価の確認を申請することができる。
- 19 成績評価確認の申請に対する授業担当者からの回答に対して、申請者が再び確認を申請することはできない。

### （内規の改廃）

- 20 この内規の改廃は、教務委員会の議を経て大妻女子大学運営会議において定める。

## 附 則

（略）

## 附 則（令和4年12月6日 大妻女子大学運営会議）

この規程の改正は、令和5年4月1日から施行する。

**試験における不正行為者の処罰に関する規程**（平成27年12月17日制定 最終改正令和4年2月16日）

この規程は、大妻女子大学学生懲戒規程（平成27年7月7日制定 以下「懲戒規程」という）第17条に基づき、試験における不正行為が発生した際、迅速に対応することを目的として定める。

1 試験における不正行為とは、次の各号のいずれかに該当する行為をいう。

## ① 筆記試験

- (1) 他人に受験を代理させる行為、及び他人の受験を代理する行為
- (2) 他人の答案を見る行為、及び何らかの方法で他人の答案を知る行為
- (3) 他人に答案を見せる行為、及び何らかの方法で他人に答案を教示する行為
- (4) 他人と答案を交換する行為
- (5) 持ち込みが許可されていない資料及び電子機器類等を利用する行為
- (6) 持ち込みが許可された資料及び電子機器類等を貸借等する行為
- (7) 所持品、衣服、身体、机又は壁等に書き込みをする行為、及びその書き込みを利用して答案を作成する行為
- (8) その他試験監督者の指示に従わない行為、及び公正な試験の実施を阻害すると認められた行為

## ② オンライン試験

- (1) 他人に受験を代理させる行為、及び他人の受験を代理する行為
- (2) 試験中に他人と会話や通信等をする行為
- (3) 許可されていない資料、電子機器類、及びアプリケーション等を利用する行為
- (4) その他授業担当者が不正だと判断した行為

## ③ 論文・レポート・作品等の提出（卒業論文・卒業研究、及びオンラインによる提出の場合を含む）

- (1) 他人に代筆等させた論文・レポート・作品等を提出する行為
- (2) 他人の論文・レポート・作品等を代筆等する行為
- (3) 実験や調査結果のデータを捏造又は改ざんする行為
- (4) 他人の論文・レポート・作品等を盗用する行為
- (5) その他授業担当者が不正だと判断した行為

2 試験のうち定期試験における不正行為については以下の処罰を行う。

- ① 当該学期の定期試験の全試験科目を無効（E評価）とする。
- ② 不正行為者に対しては、懲戒規程第7条に基づいて、自宅謹慎を命じ、懲戒規程第5条第1項第1号の訓告とする。
- ③ 副学長（学生担当）が当該不正行為を特に悪質なものと判断した場合、懲戒規程第8条に基づく調査委員会による調査を行い、必要に応じて更に厳重な懲戒処分を実施する。
- ④ 懲戒規程第10条第2項に基づいて、父母又は保証人に、不正行為及び懲戒処分の事実を通知するとともに、学内にその旨を公示する。

3 定期試験以外の試験における不正行為については以下のとおりとする。

- ① 授業担当教員が当該試験を定期試験に準ずると判断する場合は、当該科目を無効（E評価）とし、前項①～④を適用する。
- ② 授業担当教員が当該試験を定期試験に準ずると判断しない、あるいは判断できない場合は、当該科目のみを無効（E評価）とし、懲戒の対象とはせず、懲戒規程第6条に基づいて厳重注意とする。

4 細部については、内規で定める。

5 この規程の改廃は、教務委員会の議を経て大妻女子大学運営会議において定める。

**内 規**

- (1) 集中授業については、定期試験以外の試験として取り扱う。
- (2) 自宅謹慎は、父母又は保証人の同居する自宅において行う。
- (3) 自宅謹慎の日数については、不正行為が発覚した日から1週間とする。
- (4) 学内の公示は、その不正行為の事実と懲戒処分のみとする。
- (5) 不正行為の事実調査は教育支援グループが行い、処罰に関する規程の第2項①～④の処罰を行う場合は、学生支援グループを通じて副学長（学生担当）に報告する。

(6) 学生への訓告は、副学長（学生担当）からの依頼により、当該学生が所属する学部の学部長から与えることができる。

**附 則**

(略)

**附 則**

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

**大妻女子大学学生の留学に関する内規**（平成8年3月15日制定 最終改正令和7年4月21日）**(総 則)**

第1条 この内規は、大妻女子大学学則（昭和48年4月1日制定）第22条の2第6項の規定により、学生の留学について必要な事項を定める。

**(留学先の大学)**

第2条 留学先の大学は、外国の大学又は外国の高等教育研究機関のうち大学に相当するもの（短期大学に相当するものを含む。）として学長が認定したものとする。

**(出願資格)**

第3条 留学を希望する者は、留学出発時までには本学に半期以上在学していなければならない。

**(出願手続)**

第4条 留学を希望する者は、国際センター主催・紹介留学プログラムについては国際センターへ、各学部主催留学プログラムについては当該学部学科へ、申込期限までに必要出願書類を提出しなければならない。

**(留学の許可)**

第5条 国際センターまたは留学を主催する学部学科は、提出された出願書類を基に留学を希望する者を選考し、それぞれ国際センター会議の審議または当該学部学科の意見を徴した後、留学が当該学生にとって教育上有益と認められる場合は、教授会の議を経て許可されるものとする。

**(留学期間)**

第6条 留学の期間は1年以内とする

**(危機管理等)**

第7条 国際センター主催・紹介留学プログラムについては、国際センターの定める危機管理システム及び海外留学保険（別紙参照）に加入し、また留学する者にも加入を義務付けることとする。

2 各学部主催留学プログラムにおいても、留学を主催する学部学科は、前項に定められた国際センター主催・紹介の留学プログラムに準じた危機管理システム及び海外留学保険に加入し、また留学する者にも加入を義務付けることとする。

3 第2項における加入手続きは留学を主催する学部学科が行い、加入にかかる費用は当該学部学科及び留学する者が負担することとし学院は負担しない。

4 留学を主催する学部学科以外から留学する者がいる場合の加入手続き及び学部学科の負担費用については、原則として留学を主催する学部学科が行うこととする。

**(国際センター・所属学部等の業務)**

第8条 国際センターまたは留学を主催する学部学科は以下のサポート体制を事前に整えておく。

(1) 国際センターまたは留学を主催する学部学科における緊急連絡網と対応体制の構築

(2) 現地研修先でのサポート体制の確認

**(留学終了の手続)**

第9条 留学を終了した者は、留学修了届をクラス指導主任を経て教育支援グループに提出しなければならない。

2 留学先大学で修得した授業科目の単位の認定を希望する者は、留学修了届とともに次の書類を教育支援グループに提出しなければならない。

(1) 単位認定願（本学指定用紙）

(2) 留学先大学発行の成績証明書又は単位修得証明及び評価基準を示す書類

(3) 当該修得科目の授業内容及び授業時間数を証明する書類

**(単位認定)**

第10条 単位の認定は提出された書類に基づいて、教務委員会において審議し、教育上有益と認められた場合は、教授会の議を経て行うものとする。

2 単位の認定は、学則第22条の2第3項の定めるとおりとする。

3 認定した単位の評価は、すべて「N（単位認定）」として処理するものとする。

**(帰国後の履修取り扱い)**

第11条 帰国した年度の後期開講科目の履修を希望する者については、所定の日時に履修登録を認めるものとする。

2 留学先大学の学年暦の差異によって生ずる履修上の取扱いについては、教務委員会の定めるところによる。

**(留学許可の取消し)**

第12条 留学生について次のいずれかに該当する場合には、教授会の議を経て留学の許可を取り消すことができる。

- (1) 留学の成果が上がらないと認められたとき
- (2) 本学学生としての本分に反したとき

**(補 則)**

第13条 この内規に定めるもののほか、必要な事項は教務委員会の意見を徴し、国際センター会議が定める。

**(改 廃)**

第14条 この内規の改廃は教務委員会の意見を徴し、国際センター会議にて行う。

**附 則**

(略)

**附 則** (令和7年4月21日 国際センター会議)

- 1 この内規は、令和7年4月21日から施行し、令和7年4月1日から適用する。

**大妻女子大学短期大学部学生の留学に関する内規**（平成8年3月15日制定 最終改正令和7年4月21日）**(総 則)**

第1条 この内規は、大妻女子大学短期大学部学則（昭和49年4月1日制定）第22条の2第6項の規定により、学生の留学について必要な事項を定める。

**(留学先の大学)**

第2条 留学先の大学は、外国の大学又は外国の高等教育研究機関のうち大学に相当するもの（短期大学に相当するものを含む。）として学長が認定したものとする。

**(出願資格)**

第3条 留学を希望する者は、留学出発時までに本学に半期以上在学していなければならない。

**(出願手続)**

第4条 留学を希望する者は、国際センター主催・紹介留学プログラムについては国際センターへ、各学部主催留学プログラムについては当該学部学科へ、申込期限までに必要出願書類を提出しなければならない。

**(留学の許可)**

第5条 国際センターまたは留学を主催する学部学科は、提出された出願書類を基に留学を希望する者を選考し、それぞれ国際センター会議の審議または当該学部学科の意見を徴した後、留学が当該学生にとって教育上有益と認められる場合は、教授会の議を経て許可されるものとする。

**(留学期間)**

第6条 留学の期間は1年以内とする

**(危機管理等)**

第7条 国際センター主催・紹介留学プログラムについては、国際センターの定める危機管理システム及び海外留学保険（別紙参照）に加入し、また留学する者にも加入を義務付けることとする。

2 各学部主催留学プログラムにおいても、留学を主催する学部学科は、前項に定められた国際センター主催・紹介の留学プログラムに準じた危機管理システム及び海外留学保険に加入し、また留学する者にも加入を義務付けることとする。

3 第2項における加入手続きは留学を主催する学部学科が行い、加入にかかる費用は当該学部学科及び留学する者が負担することとし学院は負担しない。

4 留学を主催する学部学科以外から留学する者がいる場合の加入手続き及び学部学科の負担費用については、原則として留学を主催する学部学科が行うこととする。

**(国際センター・所属学部等の業務)**

第8条 国際センターまたは留学を主催する学部学科は以下のサポート体制を事前に整えておく。

- (1) 国際センターまたは留学を主催する学部学科における緊急連絡網と対応体制の構築
- (2) 現地研修先でのサポート体制の確認

**(留学終了の手続)**

第9条 留学を終了した者は、留学修了届をクラス指導主任を経て教育支援グループに提出しなければならない。

2 留学先大学で修得した授業科目の単位の認定を希望する者は、留学修了届とともに次の書類を教育支援グループに提出しなければならない。

- (1) 単位認定願（本学指定用紙）
- (2) 留学先大学発行の成績証明書又は単位修得証明及び評価基準を示す書類
- (3) 当該修得科目の授業内容及び授業時間数を証明する書類

**(単位認定)**

第10条 単位の認定は提出された書類に基づいて、教務委員会において審議し、教育上有益と認められた場合は、教授会の議を経て行うものとする。

2 単位の認定は、学則第22条の2第3項の定めるとおりとする。

3 認定した単位の評価は、すべて「N（単位認定）」として処理するものとする。

**(帰国後の履修取り扱い)**

第11条 帰国した年度の後期開講科目の履修を希望する者については、所定の日時に履修登録を認めるものとする。

2 留学先大学の学年暦の差異によって生ずる履修上の取扱いについては、教務委員会の定めるところによる。

**(留学許可の取消し)**

第12条 留学生について次のいずれかに該当する場合には、教授会の議を経て留学の許可を取り消すことができる。

- (1) 留学の成果が上がらないと認められたとき
- (2) 本学学生としての本分に反したとき

**(補 則)**

第13条 この内規に定めるもののほか、必要な事項は教務委員会の意見を徴し、国際センター会議が定める。

**(改 廃)**

第14条 この内規の改廃は教務委員会の意見を徴し、国際センター会議にて行う。

**附 則**

(略)

**附 則** (令和7年4月21日 国際センター会議)

- 1 この内規は、令和7年4月21日から施行し、令和7年4月1日から適用する。

**大妻女子大学再入学に関する細則**（昭和55年4月1日制定 最終改正令和4年4月12日）**（総 則）**

第1条 この細則は、大妻女子大学学則（昭和48年4月1日制定。以下「学則」という。）第23条及び第23条の2第2項に規定する再入学について定める。

**（出願資格）**

第2条 再入学を願い出ることのできる者は、次のいずれかに該当する者とする。

- 一 学則第18条により退学した者で、退学後2年以内の者
- 二 学則第23条の2第1項第3号または第4号により除籍された者で、除籍後2年以内の者

第2条の2 年度途中で退学または除籍となった場合は、退学または除籍となった年度の4月から起算し2年以内とする。

**（再入学できる学科・専攻）**

第3条 再入学できる学科・専攻は、退学または除籍前に在学した同一の学科・専攻とする。ただし、学年に関しては、原則として退学または除籍前と同一とする。

**（再入学の時期）**

第4条 再入学の時期は、毎年4月とする。

**（在学期間）**

第5条 再入学した者の在学期間は、退学または除籍前の在学期間を含め、8年を超えることはできない。

**（出願手続）**

第6条 再入学を出願する者は、次の書類を入試グループへ提出するものとする。

- (1) 再入学願書
  - (2) 退学または除籍前の成績証明書
- 2 再入学願を提出できるのは、毎年2月の指定の期日までとする。

**（選 考）**

第7条 再入学志願者の選考は、当該年度の実施要項により当該学科が行う。

**（カリキュラム）**

第8条 再入学した学生の履修すべきカリキュラムは、再入学を許可された相当年次のカリキュラムを適用する。

**（既修得単位の認定）**

第9条 退学または除籍前に修得した単位は、原則としてこれを認定し、再入学後の修得単位に通算することができる。

**（履修指導）**

第10条 再入学を許可された者に対する履修指導は、クラス指導主任及び教育支援グループにおいて行う。

**（納入金）**

第11条 再入学を許可された者は所定の納入金を指定の期日までに納入するものとする。

**（規程の改廃）**

第12条 この規程の改廃は、大妻女子大学運営会議の議を経て、学長が決定する。

- 2 この規程の管理部署は、広報・入試センター入試グループとする。

**附 則**

（略）

**附 則**（令和4年4月12日 大妻女子大学運営会議）

この規程は、令和4年4月12日から施行し、令和4年4月1日から適用する。

## 大妻女子大学短期大学部再入学に関する細則（昭和55年4月1日制定 最終改正令和7年4月1日）

### （総 則）

第1条 この細則は、大妻女子大学短期大学部学則（昭和49年4月1日制定。以下「学則」という。）第23条及び第23条の2第2項に規定する再入学について定める。

### （出願資格）

第2条 再入学を願い出ることのできる者は、次のいずれかに該当する者とする。

- 一 学則第18条により退学した者で、退学後2年以内の者
- 二 学則第23条の2第1項第3号または第4号により除籍された者で、除籍後2年以内の者

第2条の2 年度途中で退学または除籍となった場合は、退学または除籍となった年度の4月から起算し2年以内とする。

### （再入学できる学科・コース）

第3条 再入学できる学科・コースは、退学または除籍前に在学した同一の学科・コースとする。ただし、学年に関しては、原則として退学または除籍前と同一とする。

### （再入学の時期）

第4条 再入学の時期は、毎年4月とする。

### （在学期間）

第5条 再入学した者の在学期間は、退学または除籍前の在学期間を含め、4年を超えることはできない。

### （出願手続き）

第6条 再入学を出願する者は、次の書類を入試グループへ提出するものとする。

- (1) 再入学願書
  - (2) 退学または除籍前の成績証明書
- 2 再入学願を提出できるのは、毎年2月の指定の期日までとする。

### （選 考）

第7条 再入学志願者の選考は、当該年度の実施要項により当該学科が行う。

### （カリキュラム）

第8条 再入学した学生の履修すべきカリキュラムは、再入学を許可された相当年次のカリキュラムを適用する。

### （既修得単位の認定）

第9条 退学または除籍前に修得した単位は、原則としてこれを認定し、再入学後の修得単位に通算することができる。

### （履修指導）

第10条 再入学を許可された者に対する履修指導は、クラス指導主任及び教育支援グループにおいて行う。

### （納入金）

第11条 再入学を許可された者は所定の納入金を指定の期日までに納入するものとする。

### （規程の改廃）

第12条 この規程の改廃は、大妻女子大学運営会議の議を経て、学長が決定する。

- 2 この規程の管理部署は、広報・入試センター入試グループとする。

### 附 則

(略)

附 則（令和7年11月4日 大妻女子大学運営会議）

この規程は、令和7年4月1日から適用する。

## 大妻女子大学早期卒業に関する規程（平成19年1月18日制定）

### （趣旨・目的）

第1条 この規程は、大妻女子大学学則第12条ただし書きの規定に基づき、大妻女子大学における早期卒業の認定に関し必要な事項を定める。

### （対象者）

第2条 本学に3年以上在学し、卒業に必要な単位を優秀な成績をもって修得したと認められる者を対象とする。

### （早期卒業の申し出・審査）

第3条 早期卒業を希望する者は、2年次終了時に所属学科の学科長（社会情報学部は専攻主任）に申し出るものとする。

2 早期卒業を希望することができる者は、卒業要件単位数を90単位以上修得し、2年次終了時の通算GPAが3.7以上であること。

3 早期卒業希望の申し出があったときは、教務委員会で審査のうえ、教授会において審議し、学長に報告する。

### （学習指導）

第4条 学科は、早期卒業希望者の3年次学習指導について、適切に実施する。

2 早期卒業希望者は、3年次から卒業論文、卒業研究、卒業制作等の指導を受けることができる。

3 早期卒業希望者は、3年次前期終了時に学習状況報告書を所属学科長（社会情報学部は専攻主任）に提出する。

### （早期卒業の認定）

第5条 早期に卒業するためには、次の要件をすべて満たさなければならない。

（1）学則に定める教育課程を履修し、卒業に必要な単位数以上を修得していること。

（2）本学大学に3年以上在学していること。

（3）在学期間における通算GPAが3.7以上であること。

（4）卒業論文、卒業研究、卒業制作等が必修の場合は、その評価がA以上であること。

（5）当該学生が早期卒業を希望していること。

### （卒業認定審査）

第6条 教務委員会は前条の要件について審査のうえ、教授会において審議し、学長が卒業を認定する。

### （卒業の時期）

第7条 早期卒業の時期は、3年次終了時又は4年次前期終了時とする。

### （その他）

第8条 この内規に定めるもののほか、早期卒業を実施する学部、学科、専攻及び早期卒業に関し必要な事項は、各学部において別に定める。

## 附 則

この規程は、平成19年4月入学者から適用する。

**大妻女子大学における転部・転科・転専攻の取扱いに関する規程**（平成26年2月10日制定 最終改正令和4年2月16日）

第1条 大妻女子大学学則第22条の5の規定に基づく転部・転科・転専攻（以下「転部等」という。）の取扱いについては、この規程の定めるところによる。

第2条 転部等を受け入れる年次は、2年次とする。

第3条 転部等の受け入れは、学科・専攻毎の受け入れ年次の在籍者数（受け入れの前年度における11月1日現在）が、原則として学則第38条に規定する入学定員を超えない場合に限り、その範囲内において学部の判断により実施できるものとする。ただし、入学定員を超える在籍者数がある場合でも、収容定員において許容範囲内であれば、学部の判断により実施できるものとする。

2 転部等の受け入れ可能な人数は、各学部において、学科・専攻ごとに定め、11月初旬に教育支援グループに通知する。

第4条 受け入れを実施する学部は、必要に応じて選考基準等を定める。

第5条 転部等の選考は、原則として在籍中の成績、筆記試験、面接等を組み合わせて総合的に判定する。

第6条 転部等を希望する者は、所定の期日までに、出願書類を教育支援グループに提出する。

第7条 選考の結果、転部等を許可された者は、所定の転籍書類を学生支援グループに提出する。

第8条 転部等は在学期間中において1回限りとし、再度の転部等については認めない。

第9条 転部等を行った者に対する転部等以前に取得した単位の取扱いについては、受け入れを行った学部において必要に応じて卒業に必要な単位として認定することができるものとする。

第10条 転部等を行った者の在学年数は、転部等を行う前の在学期間を含め8年を超えることはできない。

第11条 本規程に定めのない事項については、そのつど大妻女子大学運営会議においてこれを定める。

第12条 この規程の改廃は、大妻女子大学運営会議が行う。

**附 則**

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

**附 則**

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

**大妻女子大学短期大学部におけるコース変更の取扱いに関する規程**（令和7年11月4日制定）

第1条 短期大学部家政科においてコース変更を希望する者があるときは、受け入れコースに欠員のある場合に限りこれを許可することがある。

第2条 コース変更を受け入れる年次は、2年次とする。

第3条 コース変更の受け入れは、コース毎の受け入れ年次の在籍者数（受け入れの前年度における11月1日現在）が入学定員を超えない場合に限り、その範囲内において学科の判断により実施できるものとする。ただし、入学定員を超える在籍者数がある場合でも、収容定員において許容範囲内であれば、学科の判断により実施できるものとする。

2 コース変更の受け入れ可能な人数は、学科において定め、11月初旬に教育支援グループに通知する。

第4条 受け入れを実施するコースは、必要に応じて選考基準等を定める。

第5条 コース変更の選考は、原則として在籍中の成績、筆記試験、面接等を組み合わせて総合的に判定する。

第6条 コース変更を希望する者は、所定の期日までに出願書類を教育支援グループに提出する。

第7条 選考の結果、コース変更を許可された者は、所定の転籍書類を学生支援グループに提出する。

第8条 コース変更は在学期間中において1回限りとし、再度のコース変更については認めない。

第9条 コース変更を行った者に対するコース変更前に取得した単位の取扱いについては、受け入れを行ったコースにおいて必要に応じて卒業に必要な単位として認定することができるものとする。

第10条 コース変更を行った者の在学年数は、コース変更前の在学期間を含め4年を超えることはできない。

第11条 本規程に定めのない事項については、そのつど大妻女子大学運営会議においてこれを定める。

第12条 この規程の改廃は、大学運営会議が行う。

**附 則**（令和7年11月4日 大妻女子大学運営会議）

1 この規程は、令和7年11月4日から施行し、令和7年4月1日から適用する。

2 「大妻女子大学短期大学部における転科・転専攻の取扱いに関する規程（平成26年2月10日制定）」は廃止する。

## 大妻女子大学科目等履修生規程（平成9年11月4日制定 最終改正令和8年1月7日）

### （趣 旨）

第1条 大妻女子大学学則（昭和48年4月1日制定。以下「学則」という。）第40条に規定する科目等履修生（以下履修生という。）の取扱いについては、この規程の定めるところによる。

### （履修生の資格）

第2条 履修生は、学則第14条に規定する大学入学資格を有する者とする。

### （履修生の手続）

第3条 履修生を志願する者は、次の書類に選考料13,000円を添えて所定の期日までに、学長に願い出なければならない。

- (1) 科目等履修生願書
- (2) 履歴書
- (3) 健康診断書
- (4) 最終出身学校の修了証明書又は卒業証明書
- (5) 現に日本国に在住している外国人は、住民票

### （履修生の許可）

第4条 履修生は、教務委員会、学部教授会の議を経て学長が許可する。

### （登録料及び履修料）

第5条 履修生として許可された者は、所定の期日までに登録料20,000円及び履修料として1単位につき20,000円を納付しなければならない。ただし、実験及び実習等に要する経費は、必要に応じ別途徴収することがある。

### （諸料金の還付）

第6条 既納の選考料、登録料及び履修料は返還しない。

### （履修開始時期）

第7条 履修生の履修開始学期は、学年又は学期の始めとする。

### （履修期間）

第8条 履修生の履修期間は、6か月又は1年とする。ただし、特別の理由があるときは、願い出により履修期間の延長を許可することがある。

### （履修単位数）

第9条 履修生が1年間に出席できる履修科目の総単位数は、10単位以内とする。

### （資格の取消し）

第10条 履修生として本学諸規程に反したときは、教務委員会、学部教授会の議を経て学長は履修生としての資格を取り消すことがある。

### （証明書の交付）

第11条 履修した授業科目の試験に合格し、単位を修得した者は、願い出により単位修得証明書の交付を受けることができる。

### （他の規程の準用）

第12条 履修生については、本規程のほか、正規の学生に関する諸規程を準用する。

### （本学大学院生の履修）

第13条 本学大学院生が履修生として教育職員免許状等各種資格取得のために必要な科目を履修する場合の選考料、登録料、履修料及び履修単位数等については別に定める。

### （本学卒業生の履修）

第14条 本学卒業生が履修生として教育職員免許状等各種資格取得のために必要な科目を履修する場合の選考料、登録料、履修料及び履修単位数等については別に定める。

### （本規程の改廃）

第15条 本規程の改廃は、教務委員会、学部教授会の議を経て大学運営会議において行う。

## 附 則

（略）

## 附 則

この規程は、令和8年1月7日から施行する。

**大妻女子大学短期大学部科目等履修生規程**（平成9年11月4日制定 最終改正令和8年1月7日）**（趣 旨）**

第1条 大妻女子大学短期大学部学則（昭和49年4月1日制定。以下「学則」という。）第40条に規定する科目等履修生（以下「履修生」という。）の取扱いについては、この規程の定めるところによる。

**（履修生の資格）**

第2条 履修生は、学則第13条に規定する大学入学資格を有する者とする。

**（履修生の手続）**

第3条 履修生を志願する者は、次の書類に選考料13,000円を添えて所定の期日までに、学長に願い出なければならない。

- (1) 科目等履修生願書
- (2) 履歴書
- (3) 健康診断書
- (4) 最終出身学校の修了証明書又は卒業証明書
- (5) 現に日本国に在住している外国人は、住民票

**（履修生の許可）**

第4条 履修生は、教務委員会、学部教授会の議を経て学長が許可する。

**（登録料及び履修料）**

第5条 履修生として許可された者は、所定の期日までに登録料20,000円及び履修料として1単位につき20,000円を納付しなければならない。ただし、実験及び実習等に要する経費は、必要に応じ別途徴収することがある。

**（諸料金の還付）**

第6条 既納の選考料、登録料及び履修料は返還しない。

**（履修開始時期）**

第7条 履修生の履修開始時期は、学年又は学期の始めとする。

**（履修期間）**

第8条 履修生の履修期間は、6か月又は1年とする。ただし、特別の理由があるときは、願い出により履修期間の延長を許可することがある。

**（履修単位数）**

第9条 履修生が1年間に出席できる履修科目の総単位数は、10単位以内とする。

**（資格の取消し）**

第10条 履修生として本学諸規程に反したときは、教務委員会、学部教授会の議を経て学長は履修生としての資格を取り消すことがある。

**（証明書の交付）**

第11条 履修した授業科目の試験に合格し、単位を修得した者は、願い出により単位修得証明書の交付を受けることができる。

**（他の規程の準用）**

第12条 履修生については、本規程のほか、正規の学生に関する諸規程を準用する。

**（本学卒業生の履修）**

第13条 本学卒業生が履修生として図書館司書資格取得のために必要な科目を履修する場合の選考料、登録料、履修料及び履修単位数等については別に定める。

**（本規程の改廃）**

第14条 本規程の改廃は、教務委員会、学部教授会の議を経て大学運営会議において行う。

**附 則**

（略）

**附 則**

この規程は、令和8年1月7日から施行する。

**大妻女子大学委託生規程**（昭和46年4月1日制定 最終改正平成17年11月17日）

**(趣 旨)**

第1条 大妻女子大学学則（昭和48年4月1日制定）第41条第2項に規定する委託生の取扱いについては、この規程の定めるところによる。

**(入学許可)**

第2条 委託生は、国内の公立の学校にあっては教育委員会、国立及び私立の学校にあってはその学校長、その他の団体にあっては所属機関の長から委託された者、国外の教育研究機関等にあってはその学校長又は所属機関の長から委託された者について、教授会の議を経て学長が入学を許可する。

**(入学資格)**

第3条 委託生は、研究事項について研修するに十分な学力がなければならない。

**(入学手続)**

第4条 教育委員会、学校長又は所属機関の長は、所定の願書に研修を志望する者の履歴書、健康診断書を添えて学長に願い出るものとする。

**(研修料)**

第5条 委託生は、別に定めるところにより研修料を納付しなければならない。

**(研修料の還付)**

第6条 既納の研修料は返還しない。

**(入学期)**

第7条 委託生の入学期は毎学年の始めとする。ただし、特別の事情がある場合は、この限りでない。

**(研修期間)**

第8条 委託生の研修期間は、1年とする。ただし、特別の事情のある者は、6か月又は3か月とすることができる。

**(講義等への出席)**

第9条 委託生が研究事項に関連のある講義又は実験実習に出席することを願い出たときは、学部長は教授会の議を経てこれを許可することができる。

**(研修結果の報告)**

第10条 委託生は、所定の研修を修了したときは、その結果を学部長に報告しなければならない。

**(研修証明)**

第11条 所定の研修を修了したと認められた者には、研修証明書を交付することができる。

**大妻女子大学短期大学部委託生規程**（昭和46年4月1日制定 最終改正平成17年11月15日）**（趣 旨）**

第1条 大妻女子大学短期大学部学則（昭和49年4月1日制定）第41条第2項に規定する委託生の取扱いについては、この規程の定めるところによる。

**（入学許可）**

第2条 委託生は、国内の公立の学校にあっては教育委員会、国立及び私立の学校にあってはその学校長、その他の団体にあっては所属機関の長から委託された者、国外の教育研究機関等にあってはその学校長又は所属機関の長から委託された者について、教授会の議を経て学長が入学を許可する。

**（入学資格）**

第3条 委託生は、研究事項について研修するに十分な学力がなければならない。

**（入学手続）**

第4条 教育委員会、学校長又は所属機関の長は、所定の願書に研修を志望する者の履歴書、健康診断書を添えて学長に願い出るものとする。

**（研修料）**

第5条 委託生は、別に定めるところにより研修料を納付しなければならない。

**（研修料の還付）**

第6条 既納の研修料は返還しない。

**（入学期）**

第7条 委託生の入学期は毎学年の始めとする。ただし、特別の事情がある場合は、この限りでない。

**（研修期間）**

第8条 委託生の研修期間は、1年とする。ただし、特別の事情のある者は、6か月又は3か月とすることができる。

**（講義等への出席）**

第9条 委託生が研究事項に関連のある講義又は実験実習に出席することを願い出たときは、学長は教授会の議を経てこれを許可することができる。

**（研修結果の報告）**

第10条 委託生は、所定の研修を修了したときは、その結果を学長に報告しなければならない。

**（研修証明）**

第11条 所定の研修を終了したと認めた者には、研修証明書を交付することができる。

## 緊急事態発生時の授業及び試験等の取り扱いについて（覚書）（平成 20 年 4 月 17 日制定）

気象警報の発令や交通機関のストライキ等が生じた場合、授業及び試験等の取り扱いは次のとおりとする。また、緊急事態が発生した場合の授業及び定期試験等の取り扱いは、学内放送、学内掲示及び大妻Webメールをもって伝達する。

なお、補講については授業担当者の指示を受けること。

### 1. 気象警報発令の場合

- (1) 各時限の授業開始 2 時間前から終了時間までの間に、警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の授業を休講とする。

なお、各時限の授業開始 2 時間前から終了までの時間帯の途中で、警報が解除された場合でも変更しない。

- (2) 各時限の定期試験開始 2 時間前から終了時間までの間に、警報下に置かれた時間帯があった場合、その試験時限を最高 3 時間遅らせて試験を実施する。また、必要に応じて試験日程を変更することがある。

なお、各時限の試験開始 2 時間前から終了までの時間帯の途中で、警報が解除された場合でも変更しない。

- (3) 台風や大雪など、気象状況が時間の経過とともに悪化し、数時間後には警報の発令が充分予測される場合、全学休講の措置を行うことがある。または、試験日程を変更することがある。

- (4) 気象警報の対象は、各キャンパスが所在する以下の地域で「暴風警報と大雨警報が同時に」、「暴風警報と洪水警報が同時に」、「大雪警報」、「暴風雪警報」のいずれかが気象庁から発表された場合とする。

【千代田校】 ・ 東京都の 23 区西部

【多摩校】 ・ 東京都の多摩南部

授業期間の場合 (警報下に置かれた時間帯があった場合 その時限を休講とする)	授業時間						授業の取り扱い
	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限	6 時限	
1 時限開始の 2 時間前から終了時まで	休講						1 時限は休講
2 時限開始の 2 時間前から終了時まで		休講					2 時限は休講
3 時限開始の 2 時間前から終了時まで			休講				3 時限は休講
4 時限開始の 2 時間前から終了時まで				休講			4 時限は休講
5 時限開始の 2 時間前から終了時まで					休講		5 時限は休講
6 時限開始の 2 時間前から終了時まで						休講	6 時限は休講

定期試験期間の場合 (警報下に置かれた時間帯があった場合 その試験時間を最高 3 時間遅らせる)	試験開始時間					
	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限	6 時限
1 時限開始の 2 時間前から終了時まで (千代田校・多摩校 9:00 ~)	12:00					
2 時限開始の 2 時間前から終了時まで (千代田校・多摩校 10:40 ~)		13:40				
3 時限開始の 2 時間前から終了時まで (千代田校・多摩校 13:00 ~)			15:00			
4 時限開始の 2 時間前から終了時まで (千代田校・多摩校 14:40 ~)				16:40		
5 時限開始の 2 時間前から終了時まで (千代田校 16:20 ~)					18:20	
6 時限開始の 2 時間前から終了時まで (千代田校 18:00 ~)						—

※休講の対象とならない気象警報や本学のキャンパスの地域には気象警報が発令されていないが、学生の皆さんが住んでいる地域に気象警報が発令され、登校が困難な場合は、後日、授業担当教員に届（指定様式）を提出してください。

### 2. 交通機関のストライキの場合

- (1) 交通機関のストライキ等の対象とする交通機関は以下のとおり。

①千代田校…首都圏のJR線または東京メトロ全線あるいは都営地下鉄全線

②多摩校…首都圏のJR線または小田急電鉄全線あるいは京王電鉄全線

- (2) ストライキが実施された場合の授業の取り扱いは以下のとおり。

- ①当日午前6時までにストライキが中止された場合は、平常授業とする。
- ②当日1時限開始（午前9時）までにストライキが中止された場合は、午後より開始される3時限の授業より実施する。
- ③当日1時限開始（午前9時）までにストライキが中止されない場合は、終日休講とする。
- ④上記以外の交通機関がストライキであっても、原則として平常どおり授業を行う。順法闘争等によるダイヤの乱れ等はこれに含まない。
- (3) ストライキが実施された場合の定期試験等の取り扱いは以下のとおり。
- ①当日午前6時までにストライキが中止された場合は、平常どおり試験を実施する。
- ②当日1時限開始（午前9時）までにストライキが中止された場合は、午後より開始される3時限の試験より実施する。中止した1・2時限の試験は、後日あらためて実施する。
- ③当日1時限開始（午前9時）を過ぎてもストライキが中止されない場合は、試験を中止する。中止した試験は順延とせず、後日あらためて実施する。
- ④上記以外の交通機関がストライキであっても、原則として平常どおり試験を実施する。順法闘争等によるダイヤの乱れ等はこれに含まない。

授業期間の場合	授業時間						授業の取り扱い
	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	
当日午前6時までに運転開始							平常どおり行う
当日1時限開始（午前9時）までに運転再開	休講	休講					3時限より行う
当日1時限開始（午前9時）までに運転が再開されない場合	休講	休講	休講	休講	休講	休講	終日休講

試験期間の場合	試験時間						試験の取り扱い
	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	
当日午前6時までに運転開始							平常どおり行う
当日1時限開始（午前9時）までに運転再開	中止	中止					3時限より行う 1・2時限は後日実施
当日1時限開始（午前9時）までに運転が再開されない場合	中止	中止	中止	中止	中止	中止	後日実施

3. その他災害等で交通機関が全面的に運転を中止している場合の授業及び試験の措置については、上記措置に準ずるものとする。

#### 4. その他注意事項

- (1) 学生及び保証人等からの電話での問い合わせには一切応じられないので、インターネット・テレビ・ラジオの報道によく注意し、上記の措置に従って判断すること。
- (2) ストライキの解除または交通機関の運転が再開されても、交通機関が混乱しているときは、登校のために無理をして事故に巻き込まれないよう安全を心がけること。

#### 附 則

1. この覚書は、平成20年4月17日から施行し、平成20年4月1日から適用する。
2. 交通機関のストライキに伴う授業及び試験の取扱い（平成3年1月24日制定）及び気象警報発令に対する試験等の取り扱い（覚書）（平成2年1月24日制定）は廃止する。

#### 附 則

1. この覚書は、平成20年6月12日から施行し、平成20年5月23日から適用する。

#### 附 則

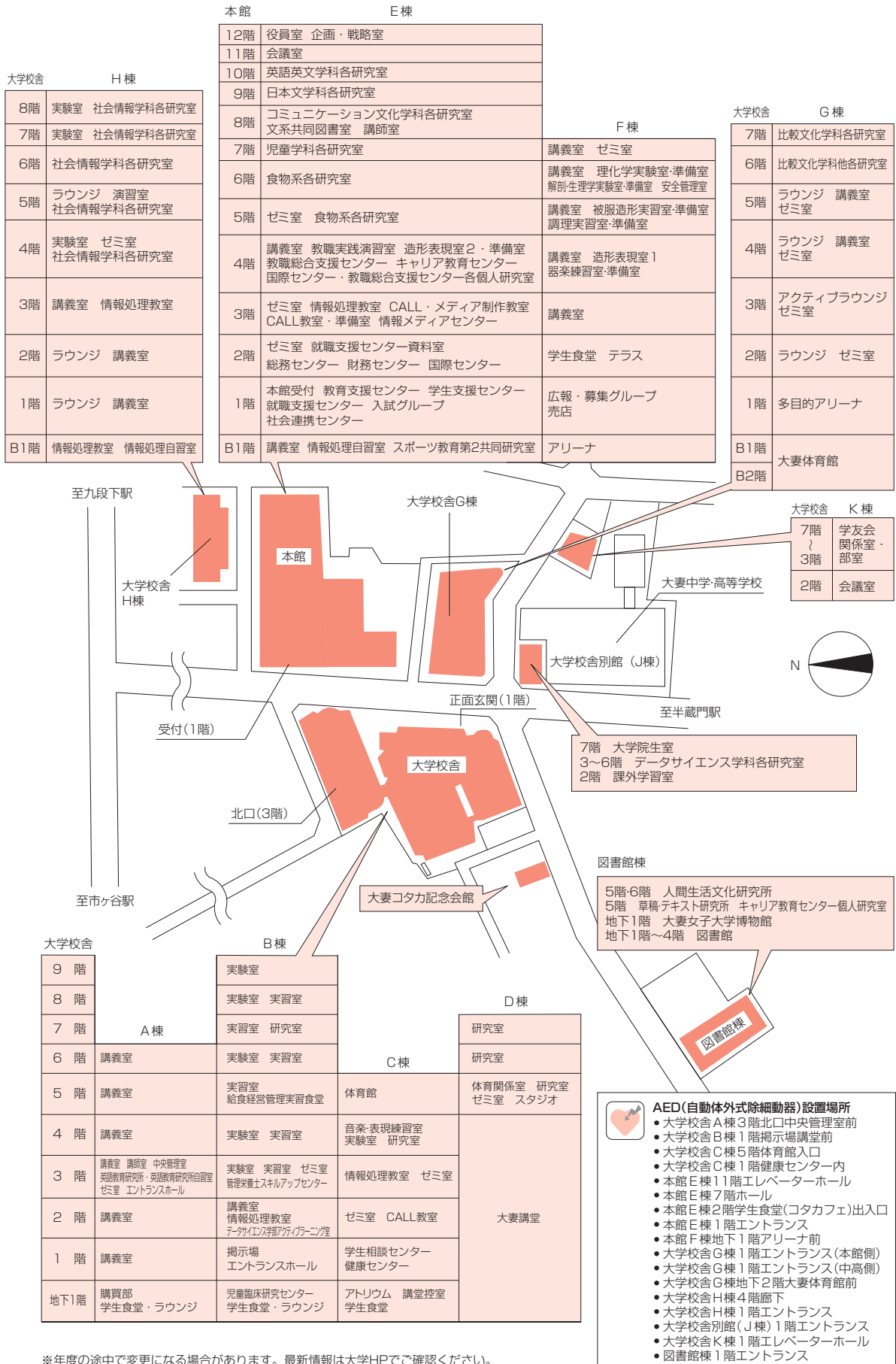
1. この覚書は、平成23年4月1日から施行する。

#### 附 則

1. この覚書は、平成27年4月1日から施行する。

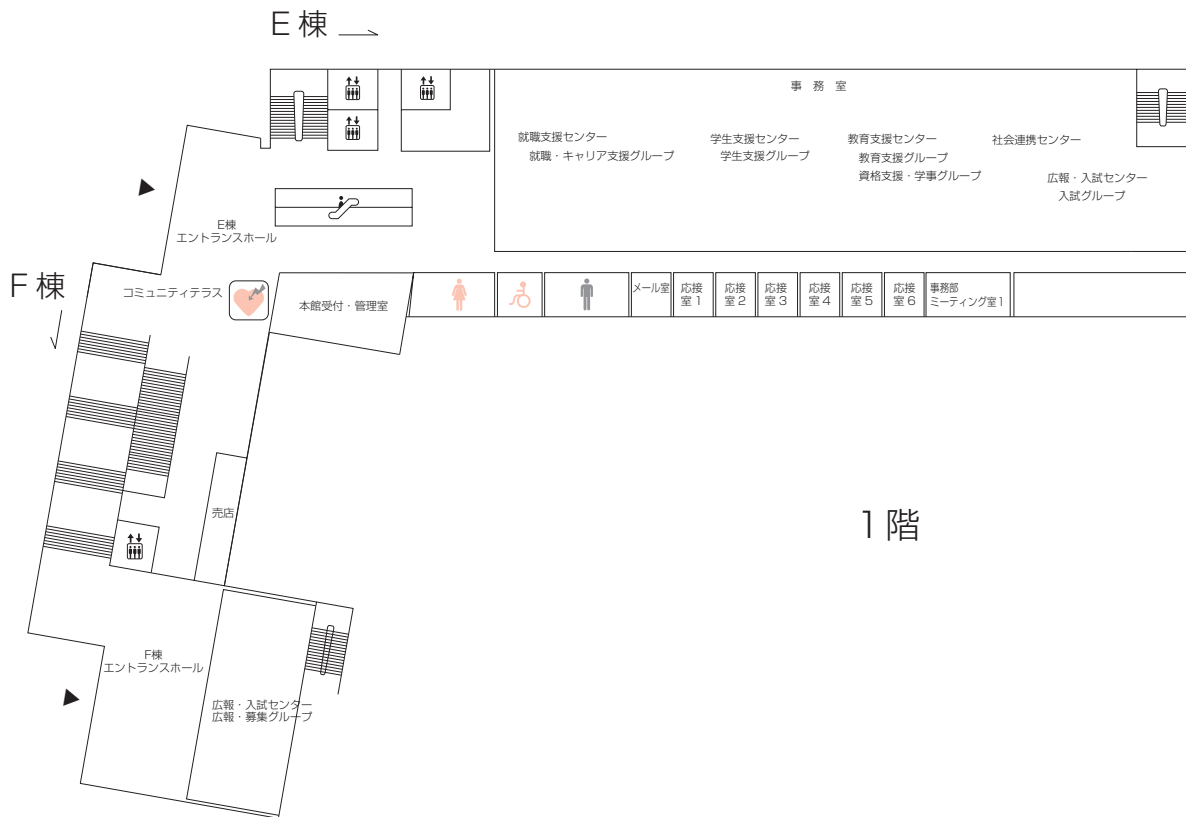
# 校舎配置図及び見取図

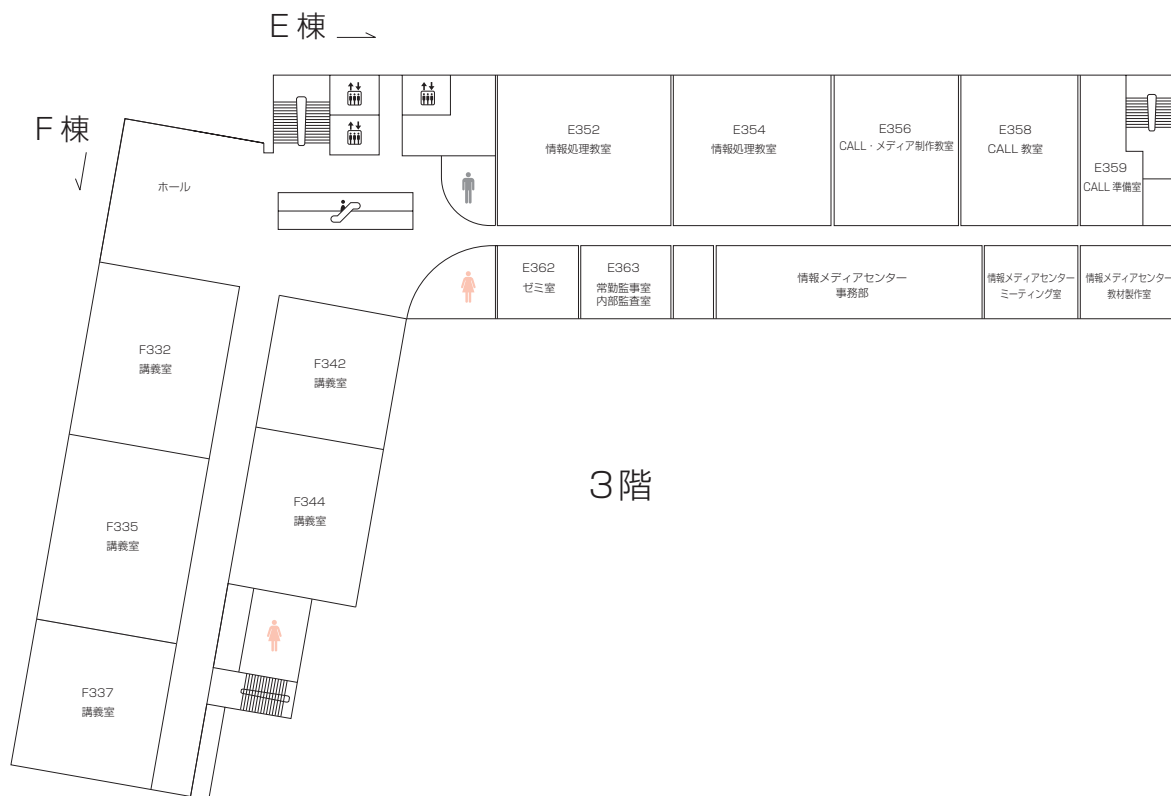
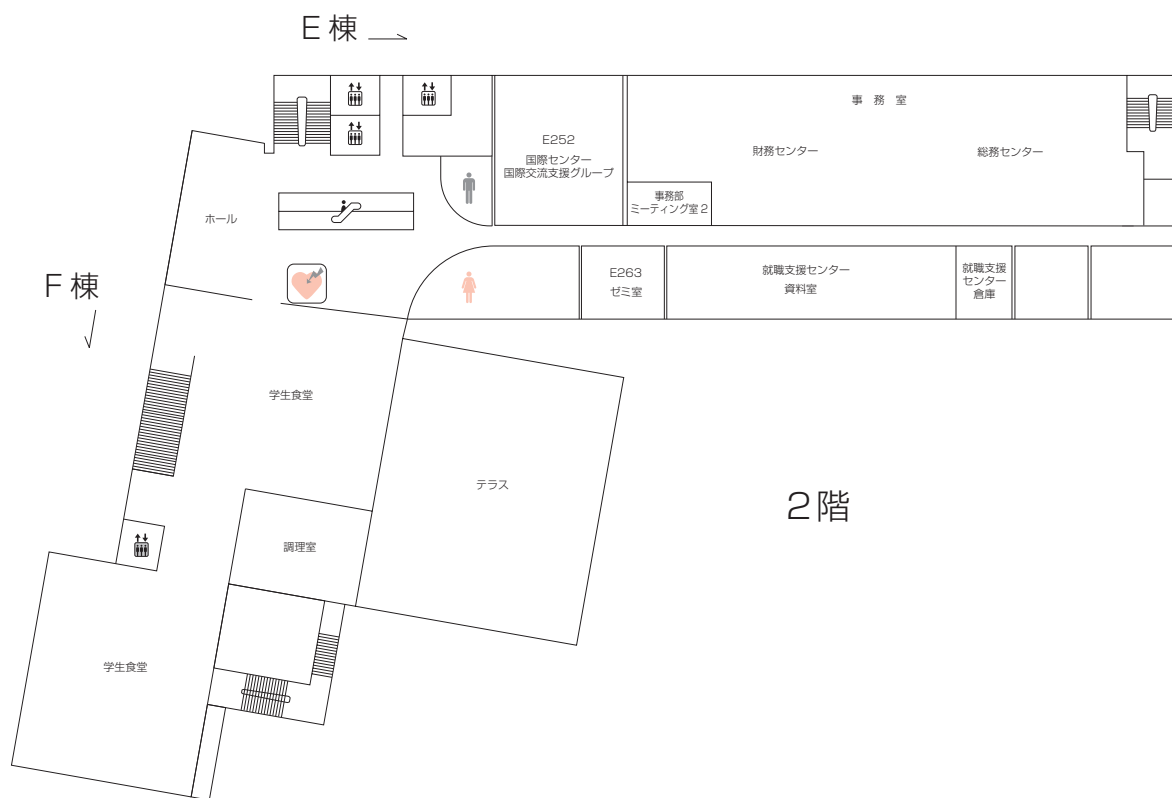
## 千代田校舎配置図

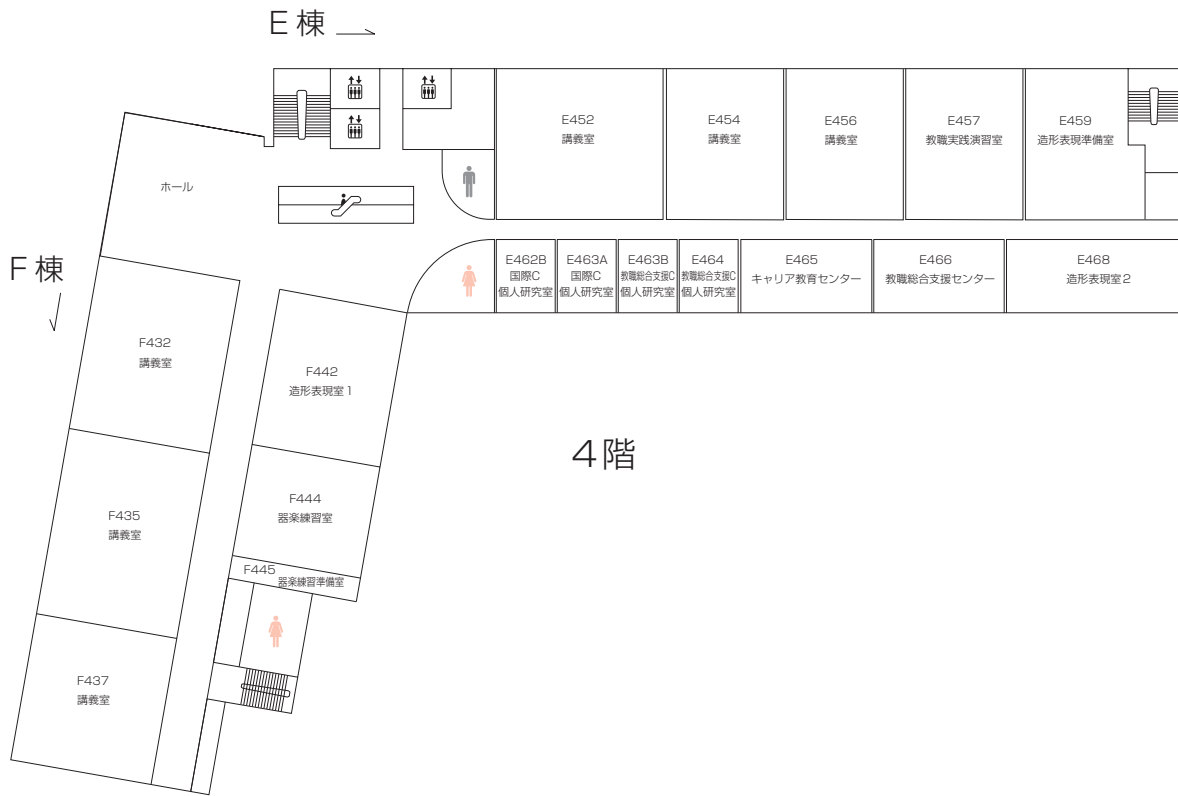


# 千代田校舎見取図

## 本館



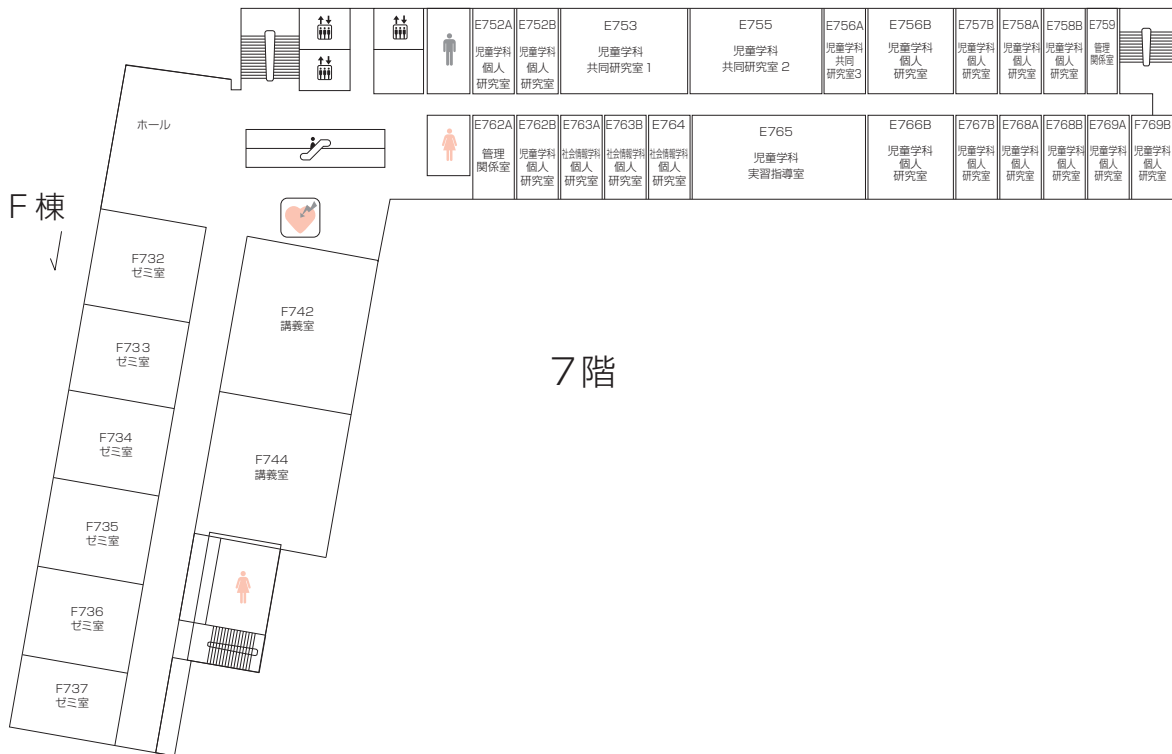




E棟



E棟



## 8階

E棟



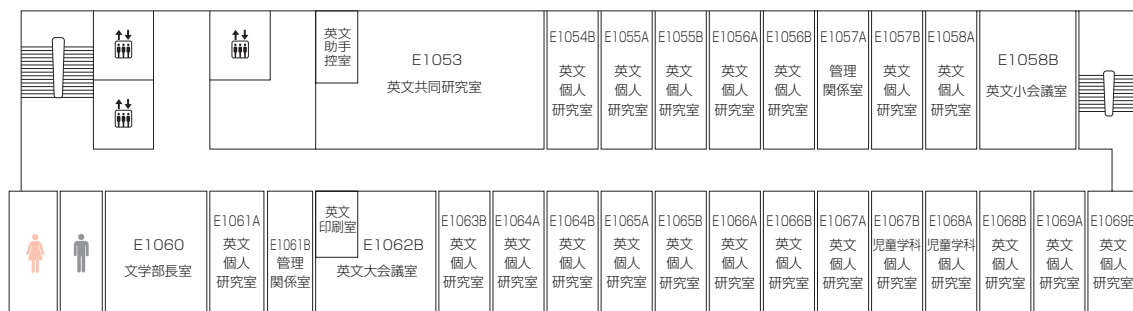
## 9階

E棟



E棟

10階



11階

E棟



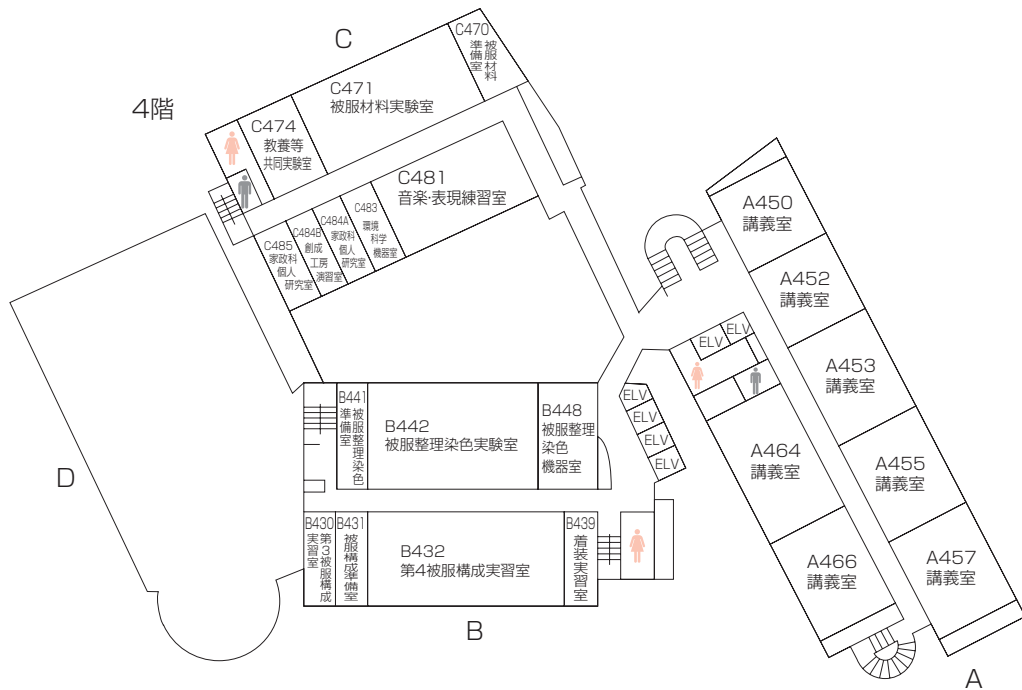
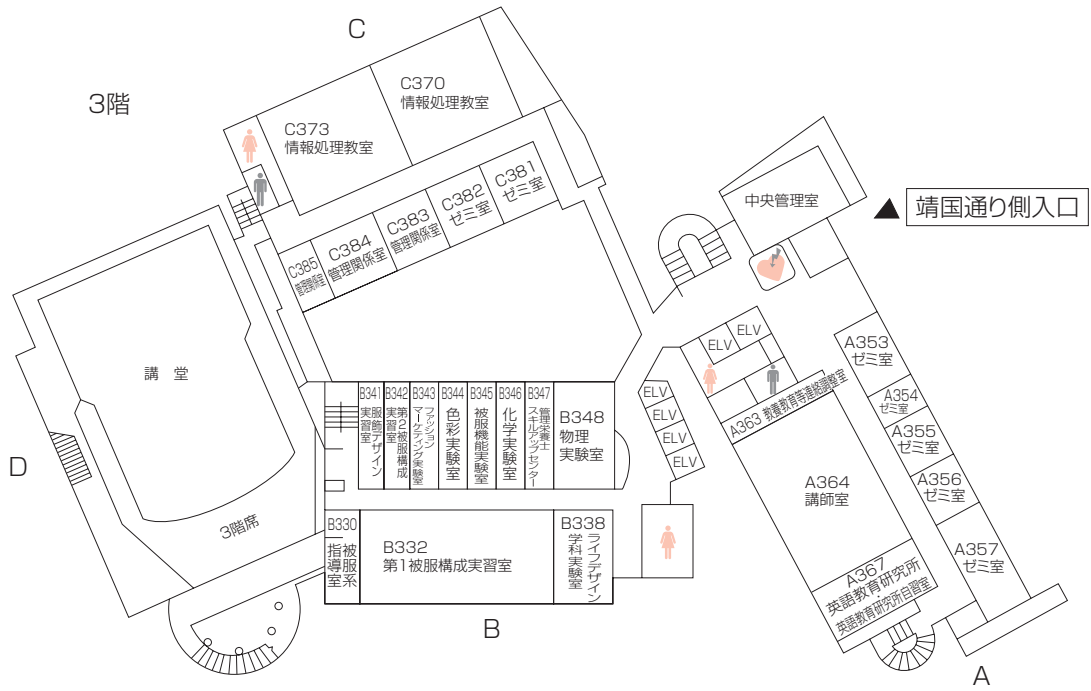
12階

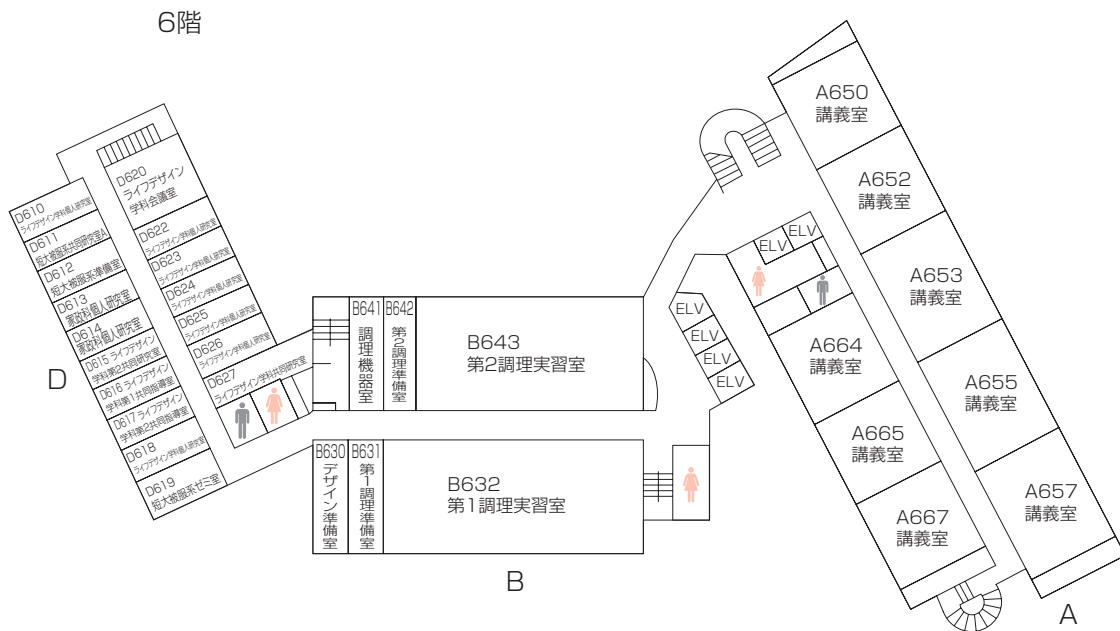
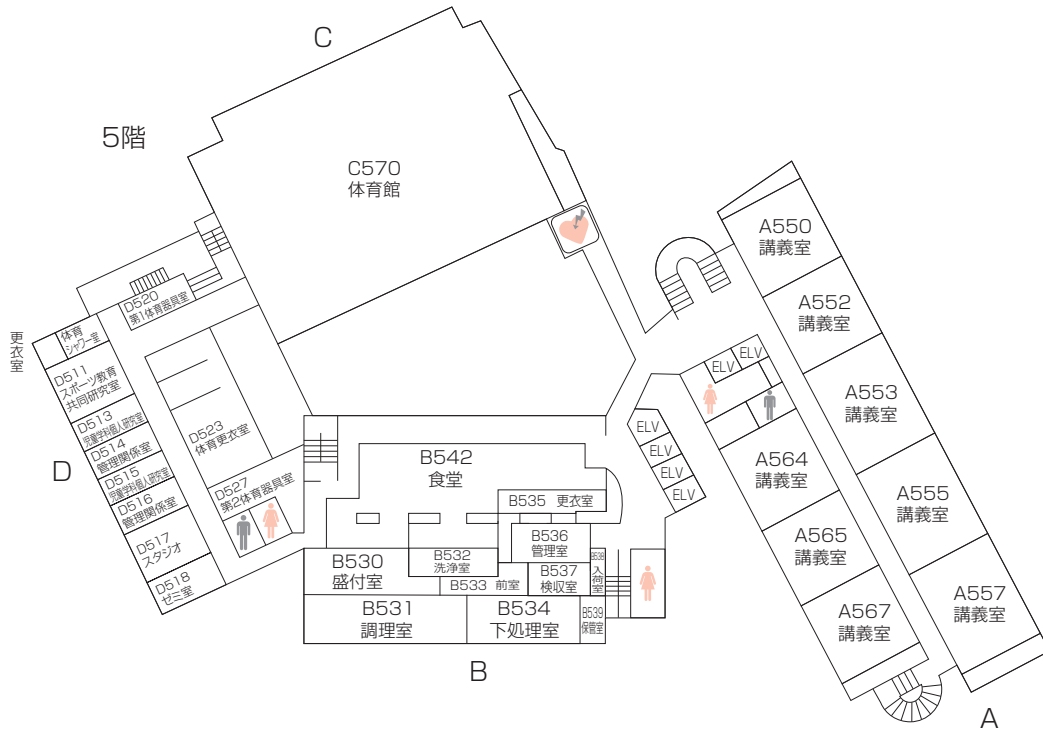
E棟

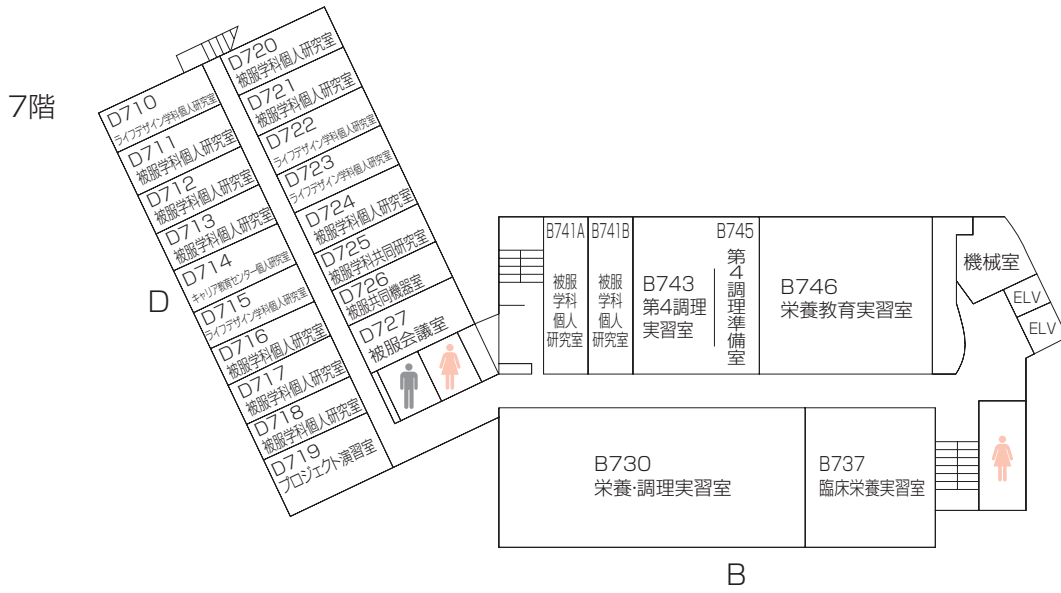




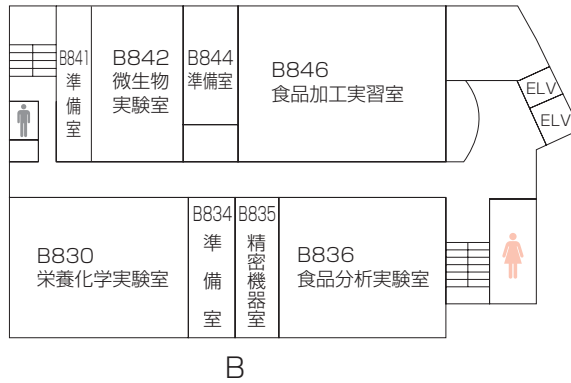




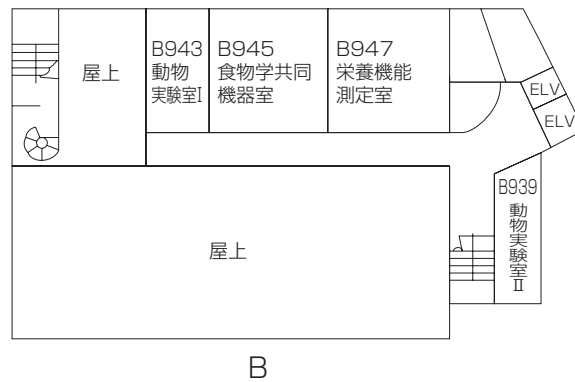




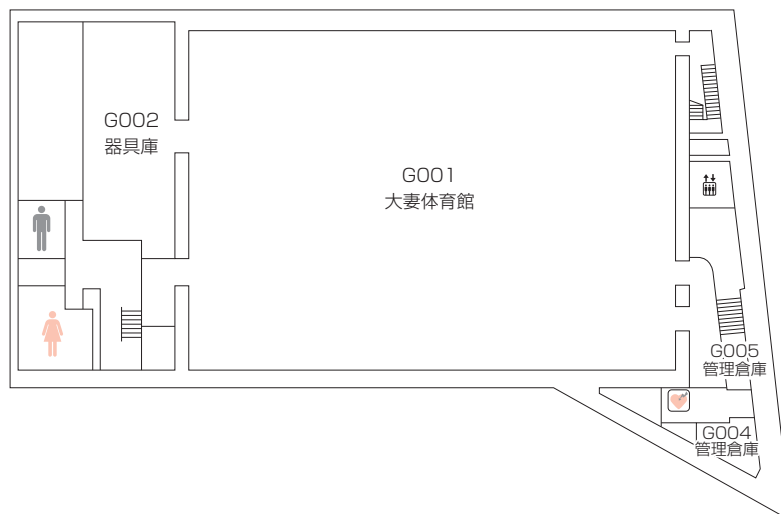
8階



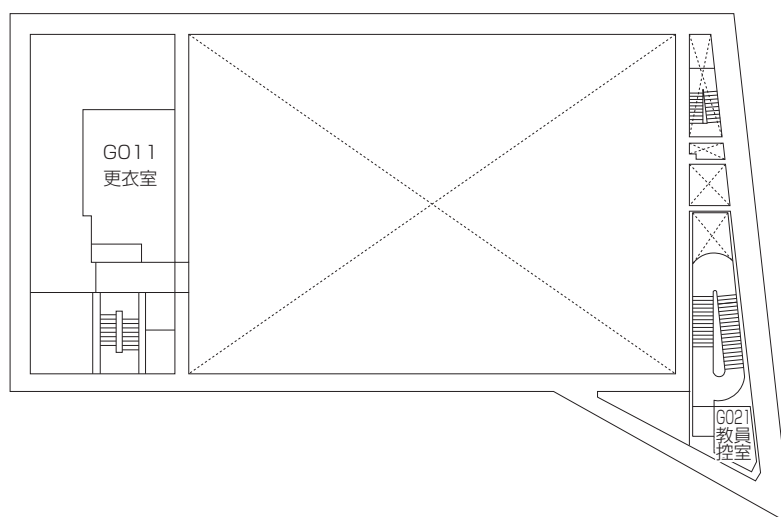
9階



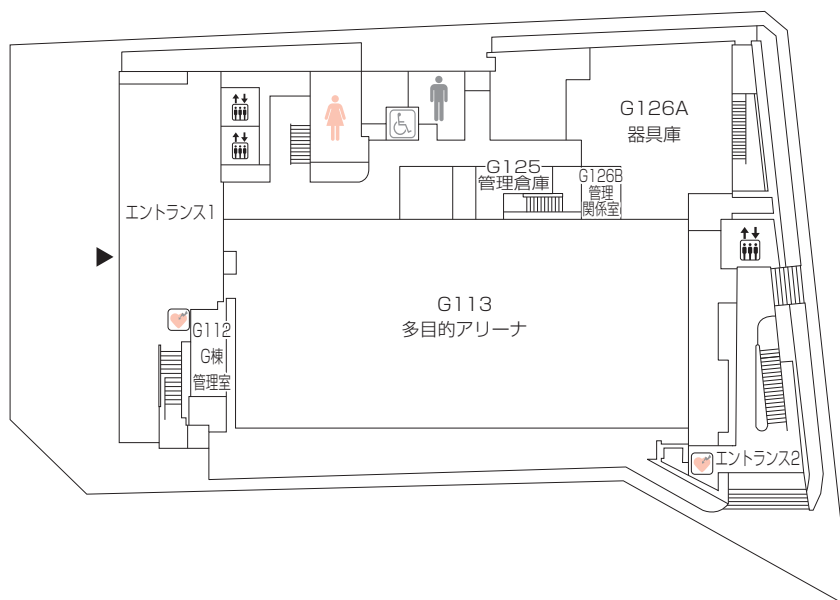
G棟 地下2階



G棟 地下1階



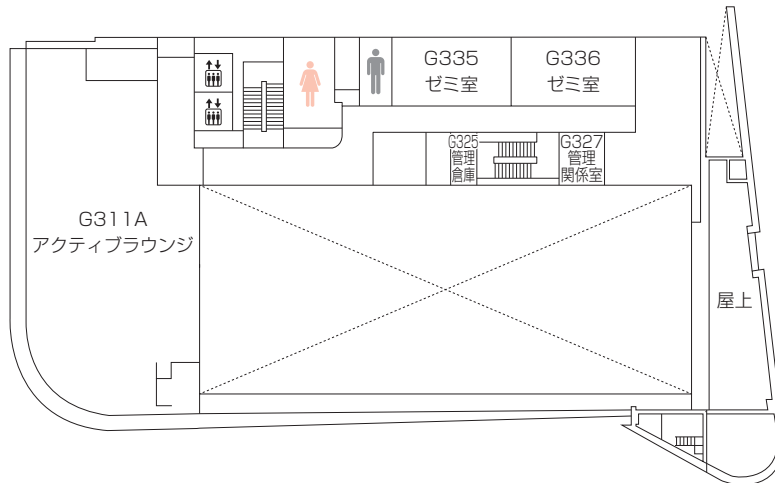
G棟 1階



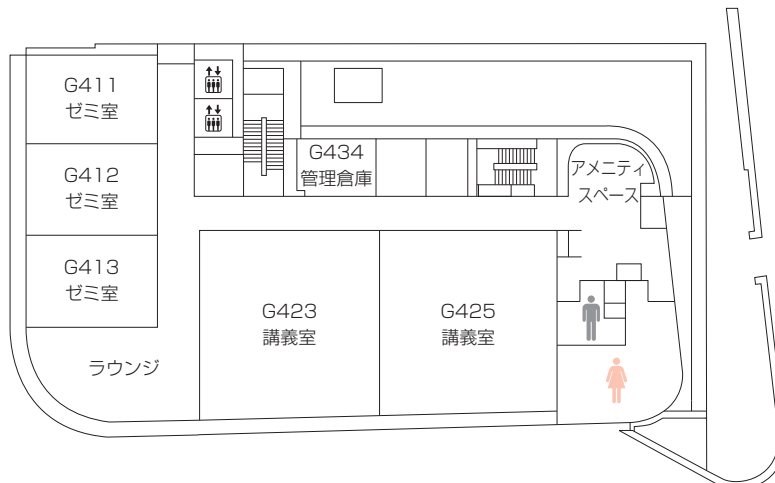
G棟 2階



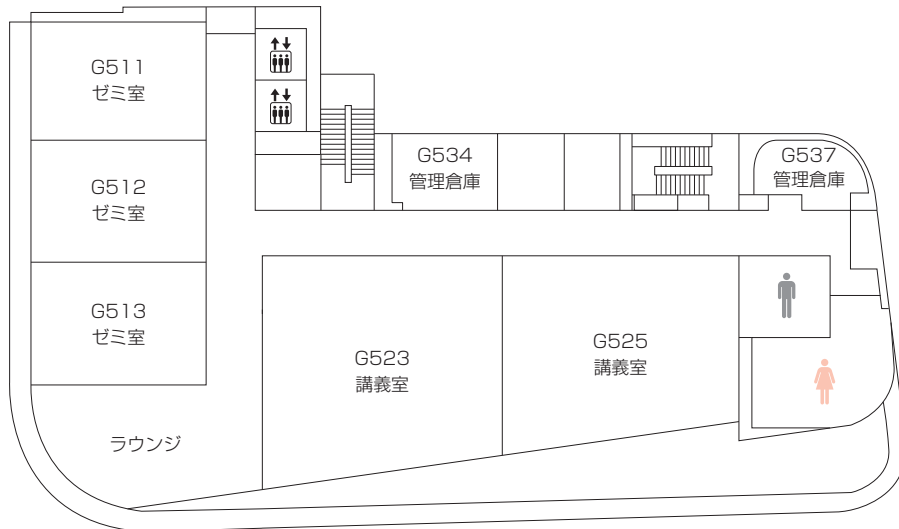
G棟 3階



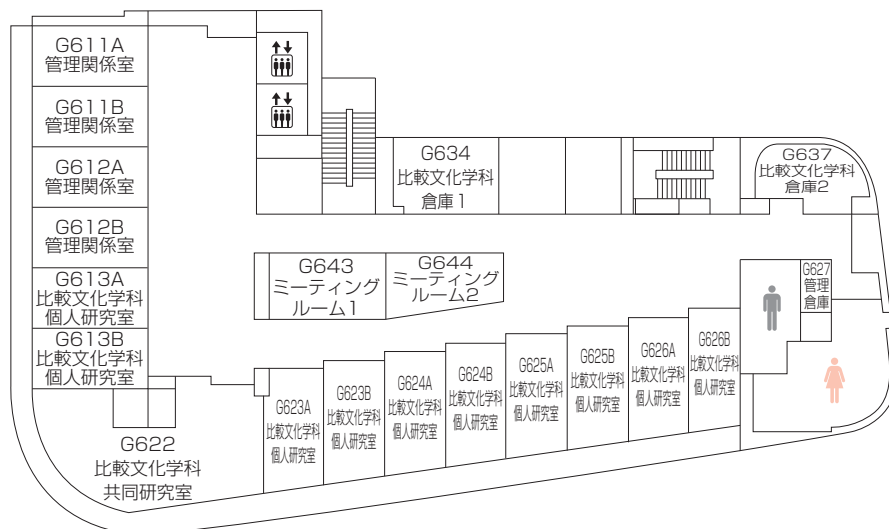
G棟 4階



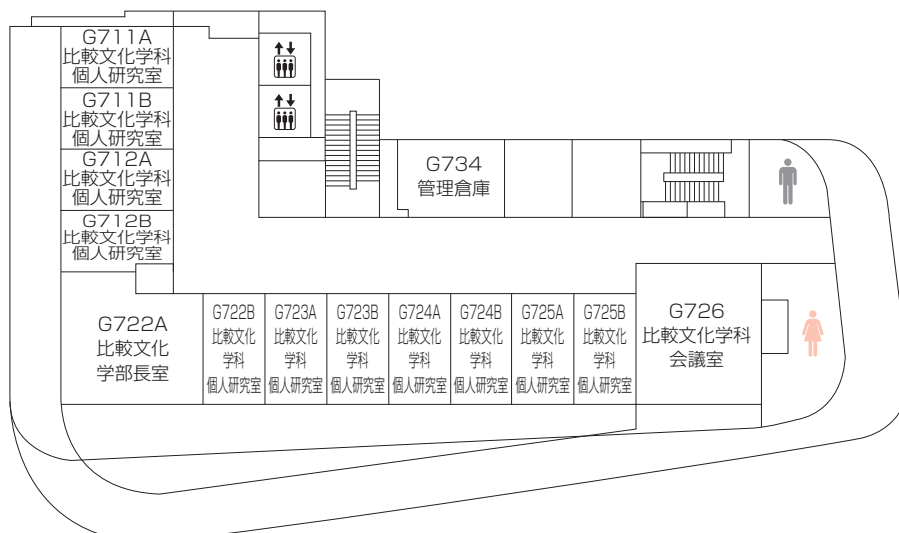
G棟 5階



G棟 6階



G棟 7階



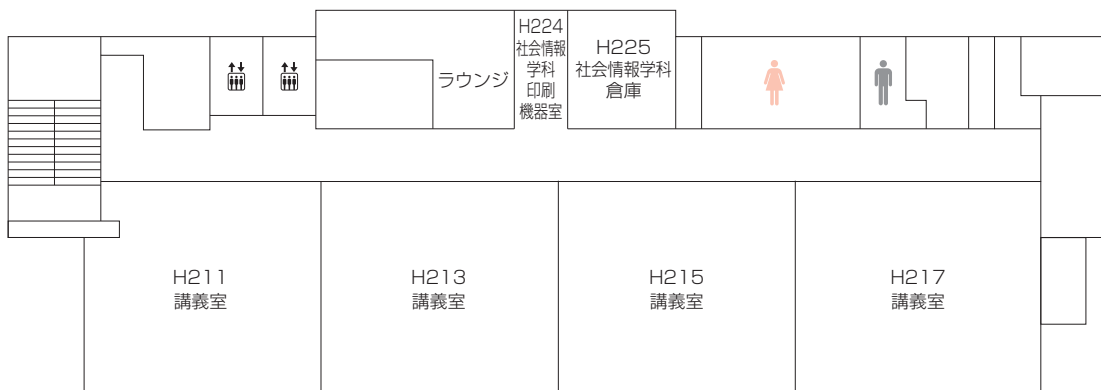
H棟 地下1階



H棟 1階



H棟 2階



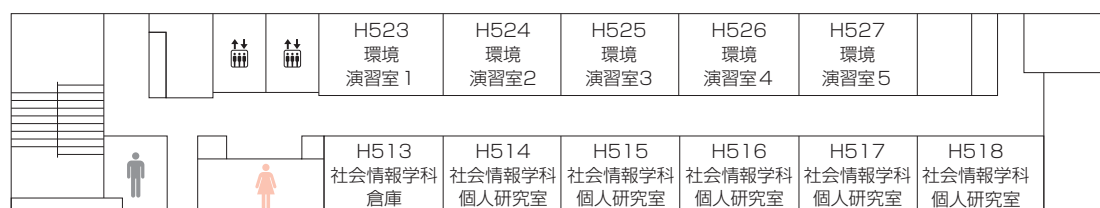
### H棟 3階



### H棟 4階



### H棟 5階



H棟 6階

		H623 社会情報学科 個人研究室	H624 社会情報学科 個人研究室	H625 社会情報学科 個人研究室	H626 社会情報学科 個人研究室	H627 社会情報学科 個人研究室		
		H613 社会情報学科 個人研究室	H614 社会情報学科 個人研究室	H615 社会情報学科 個人研究室	H616 社会情報学科 個人研究室	H617 社会情報学科 個人研究室	H618 社会情報学科 個人研究室	

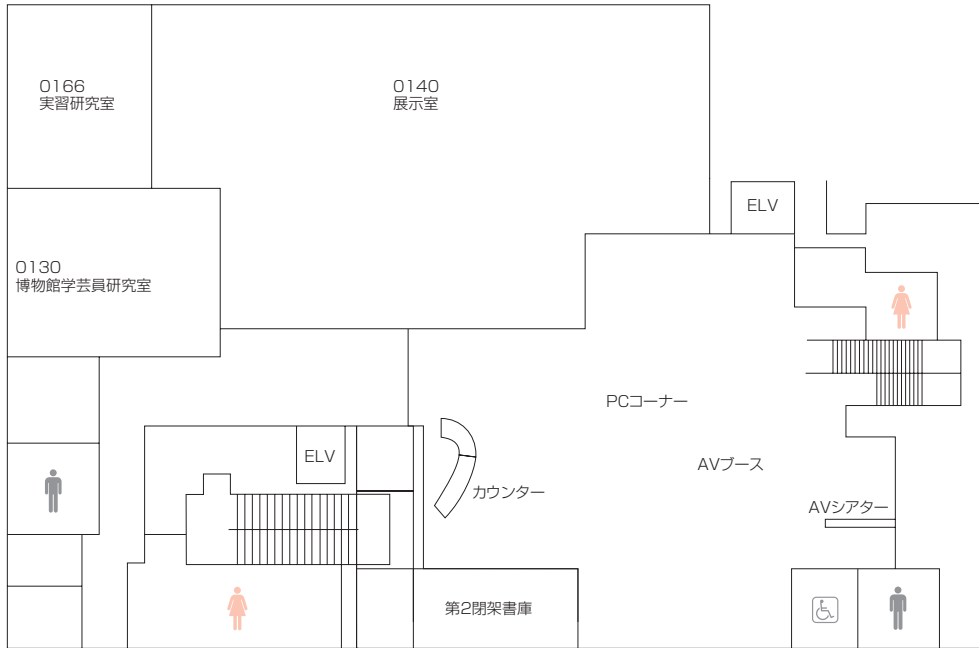
H棟 7階

		H723 情報デザイン 実験室4	H724 情報デザイン 実験室5	H725 情報デザイン 実験室5	H726 情報デザイン 実験室6	H727 情報デザイン 実験室6		
		H713 社会情報学科 個人研究室	H714 社会情報学科 個人研究室	H715 社会情報学科 個人研究室	H716 社会情報学科 個人研究室	H717 社会情報学科 個人研究室	H718 社会情報学科 個人研究室	

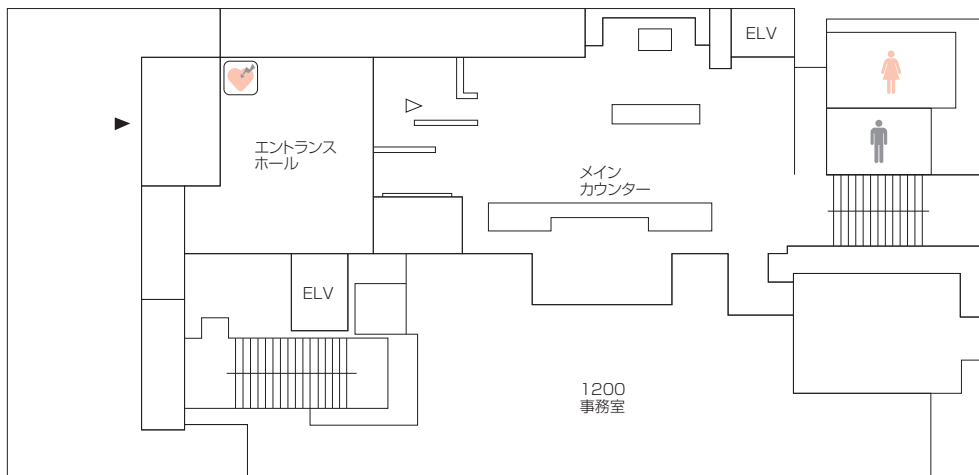
H棟 8階

		H823 社会情報学科 個人研究室	H824 情報デザイン 実験室1	H825 情報デザイン 実験室2	H826 情報デザイン 実験室3	H827 情報デザイン 実験室3		
		H813 社会情報学科 個人研究室	H814 社会情報学科 個人研究室	H815 社会情報学科 個人研究室	H816 社会情報学科 個人研究室	H817 社会情報学科 個人研究室	H818 社会情報学科 個人研究室	

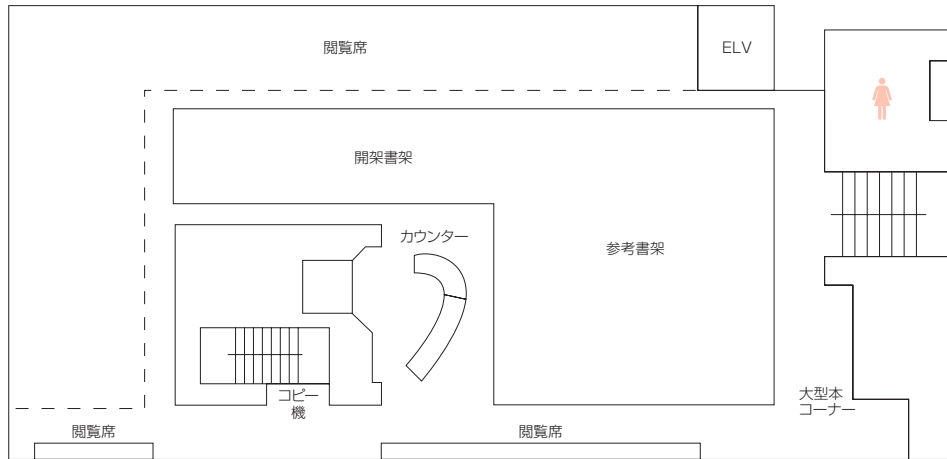
地下1階



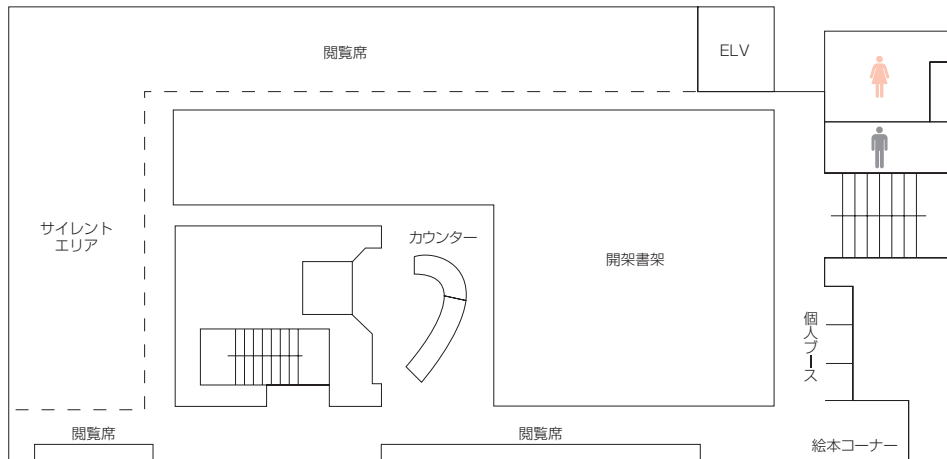
1階



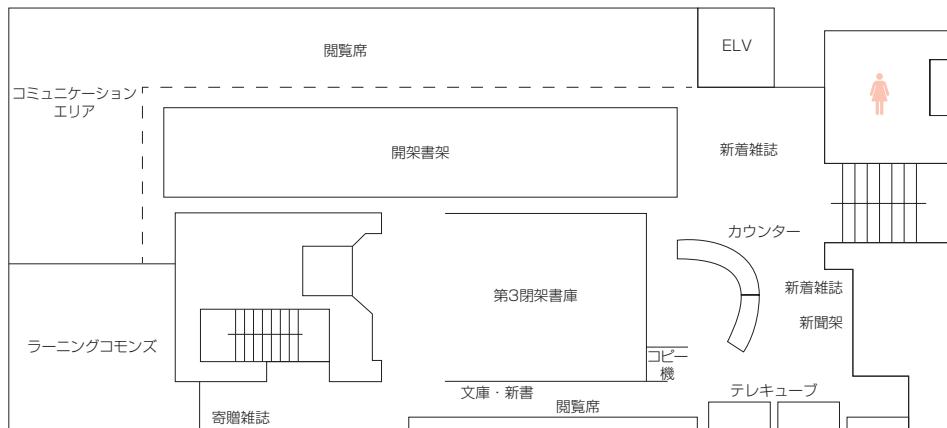
2階



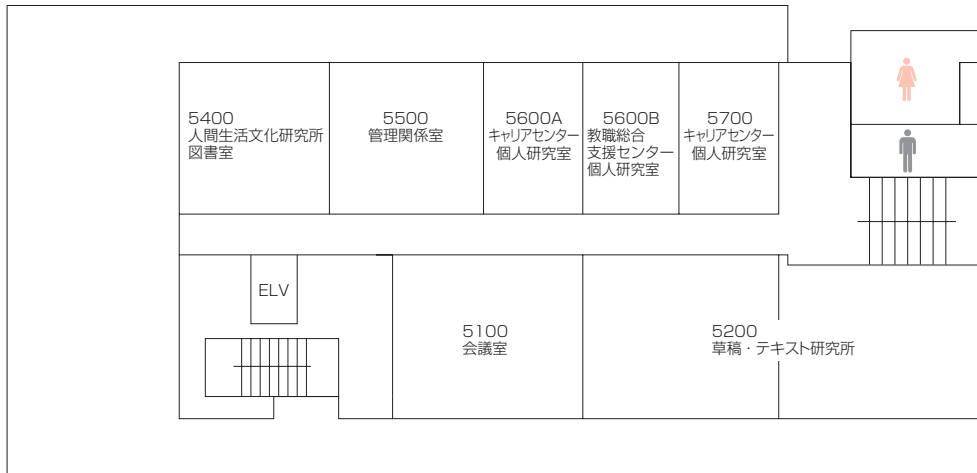
3階



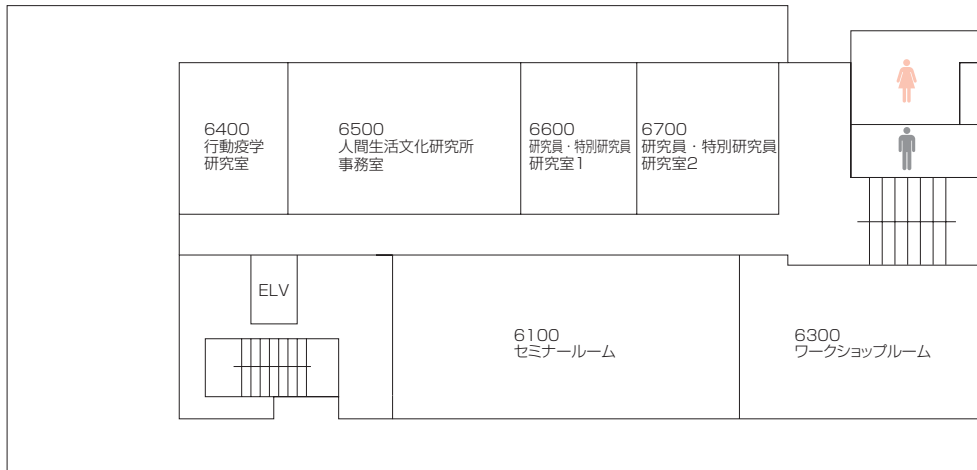
4階



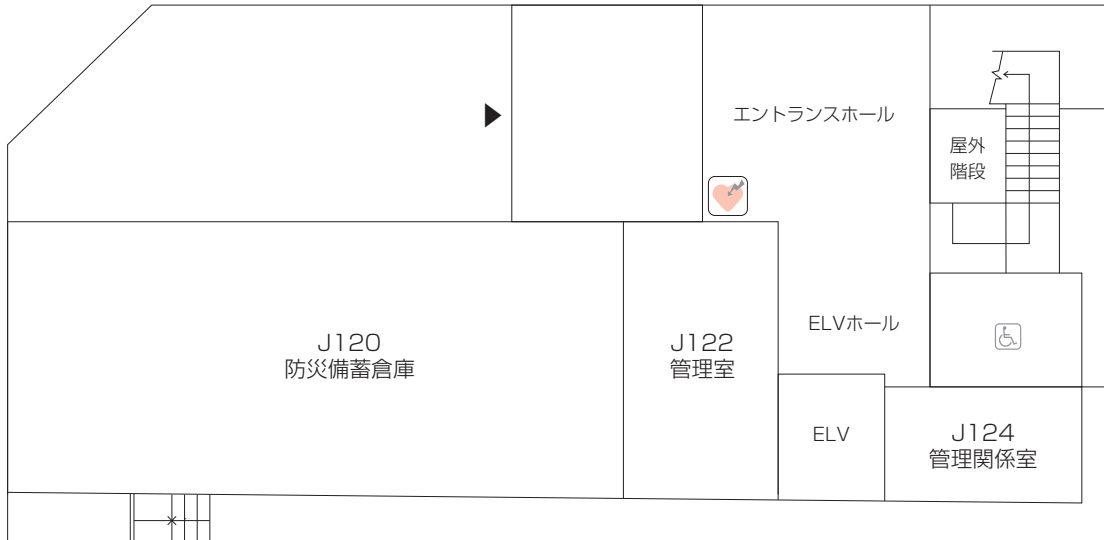
5階



6階



1階



2階



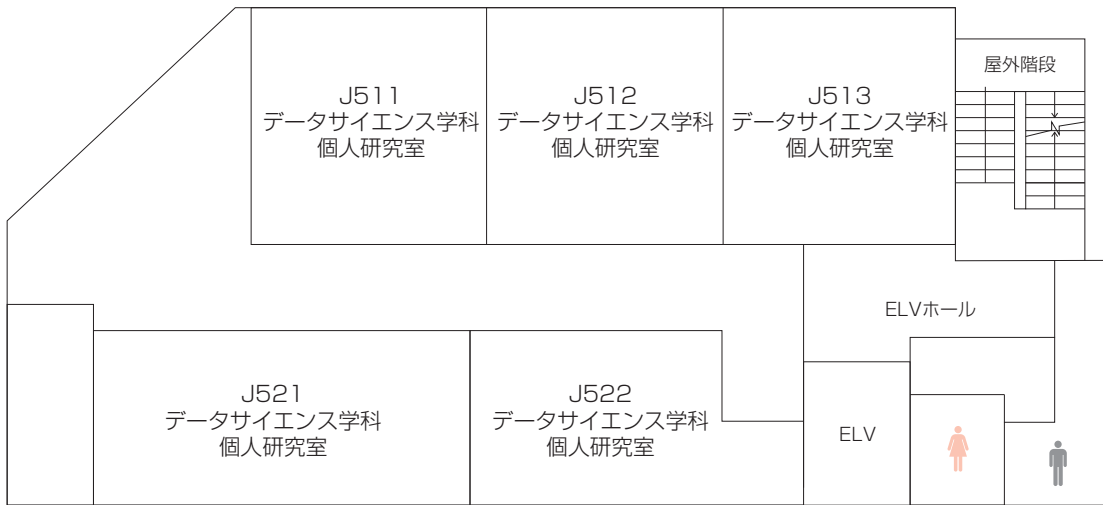
3階



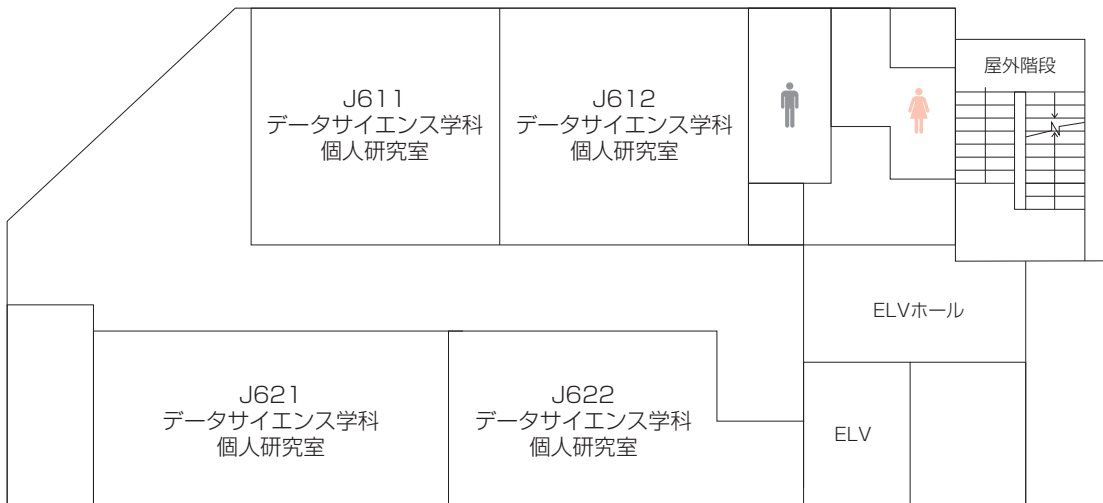
4階



5階

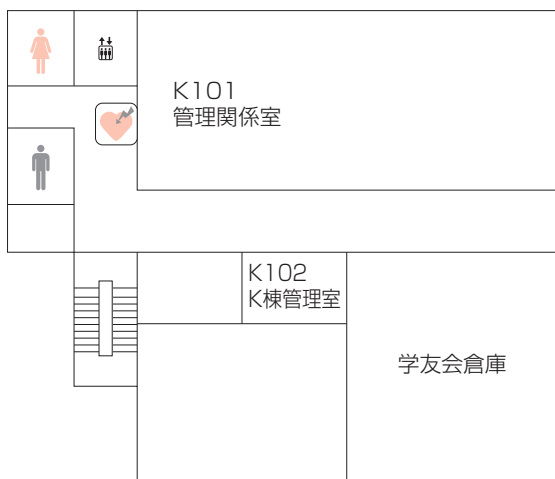


6階

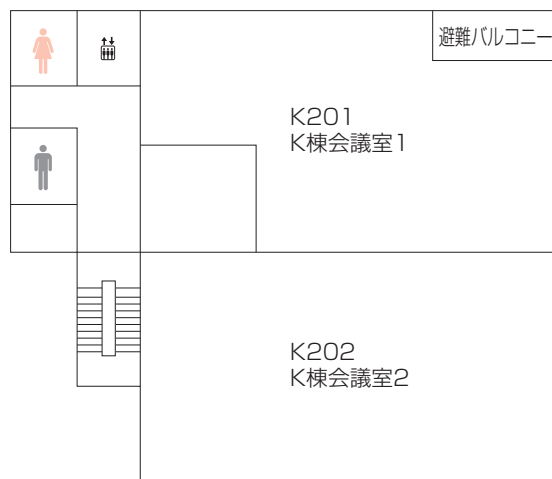


7階

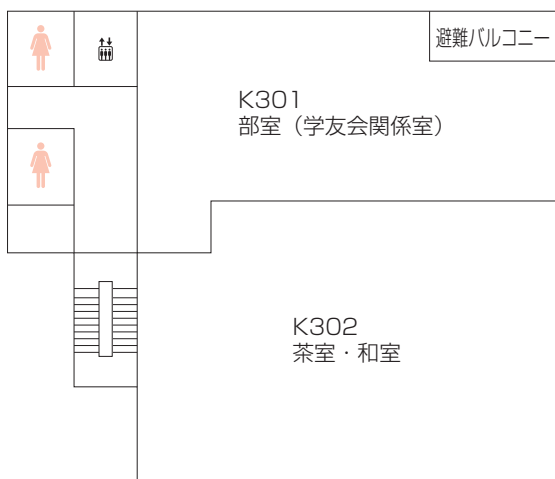




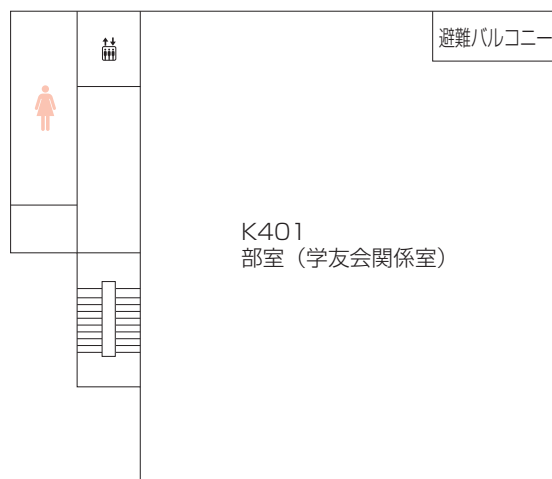
1階



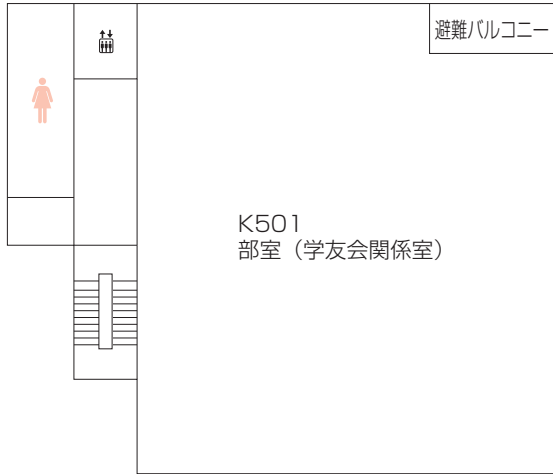
2階



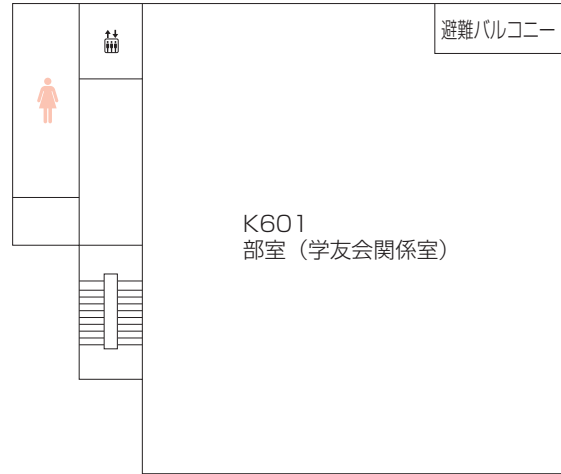
3階



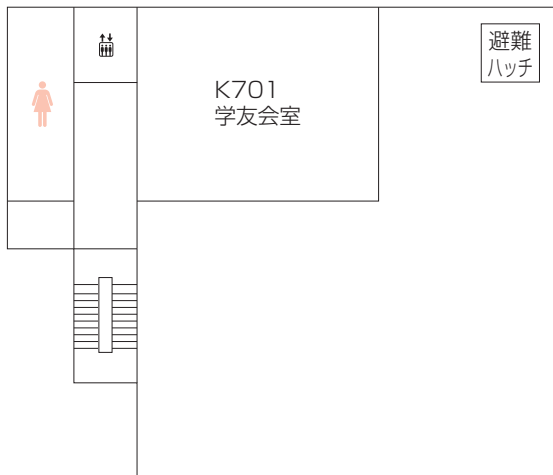
4階



5階

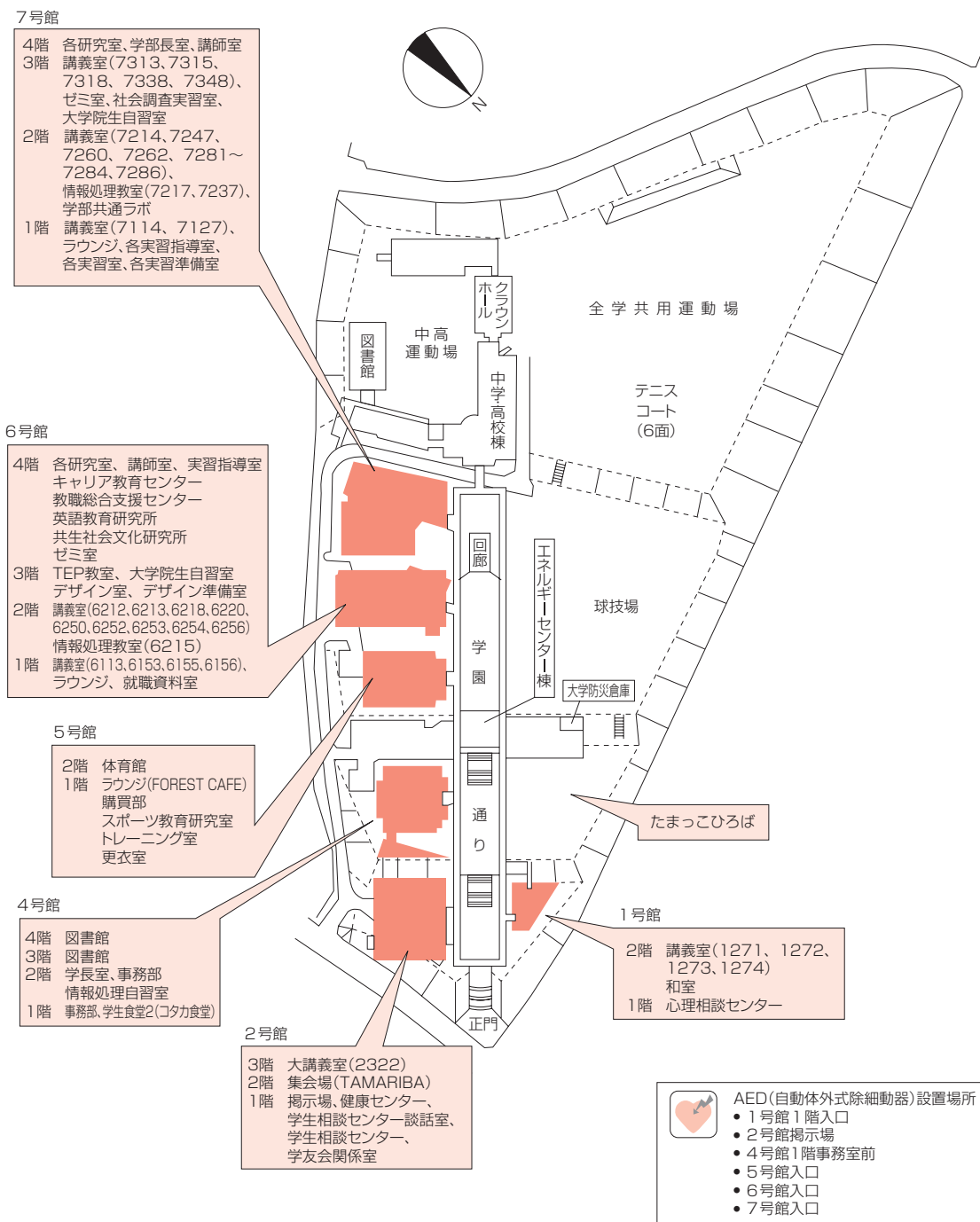


6階



7階

# 多摩校舎配置図



※年度の途中で変更になる場合があります。最新情報は大学HPでご確認ください。

---

---

# MEMO

---

---

---

---

# MEMO

---

---

---

---

# MEMO

---

---

## 連絡先 一覧

### 教育支援センター

教育支援グループ……………03-5275-6061  
register@ml.otsuma.ac.jp  
資格支援・学事グループ ……03-5275-6319  
c.shikaku@ml.otsuma.ac.jp

情報メディアセンター……………03-5275-6085

### 学生支援センター

学生支援グループ……………03-5275-6071  
c-gakusei@ml.otsuma.ac.jp  
国際交流支援グループ ……03-5275-6310  
glbc-jimu@ml.otsuma.ac.jp

健康センター……………03-5275-6078  
学生相談センター……………03-5275-6173

### 広報・入試センター

入試グループ……………03-5275-6051  
広報・募集グループ……………03-5275-6011

### 就職支援センター

就職・キャリア支援グループ  
……………03-5275-6081  
job@ml.otsuma.ac.jp

### 財務センター

財務グループ……………03-5275-6031

図書館……………03-5275-6013

教職総合支援センター……………03-5275-6291

英語教育研究所……………03-5275-6819

株式会社大妻サポート購買部  
大妻女子大学 千代田店……………03-3263-2668

講師室……………03-5275-6059

### 文科系研究室

日文共同研究室……………03-5275-6028  
英文共同研究室……………03-5275-6068  
コミュニケーション  
文化学科共同研究室……………03-5275-6116

### 家政学系研究室

被服学科共同研究室……………03-5275-6083  
食物系共同研究室……………03-5275-6141  
児童学科第1共同研究室 ……03-5275-5945  
ライフデザイン学科  
共同研究室……………03-5275-6784  
スポーツ教育共同研究室 ……03-5275-6033

### 社会情報学部

社会情報学科共同研究室 ……03-5275-6940

### 比較文化学部

比較文化共同研究室……………03-5275-6420

### データサイエンス学部

データサイエンス学科  
共同研究室……………03-5275-6038

# 校章

円の中に糸巻が入っています。円は心の円満、糸巻は技能を表します。豊かな人格の形成と専門的知識・技術の修得という建学の理念を図案化しています。



## 千代田キャンパス

〒 102-8357 東京都千代田区三番町 12

## 多摩キャンパス

〒 206-8540 東京都多摩市唐木田 2-7-1

〈表紙デザイン〉

人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻  
小野ちさと



# OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY 2026

